保育科 2025 年度　開講科目シラバス

〈基礎科目〉 1
○仏教学Ⅰ 1
○仏教学Ⅱ 3
心理学 5
○日本国憲法 7
情報ﾘﾃﾗｼｰ 9
情報ﾘﾃﾗｼｰ 11
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ 13
英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ 16
体育 19
体育 22
○自然と文化／野外文化 25
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ実習 27
○基礎講座Ⅰ／基礎講座 29
基礎講座Ⅱ 31
日本語表現 33
ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ 35
〈専門教育科目〉 37
○保育原理 37
教育原理 40
○子ども家庭福祉/児童家庭福祉 43
社会福祉 45
子育て支援 47
○社会的養護Ⅰ/社会的養護 50
保育者論 53
幼児教育制度論 55
保育の心理学 57
子ども家庭支援の心理学 59
○子どもの理解と援助/保育の心理学Ⅱ 61
子どものからだと保健 63
子どものからだと保健 65
子どもの健康と安全 67
子どもの食と栄養Ⅰ 69
子どもの食と栄養Ⅱ 72
子ども家庭支援論 74
教育相談/臨床心理学 76
保育・教育課程論/保育課程論 78
○保育内容総論 80
子どもと健康 82

子どもと人間関係 84
子どもと環境 86
子どもと言葉 88
子どもと表現Ⅰ 90
子どもと表現Ⅱ 92
保育内容「健康」 94
保育内容「人間関係」 96
保育内容「環境」 98
保育内容「言葉」 100
保育内容「身体表現」 103
保育内容「音楽表現」 105
保育内容「造形表現Ⅰ」 107
保育内容「造形表現Ⅱ」 109
乳児保育Ⅰ 111
乳児保育Ⅱ 113
特別な支援を要する子どもの理解と支援Ⅰ 115
特別な支援を要する子どもの理解と支援Ⅱ 117
社会的養護Ⅱ/社会的養護内容 119
○教育方法 121
○児童文化／児童文化Ⅰ 123
○現代保育実践の課題Ａ／保幼小接続／生活 126
○現代保育実践の課題Ｂ 129
音楽基礎Ⅰ 131
音楽基礎Ⅰ 133
音楽基礎Ⅱ 135
音楽基礎Ⅱ 137
○造形基礎Ⅰ／造形Ⅰ 139
○造形基礎Ⅱ／造形Ⅱ 141
保育実習Ⅰ（保育所） 143
保育実習Ⅰ（施設） 145
保育実習Ⅱ 147
保育実習Ⅲ 149
保育実習指導Ⅰ（保育所） 151
保育実習指導Ⅰ（施設） 154
保育実習指導Ⅱ 156
保育実習指導Ⅲ 158
学校体験活動 160
教育実習 163
保育・教職実践演習（幼稚園） 166
生命科学と生物 169

〈基礎科目〉

○仏教学Ⅰ

授業コード	C10100			科目分類	A18 両-1 （Ｊ）
科目名称	○仏教学Ⅰ			単位数	2.00 単位
担当教員	皆川 義孝			授業区分	講義
研究室	10-507	オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:00 後期 火曜日 13:00～16:00		
授業のテーマ・内容	本講義は、駒沢女子短期大学の建学の精神、日本人と宗教、世界三大宗教、仏教の開祖お釈迦さまの生涯と教え、仏教と保育の関係について学び、この学びをもとに仏教の考え方に基づく保育の実践を行う。あわせて、坐禅実習（2 回）を通じて、自らの人生や学生生活を捉え直し、保育者になるための心構えを身に付けていく。この授業は発表を行う。				
到達目標	建学の精神や仏教の開祖お釈迦さまの生涯と教え、仏教保育に関する基礎知識を自らのものとし、自分の言葉で語ることができる。				
授業開始前学習	大学短大図書館で所蔵する仏教の開祖お釈迦さまの生涯と教え、仏教保育に関する図書を読む。				

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：ガイダンス 駒沢女子短期大学で仏教を学ぶことの意義
予習：駒沢女子短期大学の建学の精神を調べる
復習：授業の要点を振り返る
2
授業：日本人と宗教
予習：日本人はなぜ宗教に寛容なのか調べる
復習：授業の要点を振り返る
3
授業：世界の三大宗教
予習：キリスト教、イスラームはどのような宗教か調べる
復習：世界の三大宗教の要点を振り返る
4
授業：お釈迦さまの誕生
予習：花まつりを調べる
復習：お釈迦さまの誕生の要点を振り返る
5
授業：お釈迦さまの出家
予習：お釈迦さまの出家を調べる
復習：お釈迦さまの出家の要点を振り返る
6
授業：お釈迦さまのお悟り
予習：成道会を調べる
復習：お釈迦さまのお悟りの要点を振り返る
7
授業：坐禅実習 坐禅の作法と意義を学ぶ（実習）
予習：坐禅の作法を調べる
復習：坐禅実習を通じて捉え直したことを振り返る
8
授業：お釈迦さまの教え
予習：三宝（仏・法・僧）を調べる
復習：お釈迦さまの教えの要点を振り返る
9
授業：お釈迦さまの伝道
予習：お釈迦さまの 45 年の布教を調べる
復習：お釈迦さまの伝道の要点を振り返る
10
授業：お釈迦さまの涅槃
予習：涅槃会と涅槃図を調べる
復習：お釈迦さまの涅槃の要点を振り返る
11
授業：坐禅実習 お釈迦さまを偲び坐る

予習：坐禅の作法を確認する 復習：坐禅実習を通じて捉え直したことを振り返る 12 授業：日本のお寺と仏教行事 予習：お盆とお彼岸を調べる 復習：日本のお寺と仏教行事の要点を振り返る 13 授業：仏教の考えに基づく保育の実践 1 予習：発表原稿の内容を確認する 復習：仏教の考え方に基づく保育の実践を振り返る 14 授業：仏教の考えに基づく保育の実践 2 予習：発表原稿の内容を確認する 復習：仏教の考え方に基づく保育の実践を振り返る 15 授業：総括 予習：仏教学Ⅰと仏教の考え方に基づく保育の実践の学びを振り返る 復習：学びを総括し、レポートにまとめる	
テキスト・教材	適宜資料を配付する
参考書	日本仏教保育協会編『新　わかりやすい仏教保育総論』（チャイルド本社、2023 年）
卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○
課題とフィードバック	授業課題に対して、次回の授業時に適宜、質問に対する回答などのフィードバックを行う。
評価の基準と方法	課題（20%）、レポート（30%）、授業への取り組み（20%）、試験（30%）
関連科目	全科目（仏教学Ⅱ）
その他	坐禅実習は予定表に注意し、あらかじめ確認の上、服装を整えて参加すること。 板書事項はもらさずノートに書き写すように努力すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	曹洞宗僧侶
実務経験を活かした教育内容	曹洞宗の僧侶としての実務経験有り。その経験を生かし、お釈迦さまの生涯と教え、坐禅実習を講義する。

授業コード	C10200	科目分類	A18 両-2 （J）
科目名称	○仏教学Ⅱ	単位数	2.00 単位
担当教員	皆川 義孝	授業区分	講義
研究室	10-507	オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～16:00 後期 火曜日 13:00～16:00
授業のテーマ・内容	本講義は、仏教学Ⅰでの学びを前提として、禅宗の祖の菩提達磨、曹洞宗の開祖道元禅師と瑩山禅師の生涯と教え、仏教の考え方に基づく保育の意味と生活について学び、この学びをもとに仏教の考え方に基づく保育の実践を行う。あわせて、坐禅実習（2 回）を通じて、自らの人生や学生生活を捉え直し、保育者になるための心構えを身に付けていく。この授業は発表を行う。		
到達目標	道元禅師の生涯と教えなどの基礎知識を自らのものとし、自分の言葉で語ることが出来る。		
授業開始前学習	図書館で所蔵する仏教の開祖お釈迦さま、菩提達磨、道元禅師、瑩山禅師、仏教保育に関する図書を読む。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：ガイダンス 駒沢女子短期大学で仏教を学ぶ意味
予習：仏教学Ⅰで学んだ建学の精神を振り返る
復習：仏教を学ぶ意味を振り返る
2
授業：菩提達磨と禅宗の成立
予習：菩提達磨の生涯を調べる
復習：菩提達磨と禅宗の要点を振り返る
3
授業：道元禅師の誕生と中国への留学
予習：道元禅師の生涯を調べる
復習：道元禅師の誕生と留学の要点を振り返る
4
授業：道元禅師の帰朝教化から入滅
予習：道元禅師の建立した永平寺を調べる
復習：道元禅師の帰朝教化から入滅までの生涯を振り返る
5
授業：瑩山禅師の生涯と教え
予習：瑩山禅師の生涯を調べる
復習：瑩山禅師の生涯と教えの要点を振り返る
6
授業：坐禅実習 坐禅の作法と意義を学ぶ（実習）
予習：坐禅の作法を確認する
復習：坐禅を通じて捉え直したことを振り返る
7
授業：曹洞宗の記念日と仏教の考え方に基づく保育
予習：曹洞宗の記念日を調べる
復習：仏教の考え方に基づく保育の要点を振り返る
8
授業：坐禅実習 坐禅とお正念について学ぶ（実習）
予習：坐禅とお正念の作法を調べる
復習：坐禅を通じて捉え直したことを振り返る
9
授業：仏教の考えに基づく保育の実践準備 1
予習：仏教学Ⅰ・仏教学Ⅱの学びを振り返る
復習：保育の実践準備 1 の学びを確認する
10
授業：仏教の考えに基づく保育の実践準備 2
予習：保育の実践 1 の学びを振り返る
復習：保育の実践準備 2 の学びを確認する
11
授業：仏教の考えに基づく保育の実践準備 3
予習：仏教の実践準備 2 の学びを振り返る
復習：課題を提出する

12 授業：仏教の考えに基づく保育の実践 1（発表） 予習：保育の実践 1 の発表内容を確認する 復習：保育の実践 1 の学びの要点を振り返る 13 授業：仏教の考えに基づく保育の実践 2（発表） 予習：保育の実践 2 の発表内容を確認する 復習：保育の実践 2 の要点を振り返る 14 授業：保育の教えに基づく保育の実践 3（発表） 予習：保育の実践 3 の発表内容を確認する 復習：保育の実践 1～3 の学びを振り返る 15 授業：総括 予習：仏教学Ⅱと仏教の考えに基づく保育の実践の学びを振り返る 復習：学びを総括し、レポートにまとめる	
テキスト・教材	適宜資料を配付する。
参考書	日本仏教保育協会編『新　わかりやすい仏教保育総論』（チャイルド本社、2023 年）
卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	◎
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	◎
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○
課題とフィードバック	授業課題に対して、次回の授業時に適宜、質問に対する回答などのフィードバックを行う。
評価の基準と方法	課題（20%）、レポート（30%）、授業への取り組み（20%）、試験（30%）
関連科目	全科目（仏教学Ⅰ）
その他	坐禅実習は予定表に注意し、あらかじめ確認の上、服装を整えて参加すること。 板書事項はもらさずノートに書き写すように努力すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	曹洞宗僧侶
実務経験を活かした教育内容	曹洞宗の僧侶としての実務経験有り。その経験を生かし、道元の生涯と教え、坐禅実習を講義する。

授業コード	C10500			科目分類	A14 基-2 （Ｊ）
科目名称	心理学			単位数	2.00 単位
担当教員	酒井　博美			授業区分	講義
研究室	16-308	オフィスアワー	前期　火曜日 13:00～14:30　月曜日 14:40～16:10 後期　月曜日 12:30～14:30　火曜日 12:30～14:30		
授業のテーマ・内容	心理学は、行動や感情を科学的に研究することを通して、人間を理解しようとする学問である。 本授業では、心理学の主要な分野における代表的な基礎理論や研究知見を幅広く学ぶことを通して、人間の行動と精神活動の本質的な理解を図る。				
到達目標	1 心理学系科目を深く理解するための基礎知識、心理学的視点を身につける 2 心理学の主要な分野における代表的な研究知見について理解し説明できる 3 心理学的視点や基礎理論に基づいて人間理解ができる				
授業開始前学習	自分自身を含め人間の反応や行動の背景を考察する習慣をつけてみる。				

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：授業ガイダンス、心理学の概要と成り立ち
予習：シラバスおよび教科書のトピックス 1-1～1-3 を熟読しておく
復習：心理学の歴史的背景と現代への流れについてまとめる
2
授業：感覚と知覚（1）外界の刺激を捉えるプロセス、感覚の特性
予習：「五感」について調べておく
復習：感覚特性についてまとめる
3
授業：感覚と知覚（2）知覚の特性
予習：「目の錯覚」について体験を挙げておく
復習：知覚特性についてまとめる
4
授業：記憶（1）プロセス、種類
予習：「短期記憶、長期記憶」について調べておく
復習：記憶のプロセスと分類についてまとめる
5
授業：記憶（2）特徴的な現象、忘却理論
予習：人間が「忘れる理由」を考え、書き出しておく
復習：記憶の系列位置効果と忘却の要因についてまとめる
6
授業：学習（1）古典的条件づけ、オペラント条件づけ（グループワーク）
予習：「パブロフのイヌ」について調べておく
復習：古典的条件づけおよびオペラント条件づけについて例を挙げてまとめる
7
授業：学習（2）社会的学習、問題解決学習（グループワーク）
予習：「見よう見まね」「試行錯誤」の経験を思い出し、書き出しておく
復習：社会的学習と問題解決学習について例を挙げてまとめる
8
授業：脳とこころ（脳の構造と機能、高次脳機能障害）
予習：大脳皮質の「前頭葉、側頭葉、頭頂葉、後頭葉」の場所と主な機能について調べておく
復習：脳の構造と各機能および代表的な高次脳機能障害についてまとめる
9
授業：動機づけと欲求（内発的/外発的動機づけ、欲求の階層性）
予習：「マズローの欲求階層説」について調べておく
復習：保育および幼児教育における動機づけの重要性についてまとめる
10
授業：性格と個人差（1）類型論と特性論
予習：「血液型と性格の関連」をどう考えるか、意見を書き出しておく
復習：性格の類型論と特性論についてまとめる
11
授業：性格と個人差　（2）測定の方法
予習：「性格検査」にどのようなものがあるか調べておく
復習：質問紙法、投影法、作業法の特徴についてまとめる

12 授業：知能（構造の理論と測定の方法） 予習：「知能検査」にどのようなものがあるか調べておく 復習：知能の構造および代表的な知能検査についてまとめる 13 授業：ストレスと適応（原因、対処）（グループディスカッション） 予習：自身の「ストレス対処法」を 5 つ挙げておく 復習：ストレスの概念、影響、対処についてまとめる 14 授業：社会と個人（印象形成、対人魅力）（グループディスカッション） 予習：「対人魅力」とは何かを調べ、その要因について考えを書き出しておく 復習：印象形成、対人魅力、社会集団についてまとめる 15 授業：まとめ（心理学基礎理論の日常生活への応用） 予習：これまでに授業で扱った内容について総復習をし、疑問点を挙げておく 復習：提示する課題に応じてレポートを作成する	
テキスト・教材	齊藤勇著『イラストレート心理学入門[第 3 版]』（誠信書房）
参考書	鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃編『心理学　第 5 版』（東京大学出版会） 鈴木伸一編著『対人援助と心のケアに活かす心理学』（有斐閣）　　等

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	◎
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	△
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○

課題とフィードバック	提示した課題（発表も含む）は授業内にて講評し、試験は個別にフィードバックする。
評価の基準と方法	小テスト（40%）、期末テスト（60%）
関連科目	ライフデザイン
その他	授業内容の理解促進のために、各回の授業に真剣かつ積極的に取り組むことを望む。 また、提出物の期限は必ず守ること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	公認心理師
実務経験を活かした教育内容	主に発達障害児・者に対する心理学的支援の経験から、心理学的視点や基礎理論に基づく対象者の理解について、事例を示しながら授業を展開する。

授業コード	C10600	科目分類	A32 幼-2 （Ｊ）
科目名称	○日本国憲法	単位数	2.00 単位
担当教員	土田 清子	授業区分	講義
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	憲法でどのような権利が保障されているのかを学び、学生の人権意識を高め、人間力を養う。 また、憲法上の問題について、自分の意見を理由をつけて発表したり、文章で表現できるようにして、学生の思考力表現力を高め、保育の現場でも自分の意見を述べることができるようにする。 授業では、教科書だけでなく、憲法が問題となったニュースや裁判例なども使用して、私たちの生活の中で憲法がもつ意義について学び、理解を深め、自分自身の意見をもつことを目標とする。		
到達目標	1 人権感覚を身に付ける 2 憲法の基本的な知識や考え方を理解し、説明ができるようになる 3 憲法で問題となっているニュースや社会問題について検討し、それについて自分の意見を論理的に説明できるようになる		
授業開始前学習	新聞やテレビのニュースで憲法と関連があると思われるものがあったら、切り抜く等、チェックをしておくこと。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：憲法とは何か(国民主権、平和主義)
予習：テキスト P.25-34、P.43-50 を読み、疑問点をまとめる
復習：国民主権、平和主義の理解を深め、自分の言葉で説明できるようにする
2
授業：人権について
予習：テキスト P.51-66 を読み、疑問点をまとめる
復習：授業で説明した人権について、条文を見ながら復習する
3
授業：子ども、未成年者の人権、新しい人権について
予習：テキスト P.67-82 を読み、疑問点をまとめる
復習：新しい人権について、授業で説明した裁判例などをもとに、ノートにまとめ、問題となった裁判例について自分の考えを述べられるようにする
4
授業：私人間の人権問題、平等権について
予習：テキスト P.83-98 を読み、疑問点をまとめる
復習：私人間の人権問題や平等権について復習し、問題となった裁判例について自分の考えを述べられるようにまとめる
5
授業：女性の人権、家族について
予習：事前に配布するレジュメを読み、興味がある点をまとめる
復習：女性の人権や新しい家族のあり方について、自分の意見を述べられるようにする
6
授業：思想良心の自由、表現の自由について
予習：テキスト P.99-102 を読み、疑問点をまとめる
復習：思想良心の自由や表現の自由の重要性について、授業で説明した内容をノートにまとめる
7
授業：表現の自由の限界について
予習：P.106-108 を読み、疑問点をまとめる
復習：表現の自由の限界について、授業で説明した裁判例などをもとに、ノートにまとめ、問題となった裁判例について自分の考えを述べられるようにする
8
授業：信教の自由について
予習：テキスト P.102-104 を読み、疑問点をまとめる
復習：信教の自由について、授業で説明した内容をノートにまとめる
9
授業：政教分離の原則、学問の自由について
予習：テキスト P.104-106 を読み、疑問点をまとめる
復習：信教の自由や政教分離の原則について、授業で説明した裁判例などをもとにノートにまとめ、問題となった裁判例について自分の考えを述べられるようにする
１０
授業：経済活動の自由について
予習：事前にレジュメを配布するので、レジュメを読み、疑問点をまとめる。
復習：経済活動の自由について、授業で説明した裁判例などをもとにノートにまとめる

11
授業：生存権、子どもの権利条約ついて
予習：テキスト P.109-116 を読み、疑問点をまとめる
復習：生存権について、授業で説明した裁判例などをもとにノートにまとめ、問題となった裁判例について自分の考えを述べられるようにする
12
授業：教育を受ける権利、労働者の権利について
予習：事前にレジュメを配布するので、レジュメを読み、疑問点をまとめる
復習：教育を受ける権利、労働者の権利について、授業で説明した裁判例などをもとにノートにまとめ、問題となった裁判例について自分の考えを述べられるようにする
13
授業：身体の自由、適正手続きの保障について
予習：事前にレジュメを配布するので、レジュメを読み、疑問点をまとめる。
復習：適正手続きの保障について、授業で説明した裁判例などをもとにノートにまとめる
14
授業：統治機構について（1）参政権、権力分立について
予習：テキスト P.121-136 を読み、疑問点をまとめる
復習：国会、内閣、裁判所の役割について、レジュメや教科書を再読し、理解を深める
15
授業：統治機構について（2）天皇制、保育をめぐる法律問題について
予習：テキスト P.137-142、P.35-42、P.143-147 を読み、疑問点をまとめる
復習：日本の国家の制度や天皇制について、レジュメや教科書を再読し、理解を深める

テキスト・教材	高乗正臣著『保育者のための法学・憲法入門』（成文堂） この他、適宜、レジュメを配付する
参考書	『ポケット六法』（有斐閣）、『デイリー六法』（三省堂）、『岩波セレクト六法』（岩波書店）の何れか一つ

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	△
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○

課題とフィードバック	授業の最後に、毎回ではないが、その授業で勉強した内容や裁判例について、意見を述べてもらう。 中間テストを実施する（授業内において、適宜、講評する）。
評価の基準と方法	授業内小レポート（20%）、小テスト（20%）、試験（60%）
関連科目	幼児教育制度論
その他	参考書は何れも最新版のものを用いること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	弁護士
実務経験を活かした教育内容	弁護士業務を通して経験した事件や憲法に関連のある時事問題を通して、自分の意見を持ったり、意見を他者に伝える重要性を教え、学生が社会人として自分の意見を他者に伝えられる力をつける授業を展開していく。

授業コード	C12308	科目分類	A01 幼-1
科目名称	情報ﾘﾃﾗｼｰ	単位数	2.00 単位
担当教員	中澤　美奈	授業区分	講義
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	現代の高度な情報化社会では、インターネットを中心にパソコンやスマートフォンなどの情報機器が普及しており、保育の現場においても同様である。そこで本講義では、情報機器やインターネットを活用し情報を取り扱う上で必要な基本的な知識、能力、技術を身に着けることを目的とする。具体的には、パソコンの基本操作、インターネット、電子メール、ワープロ文書作成、表計算資料作成、プレゼンテーション資料作成、情報倫理、著作権など保育者として求められる情報関連の基本項目を学ぶ。		
到達目標	コンピュータとスマートフォン（タブレット）を連携し、適切な情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィスソフトを駆使して保育者として求められる文書を作成できるようになる。併せてインターネットの概念を理解し、倫理観を持った情報のやり取りができるようになる。		
授業開始前学習	中学の教科「技術」および高校の教科「情報」の教科書を読んでおくと全体像をつかみやすい。また、パソコンの基本操作、オフィスソフトの基本操作を再確認しておくこと。ネットワーク社会における情報倫理、マナーについて考えおくこと。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：ガイダンス（講義の概要・情報機器および GWE（Google Workspace for Education）の基本操作）とワープロ文書課題①（四字熟語）
予習：授業開始前学習の指示通り、再確認しておく
復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、ワープロ文書課題①（四字熟語）を完成させる
2
授業：インターネットの仕組み①、電子メールの基本操作とワープロ文書課題作成②（慣用句）
予習：ワープロの基本操作について事前確認し、タイピング練習をする
復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、ワープロ文書課題②（慣用句）を完成させる
3
授業：インターネットの仕組み②とワープロ文書課題作成③（おたより、お礼状）
予習：手紙の基本形式を事前確認し、タイピング練習をする
復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、ワープロ文書課題③（おたより、お礼状）を完成させる
4
授業：コンピュータの仕組みとワープロ文書課題作成④（履歴書）
予習：罫線や表組みの文書について事前確認し、タイピング練習をする
復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、ワープロ文書課題④（履歴書）を完成させる
5
授業：色表現とワープロ文書課題作成⑤（イラスト）
予習：図形描画について事前確認し、タイピング練習をする
復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、ワープロ文書課題⑤（イラスト）を完成させる
6
授業：情報リテラシーとワープロ文書課題⑥（実習園紹介）
予習：図形描画機能について事前確認し、タイピング練習をする
復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、ワープロ文書課題⑥（実習園紹介）を完成させる
7
授業：構図とワープロ文書課題⑦（発表会案内）
予習：ポスターなどデザインされた制作物について事前確認し、タイピング練習をする
復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、ワープロ文書課題⑦（発表会案内）を完成させる
8
授業：ビットと表計算文書課題①（時間割）
予習：表計算ソフトの基本機能について事前確認し、タイピング練習をする
復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、表計算文書課題①（時間割）を完成させる
9
授業：符号化と表計算文書課題②（身体計測記録）
予習：作表機能について事前確認し、タイピング練習をする
復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、表計算文書課題②（身体計測記録）を完成させる
10
授業：デジタル表現と表計算文書課題③（家計簿）
予習：計算機能について事前確認し、タイピング練習をする
復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、表計算文書課題③（家計簿）を完成させる

11 授業：電子マネーと表計算文書課題④（レシート） 予習：関数機能について事前確認し、タイピング練習をする 復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、表計算文書課題④（レシート）を完成させる 12 授業：基本統計と表計算文書課題⑤（身体測定表） 予習：基本統計について事前確認し、タイピング練習をする 復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、表計算文書課題⑤（身体測定表）を完成させる 13 授業：人工知能とプレゼンテーション文書課題①（絵本） 予習：プレゼンテーションソフトの基本機能について事前確認し、タイピング練習をする 復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、プレゼンテーション文書課題①（絵本）のページ割りまでを完成させる 14 授業：情報セキュリティとプレゼンテーション文書課題①（絵本） 予習：アニメーション機能について事前確認し、タイピング練習をする 復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、プレゼンテーション文書課題①（絵本）を完成させる 15 授業：情報と法とプレゼンテーション文書課題②（研究発表） 予習：実習園での研究発表内容を事前確認し、タイピング練習をする 復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、プレゼンテーション文書課題②（研究発表）を完成させる	
テキスト・教材	GWE(Google Workspace for Education)を通して適宜配布する。
参考書	明田川紀彦・二橋大介・篠政行・楊国林『講義と演習　情報のこころえ』（ポラーノ出版） 阿部正平・阿部和子・二宮祐子『保育者のためのパソコン講座』（萌文書林）

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	△
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	△
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	

課題とフィードバック	全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時に GWE のコメントを通してアドバイスを行う。
評価の基準と方法	課題の提出は原則必須とします。 出席率と毎回出される課題の期限までの提出率　40%、課題の内容および出来ばえ　40%と授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。
関連科目	
その他	GWE(Google Workspace for Education)を中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。 課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。 毎授業開始 10 分ほど、タイピングの練習にあてる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

授業コード	C12309	科目分類	A01 幼-1
科目名称	情報ﾘﾃﾗｼｰ	単位数	2.00 単位
担当教員	中澤　美奈	授業区分	講義
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	現代の高度な情報化社会では、インターネットを中心にパソコンやスマートフォンなどの情報機器が普及しており、保育の現場においても同様である。そこで本講義では、情報機器やインターネットを活用し情報を取り扱う上で必要な基本的な知識、能力、技術を身に着けることを目的とする。具体的には、パソコンの基本操作、インターネット、電子メール、ワープロ文書作成、表計算資料作成、プレゼンテーション資料作成、情報倫理、著作権など保育者として求められる情報関連の基本項目を学ぶ。		
到達目標	コンピュータとスマートフォン（タブレット）を連携し、適切な情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィスソフトを駆使して保育者として求められる文書を作成できるようになる。併せてインターネットの概念を理解し、倫理観を持った情報のやり取りができるようになる。		
授業開始前学習	中学の教科「技術」および高校の教科「情報」の教科書を読んでおくと全体像をつかみやすい。また、パソコンの基本操作、オフィスソフトの基本操作を再確認しておくこと。ネットワーク社会における情報倫理、マナーについて考えおくこと。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：ガイダンス（講義の概要・情報機器および GWE（Google Workspace for Education）の基本操作）とワープロ文書課題①（四字熟語）
予習：授業開始前学習の指示通り、再確認しておく
復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、ワープロ文書課題①（四字熟語）を完成させる
2
授業：インターネットの仕組み①、電子メールの基本操作とワープロ文書課題作成②（慣用句）
予習：ワープロの基本操作について事前確認し、タイピング練習をする
復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、ワープロ文書課題②（慣用句）を完成させる
3
授業：インターネットの仕組み②とワープロ文書課題作成③（おたより、お礼状）
予習：手紙の基本形式を事前確認し、タイピング練習をする
復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、ワープロ文書課題③（おたより、お礼状）を完成させる
4
授業：コンピュータの仕組みとワープロ文書課題作成④（履歴書）
予習：罫線や表組みの文書について事前確認し、タイピング練習をする
復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、ワープロ文書課題④（履歴書）を完成させる
5
授業：色表現とワープロ文書課題作成⑤（イラスト）
予習：図形描画について事前確認し、タイピング練習をする
復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、ワープロ文書課題⑤（イラスト）を完成させる
6
授業：情報リテラシーとワープロ文書課題⑥（実習園紹介）
予習：図形描画機能について事前確認し、タイピング練習をする
復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、ワープロ文書課題⑥（実習園紹介）を完成させる
7
授業：構図とワープロ文書課題⑦（発表会案内）
予習：ポスターなどデザインされた制作物について事前確認し、タイピング練習をする
復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、ワープロ文書課題⑦（発表会案内）を完成させる
8
授業：ビットと表計算文書課題①（時間割）
予習：表計算ソフトの基本機能について事前確認し、タイピング練習をする
復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、表計算文書課題①（時間割）を完成させる
9
授業：符号化と表計算文書課題②（身体計測記録）
予習：作表機能について事前確認し、タイピング練習をする
復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、表計算文書課題②（身体計測記録）を完成させる
10
授業：デジタル表現と表計算文書課題③（家計簿）
予習：計算機能について事前確認し、タイピング練習をする
復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、表計算文書課題③（家計簿）を完成させる

11 授業：電子マネーと表計算文書課題④（レシート） 予習：関数機能について事前確認し、タイピング練習をする 復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、表計算文書課題④（レシート）を完成させる 12 授業：基本統計と表計算文書課題⑤（身体測定表） 予習：基本統計について事前確認し、タイピング練習をする 復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、表計算文書課題⑤（身体測定表）を完成させる 13 授業：人工知能とプレゼンテーション文書課題①（絵本） 予習：プレゼンテーションソフトの基本機能について事前確認し、タイピング練習をする 復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、プレゼンテーション文書課題①（絵本）のページ割りまでを完成させる 14 授業：情報セキュリティとプレゼンテーション文書課題①（絵本） 予習：アニメーション機能について事前確認し、タイピング練習をする 復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、プレゼンテーション文書課題①（絵本）を完成させる 15 授業：情報と法とプレゼンテーション文書課題②（研究発表） 予習：実習園での研究発表内容を事前確認し、タイピング練習をする 復習：クラスルームの指示をもとに、授業内容の確認、プレゼンテーション文書課題②（研究発表）を完成させる	
テキスト・教材	GWE(Google Workspace for Education)を通して適宜配布する。
参考書	明田川紀彦・二橋大介・篠政行・楊国林『講義と演習　情報のこころえ』（ポラーノ出版） 阿部正平・阿部和子・二宮祐子『保育者のためのパソコン講座』（萌文書林）

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	△
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	△
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	

課題とフィードバック	全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時に GWE のコメントを通してアドバイスを行う。
評価の基準と方法	課題の提出は原則必須とします。 出席率と毎回出される課題の期限までの提出率　40%、課題の内容および出来ばえ　40%と授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。
関連科目	
その他	GWE(Google Workspace for Education)を中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。 課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。 毎授業開始 10 分ほど、タイピングの練習にあてる。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

授業コード	C12800	科目分類	A83 両-1
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ	単位数	1.00 単位
担当教員	上原　明子	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	保育現場において、外国籍の子どもたちの増加により、外国人保護者や子どもとコミュニケーションを図る機会が増えている。また、保育内容に英語を取り入れる園も増えている。このような動向をふまえ、「使える英語」の学習を目指し、ペアやグループでの協同的なタスクを取り入れ、授業を行う。 保育現場で外国人保護者や子どもたちと英語でのコミュニケーションが必要とされる場面を想定した自作資料「保育現場での英会話」を使用し、英語コミュニケーション能力の育成を図る。 また、英語の歌、ゲーム、アクティビティを通して、子どもたちに楽しく英語に慣れ親しませるスキルを身につけることを目的とする。		
到達目標	1 簡単な英語表現を使ってコミュニケーションをとることができる 2 表情、ジェスチャーなどの非言語の使い方を学び、より豊かなコミュニケーション力をつける 3 外国人保護者や子どもたちに、簡単な英語で園行事などの内容を伝えることができる 4 英語らしい発音で会話をすることができる 5 英語の歌やゲームを通して、 英語で遊ぶ楽しさを伝えることができる		
授業開始前学習	YouTube 等を通して、子ども対象のアニメや歌、絵本の読み聞かせ等を視聴し、英語に触れ親しんでおくこと。 高校までに学習した基本的な語彙や文法を復習しておくこと。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：オリエンテーション、歌・ゲーム①：Hello、Good-bye（プレゼンテーション））、自己紹介ゲーム
予習：シラバスを読み、全体の授業の流れ、授業内容を理解する
復習：Hello と Good-bye の歌を暗記して歌えるように練習する、自己紹介ゲームで使った表現を覚える
2
授業：自己紹介のプレゼンテーション（グループ１）、歌・ゲーム②：Sunday, Monday, Tuesday（プレゼンテーション）
　会話とリスニング：資料①”May I visit tomorrow?”（ペアワーク）
予習：自己紹介のプレゼンテーションの準備をする、資料①の語彙等を調べ内容を理解しておく
復習：資料①を読み返し、本文や語彙を覚える
3
授業：自己紹介のプレゼンテーション（グループ２）、歌・ゲーム③：Twelve Months（プレゼンテーション）
　会話とリスニング：資料② ”Could you please tell me about the kindergarten?”（ペアワーク）
予習：資料②の語彙等を調べ内容を理解しておく
復習：資料②を読み返し、本文や語彙を覚える
4
授業：自己紹介のプレゼンテーション（グループ３）、歌・ゲーム④：How's the Weather?（プレゼンテーション）
　会話とリスニング：資料③ "Where is Grace's jump rope?"（ペアワーク）
予習：資料③の語彙等を調べ内容を理解しておく
復習：資料③を読み返し、本文や語彙を覚える
5
授業：自己紹介のプレゼンテーション（グループ４）、歌・ゲーム⑤：Rainbow（プレゼンテーション）
　会話とリスニング：資料④ "Let's make Koinobori "（ペアワーク）
予習：資料④の語彙等を調べ内容を理解しておく
復習：資料④を読み返し、本文や語彙を覚える
6
授業：自己紹介のプレゼンテーション（グループ５）、歌・ゲーム⑥：Bingo　（プレゼンテーション）
　会話とリスニング：資料⑤"The lunches will start soon" (ペアワーク)
予習：資料⑤の語彙等を調べ内容を理解しておく
復習：資料⑤を読み返し、本文や語彙を覚える
7
授業：自己紹介のプレゼンテーション（グループ 6）、歌・ゲーム⑦：Head, Shoulders, Knees and Toes（プレゼンテーション）
　会話とリスニング：資料⑥"What is Sankan-bi?"（ペアワーク）
予習：資料⑥の語彙等を調べ内容を理解しておく
復習：資料⑥を読み返し、本文や語彙を覚える

8
授業：自己紹介のプレゼンテーション（グループ 7）、歌・ゲーム⑧：The Hokey-Pokey（プレゼンテーション）
会話とリスニング：資料⑦"Please take Grace to a dentist"（ペアワーク）
予習：資料⑦の語彙等を調べ内容を理解しておく
復習：資料⑦を読み返し、本文や語彙を覚える
9
授業：自己紹介のプレゼンテーション（グループ 8）、歌・ゲーム⑨：Old MacDonald Had a Farm（プレゼンテーション）
会話とリスニング：資料⑧ "Did you get the swimming card?"（ペアワーク）
予習：資料⑧の語彙等を調べ内容を理解しておく
復習：資料⑧を読み返し、本文や語彙を覚える
10
授業： 自己紹介のプレゼンテーション（グループ 9）、歌・ゲーム⑩：Ten Steps, Twenty Steps（プレゼンテーション）
会話とリスニング：資料⑨"Star festival" （ペアワーク）
予習：資料⑨の語彙等を調べ内容を理解しておく
復習：資料⑨を読み返し、本文や語彙を覚える
11
授業：自己紹介のプレゼンテーション（グループ 10）、歌・ゲーム⑪：Are You Hungry?（プレゼンテーション）
会話とリスニング：資料⑩"Summer festival "（ペアワーク）
予習：資料⑩の語彙等を調べ内容を理解しておく
復習：資料⑩を読み返し、本文や語彙を覚える
12
授業：自己紹介のプレゼンテーション（グループ 11）、歌・ゲーム⑫：The Finger Song（プレゼンテーション）
会話とリスニング：資料⑪"Sleep over"（ペアワーク）
予習：資料⑪の語彙等を調べ内容を理解しておく
復習：資料⑪を読み返し、本文や語彙を覚える
13
授業：自己紹介のプレゼンテーション（グループ 12）、歌・ゲーム⑬：This is the Way（プレゼンテーション）
会話とリスニング：資料⑫"Field Trip"（ペアワーク）
予習：資料⑫の語彙等を調べ内容を理解しておく
復習：資料⑫を読み返し、本文や語彙を覚える
14
授業：スキット発表（ロールプレイ），小テスト，
予習：ペアでスキットの練習をする，小テストに備えてこれまでの学習を振り返る
復習：スキット発表の振り返りを記録する
15
授業：小テストのフィードバック
予習：小テストで間違ったところの正解をテキストで確認する
復習：15 回の授業全体の振り返りを記録する

テキスト・教材	適宜、授業内にて資料を配付する
参考書	・文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） ・厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） ・阿部フォード恵子（監修）『Let's Sing Together(2nd Edition)』（アプリコット出版） ・松川礼子（監修）『50 English Songs』（文溪堂） ・松香洋子（監修）『Songs and Chants with Pictures』（松香フォニックス研究所）

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1. 子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2. ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	△
a3. それらを柔軟に保育に活かすことができる	
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1. 自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2. 自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3. 子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	

C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1. 子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	
c2. 自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3. 子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1. 子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	△
d2. 子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	△

課題とフィードバック	自己紹介のプレゼンテーション、歌のプレゼンテーション、スキット発表については授業内で適宜、講評する 小テストについては、事後に解説を行う
評価の基準と方法	自己紹介のプレゼンテーション（10%）、歌のプレゼンテーション（20%）、スキット発表（20%）、小テスト（30%）、授業中の応答・課題（20%）
関連科目	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ
その他	学生の主体性に期待し、双方向的な授業を進める。授業内で自分の考えや意見を述べることができるよう事前の準備をしっかりすること。授業には積極的な態度で臨むことを期待する。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

授業コード	C12900	科目分類	A83 両-2
科目名称	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅡ	単位数	1.00 単位
担当教員	上原　明子	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	日本でも、外国籍の子どもたちの増加等に伴い、保育現場における外国人の子どもや保護者とコミュニケーションを図るための英語力の必要性は高まっている。また、英語教育導入の低年齢化により、保育内容に英語を取り入れる園も増えている。このような動向をふまえ、「使える英語」を目指し、外国籍の保護者や子どもとの会話を想定したアクティブ・ラーニングによる協同的なタスクを取り入れ、授業を行う。また、マザーグースを通して英語圏の文化に慣れ親しむことや、英語絵本の読み聞かせとそれに関するアクティビティを行うスキルを身に付けることを目的とする。		
到達目標	1 簡単な英語表現を使ってコミュニケーションをとることができる 2 保育にかかわる活動を通して、基本的な文法や英語らしい発音を身に付ける 3 英語絵本の読み聞かせとそれに関するアクティビティを行うことができる 4 保育に関する英語の語彙に慣れ親しむ 5 マザーグースを通して、英語圏の文化に慣れ親しむ		
授業開始前学習	「英語コミュニケーションⅠ」で学習した内容を復習しておくこと。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：オリエンテーション、歌・マザーグース①：London Bridge
　絵本の読み聞かせ①Brown Bear, Brown Bear What Do You See？（プレゼンテーション）
予習：シラバスを読み、全体の授業の流れ、授業内容を理解する
復習：自分自身についての発表内容を考える
2
授業：自分自身についての発表（グループ１）、歌・マザーグース②：Five Little Monkeys
　Unit 1 自己紹介と家庭調査（テキスト pp. 10-18）（ペアワーク）
予習：Unit 1 の語句や表現について意味を理解し発音できるようにしておく
復習：Unit 1 の会話と英作文に出てきた表現を覚える
3
授業：自分自身についての発表（グループ 2）、歌・マザーグース③：Eency Weency Spider
　Unit 2 保育所の園舎（テキスト pp. 19-25）（ペアワーク）
予習：Unit 2 の語句や表現について意味を理解し発音できるようにしておく
復習：Unit 2 の会話と英作文に出てきた表現を覚える
4
授業：自分自身についての発表（グループ 3）、歌・マザーグース④：Open, Shut Them
　Unit 3 登園と園児の持ち物（テキスト pp. 26-35）（ペアワーク）
　絵本の読み聞かせ②Who Stole the Cookies？（プレゼンテーション）
予習：Unit 3 の語句や表現について意味を理解し発音できるようにしておく
復習：Unit 3 の会話と英作文に出てきた表現を覚える
5
授業：自分自身についての発表（グループ 4）、歌・マザーグース⑤：Eenie, Meenie, Minie, Moe
　Unit 4 園児の遊びと遊具（テキスト pp. 36-43）（ペアワーク）
　絵本の読み聞かせ③What's this?（プレゼンテーション）
予習：Unit 4 の語句や表現について意味を理解し発音できるようにしておく
復習：Unit 4 の会話と英作文に出てきた表現を覚える
6
授業：自分自身についての発表（グループ 5）、歌・マザーグース⑥：Mary Had a Little Lamb
　Unit 5 年間行事と祝日（テキスト pp. 44-51）（ペアワーク）
　絵本の読み聞かせ④My Pet（プレゼンテーション）
予習：Unit 5 の語句や表現について意味を理解し発音できるようにしておく
復習：Unit 5 の会話と英作文に出てきた表現を覚える
7
授業：自分自身についての発表（グループ 6）、歌・マザーグース⑦：Twinkle Twinkle Little Star
　Unit 6 園児の喜怒哀楽（テキスト pp. 52-59）（ペアワーク）
　絵本の読み聞かせ⑤Oue Sweet Home（プレゼンテーション）
予習：Unit 6 の語句や表現について意味を理解し発音できるようにしておく
復習：Unit 6 の会話と英作文に出てきた表現を覚える

8
授業：自分自身についての発表（グループ 7）、歌・マザーグース⑧：Rain Rain Go Away
Unit 7 日課（テキスト pp. 60-67）（ペアワーク）
絵本の読み聞かせ⑥What Can You Do?（プレゼンテーション）
予習：Unit 7 の語句や表現について意味を理解し発音できるようにしておく
復習：Unit 7 の会話と英作文に出てきた表現を覚える
9
授業：自分自身についての発表（グループ 8）、歌・マザーグース⑨：Row, Row, Row Your Boat
Unit 8 ランチタイム（テキスト pp. 68-74）（ペアワーク）
絵本の読み聞かせ⑦Tiny Boppers（プレゼンテーション）
予習：Unit 8 の語句や表現について意味を理解し発音できるようにしておく
復習：Unit 8 の会話と英作文に出てきた表現を覚える
10
授業：自分自身についての発表（グループ 9）、歌・マザーグース⑩：The Muffin Man
Unit 9 トイレ・トレーニング（テキスト pp. 75-84）（ペアワーク）
絵本の読み聞かせ⑧A Teddy Bear（プレゼンテーション）
予習：Unit 9 の語句や表現について意味を理解し発音できるようにしておく
復習：Unit 9 の会話と英作文に出てきた表現を覚える
11
授業：自分自身についての発表（グループ 10）、歌・マザーグース⑪：Ring-a-Ring O'roses
Unit 10 けんか（テキスト pp. 85-92）（ペアワーク）
絵本の読み聞かせ⑨A Beautiful Butterfly（プレゼンテーション）
予習：Unit 10 の語句や表現について意味を理解し発音できるようにしておく
復習：Unit 10 の会話と英作文に出てきた表現を覚える
12
授業：自分自身についての発表（グループ 11）、歌・マザーグース⑫：Sally Go Around the Sun
Unit 11 けがや病気（テキスト pp. 93-101）（ペアワーク）
絵本の読み聞かせ⑩Pal the Parrot
予習：Unit 11 の語句や表現について意味を理解し発音できるようにしておく
復習：Unit 11 の会話と英作文に出てきた表現を覚える
13
授業：自分自身についての発表（グループ 12）、歌・マザーグース⑬：Hickory, Dickory, Dock
Unit 12 卒園（テキスト pp. 102-111）（ペアワーク）
予習：Unit 12 の語句や表現について意味を理解し発音できるようにしておく
復習：Unit 12 の会話と英作文に出てきた表現を覚える
14
授業：自分自身についての発表（グループ 13）、歌・マザーグース⑭：Pease Pudding Hot
小テスト
予習：小テストに備え、これまでの学習を振り返る
復習：小テストで間違った部分の正解をテキストで確認する
15
授業：歌・マザーグース⑮：If You're Happy and You Know it
小テストのフィードバック
予習：小テストで間違った部分の正解を覚える
復習：15 回の授業全体の振り返りを記録する

テキスト・教材	宮田 学【編】/高橋 妙子【著】『保育英語の練習帳〈２〉現場のエピソードで楽しく学ぼう！』（萌文書林） その他、適宜授業中に資料を配付する
参考書	・文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） ・厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） ・松川礼子（監修）『50 English Songs』（文溪堂） ・松香洋子（監修）『Songs and Chants with Pictures』（松香フォニックス研究所）

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1. 子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2. ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	△
a3. それらを柔軟に保育に活かすことができる	

B 表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D 人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	△
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	△

課題とフィードバック	自分自身についての発表及び絵本の読み聞かせとアクティビティについては、授業内で講評する 小テストについては、事後に解答の解説を行う
評価の基準と方法	自分自身についての発表（20%）、絵本の読み聞かせとアクティビティ（30%）、小テスト（30%）、授業中の応答・課題（20%）
関連科目	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝⅠ
その他	学生の主体性に期待し、双方向的な授業を進める。従って、自分の考えや意見を述べることができるよう、資料には事前に目を通し、積極的な態度で授業に臨んでほしい。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

授業コード	C11601	科目分類	A78 両-1
科目名称	体育	単位数	2.00 単位
担当教員	三辻 浩子	授業区分	講義・実技
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	運動不足・過剰摂取・高齢社会・少子化の問題を抱える日本の中で、1 人 1 人が"健康"を意識し知識を持つことは非常に重要なことである。 この授業では、エアロビクス（有酸素運動）に音楽を用いることにより、楽しく心肺持久力を向上させ、心と身体を健康に導く方法を模索していく。楽しく効果的で誰でも行える安全性の高いエアロビクスダンスは、健康体力作りに適しているだけでなく、コミュニケーションを図る事も出来る素晴らしいエクササイズである。 実技では体力向上を目指し、協調性を高め、運動の楽しさを学んでいく。講義では、日本の健康問題を取り上げ現状を知る事で、健康の大切さや運動の重要性を考えていく。また女性である自分の身体を大切にすることを学ぶ。		
到達目標	1 レッスンを通して体力の向上・ストレスの発散・シェイプアップの方法を学ぶ 2 基本的な STEP を習得することで楽しく動けるようになる 3 32 カウントの創作やキューイングを学び作品が作れるようになる		
授業開始前学習	『エアロビクス』が生まれた背景を調べておく。ケネス・H・クーパー、ジャッキー・ソーレンセン、ジェーン・フォンダの 3 人物を調べておく。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：オリエンテーション、運動・スポーツを行う上での諸注意
予習：『エアロビクス』が生まれた背景を調べてくる
復習：自己プレゼンテーションを記入してくる
2
授業：エアロビクスとは　実技 1　【 前半クラス実技開始 】
予習：『エアロビックダンス』について調べてくる
復習：本日のステップを合致させる（march,walk,step touch など）
3
授業：ウォームアップについて　実技 2
予習：『ウォームアップ』の役割について調べてくる
復習：本日のステップを合致させる（V step,grapevine など）
4
授業：メインエクササイズについて　実技 3
予習：『メインエクササイズ』について調べてくる
復習：本日のステップを合致させる（box step,step turn など）
5
授業：筋肉強化エクササイズについて　実技 4
予習：『レジスタンスエクササイズ』について調べてくる
復習：スクワット、プッシュアップ、カールアップを行う
6
授業：クールダウンについて　実技 5
予習：『クールダウン』の役割について調べてくる
復習：ストレッチのパターンを復習する
7
授業：創作の仕方（1）ステップのコンビネーション　実技 6
予習：個人創作の内容を考えてくる
復習：創作の内容を復習する
8
授業：創作の仕方（2）アームス導入　実技 7
予習：自分の作品を練習してくる
復習：アームスをつけて創作内容を復習する
9
授業：創作の仕方（3）フォーメーション導入　実技 8
予習：自分の作品を練習してくる
復習：重心移動（方向）をつけて創作内容を復習する
10
授業：まとめ　実技 9　【 前半クラス実技終了 】
予習：自分の作品を練習してくる
復習：キューイングを入れて創作内容を復習する

11
授業：オリエンテーション（体験エアロビクス）　実技 1【　後半クラス実技開始　】
予習：エアロビクスが生まれた背景を調べてくる
復習：自己プレゼンテーションを記入してくる
12
授業：エアロビクスとは　　実技 2
予習：『エアロビクス』について調べてくる
復習：本日のステップを合致させる（march,walk,step touch など）
13
授業：ウォームアップについて　実技 3
予習：『ウォームアップ』の役割について調べてくる
復習：本日のステップを合致させる（V step,grapevine など）
14
授業：メインエクササイズについて　実技 4
予習：『メインエクササイズ』について調べてくる
復習：本日のステップを合致させる（box step,step turn など）
15
授業：筋肉強化エクササイズについて　実技 5
予習：『レジスタンスエクササイズ』について調べてくる
復習：スクワット、プッシュアップ、カールアップを行う
16
授業：クールダウンについて　実技 6
予習：『クールダウン』の役割について調べてくる
復習：ストレッチのパターンを復習する
17
授業：創作の仕方（1）ステップのコンビネーション　実技 7
予習：個人創作の内容を考えてくる
復習：創作の内容を復習する
18
授業：創作の仕方（2）アームス導入　実技 8
予習：自分の作品を練習してくる
復習：アームスをつけて創作内容を復習する
19
授業：創作の仕方（3）フォーメーション導入　実技 9
予習：自分の作品を練習してくる
復習：重心移動（方向）をつけて創作内容を復習する
20
授業：まとめ　実技 10【　後半クラス実技終了　】
予習：自分の作品を練習してくる
復習：キューイングを入れて創作内容を復習する
21
授業：運動と健康【　講義開始　】
予習：WHO 前文　健康の定義を調べてくる
復習：学んだ内容：運動と健康（ノート）をまとめる
22
授業：環境と健康
予習：日本人の死因ベスト 10 を調べてくる
復習：学んだ内容：環境と健康（ノート）をまとめる
23
授業：メタボリックシンドローム
予習：血圧の測定をしてくる
復習：ここまで学んだ内容を復習し、小テストに備える
24
授業：小テスト（小論文 2 題目）
予習：小テストに備えノートを見て内容をまとめてくる
復習：小テストの内容を再度ノートで確認する
25
授業：女性と健康①　体脂肪率とＢＭＩ
予習：自分の体脂肪率と BMI（体格指数）を把握してくる
復習：学んだ内容：女性と健康①（ノート）をまとめる

26 授業：女性と健康②　生理の周期 予習：生理の周期について調べてくる 復習：学んだ内容：女性と健康②（ノート）をまとめる 27 授業：スポーツと生理 予習：一週間の歩行の歩数を記入してくる 復習：学んだ内容：スポーツと生理（ノート）をまとめる 28 授業：スポーツとトレーニングと効果 予習：トレーニングの原則を調べてくる 復習：学んだ内容：トレーニングと効果（ノート）をまとめる 29 授業：スポーツと栄養 予習：一日の食事の内容を書いてくる 復習：学んだ内容：スポーツと栄養（ノート）をまとめる 30 授業：レクリエーション 予習：今後できそうな余暇活動を調べてくる 復習：テストに備え授業内容全てをまとめておく	
テキスト・教材	プリント配布
参考書	授業において適宜紹介する
卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	△
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	△
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	△
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	○
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	△
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	△
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	△
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	△
課題とフィードバック	学んだ Step を組み合わせ創作を行う。Step　Sheet（Step・Arms・方向・キューイングを記入）に記入し用紙を提出する。それに対してコメント（フィードバック）を行う。
評価の基準と方法	前後期通じての総合評価とする。実技（50%）、講義内容に関する筆記試験（50%）
関連科目	子どものからだと保健
その他	実技の際には、T シャツ等運動着、靴下、運動靴（外履き不可）にて臨むこと。運動を行うために適していないと判断される服装の場合、シューズがない場合には受講を認めない。また、筆記用具および水分補給のための飲み物を持参すること。講義では筆記用具・テキスト・ノートを用意すること。
予習・復習の所要時間	実技 40 時間のみ
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

授業コード	C11602	科目分類	A78 両-1
科目名称	体育	単位数	2.00 単位
担当教員	丸山　麻子	授業区分	講義・実技
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	生涯にわたり健康的な生活を送る上で、自分自身の身体に関する知識・関心を持つことは重要である。そして、心身の健康を維持・増進するためには、運動を取り入れることが望ましい。しかし、誤った方法での運動は効果がないばかりか、心身を害することもあるため、正しい運動の実施方法を理解し、修得することが必要である。 本授業では、様々な種類のスポーツを行うことにより、生涯を通して続けられるようなスポーツ・運動を見つけ、上達する方法を探究する。		
到達目標	運動・スポーツと健康の関わりや各ライフステージでの具体的な運動・スポーツの実践方法等について理解すること、および実際に様々な運動を運動を体験し、理解することにより、生涯を通じて健康を維持・増進できる力を身につけることを目標とする。		
授業開始前学習	日ごろから体を動かす習慣をつくり、自らの体をよく知ること。また、受講前に、授業で行うスポーツを見るなどして事前にルール等の知識を得てから受講すること。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：オリエンテーション、運動・スポーツを行う上での諸注意
予習：実施予定のスポーツについて調べる
復習：運動・スポーツを行う上での諸注意をノートに整理する
2
授業：ニュースポーツ１（ピロポロなど）：前半
予習：ニュースポーツ１（ピロポロなど）のルールを調べる
復習：ニュースポーツ１（ピロポロなど）のルールや実施上の諸注意をノートに整理する
3
授業：ドッジボール（球技系スポーツ１）：前半
予習：ドッジボールのルールを調べる
復習：ドッジボールのルールや実施上の諸注意をノートに整理する
4
授業：卓球（シングルス）（ラケット系スポーツ１）：前半
予習：卓球（シングルス）のルールを調べる
復習：卓球（シングルス）のルールや実施上の諸注意をノートに整理する
5
授業：卓球（ダブルス）（ラケット系スポーツ２）：前半
予習：卓球（ダブルス）ルールを調べる
復習：卓球（シングルス）のルールや実施上の諸注意をノートに整理する
6
授業：バトミントン（シングルス）（ラケット系スポーツ３）：前半
予習：バトミントン（シングルス）のルールを調べる
復習：バドミントン（シングルス）のルールや実施上の諸注意をノートに整理する
7
授業：バトミントン（ダブルス）（ラケット系スポーツ４）：前半
予習：バトミントン（ダブルス）のルールを調べる
復習：バドミントン（ダブルス）のルールや実施上の諸注意をノートに整理する
8
授業：バスケットボール（球技系スポーツ２）：前半
予習：バスケットボールのルールを調べる
復習：バスケットボールのルールや実施上の諸注意をノートに整理する
9
授業：バレーボール（球技系スポーツ３）：前半
予習：バレーボールのルールを調べる
復習：バレーボールのルールや実施上の諸注意をノートに整理する
10
授業：レクレーションスポーツ１（バドポンなど）：前半
予習：レクレーションスポーツ（バドポンなど）のルールを調べる
復習：レクレーションスポーツ（バドポンなど）のルールや実施上の諸注意をノートに整理する

11
授業：オリエンテーション、ニュースポーツ２（ピロポロなど）：後半
予習：ニュースポーツ２（ピロポロなど）のルールを調べる
復習：ニュースポーツ２（ピロポロなど）のルールや実施上の諸注意をノートに整理する
12
授業：バスケットボール（球技系スポーツ４）：後半
予習：バスケットボールのルールを調べる
復習：バスケットボールのルールや実施上の諸注意をノートに整理する
13
授業：バトミントン（シングルス）（ラケット系スポーツ５）：後半
予習：バトミントン（シングルス）のルールを調べる
復習：バドミントン（シングルス）のルールや実施上の諸注意をノートに整理する
14
授業：バトミントン（ダブルス）（ラケット系スポーツ６）：後半
予習：バトミントン（ダブルス）のルールを調べる
復習：バドミントン（ダブルス）のルールや実施上の諸注意をノートに整理する
15
授業：バドミントン（団体戦）（ラケット系スポーツ７）：後半
予習：戦略を考える
復習：バドミントン（団体戦）のルールや実施上の諸注意をノートに整理する
16
授業：ドッジボール（球技系スポーツ５）：後半
予習：ドッジボールのルールを調べる
復習：ドッジボールのルールや実施上の諸注意をノートに整理する
17
授業：卓球（シングルス）（ラケット系スポーツ８）：後半
予習：卓球（シングルス）のルールを調べる
復習：卓球（シングルス）のルールや実施上の諸注意をノートに整理する
18
授業：卓球（ダブルス）（ラケット系スポーツ９）：後半
予習：卓球（ダブルス）のルールを調べる
復習：卓球（ダブルス）のルールや実施上の諸注意をノートに整理する
19
授業：レクレーションスポーツ２（バドポン等）：後半
予習：レクレーションスポーツ（バドポン等）のルールを調べる
復習：レクレーションスポーツ（バドポン等）のルールや実施上の諸注意をノートに整理する
20
授業：バレーボール（球技系スポーツ６）：後半
予習：バレーボールのルールを調べる
復習：バレーボールのルールや実施上の諸注意をノートに整理する
21
授業：運動・スポーツと健康
予習：自らのこれまでの運動・スポーツの経験と健康状態について考える
復習：キーワード（健康、運動、スポーツ、身体活動など）の確認とノートへの整理
22
授業：健康のために必要な身体活動量とその把握方法
予習：自らの身体活動量を把握する
復習：キーワード（基礎代謝、エネルギー消費、DIT など）の確認とノートへの整理
23
授業：健康関連体力を向上させるための運動１（全身持久力）
予習：これまでに行ってきた有酸素運動について考える
復習：キーワード（全身持久力、ウォーキング、心拍数など）の確認とノートへの整理
24
授業：健康関連体力を向上させるための運動２（筋力・柔軟性）
予習：これまでに行ってきたストレッチングや筋力トレーニングについて考える
復習：キーワード（筋肉の種類、筋収縮、ストレッチングなど）の確認とノートへの整理
25
授業：中高齢者の健康と運動（ロコモティブシンドローム）
予習：身近な中高齢者の方の健康状態について観察する
復習：キーワード（加齢、関節、バランス能力、骨密度など）の確認とノートへの整理

26
授業：中高齢者の健康と運動（メタボリックシンドロームと生活習慣病）
予習：身近な中高齢者の方の健康状態についてインタビューする
復習：キーワード（血圧、脂質、血糖など）の確認とノートへの整理
27
授業：子どもの健康と運動
予習：自身の幼少期の運動や体力について考える
復習：キーワード（体力、学力、親子の生活習慣など）の確認とノートへの整理
28
授業：女性の健康と運動（若年期）
予習：自身の月経周期などを把握する
復習：キーワード（女性ホルモン、月経、基礎体温など）の確認とノートへの整理
29
授業：女性の健康と運動（中高齢期）
予習：身近な中高齢女性の健康状態についてインタビューする
復習：キーワード（更年期、骨粗鬆症、閉経など）の確認とノートへの整理
30
授業：運動実施時の注意点とその対策
予習：これまでに運動によって生じた怪我や症状についてまとめる
復習：キーワード（熱中症、スポーツ傷害、RICES など）の確認とノートへの整理

テキスト・教材	授業内で適宜紹介する
参考書	授業中に適宜紹介する

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	△
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	△
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	△
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	○
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	△
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	△
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	△
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	△

課題とフィードバック	毎授業において回収するレポートに対しては、理解度の確認および適宜個別にコメントし、授業内にて全体の講評等を行う。
評価の基準と方法	前後期通じての総合評価とする。実技（50%）、講義内容に関する筆記試験（50%）
関連科目	子どものからだと保健
その他	実技の際には、ジャージ等の運動着、靴下、運動靴（外履きは不可）にて臨むこと。運動を行うに適していないと判断される服装の場合には、受講を認めない。また、筆記用具および水分補給のために飲み物を持参すること。
予習・復習の所要時間	実技 40 時間のみ
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

授業コード	C13000	科目分類	A36 基-2
科目名称	○自然と文化／野外文化	単位数	1.00 単位
担当教員	古屋　真	授業区分	演習
研究室	16-313	オフィスアワー	前期　金曜日 10:40～14:30 後期　金曜日 10:40～14:30
授業のテーマ・内容	高度情報化や都市化、少子高齢化や核家族化が進んだ現代社会においては、間接体験が増える一方、地域の自然や伝統文化に直接ふれる機会が失われてきている。このような状況の中で、近年では、知的好奇心や創造性、コミュニケーション能力といった非認知能力を高める体験活動として、自然や文化に直接ふれる活動が改めて重視されるようになってきた。 そのため、本授業では、まず、自然体験活動や伝統文化にふれる活動の意義と内容について学修する。そして、本学の豊かな自然環境を生かした農園活動や自然体験活動を実際に体験する。また、四季の年中行事や日常の生活文化、伝承遊び等も体験しながら、これらの活動を子どもが経験する上での指導方法や留意点についても考える。		
到達目標	本授業の到達目標を、以下に 4 点挙げる。 1 自然や文化にふれる活動の意義を理解することができる 2 農園活動や自然体験活動の進め方や留意点を理解することができる 3 生活文化や伝承遊びの進め方や留意点を理解することができる 4 自然や文化にふれる活動の楽しさや魅力に共感し、遊び力を身につける		
授業開始前学習	これまで経験したことがある自然体験活動や伝統文化にまつわる活動を振り返る 秋から冬にかけて栽培できる野菜を調べる		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：自然や文化にふれる活動の意義と内容（オリエンテーション含む）
予習：これまでの経験したことがある自然体験活動や伝統文化にふれた活動をノートに書き出す
復習：子どもが自然や文化にふれる活動の意義と事例をワークシートにまとめる
2
授業：農園活動①畑の耕作と種まき（苗植え）【グループ活動】
予習：秋から冬にかけて栽培できる野菜を調べ、ノートに書き出す
復習：グループで考えた農園計画をワークシートにまとめる
3
授業：自然体験活動①植物の生態観察（グリーンアドベンチャー）
予習：秋に繁殖する植物を調べ、ノートに書き出す
復習：生態観察した植物の特徴をワークシートにまとめる
4
授業：自然体験活動②小動物の生態観察
予習：秋に活動する小動物を調べ、ノートに書き出す
復習：生態観察した小動物の特徴をワークシートにまとめる
5
授業：自然体験活動③野外での生活体験（キャンプ）【グループ活動】
予習：野外での生活体験に必要な道具を調べ、ノートに書き出す
復習：野外での生活体験の方法や子どもが活動する際の留意点をワークシートにまとめる
6
授業：農園活動②畑の手入れ（草むしり・追肥・水やり）【グループ活動】
予習：野菜の栽培に必要な作業を調べ、ノートにまとめる
復習：野菜の生育状況をワークシートにまとめる
7
授業：生活文化①四季の年中行事
予習：これまでの経験を振り返り、経験したことがある四季の年中行事をノートに書き出す
復習：授業内で解説した四季の年中行事の意味をワークシートにまとめる
8
授業：生活文化②日常の暮らしの文化【グループ活動】
予習：日常の衣食住にまつわる文化（マナー）を調べ、ノートにまとめる
復習：作成した日常の暮らしの文化クイズをワークシートにまとめる
9
授業：生活文化③竹箸とミニ門松づくり
予習：竹箸や門松づくりに必要な材料や道具を調べ、ノートにまとめる
復習：竹箸や門松づくりの方法や子どもが活動する際の留意点をワークシートにまとめる

10
授業：伝承遊び①竹とんぼとお手玉づくり
予習：竹とんぼやお手玉づくりに必要な材料や道具を調べ、ノートにまとめる
復習：竹とんぼやお手玉の方法や子どもが活動する際の留意点をワークシートにまとめる
11
授業：農園活動③収穫と畑の手入れ【グループ活動】
予習：栽培した野菜の収穫に適した大きさ（長さ）や色などを調べ、ノートにまとめる
復習：野菜の収穫方法や畑の手入れの仕方についてワークシートにまとめる
12
授業：農園活動④収穫祭【グループ活動】
予習：収穫した野菜を材料にした料理の作り方を調べ、ノートにまとめる
復習：野菜の栽培と調理までを経験する意味をワークシートにまとめる
13
授業：伝承遊び②羽根つきとコマ回し
予習：羽根つきやコマ回しに必要な道具を調べ、ノートにまとめる
復習：羽根つきやコマ回しの方法や子どもが活動する際の留意点をワークシートにまとめる
14
授業：生活文化④どんど焼き【グループ活動】
予習：どんど焼きの由来を調べ、ノートにまとめる
復習：どんど焼きの方法や子どもが活動する際の留意点をワークシートにまとめる
15
授業：自然や文化を体験する活動の指導と留意点
予習：これまでの学修を振り返り、子どもが自然や文化を体験する際の留意点をノートにまとめる
復習：自然や文化を体験する活動の指導と留意点をワークシートにまとめる

テキスト・教材	適宜、授業内で資料を配付する
参考書	能條歩『増補改訂版　人と自然をつなぐ教育－自然体験教育学入門』（NPO 北海道自然体験活動サポートセンター） 竹中敬明『四季の年中行事と習わし：伝えていきたい日本の伝統文化』（近代消防社）

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	△
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	△
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	△
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	○
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	○
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	◎
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	○
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	○
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	◎

課題とフィードバック	授業毎にワークシートの作成を課す（翌週以降の授業内にて、適宜、講評する）
評価の基準と方法	ワークシート（50%）、制作物（30%）、最終レポート（20%）
関連科目	
その他	本授業は、履修希望者が 20 名を超えた場合は抽選を行う。 本講義で使用する食材・材料費等を履修者の自己負担により賄う場合がある
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

授業コード	C13010	科目分類	A36 基-2
科目名称	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ実習	単位数	1.00 単位
担当教員	古屋　真	授業区分	実習
研究室	16-313	オフィスアワー	前期　金曜日 10:40～14:30¥n 後期　金曜日 10:40～14:30
授業のテーマ・内容	ボランティアとは、個人的な見返りを求めず、自己成長やよりよい社会共同体の創造を目指して行われる公益性の高い活動である。ボランティア活動に幅広く参加することで、自己覚知や自己理解を深め、豊かな人間性を兼ね備えた保育者としての成長につなげてほしい。¥n　事前指導では、ボランティアの意義や歴史、基礎理論や具体的な活動内容について学ぶ。実習では、各自の目標達成に向けて、様々な形態のボランティア活動に積極的に参加すること。事後指導では、実習報告反省会等（グループワーク、発表）を通し、履修者間の学び共有を図り、自己の成長課題やよりよい社会共同体の創造について考察する。		
到達目標	本授業の到達目標として、以下の 3 点を挙げる。¥n1 ボランティアの意義や歴史、基礎的な理論や内容を説明することができる¥n2 ボランティア活動に積極的に参加し、社会性や協働性を身につけることができる¥n3 ボランティア活動によって自己理解・自己覚知を高め、豊かな人間性を身につけることができる		
授業開始前学習	自身が興味・関心のあるボランティア活動について情報収集する		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)
1¥n 授業：ボランティアの意義を学ぶ¥n 予習：ボランティアの意味を調べ、ノートにまとめる¥n 復習：ボランティアの定義と五大原則を振り返る¥n2¥n 授業：ボランティアの歴史を学ぶ¥n 予習：阪神淡路大震災において展開されたボランティアの活動内容を調べ、ノートにまとめる¥n 復習：諸外国や我が国におけるボランティア活動の誕生と展開を振り返る¥n3¥n 授業：ボランティアの基礎理論を学ぶ¥n 予習：ボランティアに取り組みたいと考えた理由をノートにまとめる¥n 復習：ボランティアに関連する動機づけの理論を振り返る¥n4¥n 授業：ボランティア活動の主な内容を学ぶ¥n 予習：自身が知っているボランティア活動をノートに書き出す¥n 復習：現代社会の課題とボランティア活動の関連性を整理する¥n5¥n 授業：自己の成長課題を発見する¥n 予習：自身の得意なこと（できること）や取得予定の資格をノートに書き出す¥n 復習：自己の成長課題をノートまとめる¥n6¥n 授業：ボランティア活動の機会を知る（情報収集）¥n 予習：自分が興味・関心のあるボランティア活動について調べ（募集状況を把握し）、ノートに書き出す¥n 復習：自身が興味・関心のあるボランティア活動と自己の成長課題ごとに整理する¥n7¥n 授業：ボランティア活動の記録方法を学ぶ¥n 予習：参加希望のボランティア活動の概要（日程・場所・目的・内容・準備）をノートに書き出す¥n 復習：『ボランティア活動記録』の書き方を振り返る¥n¥n¥n【ボランティア実習】（45 時間）¥n※活動開始前に『ボランティア活動届』を学生支援課まで提出すること¥n※活動終了 1 週間以内に『ボランティア活動記録』を担当教員まで提出すること¥n¥n¥n8¥n 授業：ボランティアの継続性について学ぶ¥n 予習：一番印象に残っているボランティア活動から得られた学びと課題をノートに書き出す¥n 復習：ボランティアと生涯学習の関連性を整理する¥n9¥n 授業：ボランティア実習による学びをまとめる（グループ・ワーク）¥n 予習：参加したすべてのボランティア活動から得られた学びと課題をノートに書き出す¥n 復習：『実習レポート』を作成する¥n10¥n 授業：ボランティア実習による学びを共有する（発表）【ボランティア実習報告会】¥n 予習：グループごとに報告会の発表資料を用意する¥n 復習：ボランティア実習報告会の記録を整理する

テキスト・教材	適宜、授業内にて配付する
参考書	適宜、授業内にて配付する

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	○
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	◎
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	○
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	◎

課題とフィードバック	適宜、授業内に小レポートを課す（翌週の授業内にて講評する）

評価の基準と方法	「ボランティア活動記録」に基づく取組実績（70%）、小レポート（15%）、実習レポート（15%）
関連科目	全科目
その他	ボランティア活動への参加を通して、常に自己成長を意識すること
予習・復習の所要時間	
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした 教育内容	

授業コード	C11900	科目分類	A37 基-1
科目名称	○基礎講座Ⅰ／基礎講座	単位数	1.00 単位
担当教員	今井・木下・佐藤／今井　大二郎／木下　茂昭／佐藤　晶子	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	将来保育者を目指す学生にとって、社会の一般常識は不可欠のものとなる。そこで本講座では、社会人としての常識、大学生としての学習の方法などについて学習していく。さらに、自然体験・農園体験を通じて個々の感性を磨き、自然に対する理解を深め、そして、協同活動の意義を再認識し、将来保育者としての資質を養うことを目標としている。		
到達目標	1 大学生として学んでいく上で、必要な学習方法やレポートの書き方などを理解し、身につけることができる。 2 社会に出てから必要となる一般常識やマナーを身につけることができる。 3 自然環境に触れ、感性を磨き、動植物を育てる方法を理解し、実践することができる。 4 仲間と協力して活動することにより、責任感や協調性など、社会人として必要な資質を身につけることができる。		
授業開始前学習	高等学校までの学習内容(漢字など)の確認、入学前学習の復習		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：オリエンテーション ①開講趣旨説明 ②講義内容・評価方法 ③ポータルサイトの利用方法 ④オンライン授業受講方法
予習：保育・福祉に関連する新聞記事や文献を読み、関心のある内容をノートにまとめる
復習：オリエンテーションの内容の確認(講義内容・時間割・ポータルサイトの利用方法など)
2
授業：オンライン授業受講方法・ICT について
予習：オンライン授業受講方法についてプリントを見て事前学習を行う
復習：配布プリントを用いて復習を行う
3
授業：農園体験［1］土づくりと種まき（グループワーク）
予習：夏野菜について調べノートにまとめる。農園体験のための服装などの準備
復習：農園体験の活動の振り返りをノートにまとめる
4
授業：自然体験、食育について
予習：高校までに体験・学習した環境教育と食育について振り返りミニレポートにまとめる
復習：課題レポートの完成(「駒沢学園の植物」)
5
授業：基礎学習（1）①自己紹介 ②大学でのノートのとり方 ③マナーとは（身だしなみ・挨拶など）
予習：自己紹介の内容をまとめ、高校までのノートの取り方の確認する
復習：講義内容の確認
6
授業：基礎学習（2）漢字テスト
予習：高等学校までの学習内容の確認(一般常識・保育専門用語等の漢字の学習)
復習：漢字テストの内容、地図の書き方の確認
7
授業：基礎学習（3）図書館の利用方法
予習：図書館の活用法を調べる
復習：講義内容の確認
8
授業：農園体験［2］苗の世話（追肥とみずやり、雑草の除去）
予習：農園体験［1］での活動を確認
復習：農園体験の活動内容をのーとにまとめる
9
授業：基礎学習（4）①大学生の文献調査 ②社会人に必要なマナー
予習：図書館の活用方法を復習する。また、社会人に必要なマナーについて調べノートにまとめる
復習：講義内容を振り返り、社会人のマナーについて学んだ内容をノートにまとめる
10
授業：基礎学習（5）①敬語の基礎 ②確実な連絡メモ ③メールの書き方
予習：敬語の適切な使い方、メモの取り方、メールの書き方を確認しノートにまとめる
復習：講義内容を振り返りノートにまとめる
11
授業：基礎学習（6）①手紙の書き方 ②幼稚園・保育園・こども園で働く心得
予習：時候の挨拶、基本的な手紙の書き方について調べノートにまとめる
復習：講義で学んだ内容をノートにまとめる

12 授業：基礎学習（7）①電話対応　②保護者との関係 予習：職場での基本的な電話対応について調べノートにまとめる 復習：講義で学んだ内容をノートにまとめる 13 授業：基礎学習（8）適切な文章表記 予習：入学前課題の復習 復習：講義内容の確認 14 授業：農園活動［3］野菜の収穫（グループワーク） 予習：野菜の収穫方法を調べ、ノートにまとめる 復習：収穫した野菜の調理法について調べノートにまとめる 15 授業：基礎講座（講義内容）のまとめ 予習：全 14 回の講義について振り返り要点をノートにまとめる 復習：講義内容の確認	
テキスト・教材	必要に応じて指示する
参考書	必要に応じて指示する
卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	△
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	○
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○
課題とフィードバック	課題については添削後、返却し、講評する。
評価の基準と方法	課題レポート[課題・小論文] (80%)・授業への取り組み姿勢（20%）
関連科目	全科目（基礎講座Ⅱ）
その他	農園活動は 2 クラス単位で行う。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

授業コード	C12000	科目分類	A37 基-1
科目名称	基礎講座Ⅱ	単位数	1.00 単位
担当教員	保育科教員／綾野　鈴子／市野　繁子／猪熊　弘子／今井　大二郎／上出　香波／木下　茂昭／佐藤　晶子／酒井　博美／古屋　真／山本　双葉／守屋　建	授業区分	演習
研究室	–	オフィスアワー	–
授業のテーマ・内容	高等教育機関（大学や短期大学）では、自分の興味・関心に応じた「問い」を見つけ、主体的かつ能動的に学修・探究することが求められる。 本授業では、教育・保育・福祉領域における諸課題についてふれながら、担当教員がそれぞれの学術研究や社会的活動について紹介する。 そして、各教員の専門領域や諸実践を参考にしながら、自分の興味・関心をもとに情報を収集・整理し、各自の「問い」を明確化していく。その際、各教員の専門領域や諸実践を個別に捉えるのではなく、自分が興味・関心を抱く存在（子ども・利用者・保育者・支援者など）や事象を念頭に、総合的に俯瞰することが重要である。このような学修活動を通して、教育・保育・福祉領域における自身の「探究テーマ」を形成していく。 なお、本授業では、2 年次科目『保育学ゼミ』の履修にあたり、ゼミ配属の希望調査も実施する。		
到達目標	本授業の到達目標を以下 4 点挙げる。 1 教育・保育・福祉領域における諸課題について理解することができる 2 教育・保育・福祉領域における学術研究について理解することができる 3 教育・保育・福祉領域における社会的活動やその意義について理解することができる 4 自身の興味・関心のある学問領域及び探究テーマを見出すことができる		
授業開始前学習	教育・保育・福祉領域において自身が興味・関心のある事項に関連する書籍や新聞記事を読む		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：教育・保育・福祉領域における学術研究や社会的活動の全体像（オリエンテーション含む）
予習：教育・保育・福祉領域において自身が興味・関心のある事項について調べ、ノートにまとめる
復習：各教員の専門領域や諸実践をノートにまとめる
2
授業：各教員の専門領域における学術研究や社会的活動①
予習：各教員の専門領域（担当授業科目）の関連書籍（授業資料）を読み、疑問点をノートにまとめる
復習：『基礎講座Ⅱ』ワークシートに授業内容をまとめる
3
授業：各教員の専門領域における学術研究や社会的活動②
予習：各教員の専門領域（担当授業科目）の関連書籍（授業資料）を読み、疑問点をノートにまとめる
復習：『基礎講座Ⅱ』ワークシートに授業内容をまとめる
4
授業：各教員の専門領域における学術研究や社会的活動③
予習：各教員の専門領域（担当授業科目）の関連書籍（授業資料）を読み、疑問点をノートにまとめる
復習：『基礎講座Ⅱ』ワークシートに授業内容をまとめる
5
授業：各教員の専門領域における学術研究や社会的活動④
予習：各教員の専門領域（担当授業科目）の関連書籍（授業資料）を読み、疑問点をノートにまとめる
復習：『基礎講座Ⅱ』ワークシートに授業内容をまとめる
6
授業：各教員の専門領域における学術研究や社会的活動⑤
予習：各教員の専門領域（担当授業科目）の関連書籍（授業資料）を読み、疑問点をノートにまとめる
復習：『基礎講座Ⅱ』ワークシートに授業内容をまとめる
7
授業：各教員の専門領域における学術研究や社会的活動⑥
予習：各教員の専門領域（担当授業科目）の関連書籍（授業資料）を読み、疑問点をノートにまとめる
復習：『基礎講座Ⅱ』ワークシートに授業内容をまとめる
8
授業：自身の興味・関心に基づく探究テーマの形成①情報収集と整理
予習：教育・保育・福祉領域において自身が興味・関心のある諸課題（問題意識）をノートに挙げる
復習：自身が興味・関心のある諸課題（問題意識）に関して調べた内容を整理してノートにまとめる

9 授業：自身の興味・関心に基づく探究テーマの形成②探究テーマの形成 予習：教育・保育・福祉領域において自身が興味・関心のある諸課題（問題意識）の探究方法をノートにまとめる 復習：2 年次科目『保育学ゼミ』の希望調査書に学問領域と探究テーマをまとめる	
テキスト・教材	適宜、授業内にて資料を配付する
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）
卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A 思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	◎
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	
B 表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	◎
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	○
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D 人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○
課題とフィードバック	授業毎に各教員が課題を実施する（適宜、各教員から講評する）
評価の基準と方法	授業内課題：『基礎講座Ⅱ』ワークシート（70%），探究テーマに関するレポート課題（30%）
関連科目	全科目（基礎講座Ⅰ，保育学ゼミ）
その他	本科目は選択科目ではあるが、2 年次の卒業必修科目『保育学ゼミ』の履修登録にあたりゼミ配属の希望調査を実施するため、1 年次には必ず履修すること
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間（2 時間×7.5 週）＋予習・復習時間 7.5 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

授業コード	C12400	科目分類	A81 基-1
科目名称	日本語表現	単位数	2.00 単位
担当教員	中尾　真樹	授業区分	講義
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	社会に出ると、様々な場面において文章で表現する力が求められる。特に、保育者となれば、日々の日誌、保護者の方への連絡帳や手紙など、「書く」ことは日常的な業務となる。語句の意味用法の間違いや不用意な表現のために信頼を失うことがないように、ことばのルールを学び、日本語の基礎的な力を身につける。		
到達目標	正しい表記法と言葉遣いで、自分の意見を過不足なく相手に伝える技術を身につける。		
授業開始前学習	原稿用紙を用いた文章表記の規則を復習する。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：読む力・書く力の重要性を認識する（テキスト P.10-18）。400 字程度の意見文を提出する。
予習：テキスト P.10-18 を通読する。
復習：新聞を読むなどの自習をする。配布した小テストの範囲プリントを自習する。
2
授業：小テスト。敬語の種類の区別を身につける（テキスト P.26-28）。書評の書き写しを提出する。
予習：テキスト P.26-28 を通読する。
復習：テキスト P.141 の演習問題を自習する。
3
授業：小テスト。実習礼状の書き方。実際に文面を書く。
予習：テキスト P.93-103 を通読する。
復習：授業中に書いた礼状の下書きを清書する。
4
授業：小テスト。注意するべき敬語表現を認識する（配布プリント使用）。400 字程度の意見文を提出する。
予習：事前に配布したプリントを通読する。
復習：授業内配布プリントの演習問題を自習する。
5
授業：小テスト。通常の文を敬語に置き換える力を身につける（テキスト P.29）。 書評の書き写しを提出する。
予習：テキスト P.29 を通読する。
復習：授業内配布プリントの演習問題を自習する。
6
授業：小テスト。正しい仮名の表記を復習する（テキスト P.57-61）。400 字程度の意見文を提出する。
予習：テキスト P.57-61 を通読する。
復習：テキスト P.143 の演習問題を自習する。
7
授業：小テスト。正しい表記を復習する（テキスト P.62-63, P.148）。書評の書き写しを提出する。
予習：テキスト P.62-63 を通読する。
復習：テキスト P.144 の演習問題を自習する。
8
授業：小テスト。話し言葉と書き言葉の使い分けを確認する（プリント使用）。400 字程度の意見文を提出する。
予習：事前配布プリント（「話し言葉と書き言葉」）を通読する。
復習：テキスト P.145 の演習問題を自習する
9
授業：小テスト。現代表記・慣用句などを確認する（テキスト P.64-65, P.148）。書評の書き写しを提出する。
予習：テキスト P.64-65 を通読する。
復習：テキスト P.146-147 の練習問題を自習する。
10
授業：小テスト。当て字・不適切な語彙の問題について確認する（テキスト P.66-68）。400 字程度の意見文を提出する。
予習：テキスト P.66-68 を通読する。
復習：テキスト P.148 の練習問題を自習する。
11
授業：小テスト。記号などの使い方を確認する（テキスト P.66-71, P.149-152）。書評の書き写しを提出する。
予習：テキスト P.66-71 を通読する。
復習：授業内配布プリントの練習問題を自習する。

12 授業：小テスト。文体の使い分けに注意する（テキスト P.72-73）。400 字程度の意見文を提出する。 予習：テキスト P.72-73 を通読する。 復習：授業内配布プリントの練習問題を自習する。 13 授業：小テスト。分かりやすい文章構成を心がける（テキスト P.74-76）。書評の書き写しを提出する。 予習：テキスト P.74-76 を通読する。 復習：授業内配布プリントの練習問題を自習する。 14 授業：小テスト。あいまい文を避ける（プリント使用）。400 字程度の意見文を提出する。 予習：事前配布プリントを通読する。 復習：授業内配布プリントの練習問題を自習する。 15 授業：小テスト。小論文の書き方を身につける（テキスト P.112-124）。書評の書き写しを提出する。 予習：テキスト P.112-124 を通読する。 復習：原稿用紙の使い方を復習する。	
テキスト・教材	田上貞一郎著『保育者になるための国語表現』（萌文書林）
参考書	国語辞典、漢和辞典
卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A 思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	△
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	
B 表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D 人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	△
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	
課題とフィードバック	隔週で 400 字詰め原稿用紙 1 枚分の意見文の作成を課す。2 週後の授業時に添削したものを返却し、よくみられる間違いや文章の構成の仕方などについて解説する。
評価の基準と方法	授業ごとの課題（70%）、小テスト（30%）
関連科目	実習，基礎講座
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

授業コード	C12500	科目分類	A36 基-2
科目名称	ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ	単位数	2.00 単位
担当教員	山本　双葉	授業区分	講義
研究室	16-305	オフィスアワー	前期　木曜日 11:00～14:00　曜日～ 後期　木曜日 13:00～14:30　金曜日 10:30～12:00
授業のテーマ・内容	急激な変化を続ける現代社会において、私たちの生き方にも様々な選択肢が増え、新たな判断が連続的に求められる。 そうした中で、一人ひとりが主体的に人生や生活を構想していくために必要な知識として、個人のライフサイクルやキャリアの変遷について学び、社会の変化に伴う人々の生き方の変化を概観する。 また、文献や新聞からの事例の検討や、受講者同士のディスカッションを通して、多様な考え方を知り、生き方を模索する他者への理解を深める。 私たち一人ひとりが社会を構成していることに気付き、日本社会や地球規模の課題にも目を向けたうえで、自分の人生や新たなライフスタイルについて考える。		
到達目標	1 自分の人生について主体的に考え、判断できる知識と批判的思考力を身につける。 2 自分とは異なる考え方、生き方があることを理解する。 3 自身が社会の構成員であることを理解し、自分も社会もよりよくなるための生き方を考える力を身につける。		
授業開始前学習	生き方にあこがれる年上の女性（身近な人、有名人など誰でも可）を複数上げ、魅かれる点、共通点を考えてみる		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：ライフデザインとは
予習：10 年後、どこで誰と暮らし、どんな風に働いていたいか今のイメージをノートに記入しておく
復習：全 15 回のガイダンス内容を見て、深めたい内容や疑問点をノートにまとめる
2
授業：個人の一生　発達とライフサイクル
予習：これまで他の授業で学んだ発達に関する理論、文献を読んでノートに要約する
復習：各発達段階と発達課題をノートにまとめる
3
授業：キャリアを考える１　女性の働き方
予習：男女の働き方について、共通点と相違点をノートに挙げておく
復習：女性のキャリアとライフイベントの関係についてノートにまとめる
4
授業：キャリアを考える２　自己分析・自己理解（ペアワーク）
予習：これまでの自分の人生を振り返り、時系列にノートにまとめる
復習：ワークを通した気づきをノートにまとめる
5
授業：キャリアを考える３　社会人基礎力と仕事を通じての成長（ディスカッション）
予習：自分の理想の社会人像を描き、ノートにまとめる
復習：成長のために今日からできることをノートに書きだし、実践する
6
授業：女性と家族１　パートナーとの関係
予習：様々な家族形態を調べ、ノートにまとめる
復習：近年の家族形態や価値観をノートに整理する
7
授業：女性と家族２　女性のからだと妊娠・出産
予習：妊娠・出産や子育てに関する新しい情報（例：妊娠週数と胎児の発達，行政による産後の母親へのサポート等）を調べてノートにまとめる
復習：女性のからだについての新しい学びをノートにまとめる
8
授業：女性と家族３　子どもを育てる
予習：子育てについての悩みやエピソードをメディア等を通じてノートにまとめる
復習：親の役割について新たに学んだことをノートにまとめる
9
授業：女性の健康　からだの変化と健康寿命を延ばすための心がけ
予習：中高年の女性の健康について調べ、ノートにまとめる
復習：シニアの健康的な生活についてノートにまとめる
10
授業：時代の変遷と人々の生き方
予習：高校時代までの歴史の学習等を振り返り、各時代の背景を調べてノートにまとめる
復習：時代の生活様式や社会状況が人々の生き方に与える影響についてノートにまとめる

11 授業：QOL（生活の質）について考える 1（プレゼンテーション） 予習：QOL（Quality of Life）の定義や関連する指標について調べ、ノートにまとめる 復習：自分の生活における QOL 向上のポイントを考え、ノートにまとめる 12 授業：QOL（生活の質）について考える 2（プレゼンテーション・ディスカッション） 予習：QOL 向上のために実践できる工夫を考え、発表資料を作成する 復習：他者の発表を聞いて得た学びをノートにまとめる 13 授業：ライフデザインにかかわる現代日本の制度・法律 予習：自分の将来を考えたときに関係しそうな制度や法律を一つ選び、その内容を調べてノートにまとめる 復習：最新の法整備や税制についてノートにまとめる 14 授業：世界の人々の生き方　地球規模の課題を考える 予習：興味のある他国の現代社会や人々の生き方、制度について調べてノートに書きだす 復習：ＳＤＧｓを自分事として考え、明日から何が実践できるかノートにまとめる 15 授業：ライフデザインの実践に向けて 予習：これまでのノートを見返し、自分の思い描く人生設計に変化があればノートに記入しておく。 復習：人生設計図をノートに作成する	
テキスト・教材	適宜、講義内で資料を配布する
参考書	宮田安彦著『総説ライフデザイン学』（電気書院）

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	◎
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	◎
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○

課題とフィードバック	授業内にワークシートを作成する（ワークシートは作成後提出し、その後、コメントつけて返却する）
評価の基準と方法	課題レポート（50%）、ワークシート・プレゼンテーション発表内容（50%）
関連科目	保育者論
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

○保育原理

授業コード	C21500	科目分類	B37 保-1 （Ｊ）
科目名称	○保育原理	単位数	2.00 単位
担当教員	市野 繁子	授業区分	講義
研究室	16-302	オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:30～12:00
授業のテーマ・内容	子どもを取り巻く環境は大きく変化している。本授業では、いつの時代にも変わらない保育における不易なもの（真）と、社会の状況によって変化するもの（新）について考えて行く。その上で、保育における社会的、文化的、歴史的な視点を持ちながら保育の原理（基礎）を学修していく。 授業の方法としては、毎回の授業の初めに前回の復習を行う。さらに予習を確認するためにグループ内でのディスカッションを通して発表を行う方法で予習を確認していく。この方法を毎回繰り返し行うことで、学習内容を確実に習得できることを目指す。		
到達目標	本授業の到達目標として、以下の４点を挙げる。 1 保育とは何かを理解することにより、子どもや保育の場のイメージを形成することができる 2 保育や子育て支援に関する法令・制度について理解することができる 3 保育思想や歴史を学び、保育観や子ども観について考えることができる 4 保育の質の確保や現代社会における保育の課題について理解することができる		
授業開始前学習	常に子どもや保育の場に関心を持ち、できるだけ多く子どもと触れる機会や保育の場に参加する機会をもつこと。 積極的に子どもや保育に関する新聞記事や書籍を読んでおくこと。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：保育とはなにか（テキスト P.11-24）
予習：教科書第 1 章を読み、分からない語句などについて調べておく
復習：本授業授業のテーマ・内容、到達目標を確認し、これからの授業で学びたいことをまとめる。
2
授業：現代社会と子どもの育ち（テキスト P.25-37）
予習：教科書第 2 章を読み、分からない語句などについて調べておく
復習：授業内容を振り返り、授業で出された課題に取組む
3
授業：保育が行われる場を知る（テキスト P.38-55）
予習：教科書第 3 章を読み、分からない語句などについて調べておく
復習：授業内容を振り返り、授業で出された課題に取組む
4
授業：保育者に求められる資質と専門性（テキスト P.56-71）
予習：教科書第 4 章を読み、分からない語句などについて調べておく
復習：授業内容を振り返り、授業で出された課題に取組む
5
授業：世界の保育の歴史に学ぶ（テキスト P.72-85）
予習：教科書第 5 章を読み、分からない語句などについて調べておく
復習：授業内容を振り返り、授業で出された課題に取組む
6
授業：日本の保育の歩み-日本の保育の歩みを支えた人物と思想を知るー（テキスト P.88-99）
予習：教科書第 6 章を読み、分からない語句などについて調べておく
復習：授業内容を振り返り、授業で出された課題に取組む
7
授業：日本の保育の歩みⅡー明治・大正・昭和の保育内容と戦後の保育の歩みを学ぶー（グループワーク）
予習：教科書第 6 章を読み、分からない語句などについて調べておく
復習：授業内容を振り返り、授業で出された課題に取組む
8
授業：保育に求められる子ども観・発達観（テキスト P.100-113）
予習：教科書第 7 章を読み、分からない語句などについて調べておく
復習：授業内容を振り返り、授業で出された課題に取組む
9
授業：保育所保育指針における保育の基本（テキスト P.114-125）
予習：教科書第 8 章を読み、分からない語句などについて調べておく

復習：授業内容を振り返り、授業で出された課題に取組む 10 授業：保育の目的と内容（テキスト P.126-141） 予習：教科書第 9 章を読み、分からない語句などについて調べておく 復習：授業内容を振り返り、授業で出された課題に取組む 11 授業：保育の方法と進め方（テキスト P.142-156） 予習：教科書第 10 章を読み、分からない語句などについて調べておく 復習：授業内容を振り返り、授業で出された課題に取組む 12 授業：保育の計画と振り返り・評価（テキスト P.157-165） 予習：教科書第 11 章を読み、分からない語句などについて調べておく 復習：授業内容を振り返り、授業で出された課題に取組む 13 授業：子育て支援と地域連携（テキスト P.166-176） 予習：教科書第 12 章を読み、分からない語句などについて調べておく 復習：授業内容を振り返り、授業で出された課題に取組む 14 授業：諸外国の保育に目を向ける（テキスト P.177-188） 予習：教科書第 13 章を読み、分からない語句などについて調べておく 復習：授業内容を振り返り、授業で出された課題に取組む 15 授業：保育をめぐるこれからの課題について（テキスト P.189-202） 予習：14 回までの授業内容を確認し、プリントやノートを整理する 復習：授業の振り返りと自身の課題を見つける	
テキスト・教材	豊田和子編『実践を創造する　保育原理　第 2 版』㈱みらい 適宜プリントを配布する。
参考書	厚生労働省『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』（フレーベル館） 文部科学省『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』（フレーベル館） その他、授業内で指示する。

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	△
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	△
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	△
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	

課題とフィードバック	毎回の授業の課題を確認し、適宜授業内にて質問事項への回答や講評を行う
評価の基準と方法	定期試験（60%）小テスト（３0%）課題提出物および授業への取り組み姿勢（１0%）
関連科目	全科目（教育原理，保育者論，子ども家庭支援論，幼児教育制度論，保育内容総論，保育・教育課程論）
その他	授業には教科書と初回授業オリエンテーション内で指示するファイルを必ず持参すること

予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	保育士
実務経験を活かした教育内容	保育所での実務経験から、保育者の役割の重要性や子どもへの援助や配慮について、事例などを通して、保育現場のイメージが膨らむような授業を展開していく。

授業コード	C21405	科目分類	B37 両-1
科目名称	教育原理	単位数	2.00 単位
担当教員	古屋 真	授業区分	講義
研究室	16-313	オフィスアワー	前期 金曜日 10:40～14:30 後期 金曜日 10:40～14:30
授業のテーマ・内容	教育という文化的事象は、教育を規定する時代や社会、あるいは文化の要請に応えなければならない。しかしながら、教育は、ただ単にそれらに即応すべきものではなく、それらを批判し、改善していくような固有の理論をもつ必要がある。 そのため、本授業では、乳幼児期の教育の意義や目的、基礎理論、代表的な教育思想やその歴史的展開、学校教育制度など、教育に携わる者として身につけるべき基礎知識を学びながら、今日の教育問題（いじめ、不登校、小 1 プロブレム、虐待、子どもの貧困など）や保育者の専門性について考察する。		
到達目標	本授業の到達目標として、以下の 5 点を挙げる。 1 教育の意義や目的を理解し、保育職に対する使命感をもつ 2 教育実践の様々な取り組みから教育実践の基礎理論を理解することができる 3 教育の歴史や思想に関する基礎知識を理解・説明できる 4 学校教育制度に関する基礎知識を理解・説明することができる 5 生涯学習社会における教育課題を踏まえ、保育者に求められる資質や能力について考えることができる		
授業開始前学習	保育職の志望動機や、自身の目指す保育者像、育てたい子ども像（子どもがどのような人間に育ってほしいか）について考える。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：教育の意義と目的を学ぶ（テキスト P.1-3）
予習：テキスト第 1 章第 1 節を要約し、疑問点をノートにまとめる
復習：「人格の完成」の意味をノートにまとめる
2
授業：教育の基礎理論（構成要素・機能）を学ぶ（テキスト P.3-8，P.39-52）
予習：テキスト第 1 章第 2-4 節・第 4 章を要約し、疑問点をノートにまとめる
復習：教育の構成要素と実践方法をノートにまとめる
3
授業：教育の思想①：教育の代表思想（コメニウス、ロック、ルソーなど）を学ぶ（テキスト P.9-21）
予習：テキスト第 2 章を要約し、疑問点をノートにまとめる
復習：代表的な教育実践家の教育思想をノートにまとめる
4
授業：教育の思想②：教授の原理（直観教授、段階教授法など）を学ぶ（テキスト P.71-73）
予習：テキスト第 5 章第 2 節 1-2 項（P.71-73）を要約し、疑問点をノートにまとめる
復習：教師中心主義（教える）の教育方法についてノートにまとめる
5
授業：教育の思想③：学習の原理（問題解決学習、プログラム学習など）を学ぶ（テキスト P.73-77）
予習：テキスト第 5 章第 2 節 3-6 項（P.73-77）を要約し、疑問点をノートにまとめる
復習：児童中心主義（学ぶ）の学習方法についてノートにまとめる
6
授業：教育の思想④：乳幼児期の子どもにとっての家族の意味（子ども観や家族観など）を学ぶ（テキスト P.26-27，P.31-32）
予習：テキスト第 3 章第 1 節 3 項(4)・第 2 節 1 項(2)を要約し、疑問点をノートにまとめる
復習：子ども観や家族観の変遷についてノートにまとめる
7
授業：教育の歴史①：欧米における教育の展開（古代～中世）を学ぶ（テキスト P.23-25）
予習：テキスト第 3 章第 1 節 1-2 項を要約し、疑問点をノートにまとめる
復習：欧州における古代～中世の教育の特徴をノートにまとめる
8
授業：教育の歴史②：欧米における教育の展開（ルネサンス～近代）を学ぶ（テキスト P.25-30）
予習：テキスト第 3 章第 1 節 3-4 項を要約し、疑問点をノートにまとめる
復習：欧州におけるルネサンス～近代の教育の特徴をノートにまとめる
9
授業：教育の歴史③：日本における教育の展開（古代～中世）を学ぶ（テキスト P.31-32）
予習：テキスト第 3 章第 2 節 1 項を要約し、疑問点をノートにまとめる
復習：日本における古代～中世の教育の特徴をノートにまとめる

10 授業：教育の歴史④：日本における教育の展開（近世～近代）を学ぶ（テキスト P.32-38） 予習：テキスト第 3 章第 1 節 2-3 項を要約し、疑問点をノートにまとめる 復習：日本における近世～近代の教育の特徴をノートにまとめる 11 授業：学校教育制度の基礎（諸外国の教育制度を含む）を学ぶ（テキスト P.85-106） 予習：テキスト第 6 章を要約し、疑問点をノートにまとめる 復習：日本や諸外国の学校体系の特徴をノートにまとめる 12 授業：教育行政と教育法規を学ぶ（テキスト P.107-116） 予習：テキスト第 7 章第 1 節・第 2 節を要約し、疑問点をノートにまとめる 復習：国（文部科学省）や地方自治体（教育委員会）の教育機関の役割をノートにまとめる 13 授業：現代の教育問題（いじめ、不登校、小 1 プロブレム、虐待、子どもの貧困）を学ぶ（テキスト P.139-145） 予習：テキスト第 10 章を要約し、疑問点をノートにまとめる 復習：現代の子どもたちが抱える問題とその対策についてノートにまとめる 14 授業：生涯学習社会における乳幼児期の教育の課題（特別支援教育、幼保一元化、保幼小接続）を学ぶ 予習：子ども・子育て支援新制度の概要を要約し、疑問点をノートにまとめる 復習：現在の幼児教育に対する社会の要請をノートにまとめる 15 授業：保育者の専門性（役割）を考える（テキスト P.123-137） 予習：テキスト第 9 章を要約し、疑問点をノートにまとめる 復習：保育者の専門性についてノートにまとめる	
テキスト・教材	平野智美監修，中山幸夫・田中正浩編著『新・教育学のグランドデザイン』（八千代出版） この他、適宜、授業内にて資料を配付する
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	△
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	△
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	△
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	

課題とフィードバック	授業毎に小レポートを課す（翌週以降の授業内にて、適宜、講評する）
評価の基準と方法	授業毎の小レポート（30%）、中間試験（10%）、定期試験（60%）
関連科目	全科目（教育方法）
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	

実務経験の内容	
実務経験を活かした 教育内容	

授業コード	C25000			科目分類	B36 保-1 （Ｊ）
科目名称	○子ども家庭福祉/児童家庭福祉			単位数	2.00 単位
担当教員	上出 香波			授業区分	講義
研究室	16-311	オフィスアワー	前期 木曜日 10:00～13:00 後期 木曜日 11:30～14:30		
授業のテーマ・内容	急速に進む少子高齢化の現在、社会の変化に伴い、子どもや家庭を取り巻く環境も変化し、脆弱化した家庭、不適切な養育、子どもの貧困など、様々な問題や課題を抱えている現代社会の実態を把握する。子どもの健全育成を担う保育士として、子ども家庭福祉分野の広がりを理解し、子どもの人権擁護、法制度、政策、社会資源等、子ども家庭支援に必要とされる基礎的知識を学修する。				
到達目標	1 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解できるようになる 2 子どもの権利や発達を保証するための子ども家庭福祉における仕組み、法制度や実施体系等について理解できるようになる 3 子ども家庭福祉の現状と課題について理解し、展望も含めて説明できるようになる				
授業開始前学習	子ども家庭福祉に関連するトピックスを新聞記事やニュース情報等から把握しておく				

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：ガイダンス 現代社会と子ども家庭福祉
予習：テキスト（P.1-7）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、「子ども観」について整理し、ノートにまとめる
2
授業：子ども家庭福祉の理念と概念
予習：テキスト（P.8-13）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、少子化と女性の働き方について整理し、ノートにまとめる
3
授業：子ども家庭福祉の歴史的変遷
予習：テキスト（P.17-22）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、子ども家庭福祉の歩み（歴史）について整理し、ノートにまとめる
4
授業：児童福祉施設の歩みと動向
予習：テキスト（P.22-29）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、各児童福祉施設の歩み（歴史）について整理し、ノートにまとめる
5
授業：子どもの人権擁護の歴史的変遷・子どもの権利条約、現代社会における現状と課題
予習：テキスト（P.33-42）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、人権擁護の歴史と子どもの権利条約について整理し、ノートにまとめる
6
授業：子ども家庭福祉の制度と法体系・児童福祉法の改正
予習：テキスト（P.43-46）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、子ども家庭福祉の法体系について整理し、ノートにまとめる
7
授業：子ども家庭福祉の実施体系
予習：テキスト（P.47-61）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、子ども家庭福祉の実施体系について整理し、ノートにまとめる
8
授業：児童福祉施設と専門職
予習：テキスト（P.63-72）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、児童福祉施設と専門職について整理し、ノートにまとめる
9
授業：母子保健と子どもの健全育成 保育サービスと子育て
予習：テキスト（P.91-111）を読み、内容と自分の母子手帳を確認しておく
復習：授業内容を振り返り、母子保健サービスについて整理し、ノートにまとめる
10
授業：ひとり親家庭の現状と課題
予習：テキスト（P.211-225）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、ひとり親家庭の現状と家庭支援について整理し、ノートにまとめる

11 授業：特別な配慮が必要な子どもへの支援と課題（障害を有する子ども） 予習：テキスト（P.141-151，P.180-194）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく 復習：授業内容を振り返り、発達障害、医療的ケア児について整理し、ノートにまとめる 12 授業：子どもの貧困（子どもの居場所、子ども食堂等） 予習：テキスト（P.225-233）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく 復習：授業内容を振り返り、子どもの貧困の現状と支援について整理し、ノートにまとめる 13 授業：少年非行の現状と対応 予習：テキスト（P.152-169）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく 復習：授業内容を振り返り、少年非行への対応について整理し、ノートにまとめる 14 授業：子どもの虐待と DV（ドメスティックバイオレンス） 予習：テキスト（P.115-137）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく 復習：授業内容を振り返り、子どもの虐待と DV について整理し、ノートにまとめる 15 授業：まとめ（子ども家庭福祉の動向と展望） 予習：テキストや配布資料、記入したノートの内容を確認して疑問点をノートにまとめておく 復習：授業内容を振り返りについて整理し、ノートにまとめる	
テキスト・教材	坂本健・佐久間美智雄　編著『実践に活かす子ども家庭福祉』ミネルヴァ書房
参考書	必要に応じて授業内において適時提示する
卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	△
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	△
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	△
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	△
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	△
課題とフィードバック	提示した課題については、授業内で適時講評をおこなう
評価の基準と方法	試験（50%）、授業への取り組み〔課題小レポート提出、小テスト（３回）、調べ学習発表などにおける参加度〕（50%）
関連科目	社会福祉
その他	授業に関連した興味ある内容について自主的に調べ学習をおこない、自ら子どもにかかわる福祉の内容を深めることを望む
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	保育士、臨床発達心理士
実務経験を活かした教育内容	小児医療や児童発達支援の臨床現場における保育経験を活かし、実際の子どもの保育および家族の相談支援における実践事例の内容も関連づけ、子ども家庭福祉の理解に繋がる授業をおこなう

授業コード	C20108			科目分類	B36 保-1
科目名称	社会福祉			単位数	2.00 単位
担当教員	今井　大二郎			授業区分	講義
研究室	16-310	オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～14:30　水曜日 10:40～12:10 後期　月曜日 10:40～12:10　水曜日 13:00～14:30		
授業のテーマ・内容	現代社会における社会福祉の意義について，日常生活との関連づけを意識して学習を深める。社会福祉の歴史的変遷を概観し，社会福祉の基礎知識として法制度体系，福祉政策の仕組み等について学び，社会福祉のニーズと様々な課題に対して思考を深めることを目指す。併せて保育士に求められる社会福祉の知識、あるいは相談援助技術を含めたソーシャルワークの基礎を習得していく。				
到達目標	1 社会福祉の歴史的変遷を踏まえ、現代社会における社会福祉の意義について知り，子ども家庭福祉との関連を理解できるようになる 2 社会福祉の制度や実施体系等について理解できるようになる 3 社会福祉における相談援助について理解する 4 社会福祉の動向と課題について理解する				
授業開始前学習	社会福祉に関連するトピックスを新聞記事やニュース情報等から把握しておく。				

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：オリエンテーション（社会福祉を学ぶ意義）
予習：テキスト（P.1-12）を読み，内容を確認して疑問点をノートにまとめる
復習：授業内容を振り返り，社会福祉の意義について整理し，ノートにまとめる
2
授業：社会福祉の理念と歴史
予習：テキスト（P.13-31）を読み，内容を確認して疑問点をノートにまとめる
復習：社会福祉の歴史的変遷から、現在の福祉制度の成り立ちを理解し、重ねて支援の基盤を成す理念についてノートにまとめる
3
授業：社会保障制度と社会福祉の法制度
予習：テキスト（P.32-47）を読み，内容を確認して疑問点をノートにまとめる
復習：「生存権」に基づく社会保障制度の概要についてまとめる
4
授業：社会福祉の行財政と実施機関
予習：テキスト（P.48-59）を読み，内容を確認して疑問点をノートにまとめる
復習：日本の社会福祉の行財政と実施機関について整理し，ノートにまとめる
5
授業：社会福祉の施設と専門職
予習：テキスト（P.61-65）を読み，内容を確認して疑問点をノートにまとめる
復習：社会福祉施設及び児童福祉施設、及び各施設に配置がある専門職についてノートにまとめる
6
授業：社会福祉の実施体系
予習：テキスト（P.55-68）を読み，内容を確認して疑問点をノートにまとめる
復習：授業内容を振り返り，社会福祉の行政機関と民間機関・団体について整理し，ノートにまとめる
7
授業：子ども家庭福祉
予習：テキスト（P.78-89）を読み，内容を確認して疑問点をノートにまとめる
復習：子ども家庭福祉の現状と課題、関連法規と実施体系についてノートにまとめる
8
授業：母子・女性福祉
予習：テキスト（P.90-93）を読み，内容を確認して疑問点をノートにまとめる
復習：ひとり親家庭への支援をはじめ、ＤＶ防止の対応や女性福祉の相談機関についてノートにまとめる
9
授業：障害福祉①（障害福祉理念の理念と実施体制）
予習：テキスト（P.94-99）を読み，「障害」の定義や分類についてノートにまとめる
復習：授業内容を振り返り、それぞれの障害特性についてノートにまとめる
10
授業：障害福祉②（障害福祉分野の課題）
予習：テキスト（P.99-115）を読み，内容を確認して疑問点をノートにまとめる
復習：障害児・者福祉に関連する法制度と現状についてノートにまとめる

11 授業：高齢者福祉 予習：テキスト（P.116-132）を読み，内容を確認して疑問点をノートにまとめておく 復習：高齢者福祉の現状や実施体制、介護保険制度について整理し，ノートにまとめる 12 授業：貧困と福祉 予習：テキスト（P.133-152）を読み，内容を確認して疑問点をノートにまとめておく 復習：生活保護や子どもの貧困について整理し，ノートにまとめる 13 授業：社会福祉における相談援助① 予習：テキスト（P.147-162）を読み，内容を確認して疑問点をノートにまとめておく 復習：バイスティックの 7 原則について整理し，ノートにまとめる 14 授業：社会福祉における相談援助② 予習：対人援助における傾聴技法について調べノートにまとめる 復習：授業内容を振り返り，具体的な傾聴技法についてノートにまとめる 15 授業：まとめ（社会福祉の動向と課題） 予習：テキスト（P.175-185）を読み，疑問点をノートにまとめる 復習：共生社会の実現に向けた包括的支援体制について整理し，ノートにまとめる	
テキスト・教材	『改訂はじめて学ぶ社会福祉』〔第 2 版〕松本峰雄 小野澤昇編著 建帛社 2022（令和 4 年）5 月 20 日改訂第 2 版
参考書	『社会福祉の支援活動ソーシャルワーク入門』北川清一/久保美紀編著 ミネルヴァ書房 2008 年 3 月
卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	△
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	△
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どものびのびと表現できるよう援助することができる	△
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	△
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	△
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	△
課題とフィードバック	提示した課題については，授業内で適時講評をおこなう。
評価の基準と方法	試験（50%）、授業内での課題〔小レポート、小テスト、演習課題等〕（50%）。 各講義の最後に振り返りの課題や小テストを実施する。重ねて前半の折り返しでは振り返りテストを予定している。
関連科目	子ども家庭福祉，社会的養護Ⅰ
その他	講義資料を適宜配布する。この科目のファイルを用意する等して、講義資料をまとめ、毎回講義に持参すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

授業コード	C21000			科目分類	B36 保-2 （Ｊ）
科目名称	子育て支援			単位数	1.00 単位
担当教員	上出　香波			授業区分	演習
研究室	16-311	オフィスアワー	前期　木曜日 10:00～13:00 後期　木曜日 11:30～14:30		
授業のテーマ・内容	子育てへの不安や悩みを抱えたり、子育てが困難な状況にある等、多様化する子育て家庭のニーズや課題に対して、保育士に求められる知識や技術の修得を目的とする。また、保育士の専門性を活かしおこなう相談・助言のほか、情報提供など子育て支援に対する理解を深め、実践的対応力を養う。				
到達目標	1 子育て家庭の現状と子育て支援の基本を踏まえたうえで、保育士の専門性に基づいた保護者に対する保育相談支援の特性と展開方法について理解できるようになる 2 保育の様々な場や対象における実践事例を通して支援の内容と方法および技術を具体的に理解できるようになる				
授業開始前学習	自分の居住地における地域子育て支援について調べ、把握しておくことが望ましい				

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：ガイダンス　子育て支援とは
予習：テキスト（P.1-7）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、子育て支援の「子育ち」「親育ち」「親子関係」「子育て環境」について整理し、ノートにまとめる
2
授業：保育士の行う子育て支援の特性
予習：テキスト（P.7-15）、保育所保育指針第４章を読み、子育て支援の章立ての内容を確認してノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、保育士の専門性における相談支援について整理し、ノートにまとめる
3
授業：現代社会における子育て家庭の現状における支援のニーズと対応
予習：テキスト（P.16-25）、保育所保育指針第４章を読み、内容を確認して特に子育てにおける現状課題をノートにまとめておく
小テストに向けて，第１.2 回の内容を振り返る
復習：授業内容を振り返り，子育て家庭の現状と支援のニーズと対応について整理し，ノートにまとめる
4
授業：社会資源の活用①自治体の調べ学習(グループワーク)・1~3 回までの授業内容について小テスト実施
予習：テキスト（P.39-47）を読み、社会資源の基本ともに自分の居住地と近隣地域の社会資源について調べ学習して、ノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、グループで決めた地域の社会資源について調べ学習し、自分の役割の内容をノートにまとめる
5
授業：社会資源の活用②自治体、関係機関との連携と協働について調べ学習(グループワーク)
予習：テキスト（P.48-50）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
　自分の調べている地域について、様々な視点で確認しておく
復習：授業内容を振り返り、決めた地域の子育て支援にかかわる社会資源について調べ学習し、グループで共同しスライド作成と資料をまとめる
6
授業：社会資源の活用③調べ学習の発表、振り返り評価、課題(プレゼンテーション)
予習：グループ発表の調べ学習の内容を整理し、グループで情報交換をおこない、発表に向け準備をおこなう
復習：授業内容および自身の発表を振り返りとともに、他のグループが調べてた自治体の社会資源ついても内容を整理し，今後の地域支援における課題を抽出してノートにまとめる
7
授業：子育て支援計画の立案
予習：テキスト（P.26-37）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、子育て支援計画の立案について整理し、ノートにまとめる
ジェノグラムの記入を練習する
8
授業：保育所・地域の子育て支援事業における支援の役割と実際①実践内容の計画(グループワーク)
予習：テキスト（P.72-93）を読み、保育所等の子育て支援の実践の支援を検索して計画案を考え、まとめておく
復習：授業内容を振り返り、自分たちが考える「子育て支援とは」の基本から考えをまとめる
グループで考えた保育所等における子育て支援の実践計画について整理し、ノートにまとめる
9
授業：保育所・地域の子育て支援事業における支援の役割と実際②実践内容の準備・製作(グループワーク)
予習：子育て支援について文献検索をおこない、まとめておく
グループ内で子育て支援の実践例を計画し、各自役割の確認、制作等に必要な物品なども含め準備しておく
復習：授業内容を振り返り、保育所等における子育て支援についておよび実践内容を整理し、ノートにまとめる。

10
授業：保育所・地域の子育て支援事業における支援の役割と実際③実践内容の準備・製作・まとめ（グループワーク）
予習：グループで行う実践計画に必要な資料作成、物品制作をメンバーと確認して準備する
グループ内で発表に向けて、最終共有をおこなえるようにチェックリストとしてまとめておく
復習：授業内容を振り返り、ノートにまとめる
11
授業：保育所・地域の子育て支援事業における支援の役割と実際④実践発表(プレゼンテーション)
予習：保育所等でおこなう子育て支援実践を発表できるよう、グループ内および自分の役割に向けて準備と事前練習を行う
復習：自分の発表を振り返るとともに、他のグループ発表について考察し課題も含めてノートにまとめる
12
授業：保育所・地域の子育て支援事業における支援の役割と実際⑤実践発表（プレゼンテーション）
予習： 保育所等でおこなう子育て支援実践を発表できるよう、グループ内および自分の役割に向けて準備と事前練習を行う
他のグループ発表から学んだことをブラッシュアップして準備をすすめておく
復習：自分の発表を振り返るとともに、他のグループ発表について考察し課題も含めてノートにまとめる
13
授業：保育所・地域の子育て支援事業における支援の役割と実際⑥実践発表の振り返り評価，課題の抽出(グループディスカッション)
予習：テキスト（P.72-93）を読み、改めて内容を確認して子育て実践の発表内容と照らし合わせて、まとめておく
復習：子育て実践発表の内容について様々な視点からの意見等の授業内容振り返り、今後の課題を含め子育て支援計画の実施，評価について整理し、ノートにまとめる
14
授業：特別な配慮を要するその家族に対する支援等、多様な支援ニーズを抱える家庭の理解と支援(グループワーク)
予習：テキスト（P.106-126，P.138-146）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく．多様な支援ニーズを抱える家庭への子育て支援について、文献やインターネットで調べ、確認しておく
復習：授業内容を振り返り、特別な配慮を要するその家族への子育て支援等、多様な支援ニーズについて実践例を踏まえ整理し、ノートにまとめる
15
授業：まとめ（保育士と子育て支援）
予習：テキストや配布資料、記入したノートの内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返りについて整理し、ノートにまとめる

テキスト・教材	太田光洋　編著『シードブック　子育て支援演習』建帛社
参考書	厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 内閣府・厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 その他、必要に応じて授業内において適時提示する

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	◎
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	△
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	○
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	◎
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	○
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	◎

課題とフィードバック	提示した課題ワークやグループ発表等については、授業内で適時講評をおこなう.
評価の基準と方法	課題レポート（30%）、授業への取り組み〔課題ワーク提出、小テスト、グループワーク、実践発表などにおける参加度〕（70%）
関連科目	子ども家庭福祉，子ども家庭支援論，子ども家庭支援の心理学，教育相談

その他	グループディスカッションや実践発表をおこなう演習授業である。各学生が積極的に意見を述べ、授業の内容を発展させていくことを望む
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	保育士、臨床発達心理士
実務経験を活かした教育内容	小児医療や児童発達支援の臨床現場における保育・心理の経験を活かし、実際の子どもの保育および家族への子育て相談支援の実践事例の内容も含め、子育て支援の実践力に繋がる授業をおこなう

授業コード	C25200	科目分類	B36 保-1 （Ｊ）
科目名称	○社会的養護Ⅰ/社会的養護	単位数	2.00 単位
担当教員	今井 大二郎	授業区分	講義
研究室	16-310	オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30
授業のテーマ・内容	わが国では、子ども一人ひとりの健全な成長発達と自己実現を果たしていくことが保障されている。その子どもの健全な成長発達の基盤を支える一義的な環境となるのが家庭であるが、様々な事情により家庭で生活することが困難な子どもがいる。そういった子どもや家庭の自立を支援するための法制度、実施体系、養護実践等を総称して社会的養護という。 本講義では、社会的養護の理念や指針、法制度、あるいは対象と支援内容、現状と課題等について学ぶ。さらに社会的養護に関連した根深い問題であるマルトリートメントについて、焦点を当てて学び、子どもの権利擁護、あるいは健全な成長発達への影響と関連付けて理解し、保育者としての基本的視点を養う。		
到達目標	1 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解できるようになる 2 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について身に着けることができる 3 社会的養護の法制度や実施体系について説明することができる 4 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について説明することができる 5 社会的養護についての理解を深め、保育者として視野を広げることができる		
授業開始前学習	子ども虐待に関する著書等の文献を読み理解を深めておくこと。 また、里親制度や児童福祉施設の種類、支援内容等について関連する科目の学習とつなげて学んでおくこと。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：現代社会における社会的養護の意義～子育てを取り巻く社会問題と支援活動への取り組み～
予習：テキスト P.13-20 を読み,子育てを取り巻く諸問題についてノートにまとめる
復習：支援活動の特性についてノートにまとめる
2
授業：子どもの人権擁護の重要性～子どもの権利と発達の保障～
予習：テキスト P.21-28 を読み、子どもの権利についてノートにまとめる
復習：子どもの権利とは何かについてノートにまとめる
3
授業：社会的養護の法制度と実施体系①（行政機関と措置制度）
予習：テキスト P.29-41 を読み、社会的養護に関する行政機関や措置制度についてノートにまとめる
復習：それぞれの法律と講義で取り上げた条文についてノートにまとめる
4
授業：社会的養護の法制度と実施体系②（社会的養護と家庭養護）
予習：児童福祉施設の種類について調べる
復習：我が国の社会的養護の方針と家庭養護・施設養護についてまとめる
5
授業：対象の理解（子ども虐待とは）
予習：子ども虐待とは何か調べる
復習：子ども虐待の現状やしつけとの違いについてノートにまとめる
6
授業：子ども虐待が及ぼす心身への負の影響(グループワーク)
予習：前回講義の配布資料をよく読みノートにまとめる
復習：トラウマの影響についてノートにまとめる
7
授業：施設養護（乳児院①）
予習：テキスト P.42-43 を読み、乳児院の支援内容についてノートにまとめる
復習：配布したレジメや動画から学んだ内容をノートにまとめる
8
授業：施設養護（乳児院②）(グループワーク)
予習：環境の変化が与える子どもへの影響についてノートにまとめる
復習：通過施設としての乳児院の取り組みについてノートにまとめる
9
授業：施設養護（児童養護施設）
予習：児童養護施設の職員配置についてまとめ、配置理由について考える
復習：自立支援の柱について講義内容をノートにまとめる

10 授業：養護系施設のまとめ 予習：子どもが社会自立する上で必要な力について考え、ノートにまとめる 復習：映像から学んだことをまとめる 11 授業：更生保護/児童自立支援施設・自立援助ホーム 予習：更生保護について調べノートにまとめる 復習：要保護児童の社会自立の課題についてノートにまとめる 12 授業：障害がある子どもへの支援①（自己肯定感を育む支援①） 予習：発達障害（ADHD、LD）について調べノートにまとめる 復習：プラスの経験を積む支援方法についてノートにまとめる 13 授業：障害がある子どもへの支援②（自己肯定感を育む支援②と障害受容） 予習：保護者の障害受容について調べノートにまとめる 復習：保護者支援に必要な支援者の留意点についてノートにまとめる 14 授業：社会的養護の展望（家庭養護優先とその課題） 予習：里親制度と養子縁組についてノートにまとめる 復習：学習内容のキーワードについて説明できるようにする 15 授業：授業のまとめ 予習：各回を振り返り、学習のポイントをノートにまとめる 復習：指示した講義のまとめに関する課題に取り組む	
テキスト・教材	中山正雄監修 『よりそい支える社会的養護Ⅰ』(教育情報出版)、その他レジメを適宜配布する。
参考書	西澤　哲『子どものトラウマ』（講談社現代新書） 小木曽　宏『Q＆A 子ども虐待問題を知るための基礎知識』【第 2 版】（明石書店） 厚生労働省 『新しい社会的養育ビジョン』 厚生労働省『乳児院運営指針』『児童養護施設運営指針』
卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A 思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B 表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	△
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D 人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	○
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	△
課題とフィードバック	適宜リアクションペーパーの提出を求める。（講義内において講評、振り返りを行う）。
評価の基準と方法	試験（60%）＋提出物及び講義への参加姿勢（40%）
関連科目	社会福祉，社会的養護Ⅱ，保育実習指導Ⅰ（施設），保育実習Ⅰ（施設），保育実習指導Ⅲ，保育実習Ⅲ
その他	講義テーマごとにレジメや資料を配布する。専用のクリアファイル等を用意して整理し、テキストと一緒に毎回持参すること。 掲出する資料以外の口頭での説明等も積極的にメモをとり,復習に活用することが肝要である。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間

実務経験の有無	○
実務経験の内容	児童指導員
実務経験を活かした教育内容	ケアワーカー、ファミリーソーシャルワーカーの経験から、施設生活の日常生活支援におけるケアワークやソーシャルワークにおける支援者の留意点、あるいは当事者の子どもや保護者、里親の実態について具体的に解説する。

授業コード	C21800	科目分類	B37 両-2 （Ｊ）
科目名称	保育者論	単位数	2.00 単位
担当教員	佐藤　晶子	授業区分	講義
研究室	16-309	オフィスアワー	前期　火曜日 13:00～14:30　木曜日 13:00～14:30 後期　火曜日 13:00～14:30　水曜日 13:00～14:30
授業のテーマ・内容	これまでの実習で体験的に学んできた保育者の職務や役割について整理しながら、保育者の意義や法的位置づけ、倫理や専門性について解説する。また、実際に保育現場で求められている園児や保護者との対話、自己研鑽の姿勢、社会人としての人間関係構築のあり方を理解するために、事例を用いながら対話力・省察力・判断力を高めていく。学生自身がお互いに学び合い、自己の追い求める保育者像や保育の仕事に向き合う堅実な姿勢について考える機会となることを目指す。		
到達目標	1 現代に求められている保育者の役割や普遍の倫理を十分に理解し、説明することができる 2 自己のライフプランとキャリア形成を意識し、追い求める保育者像を明確にすることができる		
授業開始前学習	幼稚園教育要領解説及び保育所保育指針解説を読み、保育者の役割について要点をまとめ、自分が目指す保育者像について考える。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：保育者の定義と社会的意義（グループワーク）
予習：テキスト P.9-12 を読み、要点や疑問点をまとめる
復習：現時点での自己の子ども観、保育観、保育者像を整理する
2
授業：保育士・幼稚園教諭の法的位置づけと役割
予習：テキスト第 2 章・第 3 章（P.20-46）を読み、要点や疑問点をまとめる
復習：授業プリントを整理する
3
授業：保育者の倫理と専門性
予習：テキスト P.33、第 5 章（P.60-80）を読み、要点や疑問点をまとめる
復習：テキスト P.76 の全国保育士会倫理綱領を再読し、理解する
4
授業：保育の先駆者たちの思想・実践論①―海外の先駆者について－
予習：テキスト P.12-19 を読み、要点や疑問点をまとめる
復習：授業プリントを整理する
5
授業：保育の先駆者たちの思想・実践論②―日本の先駆者について－
予習：テキスト P.12-19、前回の授業プリントを再読する
復習：授業プリントを整理する
6
授業：保護者との対話のあり方①－書いて伝える技術－
予習：テキスト第 9 章（P.118-130）を読み、要点や疑問点をまとめる
復習：連絡ノートを想定したワークシートに取り組む
7
授業：保護者との対話のあり方①－書いて伝える技術（連絡帳のポイント）－（グループワーク）
予習：テキスト第 9 章を再読し、課題ワークシートに取り組む
復習：他者の意見や考え方をワークシートに記録し整理する
8
授業：保護者との対話のあり方②－話して伝える技術－（グループワーク）
予習：テキスト第 9 章、授業プリントを再読する
復習：授業プリントを整理する
9
授業：保育におけるカウンセリングマインド
予習：カウンセリングマインドとは何か調べる
復習：授業プリントを整理する
10
授業：保育者同士の連携と職場の人間関係（グループワーク）
予習：テキスト第 7 章（P.100-105）を読む。事前課題を通じて、自分の経験した事例を集める
復習：各グループで個々の事例をシェアリングし、考察する
11
授業：園内研修・職員会議のあり方－保育者間の学び合いの視点 －（グループワーク）
予習：各グループごとに事例研究を進める
復習：各グループで事例研究した内容を基に、発表会用スライド資料を作成する

12 授業：園内研修を実践してみよう（プレゼンテーション） 予習：事前ワークシートを準備する 復習：他グループの意見や考え方をワークシートに記録し整理する 13 授業：子どもと共に育つ保育者とその使命 予習：配布資料を読み、要点や疑問点をまとめる 復習：PTSD について調べ理解を深める 14 授業：保育者の現代的課題とキャリア形成・新任の心得 予習：テキスト P.105-107 を読み、要点や疑問点をまとめる 復習：今後のライフプランと保育者としての目指すキャリアをノートに書く 15 授業：倉橋惣三の保育者論と自己の保育者像 予習：テキスト第 10 章（P.131-140）を読み、要点や疑問点をまとめる 復習：授業開始時の自己の子ども観、保育観、保育者像の変容をノートにまとめる	
テキスト・教材	浅見均・田中正浩編著『現代保育者論』（大学図書出版）
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） 倉橋惣三著『育ての心　上・下』（フレーベル館）、その他随時紹介する
卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	△
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	△
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	○
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	◎
課題とフィードバック	授業内でワークシートを課す。授業内において、適宜、講評する。
評価の基準と方法	最終レポート課題 60%、授業内課題・グループ発表・授業への参加度 40%
関連科目	
その他	授業内において、グループで発表会（プレゼンテーション）を実施する。保育者にとって必要不可欠である積極的な対話と協力し合う姿勢を意識して参加することを強く望む。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	幼稚園教諭
実務経験を活かした教育内容	幼稚園における年少、年中、年長、未就園児（2 歳児）のクラス担任の経験を活かし、保育の具体的な事例や実践を取り入れ、指導計画の立案や保育実践力向上につながる授業を展開していく。

授業コード	C21708			科目分類	B37 両-2 （Ｊ）
科目名称	幼児教育制度論			単位数	2.00 単位
担当教員	猪熊 弘子			授業区分	講義
研究室	16-303	オフィスアワー	前期 木曜日 10:30～12:00 金曜日 10:30～12:00 後期 木曜日 10:30～14:30		
授業のテーマ・内容	保育者になるために必要な知識のひとつに、保育の制度や歴史がある。他のアジア諸国に先駆けて 1876（明治９）年に初めての幼稚園が開園されて以来、現在まで変遷を重ねてきた日本の保育制度とその歴史を学ぶことで、保育者として必要な理論体系の基礎を築くことができる。この授業では、日本の幼児教育の成り立ちから、幼児教育の制度に関わる法令や制度の変遷、現行制度について学ぶ。同時に諸外国の幼児教育制度や現状についても学ぶことで、幼児教育の意義について理解を深めていく。また、少子化や多様性など昨今の子どもや保育に関わる社会的な状況や、子どもの命を守る制度など、社会の中での保育の位置づけや重要性についても学ぶ。ディスカッション等を行いながら自分の意見をしっかり持ち、幼児教育に対して前向きな思いを抱けるようにする。				
到達目標	1 日本における幼児教育・保育の成り立ちや歴史を理解する 2 幼児教育・保育の制度の成り立ちにや変遷について理解する 3 少子化や多様性、子どもの安全を守る制度など、社会の中での保育のあり方について理解する 4 保育をめぐる状況について関心を持ち、積極的に知ろうという気持ちを抱くようになる 5 保育者として必要な基本的な保育制度に関する知識を身につける				
授業開始前学習	日々報道される、子ども、保育者、保育現場を取り巻くさまざまなニュースについて、関心のある問題をノートにまとめておく				

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業: イントロダクション―「保育」とは何か？
予習: 「保育」「子育て」「少子化」など、子どもに関して最近報道されたトピックを調べておく。
復習: なぜ、現代の社会の中で「保育」が重要なのか、その意義について振り返る
2
授業: 保育のはじまり～脱家族化・社会化と「保育」の始まり
予習: 世界史や日本史で学んだことを振り返り、なぜ「保育」が必要になったのかについて考えておく
復習: 保育の始まりについて学んだことをノートにまとめ、読み直す
3
授業: 日本における幼稚園のはじまりと変遷（1945 年まで）
予習: 子どもの頃に通っていた幼稚園や実習園の歴史について調べておく
復習: 各地の幼稚園の歴史や流れについて、学んだことをノートにまとめておく
4
授業: 日本における保育所のはじまりと変遷（1945 年まで）
予習: 子どもの頃に通っていた保育所や実習園の歴史について調べておく
復習: さまざまな状況で生まれた保育所、認定こども園について、学んだことをノートにまとめる。
5
授業: 幼稚園・保育所の設置・運営の基準―その由来と違いについて
予習: 「幼稚園設置基準」「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」の条文を読んでおく
復習: 幼稚園・保育所の設置・運営基準についてその違いを明確にし、課題を含めてノートにまとめる
6
授業: 幼保一元化をめぐる課題―国民幼稚園から認定こども園へ
予習: 認定こども園の４つの種類について調べておく
復習: 幼保一元化の歴史と現在の認定こども園の課題について、学んだことをノートにまとめる
7
授業: 第二次大戦中から戦後の保育・幼児教育について①
予習: 「戦争」の時、幼稚園・保育所はどうなっていたのか、前回の授業などを元に調べておく
復習: 授業の感想をまとめておく。
8
授業: 第二次大戦中から戦後の保育・幼児教育について②
予習: 前回の授業をふまえ、保育者にとって何が大切なことなのか、考えておく。
復習: 授業を振り返り、自分が保育者になったときに必要なことを考えてまとめる。
9
授業: 「措置」から子ども・子育て支援新制度へ① ―現在までの保育・幼児教育制度について（1945 年～現在まで）
予習: 「児童福祉法」の中の保育に関する部分について読んでおく
復習: 現在までの保育所への入所制度の変遷についてノートにまとめる
10
授業: 「措置」から子ども・子育て支援新制度へ② ―現在までの保育・幼児教育制度について（1945 年～現在まで）
予習: 内閣府・文部科学省・厚生労働省『子ども・子育て支援新制度 なるほど Book』を読んでおく
復習: 子ども・子育て支援新制度についてわかったことをノートにまとめる

11
授業: 待機児童と少子化ー日本の現代の保育をめぐる問題
予習: インターネットで「待機児童」についての報道を探し、どういうものか調べておく
復習: 急速な少子化のなかで保育・幼児教育に求められることについてまとめておく
12
授業: 世界の保育制度①―欧米の保育・幼児教育の現状について
予習: 自分が興味を持っている欧米の保育・幼児教育の現状についてインターネット等で調べておく
復習: OECD「Starting Strong」からわかる欧米の保育について学んだことをノートにまとめる
13
授業: 世界の保育制度②―アジアの保育・幼児教育の現状について
予習: 自分が興味を持っているアジアの保育・幼児教育の現状についてインターネット等で調べておく
復習: 授業で習ったアジアの保育・幼児教育の現状についてノートにまとめる
14
授業: 子どもの権利について学ぶー「児童憲章」「国連こどもの権利条約」
予習: 「児童憲章」「国連こどもの権利条約」を読んでおく
復習: 「国連こどもの権利条約」の中で、特に保育者にとって大切にしたいことについてノートにまとめる
15
授業: 総まとめ
予習: これまで習った項目について復習しておく。
復習: 保育・幼児教育制度について学んだことを振り返り、レポートを作成する

テキスト・教材	適宜、講義内にて資料を配付する。DVD、動画等の視聴もある。
参考書	文部科学省編『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省編『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1. 子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2. ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3. それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1. 自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	△
b2. 自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3. 子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1. 子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2. 自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	○
c3. 子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1. 子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2. 子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○

課題とフィードバック	テーマごとにリアクションペーパーを課す。講義の中でフィードバックを行う。
評価の基準と方法	課題（70%）、期末レポート（30%）
関連科目	日本国憲法
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	ジャーナリストとして保育制度について多くの記事、著作がある。 著書に『子育てという政治』（角川文庫）、『保育園を呼ぶ声が聞こえる』（共著・太田出版）等。
実務経験を活かした教育内容	ジャーナリストとして保育制度について研究・報道してきた実績を踏まえ、さまざまな報道資料やデータを使いながら授業を進めていく。

授業コード	C21010			科目分類	B14 両-1 （Ｊ）
科目名称	保育の心理学			単位数	2.00 単位
担当教員	酒井 博美			授業区分	講義
研究室	16-308	オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 月曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 12:30～14:30 火曜日 12:30～14:30		
授業のテーマ・内容	保育を進める上で、発達を理解することは、子どもの成長に気づき、子どもの行動を適切に理解し、それを保護者や同僚と共有する際の基礎となる。本授業では、子どもの発達について、各時期の特徴を、身体的機能や運動機能、社会性、言語、認知等の側面から学ぶ。				
到達目標	1 人間の発達過程に関する基礎的知識を習得し、説明できる 2 子どもの行動や現象を、発達や学習に関わる心理学の知見を用いて説明できる 3 保育場面における子どもの発達を支える支援について、心理学の知見を用いて考えられる 4 発達障害に関する基礎的知識を習得し、説明できる				
授業開始前学習	指定教科書を予め読んでおく。				

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：授業ガイダンス、保育の心理を学ぶ意義と目的
予習：子どもの発達過程について振り返っておく
復習：保育の心理の概念を理解し、学ぶ意義と目的をまとめる
2
授業：発達における遺伝と環境の影響
予習：自分自身の発達に遺伝と環境がどのように影響しているかを改めて考え、書き出しておく
復習：発達における遺伝と環境の相互作用についてまとめる
3
授業：発達の諸理論：EH.エリクソン、S.フロイトの理論
予習：第 1 回で触れた EH.エリクソンの心理社会的発達段階説を振り返っておく
復習：心の漸成発達を理解し、まとめる
4
授業：胎生期と周産期の発達、運動発達
予習：自分自身の運動発達について振り返り（聞き取り）、書き出しておく
復習：運動における定型発達についてまとめる
5
授業：社会性の発達（1）アタッチメント、仲間関係
予習：社会性とは何かをまとめておく
復習：アタッチメント理論の概要と発達における重要性および遊びを通した仲間関係の発達についてまとめる
6
授業：社会性の発達（2）コミュニケーションと言語
予習：自分自身の言語発達について振り返り（聞き取り）、書き出しておく
復習：コミュニケーションにおける言語の役割および言語発達についてまとめる
7
授業：認知の発達（1）知覚
予習：認知とは何かを調べ、まとめておく
復習：乳幼児の知覚特性についてまとめる
8
授業：認知の発達（2）知能の基礎と測定
予習：知能検査にどのようなものがあるか調べておく
復習：知能の意味と測定方法についてまとめる
9
授業：認知の発達（3）J.ピアジェの理論
予習：J.ピアジェの発達の考え方における基本概念について調べておく
復習：4 段階の認知発達についてまとめる
10
授業：発達障害の理解（1）発達障害の基礎知識
予習：発達障害児・者とかかわった経験についてまとめておく
復習：発達障害の概要および現状についてまとめる
11
授業：発達障害の理解（2）自閉症スペクトラム障害（ASD）
予習：自閉症スペクトラム障害(ASD)の特性について調べておく
復習：自閉症スペクトラム障害児への心理的支援についてまとめる

12 授業：発達障害の理解（3）注意欠如多動性障害（ADHD） 予習：注意欠如多動性障害（ADHD）の特性について調べておく 復習：注意欠如多動性障害児への心理的支援についてまとめる 13 授業：発達障害の理解（4）限局性学習障害（SLD） 予習：限局性学習障害(SLD)の特性について調べておく 復習：限局性学習障害児への心理的支援についてまとめる 14 授業：保護者とのかかわり 予習：保育・教育現場における保護者とのかかわりについて想像しまとめておく 復習：保護者とのラポール形成および支援についてまとめる 15 授業：まとめ：子どもの発達理解の重要性 予習：これまでに授業で扱った内容について総復習をし、疑問点を挙げておく 復習：提示する課題に応じてレポートを作成する	
テキスト・教材	本郷一夫・飯島典子著『シードブック　保育の心理学』（建帛社）
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）　等

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	△
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	△
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	△
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	

課題とフィードバック	提示した課題（発表も含む）は授業内にて講評し、レポート課題は個別にフィードバックする。
評価の基準と方法	レポート課題（50%）、授業への取り組み姿勢（グループワークへの参加度、意見の発言等）（50%）
関連科目	全科目（子どもの理解と援助，子どものからだと保健），子ども家庭支援の心理学，子育て支援，教育相談
その他	授業内容の理解促進のために、各回の授業に真剣かつ積極的に取り組むことを望む。 また、提出物の期限は必ず守ること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	公認心理師
実務経験を活かした教育内容	主に発達障害児・者に対する心理学的支援の経験から、子どもや保護者の心理面の理解や支援について、事例を示しながら授業を展開する。

授業コード	C21020	科目分類	B14 両-1　（Ｊ）
科目名称	子ども家庭支援の心理学	単位数	2.00 単位
担当教員	小柳　菜穂	授業区分	講義
研究室	－	オフィスアワー	－
授業のテーマ・内容	子どもやその家庭の支援に関する包括的な理解を目的とし、（1）生涯発達、（2）家族・家庭の理解、（3）子育て家庭に関する現状と課題、（4）子どもの精神保健とその課題を中心に、基本的知識を学ぶ。また、グループ討論など主体的活動を通して、子ども一人一人の発達や特性、家庭や保護者など子どもが育つ環境を理解する視点を獲得し、発達課題に応じた具体的援助方法や関わり方について学びを深める。		
到達目標	1 人が生涯にわたって発達していく過程を、各時期の特徴や課題から理解し説明することができる 2 親子関係や家族関係についての基礎理論（愛着理論や情動調律）を学び、家族・家庭の機能とその発達について説明することができる 3 現代社会における家庭や子育ての現状と課題を学び、家庭に対する支援について理解することができる 4 子どもの心の健康について、環境との関連や、障害や疾患の基本的な内容を理解して支援方法を考えることができる		
授業開始前学習			

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：ガイダンス（授業目的、到達目標、成績評価方法）生涯発達とライフサイクル
予習：シラバスをよく読み、本授業の目的と到達目標を理解する
復習：配布資料 1 を整理し、理解できなかった内容を確認する
2
授業：生涯発達①乳幼児期から学童期前期にかけての発達
予習：次回のトピックについて調べ、疑問点を整理する
復習：配布資料 2 を整理し、理解できなかった内容を確認する
3
授業：生涯発達②学童期後期から青年期にかけての発達
予習：次回のトピックについて調べ、疑問点を整理する
復習：配布資料 3 を整理し、理解できなかった内容を確認する
4
授業：生涯発達③成人期から老年期にかけての発達
予習：次回のトピックについて調べ、疑問点を整理する
復習：配布資料 4 を整理し、理解できなかった内容を確認する
5
授業：家族・家庭の理解①家族・家庭の意義と機能
予習：次回のトピックについて調べ、疑問点を整理する
復習：配布資料 5 を整理し、理解できなかった内容を確認する
6
授業：家族・家庭の理解②親子関係・家族関係の理解
予習：次回のトピックについて調べ、疑問点を整理する
復習：配布資料 6 を整理し、理解できなかった内容を確認する
7
授業：家族・家庭の理解③子育ての経験と親としての育ち
予習：次回のトピックについて調べ、疑問点を整理する
復習：配布資料 7 を整理し、理解できなかった内容を確認する
8
授業：子育て家庭に関する現状と課題①ライフコースと仕事・子育て【グループ討論】
予習：次回のトピックについて調べ、疑問点を整理する
復習：配布資料 8 を整理し、理解できなかった内容を確認する
9
授業：子育て家庭に関する現状と課題②多様な家族形態とその理解【グループ討論】
予習：次回のトピックについて調べ、疑問点を整理する
復習：配布資料 9 を整理し、理解できなかった内容を確認する
10
授業：子育て家庭に関する現状と課題③特別な配慮を必要とする家庭 1 （貧困家庭、外国籍家庭など）
予習：次回のトピックについて調べ、疑問点を整理する
復習：配布資料 10 を整理し、理解できなかった内容を確認する
11
授業：子育て家庭に関する現状と課題④特別な配慮を必要とする家庭 2 （ｽﾃｯﾌﾟﾌｧﾐﾘｰ、虐待など）【グループ討論】
予習：次回のトピックについて調べ、疑問点を整理する
復習：配布資料 11 を整理し、理解できなかった内容を確認する

12 授業：子どもの精神保健とその課題①発達支援の必要な子ども【グループ討論】 予習：次回のトピックについて調べ、疑問点を整理する 復習：配布資料 12 を整理し、理解できなかった内容を確認する 13 授業：子どもの精神保健とその課題②子どもの生活・成育環境とその影響 予習：次回のトピックについて調べ、疑問点を整理する 復習：配布資料 13 を整理し、理解できなかった内容を確認する 14 授業：子どもの精神保健とその課題③子どもの心の健康にかかわる問題 予習：次回のトピックについて調べ、疑問点を整理する 復習：配布資料 14 を整理し、疑問点をノートにまとめる 15 授業：まとめ（子ども観、家族観、発達観）【グループ討論】 予習：前回の授業内で提示した課題についてノートに考えをまとめる 復習：配布資料 15 を整理し、理解できなかった内容を確認する	
テキスト・教材	適宜、資料を配付する。
参考書	青木紀久代編『子ども家庭支援の心理学』（みらい） 文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	◎
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	◎
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	△
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	◎

課題とフィードバック	提示した課題は、適宜授業内で講評を行うとともに、提出物を通してフィードバックを行う。
評価の基準と方法	各回のリアクションペーパー〈35%〉 授業への取り組み姿勢（グループワークへの参加度，課題の提出状況）〈35%〉 期末レポート〈30%〉 これらを総合的に判断し、評価します。
関連科目	教育相談，子育て支援，子ども家庭支援論
その他	グループワークや演習を行います。思いや考えを自由に表現してほしいと思います。 授業内での疑問点や深く知りたいと思うことがある場合は、授業内で積極的に発言してください。適宜授業内レポートを実施しますので、そちらに記入してもらっても構いません。返却時にフィードバックします。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	臨床発達心理士、公認心理師
実務経験を活かした教育内容	臨床発達心理士、公認心理師として児童福祉施設等で勤務してきた経験から、具体的な事例や実践を示して乳幼児期の子どもの発達やそれに関する心理的な問題についての理解を促す授業を展開する。

授業コード	C25400			科目分類	B14 両-2 （Ｊ）
科目名称	○子どもの理解と援助/保育の心理学Ⅱ			単位数	1.00 単位
担当教員	市野 繁子			授業区分	演習
研究室	16-302	オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:30～12:00		
授業のテーマ・内容	子どもを知る、子どもを理解するためには、まず、自分自身がどのような保育者になっていくのかということをイメージすることから始める。その上で、実態に応じた子どもの発達や学びの過程、一人一人の発達課題を把握することの意義を理解する。また、子どもたちの生活や遊びの体験から、一人一人の子どもを理解する上での基本的な考え方を学ぶ。さらに、保育実践の場の具体的なイメージを形成し、子ども理解のための方法を学んでいく。				
到達目標	本授業の到達目標として、以下の 4 点を挙げる。 1 子ども一人一人の心身の発達や学びの過程を把握することの意義を理解する 2 一人一人の子どもを理解する上で、子どもの生活や遊びについて基本的な考え方を理解する 3 保育現場における子どもを理解するための具体的な援助や方法を理解する 4 子ども理解に基づく保育者の態度や基本姿勢について理解する				
授業開始前学習	既習の学修内容を振り返り、子どもの年齢に応じた大まかな発達過程の特徴を理解しておくこと。 教科書の内容を熟読しておくこと。				

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：授業ガイダンス、保育における「子ども理解」とは
予習：教科書第 1 章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく
復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる
2
授業：「子ども理解」を深めるために求められるもの（グループ・ディスカッション）
予習：教科書第 1 章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく
復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる
3
授業：子どもを取り巻く環境の理解①生活と遊びの視点から（グループ・ディスカッション）
予習：教科書第 2 章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく
復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる
4
授業：子どもを取り巻く環境の理解②発達と学習の視点から（グループ・ディスカッション）
予習：教科書第 2 章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく
復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる
5
授業：子ども理解における発達的視点①ピアジェ理論と幼児教育（グループ・ディスカッション）
予習：教科書第 3 章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく
復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる
6
授業： 子ども理解における発達的視点②発達観の変容（グループ・ディスカッション）
予習：教科書第 3 章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく
復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる
7
授業：子ども理解における保育者の姿勢と実際（グループワーク）
予習：教科書第 4 章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく
復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる
8
授業：カウンセリングマインドにもとづく子ども理解（グループワーク）
予習：教科書第 4 章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく
復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる
9
授業：保育現場における観察と記録の実際（グループワーク）
予習：教科書第 5 章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく
復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる
10
授業：記録にもとづく保育カンファレンス（発表）
予習：教科書第 6 章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく
復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる

11 授業：保育における個と集団における経験と援助（グループ・ディスカッション） 予習：教科書第 7 章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく 復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる 12 授業：特別なニーズの理解と援助（グループ・ディスカッション） 予習：教科書第 8 章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく 復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる 13 授業：保育における「保護者」理解 予習：教科書第 9 章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく 復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる 14 授業：「子ども理解」のための共同体とは 予習：教科書第 10 章をよく読み、内容を理解し、分からない言葉の意味を調べておく 復習：PP 内容を確認し、理解できた点、できなかった点などをノートにまとめる 15 授業：子どもの理解と援助に関する今後の課題 予習：これまでの授業内容を振り返る 復習：配布資料や教科書の内容を整理し、学びを振り返る	
テキスト・教材	高嶋景子、砂上史子編著『新しい保育講座 3　子ども理解と援助』ミネルヴァ書房 適宜プリントを配布する。
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） 青木久子、間藤侑、河邉貴子著『子ども理解とカウンセリングマインド?保育臨床の視点から?』萌文書林

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	◎
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	△
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	△
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	△
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	○
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	

課題とフィードバック	授業内における質問や課題については、適宜授業内で講評を行う。課題提出物については、確認後評価し、返却を行う。
評価の基準と方法	レポート課題（60%），授業内課題（30%），授業への取り組み姿勢等（10%）
関連科目	保育の心理学，特別な支援を要する子どもの理解と支援Ⅰ，子ども家庭支援の心理学，子どものからだと保健
その他	自己中心的な行動は慎み、積極的に授業に参加して欲しいと考えます。スムーズにグループワークなどができるよう、協同のもとに授業を運営していきましょう。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	保育士
実務経験を活かした教育内容	保育士としての経験から、子どもの発達の特徴や援助の方法について、具体的な事例を示しながら授業を展開していく。

授業コード	C21030			科目分類	B49 両-1
科目名称	子どものからだと保健			単位数	2.00 単位
担当教員	木下　茂昭			授業区分	講義
研究室	16-304	オフィスアワー	前期　水曜日 13:00～14:30　木曜日 10:40～12:10 後期　月曜日 13:00～14:30　水曜日 13:00～14:30		
授業のテーマ・内容	子ども一人ひとりの発育・発達には個人差がみられるものである。その個人差を理解するためにも、子どもの身体・生理機能・運動機能及び精神機能などの発育・発達を理解し、健康増進を図る保健活動は重要となる。また、子どもの健康状態を把握するためにも、子どもが罹患する感染症や疾病とその予防法、また、ケガの処置の仕方について理解しておくことも、保育現場では必要になってくる。 そこで、本講義では子どもの発育・発達、子どもの疾病、園での保健・衛生管理・健康状態の把握などについて理解していくことを目的としている。				
到達目標	1 子どもの身体・生理機能・運動機能及び精神機能などの発育・発達を理解し、子ども一人ひとりの健康管理ができる 2 子どもが罹患する感染症や疾病とその予防法、また、ケガの処置の仕方について理解し、実践でき、保護者と協力して子どもの健康の管理・増進ができる				
授業開始前学習	自己の予防接種歴や既往症、その他の健康情報、疾病情報を調べる。				

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：生命の保持と子どもの健康の意義と保健活動
予習：人体の構造、人の成長、保育所・幼稚園・認定こども園の機能について調べる
復習：受精、成長、健康の概念、地域保健活動についてまとめる
2
授業：人体について（1）（骨格・骨格筋・消化器）
予習：人の骨格、筋肉、消化器の種類について調べる
復習：骨格、筋肉の働き、消化器の種類についてまとめる
3
授業：人体について（2）（呼吸器・循環器・血液）
予習：消化、呼吸器、血液の機能について調べる
復習：消化・呼吸器、血液についてまとめる
4
授業：人の発育・発達（1）（遺伝・出生・身体の変化）
予習：遺伝、血液型、乳幼児期の子どもの身体の変化について調べる
復習：遺伝、血液型、乳幼児期の子どもの身体の変化についてまとめる
5
授業：人の発育・発達（2）（身体の変化）
予習：体重、身長などの発達曲線について調べる
復習：脳の働き、発育指数についてまとめる
6
授業：生理機能の発達（1）（体温・呼吸・循環）
予習：体温測定、呼吸数測定の方法について調べる
復習：体温、呼吸、循環の変化についてまとめる
7
授業：生理機能の発達（2）（消化・尿・睡眠）
予習：消化器、泌尿器、睡眠について調べる
復習：栄養、睡眠についてまとめる
8
授業：運動機能の発達（1）（手・足の運動、体力）
予習：乳幼児期の子どもの手・足の動きの発達について調べる
復習：子どもの発達と遊びや運動との関連性についてまとめる
9
授業：子どもの精神保健
予習：子どもの精神活動について調べる
復習：家庭、保育現場での精神保健についてまとめる
10
授業：小児の主な疾病と予防法（1）乳幼児の疾病
予習：感染症について調べる
復習：法定伝染病についてまとめる

11
授業：小児の主な疾病と予防法（2）予防接種と免疫
予習：予防接種について調べる
復習：予防接種、抗原抗体反応、免疫についてまとめる
12
授業：応急処置（1）ケガ等の処置法
予習：乳幼児期の子どものケガについて調べる
復習：ケガなどの処置の方法についてまとめる
13
授業：応急処置（2）（心肺蘇生講義）
予習：心肺蘇生法の種類について調べる
復習：ＡＥＤを用いた心肺蘇生法についてまとめる
14
授業：応急処置（3）（心肺蘇生実技・グループワーク）
予習：ＡＥＤを用いた心肺蘇生法について調べる
復習：ＡＥＤを用いた心肺蘇生法についてまとめる
15
授業：集団保育における健康
予習：保育現場における感染症やアレルギーについて調べる
復習：保育現場における衛生管理についてまとめる

テキスト・教材	講義に対応したプリントを配布する
参考書	福本陽平他『病気がみえる（１－15）』（メディックメディア） 文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） その他、授業中適宜紹介する

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	○
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	△
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○

課題とフィードバック	乳児の栄養について、レポートを課す（授業内で、講評する）。
評価の基準と方法	レポート（10%）、試験（90%）
関連科目	保育の心理学，子どもの健康と安全
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

授業コード	C21039			科目分類	B49 両-1
科目名称	子どものからだと保健			単位数	2.00 単位
担当教員	木下　茂昭			授業区分	講義
研究室	16-304	オフィスアワー	前期　水曜日 13:00～14:30　木曜日 10:40～12:10 後期　月曜日 13:00～14:30　水曜日 13:00～14:30		
授業のテーマ・内容	子ども一人ひとりの発育・発達には個人差がみられるものである。その個人差を理解するためにも、子どもの身体・生理機能・運動機能及び精神機能などの発育・発達を理解し、健康増進を図る保健活動は重要となる。また、子どもの健康状態を把握するためにも、子どもが罹患する感染症や疾病とその予防法、また、ケガの処置の仕方について理解しておくことも、保育現場では必要になってくる。 そこで、本講義では子どもの発育・発達、子どもの疾病、園での保健・衛生管理・健康状態の把握などについて理解していくことを目的としている。				
到達目標	1 子どもの身体・生理機能・運動機能及び精神機能などの発育・発達を理解し、子ども一人ひとりの健康管理ができる 2 子どもが罹患する感染症や疾病とその予防法、また、ケガの処置の仕方について理解し、実践でき、保護者と協力して子どもの健康の管理・増進ができる				
授業開始前学習	自己の予防接種歴や既往症、その他の健康情報、疾病情報を調べる。				

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：生命の保持と子どもの健康の意義と保健活動
予習：人体の構造、人の成長、保育所・幼稚園・認定こども園の機能について調べる
復習：受精、成長、健康の概念、地域保健活動についてまとめる
2
授業：人体について（1）（骨格・骨格筋・消化器）
予習：人の骨格、筋肉、消化器の種類について調べる
復習：骨格、筋肉の働き、消化器の種類についてまとめる
3
授業：人体について（2）（呼吸器・循環器・血液）
予習：消化、呼吸器、血液の機能について調べる
復習：消化・呼吸器、血液についてまとめる
4
授業：人の発育・発達（1）（遺伝・出生・身体の変化）
予習：遺伝、血液型、乳幼児期の子どもの身体の変化について調べる
復習：遺伝、血液型、乳幼児期の子どもの身体の変化についてまとめる
5
授業：人の発育・発達（2）（身体の変化）
予習：体重、身長などの発達曲線について調べる
復習：脳の働き、発育指数についてまとめる
6
授業：生理機能の発達（1）（体温・呼吸・循環）
予習：体温測定、呼吸数測定の方法について調べる
復習：体温、呼吸、循環の変化についてまとめる
7
授業：生理機能の発達（2）（消化・尿・睡眠）
予習：消化器、泌尿器、睡眠について調べる
復習：栄養、睡眠についてまとめる
8
授業：運動機能の発達（1）（手・足の運動、体力）
予習：乳幼児期の子どもの手・足の動きの発達について調べる
復習：子どもの発達と遊びや運動との関連性についてまとめる
9
授業：子どもの精神保健
予習：子どもの精神活動について調べる
復習：家庭、保育現場での精神保健についてまとめる
10
授業：小児の主な疾病と予防法（1）乳幼児の疾病
予習：感染症について調べる
復習：法定伝染病についてまとめる

11
授業：小児の主な疾病と予防法（2）予防接種と免疫
予習：予防接種について調べる
復習：予防接種、抗原抗体反応、免疫についてまとめる
12
授業：応急処置（1）ケガ等の処置法
予習：乳幼児期の子どものケガについて調べる
復習：ケガなどの処置の方法についてまとめる
13
授業：応急処置（2）（心肺蘇生講義）
予習：心肺蘇生法の種類について調べる
復習：ＡＥＤを用いた心肺蘇生法についてまとめる
14
授業：応急処置（3）（心肺蘇生実技・グループワーク）
予習：ＡＥＤを用いた心肺蘇生法について調べる
復習：ＡＥＤを用いた心肺蘇生法についてまとめる
15
授業：集団保育における健康
予習：保育現場における感染症やアレルギーについて調べる
復習：保育現場における衛生管理についてまとめる

テキスト・教材	講義に対応したプリントを配布する
参考書	福本陽平他『病気がみえる（１－15）』（メディックメディア） 文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） その他、授業中適宜紹介する

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	○
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	△
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○

課題とフィードバック	乳児の栄養について、レポートを課す（授業内で、講評する）。
評価の基準と方法	レポート（10%）、試験（90%）
関連科目	保育の心理学，子どもの健康と安全
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

授業コード	C21040	科目分類	B49 両-2 （Ｊ）
科目名称	子どもの健康と安全	単位数	1.00 単位
担当教員	猪熊 弘子	授業区分	演習
研究室	16-303	オフィスアワー	前期 木曜日 10:30～12:00 金曜日 10:30～12:00 後期 木曜日 10:30～14:30
授業のテーマ・内容	保育所・幼稚園・認定こども園における子どもの健康及び安全の確保は、子どもの生命の保持と健やかな生活の基本であり、一人一人の子どもが健康に安全に過ごせる環境作りや衛生管理並びに安全管理が求められている。 本授業では、保健的な観点をふまえた保育環境及び子どもの健康管理・安全管理について学ぶ。園で子どもの体調不良やさまざまなケガや事故が発生した場合でも、保育者として適切な保健的対応、応急手当・救急処置が実践できるよう、基礎的な知識や技術について習得する。 また、障害を持つ子どもと家族への関わり方、児童虐待への対応、災害の影響から子どもを守ることなど、園ですごす子どもたちの「安全」について、幅広く考えていく。		
到達目標	本授業の到達目標は以下の 5 点である。 1 保育環境における衛生管理・安全管理の方法を、具体的に理解する。 2 子どもの健康状態を把握する方法を体得し、体調不良等の症状に応じた適切な保健的対応ができる。 3 感染症予防を理解し、感染症対策について具体的な対応ができる。 4 保育における事故防止と事故発生時の対応を学び、応急処置・緊急時の救急処置ができる。 5 児童虐待への対応や災害への影響から子どもを守る方法など、幅広く「安全」について考える視点を持つ。		
授業開始前学習	乳幼児の間に流行している疾病（感染症含む）、予防接種の方法や時期などについて、書物や新聞などで情報を得ておく。 自分の「母子手帳」の内容を確認し、自分が子どもの頃にかかった病気や接種したワクチンについて知っておく。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：子どもの健康と安全：子どもを取り巻く環境と安全（テキスト P.2-8）
予習：子どもの成長と健康について考えるために、自分が子どもの頃にかかった病気などを思い出しておく。
復習：子どもにとって健康と安全がいかに大切なのか、学んだことをノートにまとめる。
2
授業：子どもの健康と発達①：形態的発達・運動機能の発達（テキスト P.9-20）
予習：自分の母子手帳を見直し、出生時の身長・体重を調べておく。
復習：自己学習(P.11，P.14，P.20）に取り組む。
3
授業：子どもの健康と発達②：精神機能・生理的機能の発達・発育評価（テキスト P.21-42）
予習：自分の母子手帳を見直し、赤ちゃんの頃の身長・体重の変化を調べておく。
復習：「追視」「喃語」「二語文」など授業中に習った専門用語をノートにまとめ、自己学習（P23，P.31，P.42）に取り組む。
4
授業：子どもの健康と子育てに必要な養護・しつけ① （テキスト P.44-56）
予習：自分が子どもの頃に家庭で教わった生活習慣（食事・睡眠・入浴等）について思い出しておく。
復習：自己学習（P.46，P.55）に取り組む。
5
授業：子どもの健康と子育てに必要な養護・しつけ②：日常に必要な養護 （テキスト P.57-78）
予習：子どもの１日の生活の流れについて、年齢別に考えてみる。（０歳・１～２歳・３～５歳）
復習：自己学習（p.77-78）に取り組む。
6
授業：子どもの事故とその予防①（テキスト P.80-98）
予習：子どもに多い事故にはどのようなものがあるか、園での子どもの様子を想像して考えておく。
復習：自己学習（P.97-98）に取り組む。
7
授業：子どもの事故とその予防②：事故やケガの予防（テキスト P.99-104）
予習：子どもの毎日の生活の中で、事故が多い場面について考えておく。
復習：「くう・ねる・みずあそび・おさんぽ」について、どのように事故を防げば良いかノートにまとめておく。
8
授業：子どもに多い病状・病気とその対処および予防①（テキスト P.106-122）
予習：子どもたちの間に流行しやすい感染症について調べておく。
復習：子どもに多い感染症の種類と消毒の方法についてノートにまとめておく。自己学習（P.122）に取り組む。
9
授業：子どもに多い病状・病気とその対処および予防②（テキスト P.123-137）
予習：自分の母子手帳を見て，子どもの頃に接種したワクチンについて確認しておく。
復習：予防接種の種類と接種時期、間隔についてノートにまとめておく。自己学習（P.137）に取り組む。

10
授業：子どもに多い病状・病気とその対処および予防③（テキスト P.138-158）
予習：テキスト P.138-158 を読み、アレルギーや慢性疾患について調べておく。
復習：自己学習（P.157-158）に取り組む。
11
授業：障害を持つ子どもと家族への関わり方（テキスト P.160-186）
予習：「障害」と言われるものにはどのような症状があるのか調べておく。
復習：自己学習（P.162，P.169-170，P.179，P.186）に取り組む。
12
授業：児童虐待：その予防と対処（テキスト P.188-194）
予習：新聞やテレビ、ネットニュース等で「児童虐待」について報じられているものを調べておく。
復習：児童虐待への対処についてノートにまとめ、自己学習(P.190，P.194）に取り組む。
13
授業：災害の影響から子どもをできるだけ守る（テキスト P.196-202）
予習：近年の大災害と子どもの様子について報じたニュース等を探しておく。
復習：災害に遭った保育者の話から自分が思ったことや考えたことをノートにまとめておく。
14
授業：地域との連携・協働（テキスト P.204-211）
予習：テキスト P.204-211 を読み、自分の住む地域でどのような連携・協働があるかホームページなどで調べておく。
復習：保健活動計画についてノートにまとめる
15
授業：まとめ：子どもの健康と安全について保育者に必要なこと
予習：これまでの授業で習った子どもの健康と安全についてのノートや資料を見直しておく。
復習：子どもの健康と安全について保育者に必要なことについてレポートにまとめる。

テキスト・教材	大西文子（編集）『子どもの健康と安全』（改訂第２版）中山書房
参考書	厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成 23 年 3 月、厚生労働省）、「保育所における感染症対策ガイドライン」（2018 年改訂版）、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（平成 28 年 3 月、内閣府・文部科学省・厚生労働省）等

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	△
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	△
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	○
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○

課題とフィードバック	テーマごとにリアクションペーパーを課す。グループ討議・ワークの振り返りをまとめる
評価の基準と方法	リアクションペーパー等、授業後の課題提出（70%）、レポート（30%）
関連科目	保育内容「健康」
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	ジャーナリストとして子どもの健康と安全、事故予防等に取り組んできた経験のほか、幼稚園・保育所で副園長として勤務した経験がある。
実務経験を活かした教育内容	ジャーナリストとして子どもの健康と安全、事故予防等に取り組んできた経験のほか、幼稚園・保育所で副園長として勤務した経験をふまえ、さまざまな報道資料、雑誌資料、自らが監修した DVD や紙芝居等を使って授業を行う。

授業コード	C27400	科目分類	B49 保-1
科目名称	子どもの食と栄養Ⅰ	単位数	1.00 単位
担当教員	宮寺　里香	授業区分	演習
研究室	–	オフィスアワー	–
授業のテーマ・内容	小児期の食生活は生涯にわたる健康な生活を送るための基本となる。また、この時期の栄養は子どもの健やかな心身の発達に欠かすことのできないものである。そのため保育者自身もその重要性を十分に理解する必要がある。 本講座では正しい栄養の知識と乳幼児期の哺乳と摂食機能の発達、またその発達に応じた食事の摂取方法をその特徴及び問題点を含めて学ぶ。		
到達目標	1 子どもの『食べる力』の基礎について理解し適用することができる 2 小児期の栄養と食生活は生涯にわたる健康な生活の基礎であることを理解することができる 3 望ましい食生活や食文化を伝えることができる		
授業開始前学習	「子どもの保健」の領域から子どもの成長・発育の過程を確認する。 「食物」と「栄養」に関係のある書物や記事など見つけて目を通し、子どもの食生活について考える。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：授業説明、導入プリント
予習：食物と栄養に関係のある書物や記事を１つ取り上げ、ノートにまとめる
復習：配布プリントを見直し、分からない箇所に印をつけておく
2
授業：離乳期の食生活と栄養①
　離乳の定義と必要性
　食べる機能の発達（咀嚼、嚥下）
　離乳の開始
予習：テキスト P.89-91 を読み、疑問点をまとめる
復習：配布プリントを見直し、分からない箇所に印をつけておく
3
授業：離乳期の食生活と栄養②
　5～6 ヵ月、7～8 か月、9～11 か月
予習：テキスト P.92-97 を読み、疑問点をまとめる
復習：配布プリントに 5～6 ヵ月頃、7～8 か月頃、9～11 か月頃の食生活と栄養についてまとめる
　「こどもの日」とその行事食について調べる（課題）
4
授業：「こどもの日の行事食」についてグループディスカッション
　離乳期の食生活と栄養③
　12～18 か月、離乳の完了、離乳食作りと与え方、ベビーフード
予習：テキスト P.98-103 を読み、疑問点をまとめる
復習：配布プリントに 12～18 か月頃の食生活と栄養、離乳の完了、離乳食の実際についてまとめる
5
授業　：幼児期の食生活（前期、後期）
予習　：テキスト P.110-111、P.116-118 を読み、疑問点をまとめる
復習　：配布プリントに幼児期の食生活の特徴についてまとめる
6
授業：幼児期の食事上の問題
予習：テキスト P.112-115 を読み、疑問点をまとめる
復習：配布プリントに幼児期の食事上の問題についてまとめ対応策を考える
7
授業：保育所給食
予習：テキスト P.123-125、P.129 を読み、疑問点をまとめる
復習：配布プリントに保育所給食の意義と留意点についてまとめる
8
授業：特別な配慮を要する子どもの食事と栄養
　アレルギーへの対応
予習：テキスト P.172-186 を読み、疑問点をまとめる
復習：配布プリントにアレルギーについてまとめる
9
授業：幼稚園での食にまつわる出来事について情報交換
予習：実習中の出来事について振り返る
復習：情報交換した内容をまとめる

10
授業：乳児期の食生活と栄養
　食べる機能（哺乳）
　乳汁期の栄養
　母乳栄養①　母乳分泌の仕組み
予習：テキスト P.36-37 を読み、疑問点をまとめる
復習：配布プリントに乳児の哺乳反射、母乳分泌の仕組みについてまとめる
11
授業：乳児期の食生活と栄養
　乳汁期の栄養
　母乳栄養②　母乳の成分、母乳の利点と問題点
予習：テキスト P.71-81 を読み、疑問点をまとめる
復習：配布プリントに母乳の成分の特徴、利点と問題点についてまとめる
12
授業：乳児期の食生活と栄養
　乳汁期の栄養
　人工栄養
予習：テキスト P.82-86 を読み、疑問点をまとめる
復習：配布プリントに粉ミルクの成分、種類、液体ミルクについてまとめる
13
授業：乳児期の食生活と栄養
　乳汁期の栄養
　混合栄養、調乳
予習：テキスト P.87-89 を読み、疑問点をまとめる
復習：配布プリントに混合栄養の方法、調乳についてまとめる
14
授業：消化と吸収
予習：テキスト P.45 を読み、疑問点をまとめる
復習：消化と吸収について、子どもに伝える分かりやすい方法を考え、リアクションペーパーにまとめる
15
授業：乳児期、幼児期の食生活と栄養についての確認
予習：課題プリントを解く
復習：課題プリント、これまでの教科書を見直し、分からない箇所は調べる

テキスト・教材	岩田章子・寺嶋昌代編『新・子どもの食と栄養』　（みらい） この他、授業内にてプリントを配布する
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） その他、授業の中で紹介する

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	△
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	△
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○

課題とフィードバック	「こどもの日」とその行事食について課題を課す。授業内にて、講評する。
評価の基準と方法	試験（70%）　課題・リアクションペーパー（30%）
関連科目	子どもの食と栄養Ⅱ，子どものからだと保健，乳児保育Ⅰ
その他	毎回配布の記入プリントは整理していつでも提出できるようにしておく 課題は提出期限を守ること
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした 教育内容	

授業コード	C27500	科目分類	B49 保-2
科目名称	子どもの食と栄養Ⅱ	単位数	1.00 単位
担当教員	宮寺　里香	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	小児期の食生活は生涯にわたる健康な生活を送るための基本となる。また、この時期の栄養は子どもの健やかな心身の発達に欠かすことのできないものである。そのため保育者自身もその重要性を十分に理解する必要がある。 本講座では「子どもの食と栄養Ⅰ」で学んだ乳児期・離乳期・幼児期の食生活と食育の実践について学修する。また、栄養と食品に関する基礎的知識について学び、望ましい食生活とはどうあるべきか考察する。		
到達目標	1　「子どもの食と栄養Ⅰ」で学んだ内容を使い食育を行う実践力を身につける 2　授乳期・離乳期、幼児期の食生活を理解し保護者の支援ができるようになる 3　特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解し適用することができる 4　栄養、食品に関する基礎知識を身につけ、健全な食生活とはどうあるべきか述べることができる		
授業開始前学習	「食物」と「栄養」に関係のある書物や記事を見つけて目を通し、好ましい食生活について考える。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：朝食
予習：テキスト P.19-21 を読み、疑問点をまとめる
復習：普段の朝食を振り返り、好ましい朝食メニューを考えてみる
課題：1 週間の食事記録をつける
2
授業：乳汁栄養（母乳、ミルク）の成分
予習：テキスト P.77-81、P.86-88 を読み、疑問点をまとめる
復習：調乳実習に備えて手順などを整理する
3
授業：調乳（調理実習・グループワーク）
予習：テキスト P.90 を読み、イメージトレーニングしておく
復習：ミルクの違い、気付いたこと等レポートにまとめる
4
授業：離乳食のすすめ方　離乳期の DVD を鑑賞し離乳食について理解を深める
予習：「子どもの食と栄養Ⅰ」離乳期の食事のプリントを見直し、発達の流れを整理しておく
復習：離乳食実習に備えて手順などを整理する
5
授業：離乳食　米粥（調理実習・グループワーク）
予習：テキスト P.104-105 を読む
復習：咀嚼発達による離乳食の変化についてレポートにまとめる
6
授業：取り分け離乳食（調理実習・グループワーク）
予習：テキスト P.104-105 を読む
復習：大人の食事からつくる離乳食についてレポートにまとめる
7
授業：望ましい食事
予習：テキスト P.209-216 を読み、疑問点をまとめる
復習：以前行った 1 週間食事記録にて食生活を見直す
8
授業：食品添加物、輸入食品
予習：テキスト P.23-25 を読み、疑問点をまとめる
復習：身近な食品の添加物について調べる
9
授業：幼児期の食事（調理実習・グループワーク）
予習：テキスト P.119-121 を読み、疑問点をまとめる
復習：間食についてレポートにまとめる
10
授業：行事食、食材の旬
予習：テキスト P.130 を読み、疑問点をまとめる
復習：年間の行事食を調べる
11
授業：伝統食　雑煮（調理実習・グループワーク）
予習：日本各地の雑煮について調べる
復習：雑煮実習レポートについてまとめる

12 授業：行事食　クリスマスケーキ（調理実習・グループワーク） 予習：子どもと一緒に楽しめる行事食について調べる 復習：調理実習レポートにまとめる 13 授業：食育①食育の基本 予習：テキスト P.216-230 を読み、疑問点をまとめる 復習：配布したプリントに食育についてまとめる 14 授業：食育②食育の実践（グループディスカッション） 予習：校外実習で体験した給食や食育活動についてまとめる 復習：他学生の体験談を聞いて、食育の実際についてまとめる 15 授業：障がいを持った子どもの食生活 予習：テキスト P.170-177 を読み、疑問点をまとめる 復習：障害を持った子どもの食生活の特徴をまとめる	
テキスト・教材	岩田章子・寺嶋昌代編『新版子どもの食と栄養』（みらい）
参考書	小川雄二『保育園・幼稚園ですすめる食育の理論と実践』（芽ばえ社） 文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） その他、授業の中で紹介

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	△
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○

課題とフィードバック	「1 週間食事記録」、実習（調乳、離乳食、間食、行事食、伝統食）後レポート、「食品添加物」、「雑煮とおせち」について課題を課す（次授業内にて講評する）。
評価の基準と方法	課題レポート（60%）、調理実習への取り組み姿勢（40%）
関連科目	子どもの食と栄養Ⅰ，子どものからだと保健，乳児保育Ⅱ
その他	課題は提出期限を守る事。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

授業コード	C21050	科目分類	B36 保-2　（Ｊ）
科目名称	子ども家庭支援論	単位数	2.00 単位
担当教員	上出　香波	授業区分	講義
研究室	16-311	オフィスアワー	前期　木曜日 10:00～13:00 後期　木曜日 11:30～14:30
授業のテーマ・内容	少子高齢化や核家族化が進み、地域社会とのつながりが希薄になるなど、社会の変化ともに家庭のあり方も変化している。その中で子育て家庭も多様化していることにより、子どもとその保護者は様々な問題も抱えている。現代社会における子育て家庭の現状と課題を把握し、家庭支援の必要性や目的、支援のあり方について、事例検討等も含めた学びから理解を目指す。また，保育者としての具体的な支援方法等についても学び、実践力を養う。		
到達目標	1 子ども家庭支援の意義と役割とともに保育士として専門性に基づく支援の意義と基本について理解できるようになる 2 子育て家庭を取り巻く社会状況や支援体制について説明することができるようになる 3 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と現状における課題について理解できるようになる		
授業開始前学習	子育て支援施策、子どもと家族、家庭の問題、地域の取り組みに関連する新聞記事やニュース情報に日頃より関心を持ち、トピックス等について自ら調べ内容を確認しておくこと		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：ガイダンス 「家庭」とは
予習：テキスト（第 1 章 P.12-13）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、子どもの育ちと家庭について整理し、ノートにまとめる
2
授業：子ども家庭支援の意義と必要性
予習：テキスト（第 1 章 P.13-23）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、家庭の子育ての状況について整理し、ノートにまとめる
3
授業：子ども家庭支援の目的と機能
予習：テキスト（第 2 章 P.24-36）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、保育所保育指針にみる子ども家庭について整理し、ノートにまとめる
4
授業：保育士による子ども家庭支援①　ー保育の専門性と子ども家庭支援ー（グループワーク）
予習：テキスト（第 3 章 P.38-49）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、子ども家庭支援における保育士の役割について整理し、ノートにまとめる
5
授業：保育士による子ども家庭支援②　ー保護者と子どもの育ちの共有と相互理解ー
予習：テキスト（第 4 章 P.50-61）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、保護者と子どもの育ちを共有する意義について整理し、ノートにまとめる
6
授業：子育て家庭に対する支援体制①　ーフォーマル・インフォーマルな社会資源ー
予習：テキスト（第 9 章 P.104-113）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、社会資源について整理し、ノートにまとめる
7
授業：子育て家庭に対する支援体制②　ー子育て支援施策の現状と推進ー(グループワーク)
予習：テキスト（第 10 章 P.114-124）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、子ども・子育て支援制度と支援事業について整理し、ノートにまとめる
8
授業：特別な配慮が必要な子どもと家族への対応①障がいを有する子ども(グループワーク)
予習：テキスト（第 14 章 P.166-167）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、障がいを有する子どもを養育する家庭と保育士の支援にについて整理し、ノートにまとめる
9
授業：特別な配慮が必要な子どもと家族への対応②医療的ケア児
予習：医療的ケア児について、文献やインターネットで調べ、確認しておく
復習：授業内容を振り返り、医療的ケア児を養育する家庭と保育士の支援について整理し、ノートにまとめる
10
授業：多様な支援の展開①　ー保育所等を利用する子育て家庭の支援ー（グループワーク）
予習：テキスト（第 12 章 P.136-145）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、保育所等における家庭支援について整理し、ノートにまとめる

11
授業：多様な支援の展開②　－地域の子育て家庭に対する支援－(グループワーク)
予習：テキスト（第 13 章 P.146-155）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、地域の子育て支援事業について整理し、ノートにまとめる
12
授業：多様な支援の展開③　－子ども虐待への予防と支援・要保護児童等の家庭に対する支援－(グループワーク)
予習：テキスト（P.156-165）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、子どもの虐待、要保護児童等の必要な家庭への支援について整理し、ノートにまとめる
13
授業：保育士による子ども家庭支援③　－支援に求められる基本的態度－
予習：テキスト（第 5 章 P.72-81）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、保育士と保護者の信頼関係構築について整理し、ノートにまとめる
14
授業：保育士による子ども家庭支援④　－子ども発達、家庭の状況に応じた支援－
予習：テキスト（第 7 章 P.82-91）を読み、内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返り、子どもの発達段階別家庭の状況について整理し、ノートにまとめる
15
授業：まとめ（子ども家庭支援における現状と課題）
予習：テキスト（第 15 章 P.168-179）や配布資料、記入したノートの内容を確認して疑問点をノートにまとめておく
復習：授業内容を振り返りについて整理し、ノートにまとめる

テキスト・教材	守巧　編著『子ども家庭支援論　保育の専門性を子育て家庭の支援に生かす』萌文書林
参考書	厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 内閣府・厚生労働省・文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 その他、必要に応じて授業内において適時提示する

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	◎
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	△
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	△
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	△
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	◎

課題とフィードバック	提示した課題ワークやグループ発表等については、授業内で適時講評をおこなう
評価の基準と方法	課題レポート（40%）、授業への取り組み〔課題ワーク提出、小テスト，グループワークなどにおける参加度〕（60%）
関連科目	子ども家庭福祉，子育て支援，子ども家庭支援の心理学，教育相談
その他	グループディスカッションや発表を多くおこなう授業である。各学生が積極的に意見を述べ、授業の内容を発展させていくことを望む
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	保育士、臨床発達心理士
実務経験を活かした教育内容	小児医療や児童発達支援の臨床現場における保育・心理の経験を活かし、実際の子どもの保育および家族の相談支援における実践事例の内容も含め、子ども家庭支援の理解および実践力に繋がる授業をおこなう

授業コード	C21208			科目分類	B14 両-2 （Ｊ）
科目名称	教育相談/臨床心理学			単位数	2.00 単位
担当教員	酒井　博美			授業区分	講義
研究室	16-308	オフィスアワー	前期　火曜日 13:00～14:30　月曜日 14:40～16:10 後期　月曜日 12:30～14:30　火曜日 12:30～14:30		
授業のテーマ・内容	昨今、子どもや子どもを取り巻く環境が多様化する中で、教育現場における教育相談（カウンセリング）の重要性が高まり、教諭がその知識と技法を身につけ教育活動に生かすことが求められている。 本授業では、カウンセリング理論の基礎知識や実践の技法、子どもや保護者の心理的諸問題について、子どもの発達特性に則しながら必要な教育相談を提供できるよう、実践的に学ぶ。 必要に応じて、ロールプレイ、ディスカッション、グループワーク等を行い、内容の理解を深める。				
到達目標	1 子どもを援助する方法としての教育相談の概要、目的、技法について理解する 2 代表的なカウンセリングの理論と技法が説明できる 3 教育場面で生じる諸問題と対処が説明できる				
授業開始前学習	教育現場における興味や関心事を整理し、授業を通じて何を学びたいのか明らかにしておく。				

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：授業ガイダンス、教育相談の概要
予習：シラバスおよび教科書「第１章学校教育における教育相談」を熟読しておく
復習：教育現場での教育相談の位置づけについてまとめる
2
授業：教育相談の理論
予習：発達理論、カウンセリング理論の概要を調べておく
復習：各理論の教育相談への応用についてまとめる
3
授業：カウンセリングの基礎知識とカウンセリングスキル（グループワーク）
予習：カウンセリングスキルにはどのようなものがあるか調べておく
復習：カウンセリングの効果についてまとめる
4
授業：カウンセリングの演習（1）傾聴の技法（ロールプレイ）
予習：「傾聴」とは何かを調べておく
復習：教育相談における傾聴の重要性についてまとめる
5
授業：カウンセリングの演習（2）ロールプレイ（ロールプレイ）
予習：これまでに学んだカウンセリングスキルを振り返っておく
復習：ロールプレイのフィードバックをもとに自分の相談技法を振り返りまとめる
6
授業：カウンセリングの演習（3）芸術などを用いた応用（グループワーク）
予習：音楽を用いた心のケアについて調べておく
復習：教育現場における感情表現の重要性についてまとめる
7
授業：発達障害および特別支援教育の基礎
予習：発達障害の概要と主な障害について調べておく
復習：発達障害のある子どもたちへの対応についてまとめる
8
授業：子どもの心理的問題（1）幼児期（グループワーク）
予習：幼児期の心理特性について自身の経験も含めて考えておく
復習：幼児期の心理的問題およびそれらへの対応についてまとめる
9
授業：子どもの心理的問題（2）児童期、思春期（グループワーク）
予習：児童期および思春期の心理特性について自身の経験も含めて考えておく
復習：児童期および思春期の心理的問題およびそれらへの対応についてまとめる
10
授業：不登校の理解とその対応
予習：不登校の現状について文部科学省のサイト等を用いて調べておく
復習：ケーススタディから得られた支援方法についてまとめる

11
授業：いじめの理解とその対応
予習：いじめの現状について文部科学省のサイト等を用いて調べておく
復習：子どもたちの日常生活を把握するための工夫についてまとめる
12
授業：保護者への対応（ロールプレイ）
予習：保護者との信頼関係の構築の仕方について想像し考えておく
復習：保護者との連携を強化する具体的な方法についてまとめる
13
授業：他職種・機関との連携と支援のあり方
予習：教育相談にかかわる職種および機関について調べておく
復習：多職種・機関との連携を強化するための具体的な方法についてまとめる
14
授業：教諭のメンタルヘルス
予習：自身の目指す教諭像を具体的に考えておく
復習：教諭が抱えやすい心理的問題とそれらへの対処についてまとめる
15
授業：まとめ：教育相談の重要性と今後の展望
予習：これまでに授業で扱った内容について総復習をし、疑問点を挙げておく
復習：提示する課題に応じてレポートを作成する

テキスト・教材	大前玲子編著『体験型ワークで学ぶ教育相談』（大阪大学出版会）
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）　等

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	◎
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	△
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	△
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	◎

課題とフィードバック	提示した課題（発表も含む）は授業内にて講評し、レポート課題は個別にフィードバックする。
評価の基準と方法	レポート課題（50%）、授業への取り組み姿勢（グループワークへの参加度、意見の発言等）（50%）
関連科目	特別支援教育、保育の心理学、子ども家庭支援の心理学
その他	授業内容の理解促進のために、各回の授業に真剣かつ積極的に取り組むことを望む。 また、提出物の期限は必ず守ること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	公認心理師
実務経験を活かした教育内容	主に発達障害児・者に対する心理学的支援の経験から、子どもや保護者の心理面の理解や相談による支援について、事例を示しながら授業を展開する。

授業コード	C25908	科目分類	B37 両-2
科目名称	保育・教育課程論/保育課程論	単位数	2.00 単位
担当教員	古屋　真	授業区分	講義
研究室	16-313	オフィスアワー	前期　金曜日 10:40～14:30 後期　金曜日 10:40～14:30
授業のテーマ・内容	乳幼児期の保育は、5 領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）や養護（生命の保持・情緒の安定）の観点から、子どもの姿に応じて総合的に展開しなければならない。特に、子どもの成長や発達を見通し、計画的に保育を展開することは、子どもの育ちを保障する上で重要である。 本授業では、保育実践の骨子となる保育・教育課程の意義や目的、これまでの変遷や編成の原理を学び、実際に、指導計画や保育・教育課程を作成する（グループワーク）。また、計画に基づく保育実践後の振り返りの重要性も踏まえ、保育記録（要録も含む）や評価の在り方についても学修する。		
到達目標	本授業の到達目標として、以下の 4 点を挙げる。 1 保育・教育課程の意義や目的を理解する 2 保育・教育課程の変遷や編成の原理を理解した上で、基礎的なカリキュラム編成ができる 3 子どもの姿に応じた指導計画（日案）を作成することができる 4 計画に基づく保育実践の重要性を理解し、保育の評価・改善を考えることができる		
授業開始前学習	幼稚園・保育所・認定こども園などにおける保育・教育課程や指導計画（年間計画、期の計画、月の計画、週の計画、日の計画）について調べる。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：保育・教育課程の意義と目的を学ぶ
予習：これまでの経験から、計画した場合としなかった場合の事例を挙げ、そのメリットとデメリットをノートに書き出す
復習：保育・教育課程の意義と目的をノートにまとめる
2
授業：保育・教育課程の変遷①日本におけるカリキュラムの変遷を学ぶ
予習：日本の教育・保育目標の変遷をまとめた配付資料を要約し、疑問点をノートに書き出す
復習：現在までの教育目標の変遷をノートにまとめる
3
授業：保育・教育課程の変遷②幼稚園・保育所・認定こども園の保育内容の変遷を学ぶ
予習：保育内容の変遷をまとめた配付プリントを要約し、疑問点をノートに書き出す
復習：幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の誕生と保育内容の変遷をノートにまとめる
4
授業：保育・教育課程の編成の原理①カリキュラムの種類と編成の基本要件を学ぶ
予習：カリキュラムの類型と基本要件をまとめた配付資料を要約し、疑問点をノートに書き出す
復習：カリキュラムの類型と基本要件（子どもの実態・家庭や地域の実情を踏まえた計画）をノートにまとめる
5
授業：保育・教育課程の編成の原理②カリキュラムの構成要素と編成手順を学ぶ
予習：『東京都就学前教育カリキュラム』を読み、その特徴をノートに書き出す
復習：カリキュラムの構成要素（スコープとシークエンスの意味）と編成手順をノートにまとめる
6
授業：カリキュラムの編成の実際①カリキュラムの柱となるスコープを考える（グループワーク）
予習：これまでの実習経験から、保育者の願い（育てたい子ども像）と子どもに必要な経験をノートに書き出す
復習：グループ活動で挙げられた保育者の願いの集合体（スコープ）を考え、カリキュラムプリントに書き出す
7
授業：カリキュラムの編成の実際②カリキュラムの順序を示すシークエンスを考える（グループワーク）
予習：グループ活動で共有した子どもに必要な経験を、経験するのに適切な年齢ごとに並べ替える
復習：編成されたカリキュラムを振り返る
8
授業：保育・教育課程（全体的な計画）と保育実践：長期と短期の計画の意味とその関連性を学ぶ
予習：教育実習（幼稚園）の実習園から週の計画プリントを入手する
復習：年間計画・期の計画・月の計画・週の計画・日の計画の意味と関連性をノートにまとめる
9
授業：指導計画の作成①指導計画の作成手順と留意事項（テキスト P.50-58）
予習：テキスト第 5 章と幼稚園教育要領第 3 章を要約し、疑問点をノートに書き出す
復習：指導計画の作成手順と「指導計画の作成に当たっての留意事項」をノートにまとめる
10
授業：指導計画の作成②保育の一日の流れを踏まえた大まかな計画を考える（テキスト P.9-23）
予習：テキスト第 1 章・第 2 章を要約し、疑問点をノートに書き出す

復習：幼稚園や保育園、認定こども園の一日の流れをパーツに分解し、主な活動のねらいと内容をノートにまとめる 11 授業：指導計画の作成③子どもの発達や今の姿に応じた具体的なねらいと内容を考える（テキスト P.38-49） 予習：テキスト第 4 章を要約し、疑問点をノートに書き出す 復習：事例に応じて考えたねらいと内容を見直す 12 授業：指導計画の作成④メインの活動の展開と環境構成を考える（テキスト P.59-72） 予習：テキスト第 6 章を要約し、疑問点をノートに書き出す 復習：必要な経験ができる活動の流れと環境の構成を見直す 13 授業：指導計画の作成⑤予想される子どもの姿と保育者の援助を考える（テキスト P.73-85） 予習：テキスト第 7 章を要約し、疑問点をノートに書き出す 復習：活動中の予想される子どもの姿と保育者の援助の連続性を見直す 14 授業：保育の省察と改善：保育記録から実践と計画を評価する方法（カリキュラム・マネジメント）を学ぶ 予習：実習時に作成した指導計画（案）を振り返り、実践課題をノートに書き出す 復習：作成した保育記録を用いて振り返った実践課題をノートに書き出す 15 授業：子どもの育ちの連続性：乳幼児期の保育・教育の先に続く保育・教育課程を考える 予習：幼稚園教育指導要録・保育所児童保育要録・幼保連携型認定こども園園児指導要録を読み、疑問点をノートに書き出す 復習：保幼小接続を見据えた保育・教育課程の在り方をノートにまとめる	
テキスト・教材	片山紀子編著，荒木美知子・西村美佳著『新版　保育実習・教育実習の設定保育』（朱鷺書房） この他、適宜、授業内にて資料を配付する
参考書	田中耕治編『よくわかる教育課程』（ミネルヴァ書房） 文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	◎
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	△
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	○
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	○
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	○
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	△

課題とフィードバック	授業毎に小レポートを実施する（授業内にて、適宜、講評する） 指導計画（日案）の作成を課す（授業内にて、適宜、講評する）
評価の基準と方法	授業毎の小レポート（40%），指導計画（案）（20%），定期試験（40%）
関連科目	教育方法，教育実習
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

授業コード	C22500	科目分類	B37 両-2 （Ｊ）
科目名称	○保育内容総論	単位数	1.00 単位
担当教員	綾野 鈴子	授業区分	演習
研究室	16-312	オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～14:30
授業のテーマ・内容	保育現場では 5 領域が相互に絡み合い、一人ひとりの発達や特性に応じた指導が行われ、遊びを通しての総合的な保育が展開されている。本講義では生活、遊び、環境を通して行われる保育実践の全体像を捉え、遊びを中心とした保育内容や総合的に指導する視点について理解を深め、子ども理解に基づいた保育計画が具体的にデザインできるよう学ぶ。		
到達目標	1 保育・幼児教育実践の基本となる理念や理論について理解する 2 保育・幼児教育における 5 領域の内容を理解した上で、それらの総合的な展開について説明することができる 3 子ども理解を深め、乳幼児の自発的な活動の基盤となる環境構成、教材準備、保育者の援助の基本を理解し、養護と教育が一体的に展開する保育を考えることができる		
授業開始前学習	履修済みの保育内容各論を復習する。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：保育の基本及び保育の全体構造
予習：「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」第 1 章総則を読んでおく
復習：授業内容を振り返り、ワークシートに取り組む
2
授業：子どもの主体性を尊重する保育（グループワーク）
予習：テキストの第 7 章 P.80-85 を読み、要点・疑問点をまとめる
復習：授業プリントを振り返り、内容を整理する
3
授業：保育内容の歴史的変遷とその社会的背景
予習：事前に配布したワークシートに取り組む
復習：授業プリント、テキストの第 4 章 P.38-43 を振り返り、流れを理解する
4
授業：子どもの発達や生活に即した保育内容 ①乳児・3 歳児未満の事例から
予習：「保育所保育指針」第 2 章を読んでおく
復習：授業プリントを整理し、ワークシートに取り組む
5
授業：子どもの発達や生活に即した保育内容 ②3 歳児・4 歳児・5 歳児の事例から
予習：「幼稚園教育要領」第 2 章を読んでおく
復習：授業プリントを整理し、ワークシートに取り組む
6
授業：養護と教育が一体的に展開される保育
予習：「保育所保育指針」第 1 章を再読する
復習：授業プリントを振り返り、内容を整理する
7
授業：環境を通して行う保育
予習：テキストの第 8 章 P.94-97 を読み、要点・疑問点をまとめる
復習：授業内容を振り返り、要点をまとめる
8
授業：生活や遊びによる総合的な保育 ①乳幼児の遊びの特徴（グループワーク）
予習：テキストの第 9 章 P.106-109 を読んでおく
復習：授業内容を振り返り、多様な保育の展開についてまとめる
9
授業：生活や遊びによる総合的な保育 ②遊びの中で経験する内容（グループワーク）
予習：テキストの第 9 章 P.110-111 を読んでおく
復習：授業内容を振り返り、多様な保育の展開についてまとめる
10
授業：個と集団の発達をふまえた保育
予習：テキストの第 10 章 P.118-121 を読み、要点・疑問点をまとめる
復習：授業プリントを整理し、ワークシートに取り組む
11
授業：保育における観察と記録
予習：事前に配布したプリントを読んでおく
復習：授業プリントを整理し、ワークシートに取り組む

12 授業：家庭や地域等との連携をふまえた保育・長時間の保育 予習：テキストの第 11 章 P.130-135 を読み、要点・疑問点をまとめる 復習：授業内容を振り返り、要点をまとめる 13 授業：小学校との連携・接続をふまえた保育 予習：「幼稚園教育要領」第 1 章を再読する 復習：授業内容を振り返り、要点をまとめる 14 授業：特別な配慮を要する子どもの保育 予習：テキストの第 14 章 P.168-173 を読み、要点・疑問点をまとめる 復習：授業内容を振り返り、ワークシートに取り組む 15 授業：多文化共生の保育 予習：テキストの第 15 章 P.180-183 を読み、要点・疑問点をまとめる 復習：全体の授業の振り返りと自身の課題を整理する	
テキスト・教材	石川昭義編 『新保育基本シリーズ 14　保育内容総論』（中央法規） 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル）
参考書	内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） その他、授業内で適宜紹介する
卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	◎
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	◎
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	◎
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	○
b3．子どものびのびと表現できるよう援助することができる	○
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	◎
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	◎
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	◎
課題とフィードバック	授業で取り組む課題は次の授業冒頭でフィードバックし、提出物は教員が添削し、適宜講評する
評価の基準と方法	課題・レポート（40%）、授業への取り組み＜ワーク課題提出、小テスト、グループワークなどにおける参加度＞（60%）
関連科目	子どもと○○，保育内容「○○」
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	幼稚園教諭・保育士
実務経験を活かした教育内容	幼稚園教諭として年少・年中・年長を保育してきた経験から、子ども理解に基づく総合的な保育展開について事例を示し、保育の現場が具体的にイメージできるような授業を行う

授業コード	C29310	科目分類	B49 両-2 （Ｊ）
科目名称	子どもと健康	単位数	1.00 単位
担当教員	木下･佐藤／木下　茂昭／佐藤　晶子	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ･内容	乳幼児期の子どもにとって、遊びや運動は身体的･精神的発達のためには欠かすことのできないものである。また、子どもは遊びを通して、創意工夫･試行錯誤･危機回避などについて学び、意欲的に体を動かし遊ぶ過程の中で満足感や達成感を得る。このように、子どもにとっての遊びや運動は、発育･発達と密接に関係しており、非常に価値のあるものである。 そこで、本授業では、子どもの遊びや運動を実践すると共に、安全な遊び方や運動の仕方、環境設定などについて学修し、保育者として実践できるようになることを目的とする。		
到達目標	1 幼児期の子ども達にとって、遊びや運動は身体的･精神的発達などのためには欠かすことのできないものであることを理解する 2 遊びを通して、創意工夫･試行･危険回避、成功することによって満足感･達成感を得られることを理解する 3 子ども達の遊びや運動を実践すると共に、安全な遊び方や運動の仕方、補助の仕方などについて学習し、実践できる		
授業開始前学習			

各回の授業内容と課題学習(予習･復習)

1
授業：乳幼児の健康に関する現代的課題と幼児期運動指針について
予習：健康とは何か語句の意味を調べ、自身の健康の課題について考える
復習：授業プリントを整理し、本授業の流れと目的を明確にしておく
2
授業：子どもの心身の発達と健康
予習：前回の授業プリントの要点と疑問点をまとめる
復習：授業プリントを整理し、領域「健康」のねらいと内容を理解する
3
授業：子どもの運動遊びの意義
予習：前回の授業プリントの要点と疑問点をまとめる
復習：授業プリントを整理する
4
授業：運動遊びにおける保育者の関わり･遊び環境と運動遊びの指導（体験学習）
予習：前回の授業プリントの要点と疑問点をまとめる
復習：授業プリントを整理する
5
授業：運動遊びの指導計画ー立案①子どもの実態とねらいー（グループワーク）
予習：前回の授業プリントの要点と疑問点をまとめる
復習：課題(運動遊びのリスト作成等)に取り組む
6
授業：運動遊びの指導計画ー立案②保育者の援助･環境設定ー（グループワーク）
予習：課題(指導案の作成)に取り組む
復習：グループで実践発表の準備を進める
7
授業：運動遊びの指導計画ー実践ー（模擬保育発表会）
予習：作成した指導案に基づき、模擬保育の練習を行う
復習：模擬保育(指導案)の振り返りをする
8
授業：運動遊びの指導計画ー振り返りと評価ー（グループワーク）
予習：模擬保育(指導案)の反省点を書きだしておく
復習：他者視点の評価をふまえ、指導案の修正を行う
9
授業：日常生活における身体活動ー動きを引き出す環境の工夫ー
予習：幼稚園（教育実習）における子どもの健康への関わりを書き出しておく
復習：授業プリントを整理する
10
授業：小型遊具を用いた運動遊び①―ボール遊びー
予習：ボール遊びの特性について調べる
復習：ボールの投げ方、蹴り方、ボールを使う遊びの指導法についてまとめる

11
授業：小型遊具を用いた運動遊び②―器械体操・マット―
予習：保育現場で行われている器械体操について調べる
復習：器械体操（マット）の指導方法についてまとめる
12
授業：大型遊具を用いた運動遊び―器械体操・跳び箱―
予習：保育現場で行われている器械体操について調べる
復習：器械体操（跳び箱）の指導法についてまとめる
13
授業：固定遊具を用いた運動遊び①―鉄棒―
予習：保育現場の園庭の固定遊具の実態について調べる
復習：鉄棒の指導法についてまとめる
14
授業：固定遊具を用いた運動遊び②―水遊び―
予習：着衣泳、水難救助について調べる
復習：着衣泳の指導法、水難救助についてまとめる
15
授業：遊びとしての運動指導の重要性・小学校への接続
予習：前回の授業プリントの要点と疑問点をまとめる
復習：授業プリントを整理する

テキスト・教材	授業内で適宜紹介する。
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） その他、授業内にて適宜紹介する

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	◎
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	△
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	○
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	○
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	○
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	○
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○

課題とフィードバック	授業内でワークシートを課す。添削した後、返却する。
評価の基準と方法	提出課題 70% 授業への参加度（グループワーク・模擬保育発表会）30%
関連科目	全科目（保育内容総論，子どもと○○，保育内容「○○」）
その他	子どもの健康に関する事に関心を持ち、新聞記事やニュース等から情報収集しておくこと。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	幼稚園教諭 小学校教諭
実務経験を活かした教育内容	幼稚園教諭・小学校教諭の経験を活かし、保育現場と小学校それぞれにおける子どもの「健康」への関わりをイメージできるようにし、幼小接続についての理解の深まりを目指した授業を展開する。

授業コード	C29320			科目分類	B37 両-2 （Ｊ）
科目名称	子どもと人間関係			単位数	1.00 単位
担当教員	綾野 鈴子			授業区分	演習
研究室	16-312	オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～14:30		
授業のテーマ・内容	本授業では、乳幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的背景を理解し、保育・幼児教育で保障すべき子どもの育ちや経験を理解する。 乳幼児期の人間関係は、他者との関係や遊び・生活等を通して育つことを具体的な子どもの姿と合わせて学ぶ。また、様々な人との関わりが乳幼児の人と関わる力の獲得を促すことや「自立心」、「協同性」、「道徳性・規範意識」などの発達過程を学び、保育者の役割や援助に関する知識や技術を自分なりに考え身につけていく。				
到達目標	1 乳幼児を取り巻く環境の現状を踏まえ、発達の過程において人と関わる力の育ちの重要性を理解する 2 遊びや生活の中で育つ人と関わる力について、保育者、友達との関係性を踏まえて説明できる 3 一人ひとりの子どもの育ちを支える保育者の援助のあり方について考えることができる				
授業開始前学習	実習等で乳幼児との関りにおいて印象に残った場面について振り返る。 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説の領域「人間関係」に目を通す。				

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：保育内容の基本的構造と領域「人間関係」のねらいと内容及び現代的課題
予習：幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説の領域「人間関係」に目を通す。
　教科書の第 1 章、第 2 章を読む。
復習：授業内容を振り返り、領域「人間関係」のねらいと内容を整理する。
2
授業：3 歳未満児における人間関係の発達
予習：3 歳未満児の発達段階をまとめる。第 2 章を読む。
復習：授業プリントを振り返り、内容を整理する。
3
授業：3 歳以上児における人間関係の発達①（グループワーク）
　・事例をもとに他者と意見を交換する。
予習：3 歳以上児の発達段階をまとめる。 第 2 章を読む。
復習：授業内容を振り返り、流れを整理する。
4
授業：3 歳以上児における人間関係の発達②
予習：教科書の第 4 章を読む。
復習：授業内容を振り返り、ワークシートを整理する。
5
授業：3 歳以上児における人間関係の発達③（グループワーク）
　・事例をもとに他者と意見を交換する。
予習：教科書の第 5 章、第 9 章を読む。
復習：授業内容を振り返り、ワークシートに取り組む。
6
授業：人との関係を育むための保育者の援助①
予習：教科書第 3 章を読む。
復習：授業内容を振り返り、ワークシートを整理する。
7
授業：人との関係を育むための保育者の援助② （グループワーク）
　・人との関係を育むための保育者の援助についてグループで話し合い、発表する。
予習：これまでの実習を振り返り、保育者が子どもたちの人とのかかわりが豊かになるよう、どのように環境を整え活動し関わっていたか振り返る。
復習：授業内容を振り返り、ワークシートを整理する。
8
授業：授業のまとめ
予習：授業全体を振り返り、ポイントをまとめる。
復習：乳幼児期に必要とされる人との関わりについてまとめる。

テキスト・教材	無藤隆・岩立京子編『事例で学ぶ保育内容　領域　人間関係』（萌文書林）＊後期の『保育内容「人間関係」』でも使用する 適宜、授業内にてプリントを配付する
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	◎
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	△
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	○
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	○
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	○
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○

課題とフィードバック	提示した課題ワークやグループ発表等については、授業内で適時講評をおこなう
評価の基準と方法	課題・レポート（30%）、授業への取り組み＜ワーク課題提出、小テスト、グループワークなどにおける参加度＞（70%）
関連科目	全科目（保育内容総論，子どもと○○，保育内容「○○」，保育内容「人間関係」）
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間（2 時間×7.5 週）＋予習・復習時間 7.5 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	幼稚園教諭・保育士
実務経験を活かした教育内容	幼稚園教諭としての経験から、保育の具体的な実践や事例を取りいれ、遊びを展開するために必要な援助について考える授業を展開していく

授業コード	C29330			科目分類	B37 両-2 （Ｊ）
科目名称	子どもと環境			単位数	1.00 単位
担当教員	綾野 鈴子			授業区分	演習
研究室	16-312	オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 火曜日 13:00～14:30 後期 木曜日 10:40～14:30		
授業のテーマ・内容	本授業は領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、保育・教育内容に関する知識・技能を身に付ける。特に領域「環境」の基盤となる、現代の子どもを取り巻く環境とその現代的課題、子どもと身近な環境との関わりの発達等について学ぶ。また、子どもが周囲の環境に関り、遊びを展開するために必要な援助について考える。				
到達目標	1 子どもを取り巻く環境と、子どもの発達における環境の重要性や意義を理解する 2 子どもの生物や自然との関わり、数量、図形との関わりの実際を知り、子どもの興味・関心、理解の発達を説明できる 3 保育者として、子どもが周囲の環境との関りを深められるよう、具体的な援助について理解する				
授業開始前学習	自分の周囲にある環境について考える。幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説の領域「環境」に目を通す。				

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：保育内容の基本的構造と領域「環境」のねらい、内容について
予習：幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説の領域「環境」に目を通す
復習：授業内容を振り返り、ワークシートに取り組む
2
授業：乳幼児期の発達における環境との関わり
　・乳幼児期にふさわしい環境構成の実際について
予習：幼少期に通っていた幼稚園や保育所の保育室や園庭の環境について思い起こし、ワークシートに取り組む
復習：乳幼児期にふさわしい環境構成についてまとめる
3
授業：自然環境と関わる保育の実際とその展開　1（グループワーク）
　・学内の自然環境を利用し、体験的に学ぶ
予習：事前に配布したワークシートに取り組む
復習：活動を振り返り、体験したことや感じたことをまとめる
4
授業：自然環境と関わる保育の実際とその展開　2
　・自然物を使った遊び
予習：自然物を使った遊びについて調べる
復習：これまでの授業を振り返り、興味を持った内容について発表できるように準備する
5
授業：自然環境と関わる保育の実際とその展開　3（グループワーク）
　・自分の興味のある内容を紹介カードにまとめ発表する
予習：紹介カードの作成と発表準備
復習：他者の発表を聞いた感想をまとめる
6
授業：身近な素材を用いた保育の実際
　・多様な素材について知る
予習：身近な物、廃材（牛乳パック、トイレットペーパーの芯等）を準備する
復習：身近な素材を用いたおもちゃのアイデアを考える
7
授業：文字・標識・数量・図形等に関わる保育の実際　（グループワーク）
　・子どもの身近にある数量・図形との関わり
予習：子どもの身近な環境の中にある数量に関するもの、図形を調べておく
復習：授業内容を振り返り、ワークシートに取り組む
8
授業：子どもをとりまく環境と課題
　・ＳＤＧ’ｓの目標から保育実践でできること
予習：ＳＤＧ’ｓの目標について調べておく
復習：授業全体を振り返り、ポイントをまとめる

テキスト・教材	授業内で適宜資料を配布する。
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館） 内閣府・文武科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	△
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	△
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	△
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	○
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	△
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	△
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	

課題とフィードバック	授業で取り組む課題は次の授業でフィードバックし、提出物は教員が添削し、適宜講評する。
評価の基準と方法	課題・レポート（30%）、授業への取り組み＜ワーク課題提出、小テスト、グループワークなどにおける参加度＞（70%）
関連科目	全科目（保育内容総論，子どもと○○，保育内容「○○」，保育内容「環境」）
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間（2 時間×7.5 週）＋予習・復習時間 7.5 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	幼稚園教諭・保育士
実務経験を活かした教育内容	幼稚園教諭としての経験から、保育の具体的な実践や事例を取り入れ、遊びを展開するために必要な援助について考える授業を展開していく。

授業コード	C29340	科目分類	B37 両-2 （Ｊ）
科目名称	子どもと言葉	単位数	1.00 単位
担当教員	山本　秀子	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	乳幼児期の保育において、言葉についての知見と理解を得ることは、子どもの成長や発達を支援するために重要な諸要素の一つである。 本授業では、子どもが豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的な知識を学び、言葉の意義、言葉の発達過程について理解した上で、乳幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材に触れ、保育を展開するための知識や技能を身につける。また、授業では児童文化財など知識と体験的な活動に触れるほか、ディスカッションなどのアクティブラーニングを実施、グループ発表などのグループワークも行う。１コマ毎の授業終了時に振り返りシートを記入し、学生と教員の学びの確認をする。受講者それぞれの考え、意見を発表し合うことでこの先を見据え、現場で人前（子ども向け、保護者向け、職員向け等）での発表経験を重ねる授業も展開します。		
到達目標	１　人間にとっての言葉の意義や機能を理解し、説明することができるようになる ２　子どもの言葉の発達過程について理解し、説明することができるようになる ３　子どもにとっての児童文化財の意義を理解し、活動に取り組むことができるようになる ４　言葉に対する感覚を豊かにする保育を実践することができるようになる		
授業開始前学習	幼稚園教育要領や保育所保育指針などに記されている領域「言葉」の内容を把握する。子どもの「言葉」について学ぶ意義を考える。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：人間にとっての「言葉」について（「言葉」の意義と役割は何かについて理解する）
予習：保育者にとって「言葉」を学ぶ目的は何かについて整理する。
復習：振り返りシートを記入して今日の学びを確認。領域「言葉」を学ぶ意義と役割を見直し、ノートにまとめる。
2
授業：子どもの「言葉」の獲得についてグループディスカッションも取り入れながら考える。
予習：子どもの「言葉」の獲得時期と具体例について調べる。
復習：振り返りシートをシートを記入し今日の学びを確認。子どもの「言葉」の獲得時期と課程についてグループディスカッションした学びをノートに整理する。
3
授業：保育の中での領域と保育者の役割を考える。
予習：子どもの「言葉」の発達過程や保育実践について意見をまとめる。
復習：振り返りシートを記入し今日の学びを確認。子どもの「言葉」の発達過程と保育の実践についてノートに整理する。
4
授業：言葉に配慮が必要な保育について考える。実習時での自己紹介教材をデザインする。
予習：保育の中で求められている保育者の役割を考える。子ども達が楽しく分りやすい自己紹介を教材を考える。
復習：振り返りシートを記入し今日の学びを確認。言葉の配慮で自分が実習時に実践できる配慮の具体例をノートに書きだす。
5
授業：自己紹介教材の発表により、学び合いと自己の振り返り（修正点と継続点）を明確にする。
予習：保育現場でのシミュレーションを重ねる。
復習：振り返りシートを記入し今日の学びを確認。学び合った自己紹介発表から保育現場における工夫点や気づいた点等をレポートにまとめて実践時に提出する。
6
授業：子どもの「言葉」と児童文化財（特に紙芝居）に着目し、自分達が選んだ紙芝居の内容からの行間への理解、読み方、ねらい等を深め合うグループディスカッションを行う。
予習：児童文化財にはどのようなものがあるか調べ、その中でも紙芝居についての特徴等をノートに整理する。
復習：振り返りシートを記入し今日の学びを確認。保育現場で用いられる児童文化財（特に紙芝居）についてディスカッションした内容や発表をノートに整理する。
7
授業：保育に活かされる児童文化財（絵本・紙芝居・パネルシアター等の教材研究）の中で紙芝居に着目し、前回の授業で学び合った事柄を紙芝居について子ども達の成長、実践の時期、内容、伝え方等をグループディスカッションで学び合ったことを行う（プレゼンテーション「紙芝居」の発表・振り返り）
予習：前回の授業で得た内容から，児童文化財である紙芝居を用いた保育実践への意義を実践に繋げる。
復習：振り返りシートを記入し今日の学びを確認。絵本・紙芝居等の教材研究から、自身の表現題材と内容についてノートに整理しレポートにまとめて実践時に提出する。

8 授業：授業での学びやプレゼンテーションから学んだことを実習や就職で活かすポイントをグループディスカッションで学び合う。 予習：保育現場で子ども達が楽しめる紙芝居のねらいや大切にしたいことをノートに整理する。 復習：振り返りシートを記入し今日の学びを確認。この授業で学び合ったことを、実践できるようにノートに整理し、活用する。 定期試験は実施しない	
テキスト・教材	塩美佐枝・古川寿子編著『保育内容「言葉」乳幼児期の言葉の発達と援助』（ミネルヴァ書房） 適宜、講義内にて資料を配布する。
参考書	塩美佐枝・古川寿子編著『保育内容「言葉」乳幼児期の言葉の発達と援助』（ミネルヴァ書房） 文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	△
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	△
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	◎
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	△
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	△
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	○
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	△
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	

課題とフィードバック	児童文化に関する発表、自己紹介教材の製作と提出、レポートを作成する課題を課す（授業内において，適宜，講評する）。 毎回の授業後の振り返りシートを記入して提出。
評価の基準と方法	発表（60%）、グループワークや保育への取り組み姿勢・提出課題（20%)、振り返りシート（20%）
関連科目	全科目（保育内容総論，子どもと○○，保育内容「○○」，児童文化）
その他	学生の主体的な参加を望む。また，制作においては必要な資料や道具を持参する。
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間（2 時間×7.5 週）＋予習・復習時間 7.5 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	幼稚園教諭
実務経験を活かした教育内容	幼稚園教諭として年少・中・長担任、教務主任、副園長を担当した経験から保育の具体的事例や実践を取り入れた授業を構成していく。 それに加え、４年間毎月年少・中・長児向けの月刊絵本（毎月４冊）の保育指導案を投稿した経験を重ねたことを活かした授業を展開していく。

授業コード	C28710	科目分類	B37 両-1
科目名称	子どもと表現Ⅰ	単位数	1.00 単位
担当教員	守屋・山本／守屋　建／山本　双葉	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	本科目では、表現発表会の実施とそれに至るまでの企画運営や準備を行い、保育の表現力や行事運営に必要な共同性を身につける。また、領域「表現」のカリキュラムの変遷や子どもの表現に関する考え方の歴史的推移を学ぶとともに、今日の子どもの表現に関する知見、特に「包括的な表現のあり方」や「表現を受け止める柔軟な視点」について学ぶ。更に、発表会の脚本作成を通し、児童文学や児童文化の歴史的意義や普遍性について学び、それらを主体的に創作活動へ活かす力を身につける。		
到達目標	1 発表会の企画・運営を通し、保育における共同性を身につける 2 音楽、造形、身体といった各表現領域を横断する包括的な表現の視点や表現方法を知る 3 子どもに伝わる言語表現や身体表現などの保育の表現技術を身につける 4 児童文化や児童文学の持つ普遍性について理解し、主体的に創作活動へ活かす力を身につける		
授業開始前学習	前期でクラスごとに行った発表会の準備内容及び自身の役割等を確認する。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：児童文化・児童文学の系譜および今日的な課題について学ぶ
予習：幼稚園教育要領、保育士保育指針を熟読し要点をノートにまとめる
復習：表現の基盤となる要素をノートにまとめる
2
授業：保育・教育課程における表現発表会の位置づけについて学ぶ
予習：配付プリントの出題（作品制作における援助の視点について）を考え各自記述する
復習：表現と関係性、同期の関連をノートにまとめる
3
授業：保育の表現技術とその必要性を学ぶ
予習：配付プリントを読み、要点をノートにまとめる
復習：授業の内容をまとめノートに記述する
4
授業：関係性と感性との関連を知る①（サウンドスケープとサウンドメイク）
予習：配付プリントを読み、要点をノートにまとめる
復習：授業の内容をまとめノートに記述する
5
授業：関係性と感性との関連を知る②（色彩とデザイン）
予習：配付プリントを読み、要点をノートにまとめる
復習：授業の内容をまとめノートに記述する
6
授業：身体的表現と言語的表現について学ぶ
予習：配付プリントを読み、要点をノートにまとめる
復習：授業の内容をまとめノートに記述する
7
授業：子どもの表現過程と受容について学ぶ
予習：配付プリントを読み、要点をノートにまとめる
復習：授業の内容をまとめノートに記述する
8
授業：グループでの表現活動の実践①（発表作品の企画）【グループワーク】
予習：発表作品の概要をノートにまとめる
復習：授業の振り返りをノートにまとめる
9
授業：グループでの表現活動の実践②（舞台美術の制作）【グループワーク】
予習：舞台美術（大道具・小道具）の概要をノートにまとめる
復習：授業の振り返りをノートにまとめる
10
授業：グループでの表現活動の実践③（音、色彩、動きの関連を実践から学ぶ）【グループワーク】
予習：各場面に使用する音響や照明のタイミングをノートにまとめる
復習：授業の振り返りをノートにまとめる
11
授業：グループでの表現活動の実践④（児童文学のアプリケーションから）【グループワーク】
予習：アンサンブルを用いる場面の流れをノートにまとめる
復習：授業の振り返りをノートにまとめる

12 授業：グループでの表現活動の実践⑤（音楽と身体的表現の同期を図る）【グループワーク】 予習：シンクロナイズドを意識する場面の流れをノートにまとめる 復習：作品についての振り返りをノートにまとめる 13 授業：グループでの表現活動の実践⑥（色彩、造形、音、動きの同期を実践する）【グループワーク】 予習：発表作品全体の流れを台本にまとめ、各場面の留意点をノートに書き出す 復習：作品についての振り返りをノートにまとめる 14 授業：グループでの表現活動の実践⑦（発表リハーサル）【グループワーク】 予習：これまでの学修内容を総括し、ノートにまとめる 復習：発表の振り返りをノートにまとめる 15 授業：発表会 予習：これまでの学修内容を総括し、ノートにまとめる 復習：発表の振り返りをノートにまとめる	
テキスト・教材	配付プリントを中心とする。ほかの資料については適宜指示する。
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） その他、適宜指示する

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	◎
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	◎
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	○
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○

課題とフィードバック	予習として提示される課題は授業内にて、レポート課題は個人宛にフィードバックする。
評価の基準と方法	・授業およびグループ活動への取り組み姿勢：50% ・提出課題：25% ・発表：25%
関連科目	全科目（保育内容総論，子どもと○○，保育内容「○○」，保育内容「音楽表現」「造形表現」「身体表現」，児童文化）
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

授業コード	C28720			科目分類	B37 両-2 （Ｊ）
科目名称	子どもと表現Ⅱ			単位数	1.00 単位
担当教員	守屋 建			授業区分	演習
研究室	16-314	オフィスアワー	前期 金曜日 09:00～12:00 金曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 09:00～10:30 金曜日 09:00～12:00		
授業のテーマ・内容	保育内容「表現」における、子どもとの実践的な活動を演習形式で学ぶ。前半では作品制作を中心に行い、後半では造形遊びの活動から、子どもが試行錯誤しながら表現することについて考えていく。そこから子どもの表現活動の具体について考え、子どもは表現をすることで世界を理解していくということを学ぶ。そして、豊かな感性を育むための具体的な造形環境や支援について探求し、子どもの表現活動に寄り添う保育者の専門性を高めていく。				
到達目標	1 子どもの発達に即して、表現を支援していくための知識や技能を身につける 2 表現に込められた子どもの感性を理解し、それを支援していくための環境を構成する知識を身につける 3 生活の中で感じ考え行動し世界を理解していく子どもに共感し、多様な資源を生かした支援方法を実践していく力を身につける				
授業開始前学習	保育内容「表現」について振り返っておく。				

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：科目ガイダンス及び表現と鑑賞の一体的理解
予習：保育内容「表現」について振り返っておく
復習：授業で学んだ内容などを復習しスケッチブック等にまとめる
2
授業：自然を感じ表現する
予習：自然材を用いた表現活動について調べておく
復習：授業で学んだ内容などを復習しスケッチブック等にまとめる
4
授業：季節から感じ表現する
予習：配布された資料を読んで季節の造形活動の種類について考えておく
復習：授業で学んだ内容などを復習しスケッチブック等にまとめる
4
授業：身の回りのモノから考え表現する
予習：事前に配布された資料を読み、材料を考えたり集めたりする
復習：活動過程や留意点などをスケッチブック等にまとめる
5
授業：紙を使って表現する
予習：紙の様々な種類について調べておく
復習：活動過程や留意点などをスケッチブック等にまとめる
6
授業：木材を使って表現する
予習：木材の種類について調べておく
復習：活動過程や子どもが活動する上での留意点などを復習しスケッチブック等にまとめる
7
授業：使えるものをつくる１（機能）
予習：事前に配布された資料を読み、予習をする
復習：活動過程などをスケッチブック等にまとめる
8
授業：使えるものをつくる２（遊ぶ）
予習：事前に配布された資料を読み、予習をする
復習：活動過程などスケッチブック等にまとめる
9
授業：空間を生かした造形遊び（紐状の材料）
予習：事前に配布された資料を読み、材料について学んでおく
復習：感じたことや活動での見立てなどスケッチブック等にまとめる
10
授業：空間を生かした造形遊び（光）
予習：事前に配布された資料を読み、光や影などの造形要素について学んでおく
復習：感じたことや美しさなどをスケッチブック等にまとめる
11
授業：造形表現で役になりきる１（材料で表す）
予習：事前に配布された資料を読んでおく
復習：授業で学んだ内容などを復習しスケッチブック等にまとめる

12 授業：造形表現で役になりきる２（身体で表す） 予習：準備等を進めておく 復習：子どもの活動に生かせることなどをスケッチブック等にまとめる 13 授業：自然の造形遊び 予習：事前に配布された資料を読み、自然の材料について学んでおく 復習：活動から感じたこと、気づいた美しさなどをスケッチブック等にまとめる 14 授業：人工物での造形遊び 予習：事前に配布された資料を読み、人工物の材料について学んでおく 復習：活動から感じたことなどをスケッチブック等にまとめる 15 授業：子どもと造形表現についてのプレゼンテーション 予習：プレゼンテーションの準備をする 復習：プレゼンテーションの振り返りをまとめる	
テキスト・教材	授業内で適宜紹介する
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	◎
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	◎
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	○
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	○
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	◎

課題とフィードバック	授業内にて活動や作品等の提出物の振り返りを適宜行う。
評価の基準と方法	作品及び活動過程（活動中の思考プロセス）をスケッチブック等にまとめる（60%）、レポート（20%）、授業への取り組み姿勢（20%）
関連科目	全科目（保育内容総論，子どもと○○，保育内容「○○」）
その他	本科目は身近な材料や環境と直接関わる体験からモノやコトを通しての子ども理解を図るため、汚れてもよい服装や用具等の準備が必要となる。また、適宜 ICT 機器や AI を活用していく。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	小学校教諭
実務経験を活かした教育内容	小学校教諭としての児童理解の経験を活かし、幼児期の造形表現や幼保小接続の観点から実践で活用できる造形活動のための学習環境を伝えていく。

授業コード	C22800			科目分類	B37 両-2 （Ｊ）
科目名称	保育内容「健康」			単位数	1.00 単位
担当教員	内田 裕子			授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-		
授業のテーマ・内容	この授業では、心身共に健康な子どもの育ちを支える保育者の役割や指導の実際について具体的に考察する。 領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心と身体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識や技術を身に付ける。特に、乳幼児期の健康に関わる心身の発育・発達、運動の発達の特徴、生活習慣について理解を深め、保育者の役割や指導の実際について具体的に考察する。 指導法の授業のため、指導案の立案、教材研究の後、模擬保育を実施する。授業時間内だけでなく、各自授業時間外にも学習を進めること。				
到達目標	領域「健康」の指導法として、多様な動きを経験する環境構成と援助や基本的生活習慣を獲得するための環境構成と援助について学ぶとともに、食育を中心とした保育場面、健康指導と安全指導を中心とした保育場面を取り上げ、適切な指導方法を身に付ける。				
授業開始前学習	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み、領域「健康」に関する実践について考えておきましょう。				

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：近年の子どもたちの状況と領域「健康」をめぐる現代的課題
予習：子ども達の健康に関する気になる姿をあげる
復習：テキスト第 1 章を熟読し子どもの健康な生活において大切なことをまとめる
2
授業：保育における「健康」 領域「健康」のねらいと内容の理解（0～2 歳児）
予習：保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「健康」を読む
復習：0～2 歳児に対する「健康」のねらいと内容についてノートをまとめる
3
授業：保育における「健康」 領域「健康」のねらいと内容の理解（3～5 歳児）
予習：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「健康」を読む
復習：3～5 歳児に対する「健康」のねらいと内容についてノートをまとめる
4
授業：食育に関する取り組みについて（教材研究）
予習：園で実際に行われている食育活動について調べる
復習：子ども達が食育に興味を持つことができる教材を考える
5
授業：基本的生活習慣形成を支える環境構成と援助について①（食事・排泄）
予習：テキスト第 5 章を読む
復習：食事・排泄場面での年齢に合った環境構成と援助をまとめる
6
授業：基本的生活習慣形成を支える環境構成と援助について②（着脱衣・清潔）
予習：テキスト第 5 章を読む
復習：着脱衣・清潔場面での年齢に合った環境構成と援助をまとめる
7
授業：健康管理と安全能力を育む援助について（教材研究）
予習：子ども達が園生活の中で健康でいられるためにどのような経験をしているかまとめる
復習：子ども達が健康管理に興味を持てるような教材を作成する
8
授業：指導計画の作成
予習：どのような内容で指導計画を立てたいかを考える
復習：模擬保育に向けて指導案を作成する
9
授業：多様な動きの経験を促す環境構成について（鬼ごっこを中心に）
予習：幼少期に遊んだ鬼ごっこをあげ、ルールをまとめる
復習：遊んだ内容をまとめる
10
授業：多様な動きの経験を促す環境構成について（大型遊具を中心に）
予習：幼児期運動指針を読み多様な動きについてまとめる
復習：遊んだ内容をまとめる

11 授業：多様な動きの経験を促す環境構成について（小型遊具を中心に） 予習：身近な遊具で遊んだ経験をまとめる 復習：遊んだ内容をまとめる 12 授業：保育内容の指導法（模擬保育とその振り返り）A グループが模擬保育を実施 予習：模擬保育に向けての指導案を作成する 復習：模擬保育の振り返りシートをまとめる 13 授業：保育内容の指導法（模擬保育とその振り返り）B グループが模擬保育を実施 予習：模擬保育に向けての指導案を作成する 復習：模擬保育の振り返りシートをまとめる 14 授業：保育内容の指導法（模擬保育とその振り返り）C グループが模擬保育を実施 予習：模擬保育に向けての指導案を作成する 復習：模擬保育の振り返りシートをまとめる 15 授業：幼児期に育まれる健康な体と心と小学校の生活や学習で生かされる力（情報機器の活用） 予習：テキスト第 9 章を読む 復習：授業全体を振り返り、心身共に健康な子どもの育ちを支える保育者の役割についてまとめる	
テキスト・教材	河邉貴子・吉田伊津美編著『演習 保育内容「健康」』（建帛社）
参考書	厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）
卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	◎
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	○
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	◎
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	◎
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○
課題とフィードバック	授業中に、課題を提示します。授業内でフィードバックを行います。
評価の基準と方法	授業態度（30%）、教材研究への取り組み・指導計画の立案・模擬保育の取り組み（40%）、講義内容に関する最終課題レポート（30%）等、総合的に評価します。
関連科目	全科目（保育内容総論，保育内容「○○」，子どもと○○）
その他	グループワークを行うことが多くあります。積極的に意見交換をしましょう。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	私立幼稚園で教諭として勤務経験がある
実務経験を活かした教育内容	私立幼稚園教員の経験を活かし、具体的な事例を交えて講義を行う。

授業コード	C22700			科目分類	B37 両-2 （J）
科目名称	保育内容「人間関係」			単位数	1.00 単位
担当教員	佐藤 晶子			授業区分	演習
研究室	16-309	オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30		
授業のテーマ・内容	子どもの人との関わりの発達の過程についての基本的な知識を学ぶ。他の人々と親しみ、支えあって生活する力を乳幼児期から育むために必要な保育者の援助や役割について考察する。子どもの姿をイメージし、事例研究やロールプレイを行うことで、具体的な実践力の習得を目指す。				
到達目標	1 領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、説明することができる 2 子どもの「人の関わり」における発達の過程について理解し、説明することができる 3 事例研究やロールプレイを通して、「人間関係」の基礎を築いていくための保育者の役割や援助の在り方について考察し、実践することができる				
授業開始前学習	授業内で事例研究をする際に、子どもの姿をイメージしながら考察する力が必要となる。よって実習園で子どもたちと関わる中で印象に残った場面等について振り返りをしておくこと。				

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：幼児教育・保育の基本　領域「人間関係」と他領域との関係
予習：テキストの第 1 章を読み、要点と疑問点をまとめる
復習：授業プリントを整理し、本授業の流れと目的を明確にしておく
2
授業：領域「人間関係」のねらいと内容
予習：テキストの第 2 章を読み、要点と疑問点をまとめる
復習：授業プリントを整理し、領域「人間関係」のねらいと内容を理解する
3
授業：生活を通して育つ人と関わる力
予習：テキストの第 5 章を読み、要点と疑問点をまとめる
復習：授業プリントを整理する
4
授業：人と関わる力を育む保育者の援助①－信頼関係を基盤とした自立心の育ち－
予習：テキストの第 3 章を読み、要点と疑問点をまとめる
復習：授業プリントを整理する
5
授業：人と関わる力を育む保育者の援助②－依存と自立の関係について－
予習：テキストの P.86-93、事前に配布した資料を読み、要点と疑問点をまとめる
復習：授業プリントを整理する
6
授業：人との関わりの発達と保育①－乳児・3 歳未満児－
予習：乳児、3 歳未満児の発達過程をまとめる
復習：授業プリントを整理し、乳児、3 歳未満児の“人と関わる力”を育てる保育者の援助を理解する
7
授業：人との関わりの発達と保育②－3 歳児－（グループワーク）
予習：3 歳児の発達過程をまとめる
復習：授業プリントを整理し、3 歳児の“人と関わる力”を育てる保育者の援助を理解する
8
授業：人との関わりの発達と保育③－4 歳児：心の理論－
予習：4 歳児の発達過程をまとめる
復習：授業プリントを整理し、4 歳児の“人と関わる力”を育てる保育者の援助を理解する
9
授業：人との関わりの発達と保育④－4 歳児：葛藤の感情体験－
予習：事前に配付したワークシートに取り組む
復習：授業プリントを整理する
10
授業：人との関わりの発達と保育⑤－5 歳児：協同的な遊び－（グループワーク）
予習：5 歳児の発達過程をまとめる
　　テキストの P.165-174，P.187-192 を読み、要点と疑問点をまとめる
復習：授業プリントを整理し、5 歳児の“人と関わる力”を育てる保育者の援助を理解する

11 授業：人との関わりの発達と保育⑥－5 歳児：個と集団－ 予習：テキストの第 6 章を読み、要点と疑問点をまとめる 復習：授業プリントを整理する 12 授業：遊びのなかの人との関わり・道徳性と規範意識の育ち（グループワーク） 予習：テキストの第 4 章及び P.193-195 を読み、要点と疑問点をまとめる 復習：授業プリントを整理する 13 授業：特別なニーズをもつ子どもへの援助①－子どもの「困り感」に寄り添う－ 予習：これまで学んだ特別支援教育等に関する学びを振り返る 復習：授業プリントを整理する 14 授業：特別なニーズをもつ子どもへの援助②－個別の支援計画作成のポイント－ 予習：これまで学んだ特別支援教育等に関する学びを振り返る 復習：授業プリントを整理する 15 授業：小学校との連携と接続・領域「人間関係」が目指すもの 予習：テキストの第 8 章を読み、要点と疑問点をまとめる 復習：授業プリントを整理する	
テキスト・教材	無藤隆・岩立京子編『事例で学ぶ保育内容人間関係』（萌文書林）
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） その他、授業内で適宜紹介する

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	◎
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	◎
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	△
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	○
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	◎
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○

課題とフィードバック	授業内でワークシートを課す。添削した後、返却する。
評価の基準と方法	定期試験 60%，提出課題・授業への参加度（グループワーク）40%
関連科目	全科目（保育内容総論，保育内容「○○」，子どもと○○）
その他	本授業はグループ討議を多く取り入れている。積極的に自分の意見を発表し、自分とは異なる多様な意見も受け止め、柔軟な思考を常に心がけながら授業に参加することを望む。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	幼稚園教諭
実務経験を活かした教育内容	幼稚園における年少、年中、年長、未就園児（2 歳児）のクラス担任の経験を活かし、保育の具体的な事例や実践を取り入れ、指導計画の立案や保育実践力向上につながる授業を展開していく。

授業コード	C22600			科目分類	B37 両-2 （Ｊ）
科目名称	保育内容「環境」			単位数	1.00 単位
担当教員	猪熊 弘子			授業区分	演習
研究室	16-303	オフィスアワー	前期 木曜日 10:30～12:00 金曜日 10:30～12:00 後期 木曜日 10:30～14:30		
授業のテーマ・内容	日本では就学前の子どもに対する保育・幼児教育は「環境」を通して行うこととされている。それは一体どのようなことなのか、どのように保育実践につなげていけば良いのかを学ぶのがこの授業のテーマである。まずは『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』に示された領域「環境」のねらい・内容について学ぶ。その上で、子どもが育っていく姿を考えながら、保育者としてどのように保育現場の「環境」を整え、充実させて保育を行っていけば良いのか、具体的な場面や事例を取り入れながら学んでいく。また、自然や生き物、文字や数字、数量、標識、動物や人間等、領域「環境」に含まれるさまざまな要素について、実際の保育の中でどのように取り入れることができるかを話し合いながら学びを深めていく。そして、同時に子どもが主体的に自身の好奇心や探究心を育めるような豊かな保育環境の構成方法についても学ぶ。				
到達目標	1 指針・要領にある領域「環境」のねらい・内容を実際の保育の指導案の中にしっかりと落とし込める力を身につける 2 「環境」を構成するのに必要な要素一つ一つを具体的に説明することができる 3 子どもが領域「環境」を通してどのように成長していくか、その発達と保育内容の相互関係を理解する 4 子どもの成長・発達を支え、子どもが主体的に周囲の環境に関わることができる環境構成、また保育者がどのように子どもに関わっていくべきかを具体的に理解し、保育者としての基礎的な力を身につける				
授業開始前学習	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の原本・解説書をよく読み、保育における環境の意義について考える				

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：この授業で学ぶ「環境」とは何かー「環境」を通して行う保育・幼児教育について（授業ガイダンスを含む）
予習：自分の幼児期に周囲にあった「環境」について思い起こしておく
復習：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「環境」を読む
2
授業：指針・要領の基本的な構成と領域「環境」の概要（1）0・1・2 歳児に対するねらい・内容
予習：保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「環境」を読んでおく
復習：0・1・2 歳児に対する「環境」のねらいと内容についてまとめる
3
授業：指針・要領の基本的な構成と領域「環境」の概要（2）3 歳以上児に対するねらい・内容
予習：保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「環境」を読んでおく
復習：3 歳以上児に対する「環境」のねらいと内容についてまとめる
4
授業：環境に配慮した園の実際（1）（0・1・2 歳児にふさわしい環境とは）
予習：0・1・2 歳の子どもに必要な環境について考えておく（安全についても含む）
復習：授業内で紹介した園の環境構成を振り返り、0・1・2 歳の保育に必要な環境をノートにまとめる
5
授業：環境に配慮した園の実際（2）（3 歳以上児の成長に必要な環境とは）
予習：3 歳以上の子どもに必要な環境について考えておく
復習：授業内で紹介した園の環境構成を振り返り、3 歳以上の保育に必要な環境についてノートにまとめる
6
授業：環境に配慮した園の実際（3）（子ども主体の保育を実践できる環境とはーグループディスカッション）
予習：「子ども主体」の保育に必要な環境について考えておく
復習：「子ども主体の保育」を実践できる環境について、グループディスカッションで学んだことや考えたことをノートにまとめる
7
授業：環境に配慮した園の実際（4）（子どもが思い切りチャレンジできる園庭環境）
予習：子どもの頃に遊んだ園庭や公園の遊具について、どんな風に遊んだか思い出しておく。
復習：チャレンジできる園庭等の環境構成を思い出し、安全への配慮や工夫をノートにまとめる
8
授業：環境に配慮した園の実際（5）（子どもが自然とふれあえる環境）
予習：子どもの頃に自然と触れあって遊んだ経験について思い出しておく
復習：子どもが園でどのように自然を触れあう機会を持つことができるか、ノートにまとめる
9
授業：伝統文化や地域との関わり（子どもが伝統や文化、地域とふれあえる環境を考える）
予習：子どもの頃に体験した伝統行事や文化、お祭りなどの地域との関わりについて思い出しておく
復習：子どもが園でどのように伝統行事や文化に触れる機会を持てるか、ノートにまとめる

10
授業：身近な動植物との関わり（1）（園での生き物の飼育について考える）
予習：子どもの頃から今まで、飼育してきた昆虫や魚、動物などについて思い出しておく
復習：乳幼児期に自然とかかわることの意味についてノートにまとめる
11
授業：身近な動植物との関わり（2）（園での植物や野菜の栽培について考える）
予習：子どもの頃にやった植物や自然と触れあう遊びについて思い出し、調べておく
復習：自然とかかわる保育の展開についてノートにまとめる
12
授業：文字や数量との関わり（文字、数字、数量、標識との関わりについて考える）
予習：保育の中で文字や数量でどんな風に遊べるか考えておく
復習：文字や数字、数量、標識等を使った実際の保育の展開について整理しておく
13
授業：「環境」の指導計画案を書いてみよう（1）0･1･2 歳[グループワーク]
予習：これまで学んだ「環境」の内容から、0･1･2 歳の指導案に入れることを考えておく
復習：1 年を通した 0･1･2 歳の指導計画について「環境」の項目を整理しておく
14
授業：「環境」の指導計画案を書いてみよう（2）3･4･5 歳[グループワーク]
予習：これまだ学んだ「環境」の内容から、3･4･5 歳の指導案に入れることを考えておく
復習：1 年を通した 3･4･5 歳の指導計画について「環境」の項目を整理しておく
15
授業：まとめー領域「環境」と子どもの育ち
予習：この授業でこれまで学んだ内容を振り返り、整理しておく
復習：子どもが育つ中で必要な環境に関する課題レポートに取り組む

テキスト・教材	適宜、講義内にて資料を配付する。
参考書	文部科学省編『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省編『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1. 子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2. ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3. それらを柔軟に保育に活かすことができる	△
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1. 自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	◎
b2. 自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	△
b3. 子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	△
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1. 子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2. 自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	○
c3. 子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	○
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1. 子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	○
d2. 子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	△

課題とフィードバック	テーマごとにリアクションペーパーを課す。グループでの討議をまとめ、発表を行う。講義中に課題についてフィードバックを行う。
評価の基準と方法	課題（70%）、期末レポート（30%）
関連科目	全科目（保育内容総論，保育内容「○○」，子どもと○○）
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	幼稚園・保育園の副園長としての勤務経験、安全な保育環境に関する研究会等の実践を行っている。 こども環境学会認定「こども環境アドバイザー」でもある。
実務経験を活かした教育内容	園での勤務経験をふまえ、環境の大切さはもちろん、さまざまな実践上の工夫について、多くの写真や動画等を利用しながら解説する。

授業コード	C22910	科目分類	B37 両-1 （Ｊ）
科目名称	保育内容「言葉」	単位数	1.00 単位
担当教員	山本　秀子	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型こども園教育・保育要領に示された教育の基本を踏まえた言葉のねらい及び内容や言葉における幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面において保育を構想する方法を身につけていく。1 コマ毎の授業後の振り返りシートを記入し、学生と教員の学びの確認をする。受講者のそれぞれの考え・意見を発表し合う形式でこの先を見据え、現場で人前（子ども向け、保護者向け、職員向け等）に向けて発言経験を重ねる授業も展開する。また、授業によっては、ディスカッションなどの学生同士または学生と教員による相互のやりとりを含めたアクティブラーニングを実施しながら知識と実践を結び付けた状業を行う。		
到達目標	1　5 領域のうち、言葉のねらい及び内容について理解を深めるとともに、乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を通して保育を構想する方法を身に付ける 2　子どもの発達の連続性を重視し、各年齢段階における発達課題達成の様相についての視点を絶えず持ちながら、乳幼児理解ができるよう、さまざまな事例を通して、子どもや保育者、保護者の姿を深く捉え、考察する力を身に付ける 3 授業での学びを実習や就職後に活かせる保育実践力を身に付ける		
授業開始前学習	2 年間で正しい言葉が身につくよう、本を読むこと、滑舌よく話すこと、目上の人と話すことを日常的に心がけましょう。また、日常的に児童書（絵本、紙芝居等）に触れて実践（実習や就職）に繋げましょう。 子ども向け、保護者向け、職員向けへの保育者としてのコミュニケーション力を意識しましょう。 その場や時間に沿った挨拶や言葉、文章の使い分けができるように普段から意識していきましょう。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：人が言葉を育む過程と保育内容 5 領域の関連をグループディスカッションも取り入れながら考える
予習：5 領域を確認し、保育における「言葉」の意味を調べる
復習：振り返りシートを記入し今日の学びを確認し、自分なりの本授業の目標を立てる
2
授業：生きる力と児童文化財の関係性を考える
予習：保育内容「言葉」の領域を再確認しておく
復習：振り返りシートを記入し今日の学びを確認。自分なりに子どもの育ちにおける言葉の重要性について考える
　図書館や書店、自分の持っている絵本などで「乳児向けの紙芝居」について調べ、ノートに書き留める
3
授業：児童文化財（特に紙芝居）についての歴史を学ぶ
予習：紙芝居の特徴を予想して、ノートに書き出しておく
復習：振りシートを記入し今日の学びを確認。授業前に予想した紙芝居の歴史と学びを比較してノートに整理しておく
4
授業：紙芝居の特性を理解し実践する
予習：自身の経験から紙芝居の魅力や楽しかっいたことをノートに書き出す
復習：振り返りシートを記入し今日の学びを確認。授業の学びから保育の中で自分が実践してみたい紙芝居の構想をノートに書き出す
5
授業：保育と児童文化財の役割について（グループワーク）
予習：保育に児童文化財が取り入れていない状況を予想して、ノートに書き出してみる
復習：振り返りシートを記入し今日の学びを確認。授業とグループディスカッションで新たな学びをノートに整理しておく。
　自分が実践したい自作絵本の作成を進める
6
授業：自作した紙芝居の発達年齢、時期、環境、ねらい等を大切にしながら模擬保育を経験する
予習：様々な状況を予測しながらシミュレーションを重ねる
　模擬保育に向けた自作絵本のレポートを書き、実施時に提出する
復習：振り返りシートを記入し今日の学びを確認。自作した紙芝居をプレゼンテーションしたことで得た学びをノートに整理し
　活用できるようにしておく
7
授業：他者の自作紙芝居を観て、子どもの受け取り方や保育者の役割を学び合う
予習：紙芝居を子どもの立場に立って観るポイントをまとめて授業で確認をする
復習：振り返りシートを記入し今日の学びを確認。実際に紙芝居を作成したり観たりしたことで、実習や就職時に保育者として
　大切にしたいことをノートに整理し実践できるようにする
8
授業：絵本の魅力と保育者の役割についてディスカッションを交えながら学び合う
予習：図書館や書店、自分の絵本などで「乳幼児の絵本」について調べ、ノートに書き留める
復習：振り返りシートを記入し今日の学びを確認。絵本の種類やねらいで学んだことをノートに整理し、自作絵本の構想を立てる

9
授業：保育の中での保育者と子どもの「言葉」の援助と見守りについて学ぶ
予習：保育の中で保育者と子どもがどのように言葉のやり取りをして集団生活をしているか予想して、ノートに書き出してみる
復習：振り返りシートを記入し今日の学びを確認。子どもの発達に応じて、保育者の言葉の援助と見守りをノートに整理しておく
10
授業：集団生活の中から豊かな言葉の育みと児童文化財（特に絵本）との関係をグループディスカッションをしながら学び合う
予習：保育に絵本が取り込まれている理由を予測し、ノートに書き出しておく
授業での学びを活かした自作絵本の作成を進める
復習：振り返りシートを記入し今日の学びを確認。絵本と子どもの成長との関係性をノートに整理しておく
11
授業：デジタル絵本とアナログ絵本とを比較し、子どもが感じるイメージについて考える
予習：デジタル絵本とアナログ絵本の比較をノートに書き出しておく
復習：振り返りシートを記入し今日の学びを確認。デジタル絵本とアナログ絵本の比較からそれぞれの特徴を整理し、理解を
深めて保育の選択肢を増やす
授業での学びを活かした自作絵本の作成を進める
12
授業：自作した絵本の発達年齢、時期、環境、ねらい等を大切にしながら模擬保育の経験をする
予習：自分が立てたねらいを意識して、自作絵本の読み聞かせのシミュレーションを重ねる
復習：振り返りシートを記入し今日の学びを確認。実際に経験した読み聞かせで学んだ継続点と修正点をノートに整理し、この経験を重ねる
13
授業：他者の自作絵本を観て、子どもの受け取り方や保育者の役割を学び合う
予習：絵本を子どもの立場になって観るポイントをまとめて授業で確認をする
復習：振り返りシートを記入し今日の学びを確認。実際に絵本を作成したり観たりしたことで、さらに絵本に関心を持ち
実習や就職時に保育者として大切にしたいことをノートに整理し実践できるようにする
14
授業：５領域「言葉」に見る文字に関心を抱く保育について、グループディスカッションも含めた学び合いをする
予習：自分が保育をする際に実践してみたい「文字に興味・関心を持つ保育」を考え、ノートに書き出し授業で友達と共有し合う。
模擬保育に向けた自作絵本のレポートを書き、実践時に提出する
復習：振り返りシートを記入し今日の学びを確認。自分が思いつかなかった保育案をノートに書き足しておく
15
授業：幼児期の言葉の育ちを小学校へ繋ぐ学び
予習：小学校と幼児教育現場との環境を考え、保育者のねらいを予測してノートに書き出してみる
復習：振り返りシートを記入し今日の学びを確認。幼児期の獲得した「言葉」を小学校生活にどのように繋げていくかをノートに整理して、
実践できるようにする

テキスト・教材	必要に応じて授業内で配布する
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	△
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	◎
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	△
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	△
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	○
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	△
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	○
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	△

課題とフィードバック	発表は全員の前で発表し学び合う。それに向けて各自がレポートも同時に提出する。振り返りシートは毎回授業終了時に記入することで、授業の学びの確認をする。（毎回提出し、教員が確認と評価をします）
評価の基準と方法	発表（60%）、グループワークや模擬保育への取組姿勢・提出課題（20%）、振り返りレポート（20%）
関連科目	全科目（保育内容総論，保育内容「○○」，子どもと○○，児童文化）
その他	授業では常に受講者に対し、授業で紹介される理論や実践事例に対して考えることを求めます。さらにその成果の提出・発表を適宜求めます。事前学習として、事例問題に取り組む課題を与えます。また、毎回授業の最後には振り返りシートの記入を取り入れます。積極的な参加姿勢を望みます。自分なりのノートを取りながら内容を整理・理解するよう努めてください。各自の手作りの児童文化財の作成と発表も評価に入ります。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	幼稚園教諭
実務経験を活かした教育内容	幼稚園教諭として年少・中・長の担任、教務主任・副園長を担当した経験から保育の具体的事例や実践を取り入れた授業構成をしていきます。 それに加え、4 年間毎月年少・中・長向けの月刊絵本（毎月 4 冊分の全ページ）の保育指導案を投稿した経験を重ねたことを活かした授業を展開していきます。

授業コード	C26200	科目分類	B37 両-1
科目名称	保育内容「身体表現」	単位数	1.00 単位
担当教員	人見 はる菜	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	子どもの発達における表現の重要性とその意義について、幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容をふまえて、身体表現、特に演劇（ドラマ）表現を中心に理解を深める。また、子どもの表現活動の特性をとらえ、その豊かな表現を保障する環境と保育構成のあり方を、具体的な指導場面を想定した表現体験等の実践的な活動や討議・創作活動などを通して、主体的・対話的に深く学ぶ。		
到達目標	本授業の到達目標として、以下の３点を挙げる。 １ 幼児教育の基本をふまえ、領域「表現」のねらいと内容を理解することができる ２ 子どもの発達や小学校の教科への接続もふまえて学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を、身体表現、特に演劇（ドラマ）表現を中心として構想する方法を身に付ける ３ 領域「表現」の特性及び幼児の表現活動との関連を考慮し、かつ、情報機器及び教材の活用も工夫した上で、子どものための作品を創作することができる		
授業開始前学習	自身の幼少期における身体表現活動を振り返り、具体的に何をしていたかまとめておく。インターネットや保育雑誌等を用い、今日的な子どもの身体表現活動について調べる。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：幼児教育の基本、領域「表現」のねらいと内容、授業概要の説明
予習：参考書や各省庁ホームページで公開されている教育要領の領域「表現」のねらい・内容を読み、自分なりに理解をする
復習：子どもの身体表現活動の意義について授業内容を踏まえ自身の考えをまとめる
2
授業：領域「表現」における身体表現の模擬的体験（1）自己表現（グループワーク）
予習：子どもの身体表現活動には何があるか自分の考えをまとめる
復習：授業内容について振り返り、感じたこと、考えたことをまとめる
3
授業：領域「表現」における身体表現の模擬的体験（2）コミュニケーション（グループワーク）
予習：自身が子どものころ他者と関わりながら行っていた身体表現活動について振り返り、まとめる
復習：授業内容について振り返り、感じたこと、考えたことをまとめる
4
授業：領域「表現」における身体表現の模擬的体験（3）遊びにおける身体感覚及び五感の重要性（グループワーク）
予習：子どもの身体表現を受容する保育者の言葉かけはどんなものがあるか自分の考えをまとめる
復習：授業内容について振り返り、感じたこと、考えたことをまとめる
5
授業：領域「表現」における身体表現の模擬的体験（4）遊びにおける言葉の重要性（グループワーク）
予習：自身が知っているまたは行っていた言葉遊びを振り返り、まとめる
復習：授業内容について振り返り、感じたこと、考えたことをまとめる
6
授業：領域「表現」における身体表現の模擬的体験（5）想像的遊び（グループワーク）
予習：自身が知っているまたは行っていた想像的遊びを振り返り、まとめる
復習：授業内容について振り返り、感じたこと、考えたことをまとめる
7
授業：領域「表現」における身体表現の模擬的体験（6）創造的遊び（グループワーク）
予習：自身が知っているまたは行っていた創造的遊びを振り返り、まとめる
復習：授業内容について振り返り、感じたこと、考えたことをまとめる
8
授業：領域「表現」における身体表現の模擬的体験（7）身体表現をフル活用した遊び（グループワーク）
予習：ここまでの授業で学んだことが、身体表現にどう結びついているかを考えまとめる
復習：授業内容について振り返り、感じたこと、考えたことをまとめる
9
授業：領域「表現」における身体表現の模擬的体験（8）絵本から膨らませる劇遊び（グループワーク）
予習：雑誌・文献・インターネットなどで劇遊びについて調べ学習を行う
復習：授業内容について振り返り、感じたこと、考えたことをまとめる
10
授業：保育内容としての演劇の探求（1）子どものための作品創作（グループワーク）
予習：子どもの頃に読んでいた絵本の、どんなところがおもしろかったかを振り返って考える
復習：決まった本をどんな風に劇にすれば子どもがおもしろいと思うかを、授業内容を踏まえてまとめる

11 授業：保育内容としての演劇の探求（2）子どものための作品創作（グループワーク） 予習：中間発表会に向けて必要なことを洗い出し準備する 復習：中間発表会に向けて自分やグループにとって必要な準備を進める 12 授業：保育内容としての演劇の探求（3）子どものための作品創作・中間発表（グループワーク/ロールプレイ） 予習：中間発表会に向けて自分やグループにとって必要な準備を進める 復習：中間発表をやってみて新たに工夫できるところを考え準備する 13 授業：保育内容としての演劇の探求（4）子どものための作品創作（グループワーク） 予習：授業内発表本番にむけて自分やグループにとって必要な準備を進める 復習：授業内発表本番へむけて自分やグループにとって必要な準備を進める 14 授業：保育内容としての演劇の探求（5）子どものための作品の授業内発表（グループワーク/ロールプレイ） 予習：授業内発表本番にむけて自分やグループにとって必要な準備を進める 復習：授業内発表について振り返り、感じたこと、考えたことをまとめる 15 授業：授業内発表会を踏まえて、子どもの表現の発達と小学校の教科への接続、授業内外における自分の身体表現を振り返る（表現活動を記録・振り返る映像機器の活用も含む）　（グループワーク） 予習：これまでの授業内容について、自身の考えをまとめる 復習：これまでの授業内容を踏まえ、子どもの身体表現活動について自分の考えをまとめる	
テキスト・教材	授業中に適宜資料を配布する。
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館）、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）
卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	◎
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	○
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	○
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	○
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○
課題とフィードバック	毎時間事に、授業内での活動の振り返り課題を適時評価しフィードバックを行う。演習内容（授業内発表等）の講評を授業内で行う。
評価の基準と方法	実技内容（40%）、授業への取り組み（グループワークの参加度：40%）、提出物（20%）
関連科目	全科目（保育内容総論，保育内容「○○」，保育内容「音楽表現」、子どもと○○，子どもと健康，体育）
その他	動きやすい服装、必要に応じて上履きで授業を受講すること。主体的能動的な授業参加を望む。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

授業コード	C26000	科目分類	B37 両-1 （Ｊ）
科目名称	保育内容「音楽表現」	単位数	1.00 単位
担当教員	高木 麻衣子	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	本授業では、保育園、幼稚園などにおける子どもの音楽表現について演習形式の授業で学修を行う。 特に、子どもたちが音や音楽への表現や感受を通じた情操を育む過程について理解をするとともに、それらの過程における保育者の援助についての具体的な方法を身につける。		
到達目標	1 保育内容「表現」のねらいと音楽表現の具体的内容について理解する 2 子どもたちに寄り添いながら、ともに音楽表現を楽しむ保育の援助方法を習得し、実践することができる 3 子どもたちが無理なく器楽合奏に到達するための遊びの過程を理解する 4 子どもたちの歌の歴史、また、子どもたちと共に歌う際の保育方法について理解する 5 子どもの音楽活動を支えるための基礎的音楽理論（リズムの理論）を理解する		
授業開始前学習	現行の幼稚園教育要領、保育所保育指針について理解を深めておくこと		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：領域「表現」における音楽表現の概要、ねらい、位置づけについて学ぶ
予習：身近な「音」「音楽」について、考えておくこと
復習：授業で学習したプリントを復習し、要点・疑問点を整理する
2
授業：領域「表現」における保育・指導上の留意点と評価について学ぶ
予習：保育所保育指針の各年齢における内容・ねらいの中で、音や音楽活動に関連する箇所を読む
復習：授業内容の要点と疑問点をまとめて記述する。
3
授業：リトミックを通した音楽活動を学ぶ
予習：リトミックについて調べておく
復習：授業での課題を各自復習する
4
授業：子どもの歌唱活動について学ぶ（1）子どもの歌の歴史と分類について学ぶ
予習：インターネットや楽譜を用いて、幼少期に歌った歌唱曲を調べる
復習：子どもの歌の歴史・分類について復習をし、要点を整理する
5
授業：子どもの歌唱活動について学ぶ（2）わらべうたを用いた音楽活動を学ぶ
予習：幼少期に歌ったわらべうたを書き出しておく
復習：わらべうたについて復習をし、要点を整理する
6
授業：身体を使った表現の在り方と指導法（1）ボディパーカッションを用いた音楽活動
予習：事前配布プリントを読み、疑問点を整理する
復習：授業での課題を各自復習する
7
授業：身体を使った表現の在り方と指導法（2）手拍子を用いた音楽活動
予習：事前配布プリントを読み、疑問点を整理する
復習：授業で取り上げた遊びについて復習する
8
授業：身体を使った表現の在り方と指導法（3）身体表現を用いた音楽活動
予習：事前配布プリントを読み、疑問点を整理する
復習：授業で取り上げた遊びについて復習する
9
授業：表現における内容の取扱い（1）ことばを用いたオスティナートについて学ぶ
予習：事前配布プリントを読み、疑問点を整理する
復習：授業の要点を踏まえ、ミニレポートを作成する
10
授業：リズムに親しむ音楽表現と指導法（1）リズム楽器を用いた音楽活動の導入（グループワーク）
予習：事前配布プリントを読み、疑問点を整理する
復習：授業で取り上げた音楽活動について復習する

11 授業：表現における内容の取扱い（2）リズム楽器を用いた平易な合奏の指導法 予習：事前配布プリント読み、内容を理解する 復習：授業の要点を踏まえ、ミニレポートを作成する 12 授業：リズムに親しむ音楽表現と指導法（2）様々な楽器を用いた音楽合奏（グループワーク） 予習：事前配布プリントを読み、疑問点を整理する 復習：授業で取り上げた合奏について復習する 13 授業：音楽表現と他領域との関わり（1）多領域と関わりのある表現活動について学ぶ 予習：事前配布プリントを読み、疑問点を整理する 復習：授業の要点を踏まえ、ミニレポートを作成する 14 授業：音楽表現と他領域との関わり（2）保育活動の包括的・横断的なねらいについて学ぶ 予習：事前配布プリントを読み、疑問点を整理する 復習：授業の要点を踏まえ、ミニレポートを作成する 15 授業：授業で学んだ様々な音楽表現について、模擬授業形式でグループ発表をする 予習：何を発表するか整理しておく 復習：授業の要点を踏まえ、ミニレポートを作成する	
テキスト・教材	授業内配布プリント
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） その他、適宜指示する

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	◎
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	◎
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	○
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	△

課題とフィードバック	ミニレポートを用いた振り返りを行い、疑問点や到達度について随時確認しながら授業を進める。 また、授業内で発表等を行う。
評価の基準と方法	授業における演習の取り組み状況（50%）、発表（25%）、小レポートの提出（25%）
関連科目	全科目（保育内容総論，保育内容「○○」，子どもと○○，子どもと表現Ⅰ・Ⅱ，音楽基礎Ⅰ・Ⅱ）
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	保育園・小学校における音楽教育および保育実践の経験
実務経験を活かした教育内容	保育現場での子どもとの関わりや音楽活動の今日的実態を踏まえ、子どもとの実際の関わりを想定した演習を授業内にて行う。

授業コード	C27600			科目分類	B37 両-1 （J）
科目名称	保育内容「造形表現Ⅰ」			単位数	1.00 単位
担当教員	守屋 建			授業区分	演習
研究室	16-314	オフィスアワー	前期 金曜日 09:00～12:00 金曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 09:00～10:30 金曜日 09:00～12:00		
授業のテーマ・内容	本科目では「遊びと表現」をテーマにした造形活動を演習形式で学ぶ。前半は身近な素材を用いた造形活動によって、子どもの発達に応じた、道具や材料の準備方法及び子どもの造形表現について学ぶ。後半は段ボール協働制作を通して、子どもの遊びをデザインし、造形表現を通したコミュニケーションについて学ぶ。				
到達目標	1 子どもの興味関心に関わるヒト、コト、モノをいかに組み合わせて造形環境をデザインしていくのかについて、実際の保育を視野に置きながら理解できる 2 子どもの遊びの意味を理解したうえでの保育展開を想定し、造形要素を媒体とした遊びを生む環境を計画的に構想することができる 3 子どもの感性を育み、寄り添う造形環境の在り方を考え、子どもの遊びをデザインする造形環境を構想し具体化していくことができる				
授業開始前学習	領域「表現」のねらい及び内容について振り返っておく。				

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：科目ガイダンス及び感覚を生かした活動
予習：領域「表現」のねらい及び内容について振り返っておく
復習：身体性を働かせて感じたことなどを整理し、活動過程や留意点と共にスケッチブック等にまとめる
2
授業：色彩で表現する
予習：色彩が感情に与える効果などを調べておく
復習：子どもの遊びを生む造形環境をつくるうえでの色彩の効果をまとめ、活動過程や留意点をスケッチブック等にまとめる
3
授業：身近な材料を活用してつくる
予習：身近な材料を用いた造形活動について調べる
復習：子どもの造形過程について考えたことや、自分の活動過程をスケッチブック等にまとめる
4
授業：身近な材料を用いてつくる活動から考える、造形活動における指導上の留意点
予習：造形活動の指導上の留意点について考えてくる
復習：子どもの造形活動の留意点や、自分の活動過程をスケッチブック等にまとめる
5
授業：生活や遊びを通して感性を豊かにすることについて ティンカリング
予習：遊びを生む造形活動について調べる
復習：遊びの意味や留意点をスケッチブック等にまとめる
6
授業：素材の特徴と材料の準備について アフォーダンス
予習：身近な材料を集めることについてその留意点を考えてくる
復習：モノの持つ創造性についてスケッチブック等にまとめる
7
授業：造形活動におけるモノの配置
予習：子どもが楽しく活動する物的配置について考えてくる
復習：自分の考える物的配置やその留意点、自分の活動過程をスケッチブック等にまとめる
8
授業：造形活動のねらいと導入
予習：領域「表現」のねらいについて振り返っておく
復習：子どもへの声のかけ方などを具体的に整理し、自分の活動過程をスケッチブック等にまとめる
9
授業：子どもの造形的発達について
予習：子供の造形的発達について調べる
復習：子供の造形的発達についてスケッチブック等にまとめる
10
授業：指導計画作成（グループワーク）
予習：指導計画について振り返る
復習：活動過程や指導計画の留意点をスケッチブック等にまとめる

11 授業：段ボール協働制作①子どもの遊びについて考える（グループワーク） 予習：活動計画を考える 復習：活動過程や留意点をスケッチブック等にまとめる 12 授業：段ボール協働制作②安全面について考える（グループワーク） 予習：試作品製作をする 復習：活動過程や留意点をスケッチブック等にまとめる 13 授業：段ボール協働制作③用具の特徴と使用方法について学ぶ（グループワーク） 予習：活動の役割分担を決める 復習：活動過程や留意点をスケッチブック等にまとめる 14 授業：段ボール協働制作④素材の特徴と使用方法を学ぶ（グループワーク） 予習：活動の役割分担を決める 復習：活動過程や留意点をスケッチブック等にまとめる 15 授業：段ボール協働制作⑤画材の特徴と使用方法を学ぶ（グループワーク） 予習：グループでの活動の役割分担を決める 復習：活動過程や留意点をスケッチブック等にまとめる	
テキスト・教材	授業内で適宜紹介する
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）
卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	◎
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	◎
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	○
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	◎
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	○
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○
課題とフィードバック	授業内にて活動や作品等の提出物の振り返りを適宜行う。
評価の基準と方法	作品及び活動過程（活動中の思考プロセス）をスケッチブック等にまとめる（60%）、レポート（20%）、授業への取り組み姿勢（20%）
関連科目	全科目（保育内容総論，保育内容「○○」，保育内容「造形表現Ⅱ」，子どもと○○，子どもと表現Ⅰ・Ⅱ，造形基礎Ⅰ・Ⅱ）
その他	本科目は身近な材料や環境と直接関わる体験からモノやコトを通しての子ども理解を図るため、汚れてもよい服装や用具等の準備が必要となる。また、適宜 ICT 機器や AI を活用していく。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	小学校教諭
実務経験を活かした教育内容	小学校教諭としての児童理解の経験を活かし、幼児期の造形表現や幼保小接続の観点から実践で活用できる造形活動のための学習環境を伝えていく。

授業コード	C27700			科目分類	B37 両-2 （J）
科目名称	保育内容「造形表現Ⅱ」			単位数	1.00 単位
担当教員	守屋 建			授業区分	演習
研究室	16-314	オフィスアワー	前期 金曜日 09:00～12:00 金曜日 14:40～16:10 後期 水曜日 09:00～10:30 金曜日 09:00～12:00		
授業のテーマ・内容	本科目では「子どもの造形表現」と「子どものための造形表現」との共振的な関係を踏まえつつ、造形表現について実技を通して学ぶ。苦手意識などの表現に対する先入観を排し、生活の中にある造形表現の大切さや楽しさなどについて身体感覚を働かせ理解していくことをねらい、様々な材料体験や用具の活用を通じて子どもを支援するスキルを身につけると共に、つくりだす喜びを感受し、保育者としての価値観を広げ創造性や感性を磨いていく。				
到達目標	1 自他の造形活動を通して、自分の創造性や感性を再認識すると共に価値観を広げ、子どもの表現を理解していくことができる 2 材料体験や用具の活用から子どもの造形表現を支援する感性や価値観及びスキルを身につけ、環境の構想で具体化することができる 3 造形活動を通して実感するつくりだす喜びやその意味を理解し、よりよい保育のあり方を自ら探求していくことができる				
授業開始前学習	幼稚園教育要領や保育所保育指針などに記されている領域「表現」について振り返っておく。				

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：科目ガイダンス及び身の回りに視点を向けての造形活動
予習：領域「表現」について振り返っておく
復習：活動過程や留意点をスケッチブック等にまとめる
2
授業：描画材と造形表現１（モダンテクニック）
予習：事前に配布された資料を読んだり、材料や用具を準備したりする
復習：扱ったモダンテクニックなどについて、活動過程や留意点と共にスケッチブック等にまとめる
3
授業：描画材と造形表現２（コラージュ）
予習：事前に配布された資料を読んだり、材料や用具を準備したりする
復習：コラージュにより生み出されたよさ、意味など、活動過程と共にスケッチブック等にまとめる
4
授業：身近にある材料と場を生かした造形表現１（キャラクターづくり）
予習：事前に配布された資料を読んだり、材料や用具を準備したりする
復習：活動過程をスケッチブック等にまとめる
5
授業：身近にある材料と場を生かした造形表現２（鑑賞）
予習：事前に配布された資料を読んだり、材料や用具を準備したりする
復習：子どもの視点で場を見ることについて、また、活動過程と共にスケッチブック等にまとめる
6
授業：版での造形表現
予習：事前に配布された資料を読んだり、材料や用具を準備したりする
復習：活動過程や留意点をスケッチブック等にまとめる
7
授業：子どものための遊びを生む造形表現
予習：事前に配布された資料を読んだり、材料や用具を準備したりする
復習：遊べる工作の活動過程や留意点をスケッチブック等にまとめる
8
授業：柔らかい素材を使った造形表現
予習：事前に配布された資料を読んだり、材料や用具を準備したりする
復習：実際の保育で生かせる場面を想定し、活動過程や留意点をスケッチブック等にまとめる
9
授業：紐状の材料を使った造形表現
予習：事前に配布された資料を読んだり、材料や用具を準備したりする
復習：実際の保育で生かせる場面を想定し、活動過程や留意点と共にスケッチブック等にまとめる
10
授業：粘土での造形表現
予習：事前に配布された資料を読んだり、材料や用具を準備したりする
復習：実際の保育で生かせる場面を想定し、活動過程や留意点をスケッチブック等にまとめる

11 授業：光の造形表現 予習：事前に配布された資料を読んだり、材料や用具を準備したりする 復習：光が生む感情など、活動過程から感じたこと、留意点をスケッチブック等にまとめる 12 授業：木材での造形表現 予習：事前に配布された資料を読んだり、材料や用具を準備したりする 復習：活動過程や留意点をスケッチブック等にまとめる 13 授業：子どものための造形表現の追求 1（試案） 予習：事前に配布された資料を読んだり、材料や用具を準備したりする 復習：活動過程や留意点をスケッチブック等にまとめる 14 授業：子どものための造形表現の追求 2（制作） 予習：事前に配布された資料を読んだり、材料や用具を準備したりする 復習：活動過程や留意点をスケッチブック等にまとめる 15 授業：展示　プレゼンテーション 予習：事前に配布された資料を読んだり、材料や用具を準備したりする 復習：活動のふりかえりをスケッチブック等にまとめる	
テキスト・教材	授業内で適宜紹介する
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）
卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	◎
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	◎
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	◎
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	○
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	○
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○
課題とフィードバック	授業内にて活動や作品等の提出物の振り返りを適宜行う。
評価の基準と方法	作品及び活動過程（活動中の思考プロセス）をスケッチブック等にまとめる（60%）、レポート（20%）、授業への取り組み姿勢（20%）
関連科目	全科目（保育内容総論，保育内容「○○」，保育内容「造形表現Ⅰ」，子どもと○○，子どもと表現Ⅰ・Ⅱ，造形基礎Ⅰ・Ⅱ）
その他	本科目は身近な材料や環境と直接関わる体験からモノやコトを通しての子ども理解を図るため、汚れてもよい服装や用具等の準備が必要となる。また、適宜 ICT 機器や AI も活用していく。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	小学校教諭
実務経験を活かした教育内容	小学校教諭としての児童理解の経験を活かし、幼児期の造形表現や幼保小接続の観点から実践で活用できる造形活動のための学習環境を伝えていく。

授業コード	C21060	科目分類	B37 保-1 （Ｊ）
科目名称	乳児保育Ⅰ	単位数	2.00 単位
担当教員	市野　繁子	授業区分	講義
研究室	16-302	オフィスアワー	前期　火曜日 13:00～14:30　水曜日 13:00～14:30 後期　水曜日 13:00～14:30　金曜日 10:30～12:00
授業のテーマ・内容	社会の状況が変化する中で、乳児保育の需要が高まり、乳児保育の形態も多様化し、保育の質の向上が求められている。本授業では、生涯発達のスタートとなる最も重要な乳児期の子どもを保育する「乳児保育」の基礎的な知識を深めることを目的としている。保育者として、子どもたちの健やかな成長・発達を支援するためには、3 歳未満児の発達の主な特徴を理解し、発達に即した生活や遊びの理解を深めていくことが重要である。また、時代の変化に伴い、「乳児保育」における制度等の変遷を学ぶことにより、現代社会における乳児保育のあり方や課題について学んでいく。 また、授業では、グループディスカッションを行い、発表するなどのグループワークを行う。		
到達目標	本授業の到達目標として、以下の 4 点を挙げる。 1 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解できるようになる 2 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解できるようになる 3 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解できるようになる 4 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解できるようになる		
授業開始前学習	保育所保育指針に記載されている「乳児保育」や「１歳以上３歳未満の保育」について学習しておく。 自分が住んでいる地域では、どのような形態の乳児保育が行われているかを調べておく。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：乳児保育とは何か、乳児保育の意義や目的、役割
予習：教科書第 1 章 1 コマ目をよく読み、分らない用語などや読めない漢字等を事前に調べておく
復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる
2
授業：「保育所保育指針」における乳児保育の理念と概要
予習：『保育所保育指針』をよく読み、分らない用語などや読めない漢字等を事前に調べておく
復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる
3
授業：乳児保育の歴史と変遷
予習：教科書第 1 章 3 コマ目の内容や保育原理の教科書を読んでおく
復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる
4
授業：乳児保育の基礎知識（発達理論編）
予習：教科書第 1 章 4 コマ目や発達に関する資料を読んでおく
復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる
5
授業：0・1・2 歳児のおおまかな発達の特徴と発達過程
予習：教科書（P.35-40)をよく読み、分らない用語などや読めない漢字等を事前に調べておく
復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめ
6
授業：0 歳児の保育内容（グループディスカッション）
予習：教科書第 1 章 5 コマ目をよく読み、分らない用語などや読めない漢字等を事前に調べておく
復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる
7
授業：1 歳以上 3 歳未満児の保育内容（グループディスカッション）
予習：教科書第 1 章 5 コマ目をよく読み、分らない用語などや読めない漢字等を事前に調べておく
復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる
8
授業：乳児保育の実施に関わる配慮事項
予習：教科書第 1 章 6 コマ目をよく読み、分らない用語などや読めない漢字等を事前に調べておく
復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる
9
授業：保育所、認定こども園における乳児保育
予習：教科書第 1 章 7 コマ目、8 コマ目をよく読んでおく
復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる

10
授業：乳児院における乳児保育
予習：教科書第 1 章 9 コマ目をよく読み、分らない用語などや読めない漢字等を事前に調べておく
復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる
11
授業：乳児保育が行われるその他の乳児保育
予習：教科書第 1 章 10 コマ目、11 コマ目をよく読み、分らない用語などや読めない漢字等を事前に調べておく
復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる
12
授業：子育て支援における乳児保育（グループディスカッション）
予習：教科書第 1 章 12 コマ目をよく読み、分らない用語などや読めない漢字等を事前に調べておく
復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる
13
授業：乳児保育における保護者との連携・協働（グループディスカッション）
予習：教科書第 1 章 13 コマ目をよく読み、分らない用語などや読めない漢字等を事前に調べておく
復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる。
14
授業：乳児保育における職員間・地域の関係機関との連携・協働（グループディスカッション）
予習：教科書第 1 章 15 コマ目をよく読み、分らない用語などや読めない漢字等を事前に調べておく
復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる
15
授業：乳児保育の現状と課題
予習：教科書第 1 章 16 コマ目をよく読み、分らない用語などや読めない漢字等を事前に調べておく
復習：PP 資料や、教科書の内容を振り返りノートに内容をまとめる

テキスト・教材	後藤由美，菊地篤子『 乳児保育 I・II 』中山書店 PP 資料・適宜プリントを配布する。
参考書	厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 2017 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 2017 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2018

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	△
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	○
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	○
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○

課題とフィードバック	提出された課題等については、授業内で講評を行い、疑問や質問等にも答えるようにする。
評価の基準と方法	定期試験（60%）、小テスト（30%）授業内課題及び授業への取り組み姿勢（10%）
関連科目	乳児保育Ⅱ，子どもの理解と援助，保育の心理学、子どもの食と栄養Ⅰ
その他	主体的に学びが深められる授業参加を望む。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	保育士
実務経験を活かした教育内容	保育所での実務経験から、保育者の役割の重要性や子どもへの援助や配慮について、事例などを通して、保育現場のイメージが膨らむような授業を展開していく。

授業コード	C21070			科目分類	B37 保-2 （J）
科目名称	乳児保育Ⅱ			単位数	1.00 単位
担当教員	市野 繁子			授業区分	演習
研究室	16-302	オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30 後期 水曜日 13:00～14:30 金曜日 10:30～12:00		
授業のテーマ・内容	本授業では、乳児保育Ⅰや保育実習Ⅰ（保育所）での実習を踏まえて、3 歳未満児の保育について、具体的に低年齢児の保育をイメージしながら実践力を身につけていくことを目的としている。0・1・2 歳児の主な発達の過程や特徴を捉え、一人一人の子どもに寄り添いながら、養護と教育の一体性を踏まえた、生活の援助や遊びの環境について学びを深めていく。また、乳児保育の具体的な計画の立案や、模擬授業を通して 3 歳未満児クラスでの実践に向けて、実践力の向上を目指す。 また、沐浴やおむつ交換、授乳等についても実践的に学んでいく。				
到達目標	本授業の到達目標として以下の 4 点を挙げる。 1 3 歳未満児の発育・発達の過程や特徴を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する 2 養護及び教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する 3 乳児保育における配慮の実際について、具体的に評価・改善を考えることができる 4 上記 1～3 を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に作成することができる				
授業開始前学習	保育実習Ⅰ（保育所）の実習で得た経験を思い出し、3 歳未満児との関わりの課題を考える。 3 歳未満児の主な発達の特徴を捉えるために、さまざまな資料から乳児の姿を知る。				

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：授業ガイダンスと乳児保育Ⅰの振り返り
予習：1 年次の乳児保育の授業の内容を復習しておく
復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる
2
授業：6 か月未満の子どもの育ちと保育内容①身体の育ち、心と言葉の芽生え及び保育の留意点について
予習：教科書 17 コマ目（P.134-141）をよく読み、新生児に見られる反射行動について調べておく
復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる
3
授業：6 か月未満の子どもの育ちと保育内容②睡眠・栄養摂取・排泄・衣類や着替え・安全・遊びについて
予習：教科書 18 コマ目（P.142-149）をよく読み、6 か月未満の子どもの睡眠・栄養摂取・排泄・着替え等について調べておく
復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる
4
授業：6 か月以上 1 歳未満児の子どもの育ちと保育内容①身体の育ち、心と言葉の育ち及び保育の留意点について
予習：教科書 19 コマ目（P.150-155）をよく読み、乳児期前期から後期までの運動発達、手指の発達、言語発達、対人関係について調べておく
復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる
5
授業：6 か月以上 1 歳未満児の子どもの育ちと保育内容②睡眠と排泄・離乳食の開始・衣服と着替え・安全・遊びについて（ロールプレイ）
予習：教科書 20 コマ目（P.156-163）をよく読み、乳児期後期の睡眠と排泄、離乳の開始、衣服と着替え、安全、遊びについて調べておく
復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる
6
授業：1 歳以上 2 歳未満の子どもの育ちと保育内容①身体の育ち、心と言葉の育ち及び保育の留意点について
予習：教科書 21 コマ目（P.164-169）をよく読み、1 歳以上 2 歳未満の子どもの身体の育ち、心と言葉の育ちについて調べておく
復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる
7
授業：1 歳以上 2 歳未満の子どもの育ちと保育内容②睡眠・食事・排泄（トイレットトレーニング）着替え、安全、遊びについて（ロールプレイ）
予習：教科書 22 コマ目（P.170-175）をよく読み、1 歳児の睡眠・食事・排泄（トイレットトレーニング）着替え、安全、遊びについて調べておく
復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる
8
授業：2 歳～3 歳の子どもの育ちと保育内容①身体の育ち、心と言葉の育ち及び保育の留意点について
予習：教科書 23 コマ目（P.176-183）をよく読み、2 歳～3 歳の子どもの身体の育ち、心と言葉の育ちについて調べておく
復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる
9
授業：2 歳～3 歳の子どもの育ちと保育内容②睡眠・食事・排泄・着替え・安全・遊びについて（ロールプレイ）
予習：教科書 24 コマ目（P.184-188）をよく読み、2 歳児の睡眠・食事・排泄・着替え・安全・遊びについて調べておく
復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる

10
授業：乳児保育における指導計画
予習：教科書 25 コマ目（P.192-201）をよく読み、乳児保育における短期指導計画と長期指導計画について調べておく
復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる
11
授業：子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境①子どもにとって魅力ある環境とは
予習：教科書 27 コマ目（P.208-213）をよく読み、乳児クラスの人的環境・物的環境・雰囲気などを調べておく
復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる
12
授業：子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境②遊びのアイディアとは
予習：教科書 28 コマ目（P.214-219）をよく読み、0・1・2 歳児の遊びを調べる
復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる
13
授業：乳児保育における実践と実際①手作りおもちゃの計画を立てる
予習：教材に必要な材料を準備し、計画を立てておく
復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる
14
授業：乳児保育における実践と実際②手作りおもちゃの作成
予習：手作りおもちゃを使い子どもたちがどの様に楽しめるのかを調べる
復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる
15
授業：乳児保育における今後の課題～集団保育における配慮について
予習：半期の学習を振り返り、自身の課題を見直しておく
復習：授業の内容を振り返り、各自ノートに内容をまとめる

テキスト・教材	松本峰雄監修『よくわかる！保育士エクサスサイズ 5　乳児保育演習ブック[第 2 版]』ミネルヴァ書房 PP 資料・適宜プリントを配布する。
参考書	茶々保育グループ社会福祉法人あすみ福祉会編『養成校と保育室をつなぐ理論と実践―見る・考える・創り出す乳児保育Ⅰ・Ⅱ』萌文書林 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館　2017 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館　2017

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	○
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	△
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	◎
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	○
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	○
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	◎

課題とフィードバック	提出された課題等については、授業内で講評を行い、疑問や質問等にも答えるようにする。
評価の基準と方法	授業内課題（20%）手作りおもちゃ作成課題（30%）最終レポート（50%）
関連科目	乳児保育Ⅰ，子どもの理解と援助，保育の心理学，子どもの食と栄養Ⅰ・Ⅱ
その他	主体的に学びが深められる授業参加を望む。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	保育士
実務経験を活かした教育内容	保育所での実務経験から、保育者の役割の重要性や子どもへの援助や配慮について、事例などを通して、保育現場のイメージが膨らむような授業を展開していく。

授業コード	C28000			科目分類	B36 両-1 （Ｊ）
科目名称	特別な支援を要する子どもの理解と支援Ⅰ			単位数	1.00 単位
担当教員	酒井 博美			授業区分	演習
研究室	16-308	オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 月曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 12:30～14:30 火曜日 12:30～14:30		
授業のテーマ・内容	特別支援教育の場では、身体障害、知的障害、発達障害等の特別な教育的ニーズを有する子どもに対して、発達や学習の特性をふまえ個々のニーズに応じた適切な指導や支援が求められる。 本授業では、障害の特性および指導や支援の基本的事項について理解するとともに、個々の子どもに応じたかかわりについて多角的に検討し、保育・幼児教育現場で必要な基礎的知識・技術を習得する。 必要に応じて、模擬体験、ロールプレイ、ディスカッション等を行い、内容の理解を深める。				
到達目標	1 障害による特別な教育的ニーズを有する子どもの発達と学習の特性及び基本的支援の方法を理解し説明できる 2 特別支援教育の理念と制度、支援体制、教育課程の概要を理解し説明できる 3 様々な特別な教育的ニーズのある子どもの実態を調べ説明できる 発達障害を含む特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達について説明できる 4 発達障害を含む特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援方法について説明できる 5 特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上				
授業開始前学習	指定教科書を予めよく読んでおく。				

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：授業ガイダンス、特別支援教育の概要と目的
予習：教科書「第 1 章 特別支援教育の現状と課題について」を読み、要点をまとめる
復習：特別支援教育の概要と目的についてまとめる
2
授業：障害の分類と捉え方
予習：ICF（国際生活機能分類）について調べておく
復習：身体障害、知的障害、精神障害の概要についてまとめる
3
授業：個別支援とアセスメントの概要
予習：教科書「第 4 章第 1 節 アセスメントと個別の指導計画」を読み、疑問点をまとめておく
復習：特別支援教育における個別支援およびアセスメントの意義についてまとめる
4
授業：障害の理解（1）視覚障害（模擬体験）
予習：教科書「第 5 章 視覚障害」を読み、疑問点をまとめておく
復習：視覚障害児への学習・生活支援について要点をまとめる
5
授業：障害の理解（2）聴覚障害（模擬体験）
予習：教科書「第 6 章 聴覚障害」を読み、疑問点をまとめておく
復習：視覚障害児への学習・生活支援について要点をまとめる
6
授業：障害の理解（3）言語障害（事例研究）
予習：教科書「第 7 章 言語障害」を読み、疑問点をまとめておく
復習：言語障害児への学習・生活支援について要点をまとめる
7
授業：障害の理解（4）運動障害・肢体不自由（事例研究）
予習：教科書「第 8 章 運動障害・肢体不自由」を読み、疑問点をまとめておく
復習：言語障害児への学習・生活支援について要点をまとめる
8
授業：障害の理解（5）内部障害（事例研究）
予習：内部障害の種類を調べておく
復習：内部障害児への学習・生活支援について要点をまとめる
9
授業：障害の理解（6）中・重度知的障害（主に病理型）（事例研究）
予習：教科書「第 9 章 中重度知的障害」を読み、疑問点をまとめておく
復習：中・重度知的障害児への学習・生活支援について要点をまとめる
10
授業：障害の理解（7）軽度知的障害（主に生理型）（事例研究）
予習：教科書「第 10 章 軽度知的障害」を読み、疑問点をまとめておく
復習：軽度知的障害児への学習・生活支援について要点をまとめる

11 授業：障害の理解（8）病弱・身体虚弱（事例研究） 予習：教科書「第 11 章　病弱身体虚弱・重度重複障害」を読み、疑問点をまとめておく 復習：病弱・身体虚弱児への学習・生活支援について要点をまとめる 12 授業：障害の理解（9）発達障害（定義と分類） 予習：教科書「第 12 章　発達障害の定義」を読み、疑問点をまとめておく 復習：発達障害の現状を調べまとめる 13 授業：特別な教育的ニーズを必要とする子どもへの対応（グループディスカッション） 予習：教科書「第 16 章第 1 節　不登校、第 3 節　子どもの貧困、第 4 節　虐待」を読み、疑問点をまとめておく 復習：特別な教育的ニーズを必要とする子どもへの対応のポイントをまとめる 14 授業：就学移行における支援（グループワーク） 予習：教科書「第 21 章　就学前の幼稚園・保育所における支援と就学移行」を読み、疑問点をまとめておく 復習：インクルーシブ保育と小学校への移行支援について要点をまとめる 15 授業：まとめ：特別支援教育の昨今の役割と今後の展望 予習：これまでに授業で扱った内容について総復習をし、疑問点を挙げておく 復習：提示する課題に応じてレポートを作成する	
テキスト・教材	梅永雄二編著『みんなで考える特別支援教育』（北樹出版）
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）　等
卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○
課題とフィードバック	提示した課題（発表も含む）は授業内にて講評し、レポート課題は個別にフィードバックする。
評価の基準と方法	レポート課題（50%）、授業への取り組み姿勢（グループワークへの参加度、意見の発言等）（50%）
関連科目	特別な支援を要する子どもの理解と支援Ⅱ、教育相談、保育の心理学
その他	授業内容の理解促進のために、各回の授業に真剣かつ積極的に取り組むことを望む。 また、提出物の期限は必ず守ること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	公認心理師
実務経験を活かした教育内容	主に発達障害児・者に対する心理学的支援の経験から、障害児の心理面の理解やそれに基づく指導・支援について、事例を示しながら授業を展開する。

授業コード	C28100			科目分類	B36 両-2 （Ｊ）
科目名称	特別な支援を要する子どもの理解と支援Ⅱ			単位数	1.00 単位
担当教員	酒井 博美			授業区分	演習
研究室	16-308	オフィスアワー	前期 火曜日 13:00～14:30 月曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 12:30～14:30 火曜日 12:30～14:30		
授業のテーマ・内容	本授業では、特別な支援を要する子どもの理解と支援Ⅰで学習した内容をふまえて、特に発達障害の障害特性や指導方法を深く学ぶ。その際に重要なのは、支援者として発達アセスメント等を通して、長所、得意な点を把握し、それらを活かし伸ばすことにより、課題を克服・改善できる実践的能力を身につけることである。以上をふまえた概説、演習を行う。				
到達目標	1 発達障害の特性とそれに応じた支援や指導方法を理解し、説明できる 2 アセスメント等を通して的確に子どもの特性や課題を把握し、実践に繋げられる力を備える				
授業開始前学習	特別な支援を要する子どもの理解と支援Ⅰで学んだ内容および施設実習での経験を振り返っておく。				

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：授業ガイダンス、特別支援教育の概要についての振り返り
予習：特別支援教育とは何か、どのような意義をもつのかについて思い出しておく
復習：特別支援教育の概要と意義をまとめる
2
授業：障害とは何か、障害観の現状
予習：障害の 3 分類および ICF（国際生活機能分類）について振り返っておく
復習：障害観が過去からどのように変化したかについてまとめる
3
授業：生涯発達における各発達期の特徴
予習：EH.エリクソンの発達理論について振り返っておく
復習：各発達期の心理的特徴をまとめる
4
授業：発達アセスメント（1）発達検査
予習：乳幼児健診の内容について調べておく
復習：発達検査の種類と内容および目的をまとめる
5
授業：発達アセスメント（2）知能検査
予習：主な知能検査にはどのようなものがあるか調べておく
復習：知能検査の種類と内容および目的をまとめる
6
授業：発達障害の理解（1）概要
予習：発達障害とは何か調べておく
復習：発達障害の原因や基本的な考え方についてまとめる
7
授業：発達障害の理解（2）自閉症スペクトラム障害（事例研究）
予習：自閉症スペクトラム障害について調べておく
復習：自閉症スペクトラム障害の特性を「三つ組」を中心にまとめる
8
授業：発達障害の理解（3）自閉症スペクトラム障害児への支援・指導（グループワーク）
予習：自閉症スペクトラム障害の特性を振り返っておく
復習：自閉症スペクトラム障害児への支援・指導におけるポイントをまとめる
9
授業：発達障害の理解（4）注意欠如多動性障害（事例研究）
予習：注意欠如多動性障害について調べておく
復習：注意欠如多動性障害の 3 つの主な症状を中心にまとめる
10
授業：発達障害の理解（5）注意欠如多動性障害児への支援・指導（グループワーク）
予習：注意欠如多動性障害の特性を振り返っておく
復習：注意欠如多動性障害児への支援・指導におけるポイントをまとめる
11
授業：発達障害の理解（6）限局性学習障害（事例研究）
予習：限局性学習障害について調べておく
復習：限局性学習障害の特性を症状の個人差を中心にまとめる

12 授業：発達障害の理解（7）限局性学習障害児への支援・指導（グループワーク） 予習：限局性学習障害の特性を振り返っておく 復習：限局性学習障害児への支援・指導におけるポイントをまとめる 13 授業：知的発達の障害（事例研究） 予習：知的能力とは何か調べておく 復習：知的障害の特性を重症度に応じてまとめる 14 授業：知的障害児への支援・指導（グループワーク） 予習：知的障害の特性を振り返っておく 復習：知的障害児への支援・指導におけるポイントをまとめる 15 授業：「障害者の権利に関する条約」と「合理的配慮」 予習： 合理的配慮とは何か、またどのようなことがなされているかについて調べておく 復習：「障害者の権利に関する条約」と「合理的配慮」の内容と重要性を理解し、まとめる	
テキスト・教材	必要に応じて資料を配付する。
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） 梅谷忠勇・生川善雄・堅田明義 編著『特別支援児の心理学［新版］理解と支援』（北大路書房） 等
卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	◎
課題とフィードバック	提示した課題（発表も含む）は授業内にて講評し、レポート課題は個別にフィードバックする。
評価の基準と方法	レポート課題（50%）、授業への取り組み姿勢（グループワークへの参加度、意見の発言等）（50%）
関連科目	特別な支援を要する子どもの理解と支援Ⅰ，教育相談，保育の心理学
その他	授業内容の理解促進のために、各回の授業に真剣かつ積極的に取り組むことを望む。 また、提出物の期限は必ず守ること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	公認心理師
実務経験を活かした教育内容	主に発達障害児・者に対する心理学的支援の経験から、発達障害児の心理面の理解やそれに基づく指導・支援について、事例を示しながら授業を展開する。

授業コード	C26500			科目分類	B36 保-2 （Ｊ）
科目名称	社会的養護Ⅱ/社会的養護内容			単位数	1.00 単位
担当教員	今井 大二郎			授業区分	演習
研究室	16-310	オフィスアワー	前期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30		
授業のテーマ・内容	社会的養護Ⅱは、社会的養護を必要とする子どもやその家庭への支援内容について具体的に学ぶ授業である。社会的養護施設における日常生活支援や治療的支援の実践をはじめ、家庭復帰や社会自立に向けた保育士としてのソーシャルワーク実践についても、事例分析を通してその留意事項や実践に欠かせない視点を学ぶ。そして具体的な知識や技術を養い、子どもやケースに応じた最善の利益追求の実現に努める保育士としての倫理観や責務を醸成していく。				
到達目標	1 社会的養護における児童の権利擁護や保育士の倫理についての視点を身につけることができる 2 対象となる子どもやその家庭の抱えるニーズや課題について説明することができる 3 自立支援計画を基にアドミッションケア～アフターケアにおける実践やその留意点について理解できる 4 保育士としてのソーシャルワーク実践について理解できる 5 家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉と社会的養護との関連について説明することができる				
授業開始前学習	1 年次の「社会的養護Ⅰ」について学習内容をよく復習すること。加えて、保育実習Ⅰ（施設）の学習内容を振り返り、学んだ知識やスキルを具体的にまとめておくこと。				

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：支援活動の特性
予習：保育実習Ⅰ（施設）での具体的な学びを振り返りまとめる
復習：支援活動とは何か。その特性について配布したレジメを参考にノートにまとめる
2
授業：保育士等の倫理及び責務Ⅰ～関連発達理論の重要性～
予習：アタッチメントについて調べノートにまとめる
復習：アタッチメントの二つの重要性についてレジメを参考にノートにまとめる
3
授業：保育士等の倫理及び責務Ⅱ～関連発達理論とその実際～
予習：エリクソンの発達課題について調べノートにまとめる
復習：乳幼児期の重要性についてその後の発達課題と関連付けてノートにまとめる
4
授業：子ども虐待①（加害する親の実際）
予習：加害する親の傾向について調べノートにまとめる
復習：保護者支援に必要な要素についてノートにまとめる
5
授業：子ども虐待②（心身に及ぼす深刻な影響）
予習：子ども虐待についてこれまでの学びをノートにまとめる
復習：被虐待児の行動特性と支援者の治療的ケアについてノートにまとめる
6
授業：子どものニーズに沿った社会的養護の専門的技術①（問題行動に対する修正的な支援者のかかわり）
予習：「子どもと向き合う」ということは何か、自分の考えをノートにまとめる
復習：向き合うことに必要な具体的要素についてノートにまとめる
7
授業：子どものニーズに沿った社会的養護の専門的技術②（プラスの経験を積み重ねるための支援者の実践）
予習：発達障害についてこれまで学んだことをまとめる
復習：課題がある子どもの伴走者として必要な要素について授業内容を参考にノートにまとめる
8
授業：アドミッションケア/インケア/リービングケア/アフターケア
予習：テキスト P.12-15，P.96-103，P.122-127 を読み、各課程の保育士の留意事項についてノートにまとめる
復習：自立支援計画書に基づいた各課程の課題についてノートにまとめる
9
授業：施設退所児童への支援（自立援助ホーム）
予習：自立援助ホームについて調べノートにまとめる
復習：社会的養護施設を退所した者への支援の重要性についてノートにまとめる
10
授業：演習①（子どもの権利について考える～保育士の使命～）
予習：社会的養護Ⅰで学んだ「子ども権利」についてノートにまとめる
復習：支援者の子どもの権利を保障する直接的視点についてノートにまとめる

11 授業：演習②事例分析～乳児院における家庭復帰支援～（グループディスカッション） 予習：乳児院の家庭復帰支援や措置延長について社会的養護Ⅰのレジメを復習しノートにまとめる 復習：伴走者としての支援者の留意点についてノートにまとめる 12 授業：演習③保育士の専門性にかかわる知識・技術とその応用：～最善の利益追求の指標～（グループディスカッション） 予習：「アカウンタビリティ」「アドボカシー」といった福利理念や用語について調べノートにまとめる 復習：福祉理念を具体化する上で必要な支援者の倫理観について自分なりにノートにまとめる 13 授業：ソーシャルワークにかかる知識と視点（行政機関の具体的な役割） 予習：一時保護に関連する児童福祉法の条文についてノートにまとめる 復習：児童相談所の機能と役割について調べノートにまとめる 14 授業：社会的養護の課題と展望～子育て支援と社会的養護～ 予習：要保護児童対策地域協議会について調べノートにまとめる 復習：子ども虐待ケースに対する保育現場の具体的な実践についてまとめる 15 授業：社会的養護における家庭支援～赤ちゃんポストのその後について考える～ 予習：養子縁組について調べノートにまとめる 復習：扱った事例についての子どもの真意について考察しノートにまとめる	
テキスト・教材	中山正雄監修『よりそい支える社会的養護Ⅱ』（教育情報出版）
参考書	東京都社会福祉協議会児童部会リービングケア委員会編『Leaving care～児童養護施設職員のための自立支援ハンドブック』

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	△
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	△
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○

課題とフィードバック	授業テーマに応じて小レポート・振り返りの課題、小テストを実施する。（授業内において適宜、講評する）
評価の基準と方法	試験（60%）、小レポートと小テスト・振り返りの課題（40%）
関連科目	社会的養護Ⅰ
その他	クリアファイル等を用意し、テーマごとに配布するレジメや資料を適宜整理すること。またテキストと一緒に毎回持参すること。講義に参加するにあたり、板書以外の内容も重要なことを多く伝えるので積極的にメモをとることが肝要である。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	児童指導員
実務経験を活かした教育内容	福祉理念や理論の実践例について、支援計画の策定から実践までの過程におけるケアワーカー・ソーシャルワーカーの留意点を踏まえ解説する。

授業コード	C23808			科目分類	B37 両-1
科目名称	○教育方法			単位数	2.00 単位
担当教員	古屋 真			授業区分	講義
研究室	16-313	オフィスアワー	前期 金曜日 10:40～14:30 後期 金曜日 10:40～14:30		
授業のテーマ・内容	乳幼児期の教育は、「環境を通して行う教育」が基本となる。本授業では、乳幼児期の教育を展開するために必要となる基礎的な知識や技術（保育の営み全般における情報機器及び教材の活用方法も含む）の修得を目指す。 保育の循環（子ども理解・計画・実践・評価）にそって、グループによる事例検討を行いながら、子ども理解、指導計画の作成方法、子どもに応じた援助方法や保育の振り返り方について学ぶ。				
到達目標	本授業の到達目標として、以下の 4 点を挙げる。 1 子ども理解から始まる保育の基本的な流れを説明することができる 2 部分実習を見据えた指導計画（案）を作成することができる 3 子どもの主体的な活動を促す環境構成や言葉かけなどの基礎的な保育技術を身につけることができる 4 保育記録や要録など、保育を振り返り、記録する意味や方法を理解することができる				
授業開始前学習	文部科学省編『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）の第 1 章第 1 節「幼児教育の基本」（P.23-48）を読む。				

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：教育方法（保育方法）の基本的な考え方を学ぶ
予習：『幼稚園教育要領』の P.5 を要約する
復習：保育の循環（子ども理解・計画・実践・評価）をノートにまとめる
2
授業：子ども理解①：子どもの姿を捉える視点や態度を学ぶ（グループによる事例検討を含む）
予習：子どもの遊びを観察し、遊びの様子をノートに書き出す
復習：遊びや活動から子どもの想いを読み取る視点や態度についてノートにまとめる
3
授業：子ども理解②：子どもの発達を見取る視点を学ぶ
予習：「保育の心理学」の学修内容を振り返り、疑問点をノートに書き出す
復習：「身体・運動・習慣」「操作・認知」「言葉・社会性」の観点から、0 歳～6 歳までの子どもの発達をノートにまとめる
4
授業：子ども理解③：個と集団を生かした保育を学ぶ（グループによる事例検討を含む）
予習：子どもの遊びを観察し、一人遊びと集団遊びの様子をノートに書き出す
復習：個と集団の関係性やそれらの活用方法をノートにまとめる
5
授業：指導計画の作成①：指導計画の構成要素と作成手順を学ぶ
予習：前時に配付する「指導計画作成の手引き」をよく読み、疑問点をノートに書き出す
復習：指導計画の構成要素と作成手順をノートにまとめる
6
授業：指導計画の作成②：「ねらい」と「内容」の関連性を学ぶ（グループによる事例検討を含む）
予習：前時に提示する子どもの姿にそって保育者の願いとメインの活動を考え、素案プリントにまとめる
復習：指導計画における「ねらい」と「内容」の関連性の確認方法をノートにまとめる
7
授業：指導計画の作成③：教材研究（パソコン等の情報通信機器や音響・映像機器を活用した教材作成や提示の方法を含む）と活動の展開方法を学ぶ
予習：前時に考えたメインの活動の進め方を導入・展開・まとめの段階別に考え、指導計画（案）プリントにまとめる
復習：指導計画における「導入」「展開」「まとめ」の流れの意味をノートにまとめる
8
授業：指導計画の作成④：指導計画における振り返りの視点を考える
予習：前時に計画した活動終了後の子どもの姿を想像し、指導計画（案）プリントにまとめる
復習：保育の循環「子ども理解・計画・実践・評価」を視点に作成した指導計画を振り返る
9
授業：保育実践①：子どもの生活や遊びを支える保育を学ぶ（グループによる事例検討を含む）
予習：子どもの遊びを観察し、子どもの学びを 5 領域ごとにノートに書き出す
復習：遊びを通した総合的な指導の意味をノートにまとめる
10
授業：保育実践②：環境構成の技術（子どもが触れる情報環境の在り方と構成方法を含む）を学ぶ
予習：「アフォーダンス理論」の概要をノートに書き出す
復習：環境を通して行う教育の意味と、子どもの主体性を促す環境の要素についてノートにまとめる

11 授業：保育実践③：保育者の言葉かけの技術を学ぶ（グループによる事例検討を含む） 予習：保育実習Ⅰ（保育所）において、自分が子どもにかけた言葉かけの場面・内容・意図をノートに書き出す 復習：思考を促す言葉かけ（Sustained Shared Thinking）の概要をノートにまとめる 12 授業：保育実践④：様々な保育主義や保育形態を学ぶ 予習：「自由保育」「設定保育」「コーナー保育」の違いをノートに書き出す 復習：学修した保育主義や保育形態をノートにまとめる 13 授業：評価①：保育記録のまとめ方（パソコン等の情報通信機器を用いた保育活動の記録作成の方法を含む）を学ぶ 予習：『幼稚園教育要領』の P.5-8 を要約する 復習：子どもの育ちとそれにかかわる保育者の援助の記録方法をノートにまとめる 14 授業：評価②：要録のまとめ方を学ぶ 予習：幼稚園幼児指導要録と保育所児童保育要録について調べ、疑問点をノートに書き出す 復習：1 年間の保育を要録にまとめる意味についてノートにまとめる 15 授業：これからの教育方法（保育方法）の在り方を考える：子どもの遊びとアクティブ・ラーニング 予習：保育の循環（子ども理解・計画・実践・評価）にそって今までの学修内容をノートに整理する 復習：自身の理想とする教育方法（保育方法）をノートにまとめる	
テキスト・教材	特になし
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）
卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	△
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	△
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	△
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	△
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	
課題とフィードバック	指導計画（部分案）作成を課す（授業内にて、適宜、講評する） 授業毎に小レポートを課す（翌週の授業内にて、適宜、講評する）
評価の基準と方法	授業毎の小レポート（40%），指導計画（案）（20%），定期試験（40%）
関連科目	教育原理，保育・教育課程論
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

授業コード	C29400	科目分類	B37 保-1 （Ｊ）
科目名称	○児童文化／児童文化Ⅰ	単位数	1.00 単位
担当教員	内田・岡田／内田　早穂子／岡田　哲也	授業区分	演習
研究室	－	オフィスアワー	－
授業のテーマ・内容	保育において、子どもたちの育ち（発達）と児童文化は密接な関係にある。 本授業では、児童文化財と呼ばれるもの（おもちゃ、児童文学、絵本、紙芝居、折り紙、ペープサート、パネルシアター等）に触れながら、児童文化の役割や意義について理解を深める。 そのために、保育の現場で出会う児童文化財の特色（扱い方、保育への取り入れ方、子どもの育ちとの関わり等）を学び、ロールプレイやグループワーク、ディスカッション、発表を通して知識と技術を身につける。 また、子ども達の遊びを育むために、保育者自身がその遊びを理解し「楽しむ力」、自ら遊びを「作り出す力」、子ども達の見つける遊びに「共感する力」を実践を通して身につける。		
到達目標	本授業の到達目標として、以下の 7 点を挙げる。 1 児童文化についての意義や役割、面白みを知る 2 子どもの発達段階や環境に応じた活動（計画を含む）を選択・提案することができるようになる 3 ロールプレイを通じて、保育の現場でできる実践のポイントを習得する 4 自ら遊び、その楽しさを子ども達に伝えることができるようになる 5 遊びを通じて、他者と関わるコミュニケーションを深めることができるようになる 6 遊びの要素を見つけ、作り出すことができるようになる 7 身近な材料から、おもちゃを作る技術		
授業開始前学習	・指定された持ち物や用具を持参するなど事前準備を行う。 ・児童文化とは何か？を調べる。 ・自身の幼少期にどんなことをして遊んでいたかを振り返る。 ・NPO 法人　芸術と遊び創造協会及び東京おもちゃ美術館の HP から確認しておく。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：オリエンテーション/子どもにとっての遊びの意味と役割を考え、児童文化について知る［内田］［岡田］
予習：ご自身が 3 歳～6 歳頃の就学前にどんな遊びをしていたかを振り返ったり、家族に聞いたりしておく
　　芸術と遊び創造協会/東京おもちゃ美術館について、HP などを通じて調べておく
復習：児童文化を学ぶ意義と役割について整理する
2
授業：保育における『子ども・保育者』にとっての児童文化（児童文化財）とは　［内田］
予習：保育の現場にある児童文化（児童文化財）について調べたり、考えたりしてレポートにまとめる
復習：グループディスカッションや授業で確認した内容について、レポートを整理する
3
授業：手作りおもちゃの考察と実践①　－ 紙コップを使った手作りおもちゃ －（グループワーク）［岡田］
予習：手作りのおもちゃの良いところについて考え、レポートにまとめる
復習：紙コップを使って、他にどのような遊びを作ることができるか、レポートにまとめる
4
授業：手遊びと絵本読み聞かせ実践　－ 読み聞かせのコツや子どもからの見え方を知る（グループワーク）［内田］
予習：対象としたい年齢に合わせた絵本と手遊びを調べて用意し、読み聞かせや実践の練習をする。練習の中での疑問点や考察、感想をまとめる
復習：授業内容（手遊びや読み聞かせの意義）とグループワークを振り返り、気づき（気づいたこと）や考えを整理してレポートにまとめる
5
授業：手作りおもちゃの考察と実践②　－ 紙皿を使った手作りおもちゃ －（グループワーク）［岡田］
予習：紙皿の形態的特徴を捉えて、レポートにまとめる
復習：紙皿を使って、他にどのような遊びを作ることができるか、レポートにまとめる
6
授業：ペープサート実践①（制作・グループワーク「手順・自分の役割を理解し、見通しを持って制作する」）［内田］
予習：ペープサートについて下調べをし、分かったことや制作のアイディアをレポートにまとめる
復習：発表に向けて、レポートに記入した内容・役割・予定を確認し、次回に向けて発表のイメージをもつ
7
授業：子ども文化施設の役割についての考察（ディスカッション）［岡田］
予習：東京おもちゃ美術館の HP 等を見て、その特徴をまとめる
復習：他の子ども文化施設についても調べる
8
授業：ペープサート実践②（グループワーク「グループで共通認識を持ち、発表をする」）［内田］
予習：グループで行う発表に向けて、内容と進め方を確認し、発表時のイメージづくりをする
復習：自身のグループや他グループの発表から気が付いたこと考えたことと保育の中で取り入れる時のポイントについてレポートにまとめる

9 授業：ゲームについての考察と実践（ディスカッション）［岡田］ 予習：子どもの頃に遊んだボードゲーム・カードゲームを振り返り、レポートにまとめる 復習：ゲームを構成する要素について考え、レポートにまとめる 10 授業：季節や行事に応じた折り紙や制作活動 （制作）［内田］ 予習：折り紙や制作活動について調べたことや実習時に知ったこと、考えたことをレポートにまとめる 復習：授業での気づきや発見、保育の中で挑戦してみたい折り紙や制作活動についてレポートにまとめる 11 授業：伝承遊びについての考察と実践（グループワーク）［岡田］ 予習：子どもの頃に遊んだ伝承遊びを振り返り、レポートにまとめる 復習：伝承遊びの特徴について考え、レポートにまとめる 12 授業：絵本とおもちゃをつなげる考察と実践① （プレゼンテーション）［岡田］ 予習：遊びを広げるヒントについて考え、レポートにまとめる 復習：課題おもちゃとつながりを感じる絵本について考える 13 授業：絵本とおもちゃをつなげる考察と実践②（プレゼンテーション）［岡田］ 予習：課題おもちゃとつながりと感じる絵本について考える 復習：おもちゃと絵本のつながりについてレポートにまとめる 14 授業：パネルシアター実践①（制作・グループワーク「手順を理解し、役割分担をして制作を行う」）［内田］ 予習：パネルシアターについて下調べをし、実践してみたい案をレポートにまとめる 復習：作成手順や自身の役割、グループで話し合ったことを確認し、レポートにまとめる 15 授業：パネルシアター実践②（制作・グループワーク「役割分担をして制作をし、練習を行う」）［内田］ 予習：前回の授業での進みを確認し、発表の仕方や方法、イメージを考える 復習：自身のグループや他グループの発表から気が付いたこと考えたことと保育の中で取り入れる時のポイントについてレポートにまとめる	
テキスト・教材	適宜、講義内にて資料を配布する。
参考書	槇英子編著『保育をひらく造形表現』（萌文書林） 小川清美編緒『演習 児童文化 保育内容としての実践と展開』（萌文書林） 中坪史典編著『児童文化がひらく豊かな保育実践』（保育出版社） 川勝泰介・浅岡靖央・生駒幸子編著『こどもと表現力を育む 児童文化』（萌文書林） 皆川美恵子・武田京子編著『新版 児童文化』（ななみ書房） 宮地明子著『12 か月の製作あそびアイデア Book』（ナツメ社） 町田里美著『０・１・２歳児のかんたん製作あそび 12 か月』（ナツメ社） 吉井潤・柏原寛一著『つくってあそぼう！ 本

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	○
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	○
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	○
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	△
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	

課題とフィードバック	レポート作成や児童文化財制作（グループワーク、個人ワーク）をする課題を課す（授業内において、適宜、講評する）。
評価の基準と方法	授業への参加や活動の取り組み姿勢（50%）、授業毎の提出課題・レポート（50%）
関連科目	造形基礎Ⅰ・Ⅱ，保育内容系科目
その他	学生の主体的な参加を望む。また、授業毎に必要な文具（ハサミや糊など）や材料を持参すること。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	・内田早穂子：幼稚園教諭，保育士 ・岡田　哲也：認定 NPO 法人　芸術と遊び創造協会　人材育成部　東京おもちゃ美術館　ディレクター・おもちゃコンサルタント
実務経験を活かした教育内容	・内田早穂子：幼稚園教諭としての保育経験、且つ児童発達支援事業所で保育士として療育をしている経験から、現場での児童文化財の具体的な活用例に加えて、発達に応じた工夫の仕方についても示し、保育（実習・実践力）に繋がる授業を展開していく。 ・岡田　哲也：おもちゃを通じて子ども達と関わるポイントや、手作りおもちゃの指導などを実践的に取り入れ、学生自身が遊びを理解し、子ども達が作り出す遊びに共感できる授業を展開していく。

授業コード	C24400	科目分類	B37 両-2 （Ｊ）
科目名称	○現代保育実践の課題 A／保幼小接続／生活	単位数	2.00 単位
担当教員	猪熊 弘子	授業区分	講義
研究室	16-303	オフィスアワー	前期 木曜日 10:30～12:00 金曜日 10:30～12:00 後期 木曜日 10:30～14:30
授業のテーマ・内容	現代の保育実践における課題の一つに幼稚園・保育所と小学校の接続がある。かつては小学校に入学してから学校生活に馴染めず不安定な状態になる子がいる「小１プロブレム」など、大きな社会問題となることもあった。それらは現在でも「幼保小の接続」として、幼稚園・保育所・こども園の側も、小学校の側も双方が共に抱える大きな課題となっている。現在、「子ども主体」「遊び中心」の「経験カリキュラム」である幼児教育現場での生活から、「学び」中心の「教科カリキュラム」の小学校の生活へと子どもたちがスムーズに移行するために、さまざまな方法が考えられている。特に 2022 年度からは文科省が「架け橋プログラム」をモデル事業としていくつかの地域でスタートしている。この授業では「幼保小の接続」と「架け橋プログラム」の内容について学ぶほか、それらの記録や評価、また幼児のジェンダー教育など、最新の保育の課題について学んでいく。		
到達目標	1「幼保小の接続」について「架け橋プログラム」の内容などを踏まえ、幼児教育・保育の現場で必要なことを理解する。 2 保育における記録や評価の方法について、日本や海外でどのような実践が行われているかを知り、実際の実践で必要なことを理解する。 3 幼児へのジェンダー教育など、最も新しい社会的な課題について学び、実際に現場でどのように生かしていくか考えられるようになる。		
授業開始前学習	自分の子ども時代のことについて、就学前の教育（保育園・幼稚園・こども園）から、小学校に入った後、どのように変わったか等を思い出し、まとめておく。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿①
予習：『幼稚園教育要領』第１章総則 第２を読んでおく。
復習：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10 の姿）」の項目をまとめておく。
2
授業：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿②
予習：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目について確認しておく。
復習：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10 の姿）」と５領域の関連についてまとめておく。
3
授業：「10 の姿」と小学校の科目のつながり
予習：小学校低学年の生活について、自分の経験を思い出しておく。
復習：小学校入学後の子どもたちの生活、学習のあり方についてまとめる。
4
授業：架け橋プログラム① ～アプローチカリキュラム
予習：架け橋プログラムとは何か調べておく。
復習：架け橋プログラムの内容と実践状況、課題についてまとめておく。
5
授業：架け橋プログラム②～スタートカリキュラム
予習：アプローチカリキュラムへと繋ぐために幼児教育で何が必要か考えておく。
復習：さまざまな自治体における架け橋プログラムの実践について、まとめておく。
6
授業：幼保小の接続の実際 ①（グループワーク）
予習：自分が住んでいる自治体の幼保小の接続について調べておく。
復習：さまざまな接続の方法があることを知り、保育者がどのように関わればよいかまとめておく。
7
授業：幼保小の接続の実際② （発表）
予習：同じ自治体に住んでいる人とグループを組み、自治体の幼保小の接続について調べてまとめる。
復習：発表したものを課題として提出し、他の人が発表したものも含めて振り返る。
8
授業：保育の記録と評価①
予習：自分が実習に行った園でどのように保育を記録していたか確認し、自分が実習に行った際に書いていた日誌を読み直しておく。。
復習：エピソード記録・ドキュメンテーションについてまとめておく。
9
授業：保育の記録と評価②
予習：世界ではどのような記録・評価の方法がとられているか、調べておく。
復習：ラーニング・ストーリー、レッジョエミリアの保育など、海外の保育の記録と評価についてまとめておく。

10
授業：保育の記録と評価③
予習：エピソード記録、ドキュメンテーション、海外での保育の記録と評価についてまとめたものを読み直しておく
復習：実際の保育を見て、どのような記録・評価を行うか、グループで話し合い、発表する。
11
授業：「10 の姿」と要録について
予習：指導要録・児童要録について調べ、実習先の園での状況などを思い出してまとめておく。
復習：「10 の姿」から要録へとつなげる書き方をまとめておく。
12
授業：「10 の姿」と児童票について
予習：児童票について調べ、実習先の園での状況などを思い出してまとめておく。
復習：「10 の姿」から児童表へとつなげる書き方をまとめておく。
13
授業：子どもとジェンダー
予習：自分が子どもの頃、ジェンダーについて周囲がどのように対応していたかを思い出し、保育者としてどのような関わりが必要かを考えておく。
復習：日本と世界のジェンダー教育について、また、保育者としてジェンダーをどのようにとらえて子どもたちに関わっていくべきかまとめておく
14
授業：幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン「はじめの 100 か月の育ちビジョン」
予習：「はじめの 100 か月の育ちビジョン」とは何か、調べておく。
復習：子どもの育ちに必要なことをふりかえり、保育者としてどのように関わることが必要か考えてまとめる。
15
授業：就学前の教育と小学校教育の接続についてまとめ、レポートに取り組む。
予習：これまでの授業で習った幼・保・こども園と小学校教育の関わりについて見直しておく。
復習：就学前の教育から小学校教育へとスムーズに接続するための教員の役割や、保育・幼児教育における「記録」の大切さについてまとめる。

テキスト・教材	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）
参考書	小玉亮子・編著『幼小接続期の家族・園・学校』東洋館出版社 その他、適宜資料を配付する。

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	◎
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	◎
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	△
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	○
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	○
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	◎

課題とフィードバック	授業内で前回の課題についてフィードバックを行う。
評価の基準と方法	リアクションペーパー等、授業内で出す課題（70%）、レポート(30%)
関連科目	全科目（現代保育実践の課題Ｂ，保育・教職実践演習（幼稚園），幼児教育制度論，保育内容「○○」）
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	○

実務経験の内容	記者として、また幼稚園・保育所の副園長として、就学前教育と小学校以降の教育との連携に関わってきた経験を踏まえて指導する。
実務経験を活かした教育内容	実際に園で用いる記録や評価の方法のほか、新聞記事、雑誌記事、ニュース報道など、身近な話題を敏感に取り入れ、学生が幅広く学べるようにする。

授業コード	C24401	科目分類	B37 両-2 （Ｊ）
科目名称	○現代保育実践の課題 B	単位数	1.00 単位
担当教員	上出 香波	授業区分	演習
研究室	16-311	オフィスアワー	前期 木曜日 10:00～13:00 後期 木曜日 11:30～14:30
授業のテーマ・内容	現代社会における子どもの育つ環境の変化や小児医療の進歩などにより、保育現場において特別な配慮や支援を要する子どもが増加している。これに伴い、保育者は新たな課題に直面している。その一つとして新たな法の制定などにより医療的ケア児・病児におけるインクルーシブ保育の推進が求められている。本授業は、現代の保育における課題とされている医療保育に焦点を当て、子どもとその家族のニーズにおいて適切に対応できるスキルを養うことを目的とした内容を学修する。実際の現場に即した事例の検討や実践を通して必要とされる保育の基礎とともに、小児医療にかかわる専門領域の知識と技術を修得する。		
到達目標	1 現代社会の子どもと家庭を取り巻く課題について理解し、支援内容も含めて説明できるようになる 2 多様化する保育ニーズに対応できる知識や技術を習得し、活用できるようになる 3 小児医療や福祉における多角的支援として、多職種連携への視点をもち、保育職を含め各職種の専門性について説明することができる 4 医療を要する子どもの個々のニーズに合わせた実践的な配慮、保育について工夫した保育計画を立案できる		
授業開始前学習	現代社会における子どもと家庭を取り巻く様々な課題について、文献等を検索し調べ学習しておくこと		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：ガイダンス　現代社会における子どもと家庭を取り巻く課題、特別な支援や配慮を要する子どもとは
予習：シラバスで本授業の目標、内容を確認し、現代社会の子どもと家庭を取り巻く課題について調べ、まとめておく
復習：授業内容を振り返り、現代社会の子どもと家庭を取り巻く課題と特別な配慮や支援が必要な子どもについて整理し、自分なりの考察も含めてまとめる
2
授業：医療保育の概論：病（後）児保育・病棟保育・外来保育、医療的ケア児とは
予習：医療保育、医療的ケア児について、調べ学習をおこない疑問点も含めてまとめておく
復習：医療保育 4 つの保育種別、医療的ケア児について授業内容を振り返りまとめる
3
授業：医療的ケア児、障がいを有する児と家族の保育支援（ゲストスピーカー：医療的ケア児と家族による講話を聴講）
予習：医療的ケア児、障がいを有する児との家族の課題や支援について調べ、疑問点を含めまとめておく
復習：医療的ケア児の家族の講話を聴き、事前学習の内容を踏まえ現代保育の課題として振り返りと考察をまとめる
4
授業：＜特別講義：大学看護学部　秋田由美先生・橋浦里実先生＞医療を要する子どもの保育における多職種連携と協働
　小児領域の看護師から学ぶ：看護師の専門性を知る、看護実習室による医療を要する子どもにかかわる実際の医療器具等の見学、医療実践の模擬体験
予習：保育や小児医療現場で密接かつ重要な連携を図る看護師について職種の専門性について調べ、どのような連携が可能であるか自分なりの考えをまとめておく
　特定行為による医療的ケアについて、調べ学習をおこない疑問点も含めてまとめておく
復習：看護師の専門性と多職種協働、保育の専門職として専門性を活かした多職種間連携について考察を含めてまとめる
　医療的ケアの授業内容を振り返りまとめる
5
授業：幼稚園・保育所における医療的ケア児への保育
予習：幼稚園・保育所に在籍する医療的ケア児・医療的ケア児支援法について、調べ学習をおこない疑問点も含めてまとめておく
復習：医療的ケア、特定行為など保育にかかわる技術、インシデント・アクシデント事例とともに授業内容を振り返りまとめる
6
授業：医療を要する子どもの保育実践①：遊び、プレパレーション、ディストラクション
　プレパレーションの実際、遊びの保育計画、製作（グループワーク）
予習：小児医療におけるプレパレーション、ディストラクションについて調べ、疑問点を含めまとめておく
復習：授業を振り返り、プレパレーションやディストラクションが遊びとのつながり、子どもにとって遊びの重要性を考察しまとめる
7
授業：医療を要する子どもの保育実践②：遊び・保育計画の発表（グループワーク）
予習：医療を要する子どもたちへの遊び・保育計画の発表に向けて準備、製作をおこなう
復習：遊び・保育計画の発表を振り返り、今後の課題を明確にしてまとめておく
8
授業：まとめ　―現代社会における子どもと家庭を取り巻く様々な課題に対する保育支援とは―
予習：授業全体を振り返り、現代社会において子どもと家族に対する課題を改めて抽出し、課題に支援策や保育者としてできることは何かを考え、まとめておく
復習：授業全体を通して、様々な文献資料を見直し総括した内容を実践に活用できるようにまとめる

テキスト・教材	授業内において適時配布および提示する
参考書	日本医療保育学会『改訂　医療保育セミナー』（建帛社） 冨田直『みんなでできる医療的ケアサポート book』（照林社） その他、必要に応じて授業内において適時提示する

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	◎
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	◎
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	○
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	△
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	◎
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	○
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	◎

課題とフィードバック	提示した課題ワークやグループ発表等については、授業内で適時講評をおこなう
評価の基準と方法	課題レポート（40%）、授業への取り組み〔課題ワーク提出、小テスト、グループワーク、プレゼンテーションなどにおける参加度〕（60%）
関連科目	全科目（現代保育実践の課題Ａ，保育・教職実践演習（幼稚園），子どものからだと保健，子ども家庭福祉，子ども家庭支援論，子育て支援）
その他	グループディスカッションや実践をおこなう演習授業である。各学生が積極的に意見を述べ、実践に参加し授業の内容を発展させていくことを望む
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間（2 時間×7.5 週）＋予習・復習時間 7.5 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	保育士（医療保育専門士）、臨床発達心理士
実務経験を活かした教育内容	小児医療や児童発達支援の臨床現場においての保育・心理の経験を活かし、実際の医療や福祉における子どもの保育および家族への支援を基に，知識と技術を教授し実践力に繋げる授業をおこなう

授業コード	C28818	科目分類	B76 両-1
科目名称	音楽基礎Ⅰ	単位数	1.00 単位
担当教員	糸日谷･小田切･森／糸日谷　章子／森　尚史／小田切　舞美	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ･内容	昨今、保育現場における子どもの音楽的表現への支援･指導の本質的なあり方が問われている。 保育者として、ピアノでの歌唱伴奏に止まらず、子どもの表現に気づき、育むための包括的な音楽的資質を養うことが必要である。本科目ではピアノ演奏･歌唱の基礎を学ぶとともに、伴奏アレンジや初歩的な音楽理論の学修を通し、保育者として必要な音楽的感性や表現力を身につける。		
到達目標	1 コードネームを理解することができる 2 コードネームに従って、自分なりの伴奏アレンジができるようになる 3 子どもたちの感性を育てるために必要な、基礎的音楽理論を身につけることができる 4 保育現場で求められる弾き歌いができるようになる		
授業開始前学習	童謡･唱歌などの子どもの歌をインターネットなどで調べ、歌詞を読んでくる。		

各回の授業内容と課題学習(予習･復習)

1
授業：弾き歌いの基礎を学ぶ：保育現場におけるピアノの弾き歌いの実際
予習：テキスト P.7 を予習する
復習：日本語音名、イタリア語音名、英語音名とシャープ、フラットについて理解をする
2
授業：初歩的な弾き歌いの伴奏法を学ぶ：単音伴奏
予習：各自、課題曲の練習
復習：単音伴奏について復習をする
3
授業：コードによる伴奏アレンジの基礎を学ぶ①：メジャーコード
予習：課題曲の練習、テキスト P.14 を予習する
復習：任意のメジャーコードを鍵盤で捉えることができるようにする
4
授業：コードによる伴奏アレンジの基礎を学ぶ②：マイナーコード
予習：課題曲の練習、テキスト P.19 を予習する
復習：任意のマイナーコードを鍵盤で捉えることができるようにする
5
授業：歌詞を読み取り、歌のイメージを描く
予習：各自、課題曲の練習　歌詞とイメージについて自身の考えをまとめシートに記入する。
復習：各自、課題曲の練習　授業内容を踏まえ歌詞とイメージについてシートに記入する。
6
授業：歌のイメージを伴奏アレンジに反映させる①（伴奏パターン１）
予習：各自、課題曲の練習　伴奏パターン１の練習を行う。
復習：各自、課題曲の練習　伴奏パターン１の復習を行う。
7
授業：歌のイメージを伴奏アレンジに反映させる②（伴奏パターン２）
予習：各自、課題曲の練習　伴奏パターン２の練習を行う。
復習：各自、課題曲の練習　伴奏パターン２の復習を行う。
8
授業：歌のイメージを伴奏アレンジに反映させる③（伴奏パターン３）
予習：各自、課題曲の練習　伴奏パターン３の練習を行う。
復習：各自、課題曲の練習　伴奏パターン３の復習を行う。
9
授業：歌のイメージを伴奏アレンジに反映させる④（伴奏パターン４）
予習：各自、課題曲の練習　伴奏パターン４の練習を行う。
復習：各自、課題曲の練習　伴奏パターン４の復習を行う。
10
授業：歌のイメージを伴奏アレンジに反映させる⑤（伴奏パターン５）
予習：各自、課題曲の練習　伴奏パターン５の練習を行う。
復習：各自、課題曲の練習　伴奏パターン５の復習を行う。

11
授業：中間発表表（自らのイメージを作品として発表する）
予習：各自、課題曲の練習を行い、学修の記録を記入する。
復習：各自、発表の振り返りを行い、学修の記録を記入する。
12
授業：高度な和声進行
予習：各自、課題曲の練習を行い、学修の記録を記入する。 和声について配布プリントを確認し、疑問点をまとめる。
復習：各自、発表の振り返りを行い、学修の記録を記入する。和声について授業内容を踏まえ、シートに記入する。
13
授業：借用和音と転調のパターンを学ぶ
予習：各自、課題曲の練習を行い、学修の記録を記入する。借用和音と転調のパターンについて配布プリントを確認し、疑問点をまとめる。
復習：各自、発表の振り返りを行い、学修の記録を記入する。借用和音と転調のパターンについて授業内容を踏まえ、シートに記入する。
14
授業：和声の展開形を挿入する
予習：各自、課題曲の練習を行い、学修の記録を記入する。和声の展開形について配布プリントを確認し、疑問点をまとめる。
復習：各自、発表の振り返りを行い、学修の記録を記入する。和声の展開形について授業内容を踏まえ、シートに記入する。
15
授業：弾き歌い演奏発表
予習：各自、課題曲の練習を行い、学修の記録を記入する。
復習：各自、発表および 15 回の授業内容および到達度の振り返りを行い、学修の記録を記入する。

テキスト・教材	細田淳子他編『かんたんメソッド コードで弾きうたい 改訂版』（カワイ出版）
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） その他、適宜指示する。

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	◎
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	△
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	○
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	

課題とフィードバック	①演奏発表 ②「学習の記録」の記入 ①、②に対して、学習状況や取り組みを踏まえた振り返り、及び講評、指導を授業内で行う。
評価の基準と方法	演奏発表 50%、練習への取り組み 50%（課題曲の完成度 25%、コードの理解 20%、伴奏アレンジ 5%）
関連科目	全科目（音楽基礎Ⅱ，造形基礎Ⅰ・Ⅱ，子どもと○○，保育内容「○○」）
その他	日常の練習、予習、復習を怠らないこと。 本科目は実技科目です。正しい姿勢、指使いでピアノ演奏ができるよう、手の爪を伸ばしたまま、ふさわしくない靴等で授業に参加しないよう気を付けてください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

授業コード	C28819	科目分類	B76 両-1
科目名称	音楽基礎Ⅰ	単位数	1.00 単位
担当教員	糸日谷･小田切･森／糸日谷　章子／森　尚史／小田切　舞美	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ･内容	昨今、保育現場における子どもの音楽的表現への支援･指導の本質的なあり方が問われている。 保育者として、ピアノでの歌唱伴奏に止まらず、子どもの表現に気づき、育むための包括的な音楽的資質を養うことが必要である。本科目ではピアノ演奏･歌唱の基礎を学ぶとともに、伴奏アレンジや初歩的な音楽理論の学修を通し、保育者として必要な音楽的感性や表現力を身につける。		
到達目標	1 コードネームを理解することができる 2 コードネームに従って、自分なりの伴奏アレンジができるようになる 3 子どもたちの感性を育てるために必要な、基礎的音楽理論を身につけることができる 4 保育現場で求められる弾き歌いができるようになる		
授業開始前学習	童謡･唱歌などの子どもの歌をインターネットなどで調べ、歌詞を読んでくる。		

各回の授業内容と課題学習(予習･復習)

1
授業：弾き歌いの基礎を学ぶ：保育現場におけるピアノの弾き歌いの実際
予習：テキスト P.7 を予習する
復習：日本語音名、イタリア語音名、英語音名とシャープ、フラットについて理解をする
2
授業：初歩的な弾き歌いの伴奏法を学ぶ：単音伴奏
予習：各自、課題曲の練習
復習：単音伴奏について復習をする
3
授業：コードによる伴奏アレンジの基礎を学ぶ①：メジャーコード
予習：課題曲の練習、テキスト P.14 を予習する
復習：任意のメジャーコードを鍵盤で捉えることができるようにする
4
授業：コードによる伴奏アレンジの基礎を学ぶ②：マイナーコード
予習：課題曲の練習、テキスト P.19 を予習する
復習：任意のマイナーコードを鍵盤で捉えることができるようにする
5
授業：歌詞を読み取り、歌のイメージを描く
予習：各自、課題曲の練習　歌詞とイメージについて自身の考えをまとめシートに記入する。
復習：各自、課題曲の練習　授業内容を踏まえ歌詞とイメージについてシートに記入する。
6
授業：歌のイメージを伴奏アレンジに反映させる①（伴奏パターン１）
予習：各自、課題曲の練習　伴奏パターン１の練習を行う。
復習：各自、課題曲の練習　伴奏パターン１の復習を行う。
7
授業：歌のイメージを伴奏アレンジに反映させる②（伴奏パターン２）
予習：各自、課題曲の練習　伴奏パターン２の練習を行う。
復習：各自、課題曲の練習　伴奏パターン２の復習を行う。
8
授業：歌のイメージを伴奏アレンジに反映させる③（伴奏パターン３）
予習：各自、課題曲の練習　伴奏パターン３の練習を行う。
復習：各自、課題曲の練習　伴奏パターン３の復習を行う。
9
授業：歌のイメージを伴奏アレンジに反映させる④（伴奏パターン４）
予習：各自、課題曲の練習　伴奏パターン４の練習を行う。
復習：各自、課題曲の練習　伴奏パターン４の復習を行う。
10
授業：歌のイメージを伴奏アレンジに反映させる⑤（伴奏パターン５）
予習：各自、課題曲の練習　伴奏パターン５の練習を行う。
復習：各自、課題曲の練習　伴奏パターン５の復習を行う。

11
授業：中間発表表（自らのイメージを作品として発表する）
予習：各自、課題曲の練習を行い、学修の記録を記入する。
復習：各自、発表の振り返りを行い、学修の記録を記入する。
12
授業：高度な和声進行
予習：各自、課題曲の練習を行い、学修の記録を記入する。 和声について配布プリントを確認し、疑問点をまとめる。
復習：各自、発表の振り返りを行い、学修の記録を記入する。和声について授業内容を踏まえ、シートに記入する。
13
授業：借用和音と転調のパターンを学ぶ
予習：各自、課題曲の練習を行い、学修の記録を記入する。借用和音と転調のパターンについて配布プリントを確認し、疑問点をまとめる。
復習：各自、発表の振り返りを行い、学修の記録を記入する。借用和音と転調のパターンについて授業内容を踏まえ、シートに記入する。
14
授業：和声の展開形を挿入する
予習：各自、課題曲の練習を行い、学修の記録を記入する。和声の展開形について配布プリントを確認し、疑問点をまとめる。
復習：各自、発表の振り返りを行い、学修の記録を記入する。和声の展開形について授業内容を踏まえ、シートに記入する。
15
授業：弾き歌い演奏発表
予習：各自、課題曲の練習を行い、学修の記録を記入する。
復習：各自、発表および 15 回の授業内容および到達度の振り返りを行い、学修の記録を記入する。

テキスト・教材	細田淳子他編『かんたんメソッド コードで弾きうたい 改訂版』（ｶﾜｲ出版）
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） その他、適宜指示する。

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	◎
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	△
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	○
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	

課題とフィードバック	①演奏発表 ②「学習の記録」の記入 ①、②に対して、学習状況や取り組みを踏まえた振り返り、及び講評、指導を授業内で行う。
評価の基準と方法	演奏発表 50%、練習への取り組み 50%（課題曲の完成度 25%、コードの理解 20%、伴奏アレンジ 5%）
関連科目	全科目（音楽基礎Ⅱ，造形基礎Ⅰ・Ⅱ，子どもと○○，保育内容「○○」）
その他	日常の練習、予習、復習を怠らないこと。 本科目は実技科目です。正しい姿勢、指使いでピアノ演奏ができるよう、手の爪を伸ばしたまま、ふさわしくない靴等で授業に参加しないよう気を付けてください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

授業コード	C28918	科目分類	B76 両-2
科目名称	音楽基礎Ⅱ	単位数	1.00 単位
担当教員	山本･小田切･森／小田切 舞美／森 尚史／山本 双葉	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ･内容	本科目では、様々な童謡･唱歌等の子どもの歌の弾き歌いを演習する。また、個々の演奏技術に応じたアレンジを元に、自分なりの表現を考え、音楽へのイメージを深めるための基礎的な方法を理解し、それらを弾き歌いで実践する。		
到達目標	1 音や楽曲に対してイメージを深めることができる 2 保育現場で歌われる様々な曲を弾き歌いで演奏できる 3 歌詞や曲想を理解し、自分なりに表現できる		
授業開始前学習	童謡･唱歌などの子どもの歌をインターネットや楽譜集などで調べ、メロディと歌詞を予習する		

各回の授業内容と課題学習(予習･復習)

1
授業：音の要素からイメージを膨らませる：音楽の三要素の復習･応用
予習：課題曲の練習、音楽の三要素について音楽基礎Ⅰで学修した内容を復習する
復習：課題曲を、子どもが歌うふさわしいテンポを心がけ練習する
2
授業：歌詞の情景を演奏で表現する：歌詞と音楽の関連
予習：課題曲の歌詞の内容を自分なりに分析し、情景を想像しながら弾き歌いの練習をする
復習：ワークシートを用いて曲の情景について理解を深める
3
授業：アレンジによる曲想の違いを理解する：基礎的編曲法の理解
予習：メジャーコード、マイナーコードの復習を行う
復習：ワークシートを用いて dim コード、aug コードの復習を行う
4
授業：楽曲に対して自分なりのイメージを持つ：編曲法の応用
予習：曲想を踏まえて課題曲の練習を行う
復習：学修の記録を用いて、課題曲への自分なりのイメージやそれを踏まえた演奏法について記述する
5
授業：楽曲のイメージを他者と共有するための演奏法を学ぶ
予習：課題曲の練習
復習：前回の授業時に記述した自身の課題曲のイメージを共有することを意識して課題曲を練習する
6
授業：子どもの歌のレパートリーを増やす①：大譜表の読譜
予習：ト音記号、ヘ音記号の読譜について復習をする
復習：テキスト P.108-123 ページの楽曲を練習する
7
授業：子どもの歌のレパートリーを増やす②：楽曲の理解
予習：課題曲の楽譜上の音楽用語、記号を調べる
復習：課題曲の練習、音楽記号の役割とその効果について復習する
8
授業：楽曲のイメージを他者と共有するための演奏法を実践する①：演奏中間発表会
予習：課題曲の練習
復習：自己評価表の記入、学修到達度の中間フィードバックを行う
9
授業：子どもの歌の伴奏法を学ぶ①：歌唱者を意識した演奏
予習：課題曲の練習
復習：伴奏にふさわしいテンポや演奏法について復習する
10
授業：子どもの歌の伴奏法を学ぶ②：前奏･後奏の役割
予習：課題曲に前奏と後奏をつけて練習をする
復習：前奏と後奏の編曲法について復習をする
11
授業：豊かな音楽表現の為の音楽理論を学ぶ①：リハーモナイゼーション
予習：テキスト 97 ページの法則①?④を予習する
復習：テキスト 97 ページの法則①?④を用いて課題曲のリハーモナイゼーションをする

12 授業：豊かな音楽表現の為の音楽理論を学ぶ②：コード伴奏のアレンジ理論のまとめ 予習：これまで培った編曲法の理論を復習する 復習：課題曲をイメージに基づいてアレンジし、練習する 13 授業：子どもの歌のアレンジ：歌詞を意識した発声 予習：課題曲の伴奏アレンジを複数種類考える 復習：伴奏アレンジによる曲想の変化を感じ、ワークシートにまとめる 14 授業：豊かな表現による演奏法について学ぶ：表現の共有の手立て 予習：課題曲の自身のイメージや思いをワークシートを用いて文章化する 復習：課題曲の練習、ワークシートを用いて復習をする 15 授業：豊かな表現による演奏法を実践する：演奏発表とまとめ 予習：他者への発表を意識し、課題曲の練習をする 復習：15 回の授業を振り返り自己評価表を完成させる	
テキスト・教材	細田淳子他編『かんたんメソッド　コードで弾きうたい　改訂版』（カワイ出版）
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） その他、適宜指示する。

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	◎
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	○
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	○
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	

課題とフィードバック	①演奏発表 ②「学習の記録」の記入 ①、②に対して、学習状況や取り組みを踏まえた振り返り、及び講評、指導を授業内で行う。
評価の基準と方法	演奏発表 50%、練習への取り組み 50%（課題曲の完成度 25%、コードの理解 20%、伴奏アレンジ 5%）
関連科目	全科目（音楽基礎Ⅰ，造形基礎Ⅰ・Ⅱ，子どもと○○，保育内容「○○」）
その他	日常の練習、予習、復習を怠らないこと。 本科目は実技科目です。正しい姿勢、指使いでピアノ演奏ができるよう、手の爪を伸ばしたまま、ふさわしくない靴等で授業に参加しないよう気を付けてください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

授業コード	C28919		科目分類	B76 両-2
科目名称	音楽基礎Ⅱ		単位数	1.00 単位
担当教員	山本･小田切･森／小田切 舞美／森 尚史／山本 双葉		授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-	
授業のテーマ･内容	本科目では、様々な童謡･唱歌等の子どもの歌の弾き歌いを演習する。また、個々の演奏技術に応じたアレンジを元に、自分なりの表現を考え、音楽へのイメージを深めるための基礎的な方法を理解し、それらを弾き歌いで実践する。			
到達目標	1 音や楽曲に対してイメージを深めることができる 2 保育現場で歌われる様々な曲を弾き歌いで演奏できる 3 歌詞や曲想を理解し、自分なりに表現できる			
授業開始前学習	童謡･唱歌などの子どもの歌をインターネットや楽譜集などで調べ、メロディと歌詞を予習する			

各回の授業内容と課題学習(予習･復習)

1
授業：音の要素からイメージを膨らませる：音楽の三要素の復習･応用
予習：課題曲の練習、音楽の三要素について音楽基礎Ⅰで学修した内容を復習する
復習：課題曲を、子どもが歌うふさわしいテンポを心がけ練習する
2
授業：歌詞の情景を演奏で表現する：歌詞と音楽の関連
予習：課題曲の歌詞の内容を自分なりに分析し、情景を想像しながら弾き歌いの練習をする
復習：ワークシートを用いて曲の情景について理解を深める
3
授業：アレンジによる曲想の違いを理解する：基礎的編曲法の理解
予習：メジャーコード、マイナーコードの復習を行う
復習：ワークシートを用いて dim コード、aug コードの復習を行う
4
授業：楽曲に対して自分なりのイメージを持つ：編曲法の応用
予習：曲想を踏まえて課題曲の練習を行う
復習：学修の記録を用いて、課題曲への自分なりのイメージやそれを踏まえた演奏法について記述する
5
授業：楽曲のイメージを他者と共有するための演奏法を学ぶ
予習：課題曲の練習
復習：前回の授業時に記述した自身の課題曲のイメージを共有することを意識して課題曲を練習する
6
授業：子どもの歌のレパートリーを増やす①：大譜表の読譜
予習：ト音記号、ヘ音記号の読譜について復習をする
復習：テキスト P.108-123 ページの楽曲を練習する
7
授業：子どもの歌のレパートリーを増やす②：楽曲の理解
予習：課題曲の楽譜上の音楽用語、記号を調べる
復習：課題曲の練習、音楽記号の役割とその効果について復習する
8
授業：楽曲のイメージを他者と共有するための演奏法を実践する①：演奏中間発表会
予習：課題曲の練習
復習：自己評価表の記入、学修到達度の中間フィードバックを行う
9
授業：子どもの歌の伴奏法を学ぶ①：歌唱者を意識した演奏
予習：課題曲の練習
復習：伴奏にふさわしいテンポや演奏法について復習する
10
授業：子どもの歌の伴奏法を学ぶ②：前奏･後奏の役割
予習：課題曲に前奏と後奏をつけて練習をする
復習：前奏と後奏の編曲法について復習をする
11
授業：豊かな音楽表現の為の音楽理論を学ぶ①：リハーモナイゼーション
予習：テキスト 97 ページの法則①?④を予習する
復習：テキスト 97 ページの法則①?④を用いて課題曲のリハーモナイゼーションをする

12 授業：豊かな音楽表現の為の音楽理論を学ぶ②：コード伴奏のアレンジ理論のまとめ 予習：これまで培った編曲法の理論を復習する 復習：課題曲をイメージに基づいてアレンジし、練習する 13 授業：子どもの歌のアレンジ：歌詞を意識した発声 予習：課題曲の伴奏アレンジを複数種類考える 復習：伴奏アレンジによる曲想の変化を感じ、ワークシートにまとめる 14 授業：豊かな表現による演奏法について学ぶ：表現の共有の手立て 予習：課題曲の自身のイメージや思いをワークシートを用いて文章化する 復習：課題曲の練習、ワークシートを用いて復習をする 15 授業：豊かな表現による演奏法を実践する：演奏発表とまとめ 予習：他者への発表を意識し、課題曲の練習をする 復習：15 回の授業を振り返り自己評価表を完成させる	
テキスト・教材	細田淳子他編『かんたんメソッド　コードで弾きうたい　改訂版』（カワイ出版）
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） その他、適宜指示する。

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	◎
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	○
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	○
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	

課題とフィードバック	①演奏発表 ②「学習の記録」の記入 ①、②に対して、学習状況や取り組みを踏まえた振り返り、及び講評、指導を授業内で行う。
評価の基準と方法	演奏発表 50%、練習への取り組み 50%（課題曲の完成度 25%、コードの理解 20%、伴奏アレンジ 5%）
関連科目	全科目（音楽基礎Ⅰ，造形基礎Ⅰ・Ⅱ，子どもと○○，保育内容「○○」）
その他	日常の練習、予習、復習を怠らないこと。 本科目は実技科目です。正しい姿勢、指使いでピアノ演奏ができるよう、手の爪を伸ばしたまま、ふさわしくない靴等で授業に参加しないよう気を付けてください。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

授業コード	C29008	科目分類	B72 両-1
科目名称	○造形基礎Ⅰ／造形Ⅰ	単位数	1.00 単位
担当教員	山田　佐映子	授業区分	演習
研究室	–	オフィスアワー	–
授業のテーマ・内容	本授業は、子どもの表現に対する理解を深めることを目的として、自らが描きつくることを遊ぶ授業である。実際の保育現場で使用する素材や道具を用いて、「素材と道具の出会い」から「遊びへの展開」を演習形式で学ぶ。その体験を通し、子どもの成長に伴う遊び方の変化や興味に寄り添える保育者としての技能を身に付ける。		
到達目標	本授業の到達目標として、以下の 3 点を挙げる。 1 保育現場で実際に扱う材料や用具の特性を説明できるようになる 2 造形活動の表現の多様さを味わい、その楽しみを子どもに伝えられるようになる 3 子どもの発達や育ちを考慮した遊びとしての造形活動を提案できるようになる		
授業開始前学習	子どもの制作を鑑賞する、または書籍などで触れる。実際の保育現場での造形活動を調べる。 日常から様々な事物（季節の移り変わりや好きな事柄など）に意識を向け、感性を磨く。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：オリエンテーション、子どもの造形表現について
予習：子どもの「表現」とはどのようなものか、考えをまとめる
復習：授業内容を理解しノートにまとめる
2
授業：素材と道具の出会い①新聞紙で遊ぶ（グループワーク）（テキスト P.34-35）
予習：新聞紙を使った遊びを調べる
復習：活動工程をノートにまとめる
3
授業：素材と道具の出会い②オイルパステルで遊ぶ（テキスト P.32-33）
予習：オイルパステルの遊びを調べる
復習：活動工程をノートにまとめる
4
授業：素材と道具の出会い③絵の具で遊ぶ（テキスト P.40-41）
予習：絵の具の遊びを調べる
復習：活動工程をノートにまとめる
5
授業：素材と道具の出会い④粘土で遊ぶ（グループワーク）（テキスト P.36-37）
予習：粘土の遊びを調べる
復習：活動工程をノートにまとめる
6
授業：素材と道具の出会い⑤シールとテープで遊ぶ（テキスト P.80-81）
予習：シールとテープの遊びを調べる
復習：活動工程をノートにまとめる
7
授業：技法遊び ⅰ スクラッチ（テキスト P.78）
予習：スクラッチについて調べる
復習：活動工程をノートにまとめる
8
授業：技法遊び ⅱ デカルコマニー（テキスト P.79）
予習：デカルコマニーについて調べる
復習：活動工程をノートにまとめる
9
授業：技法遊び ⅲ スタンピング（テキスト P.74-75）
予習：スタンプピングについて調べる
復習：活動工程をノートにまとめる
10
授業：素材と道具の出会い⑥ハサミの導入と慣れるまで（テキスト P.38-39）
予習：ハサミの渡し方について調べる
復習：活動内容をノートにまとめる
11
授業：素材と道具の出会い⑦ハサミの連続切りと糊に慣れる（テキスト P.42-43、P.86-87）
予習：構成遊びについて調べる
復習：活動工程をノートにまとめる

12 授業：身に着ける遊び①バッグつくり（テキスト P.72） 予習：保育の場のバッグつくりを調べる 復習：活動工程をノートにまとめる 13 授業：身に着ける遊び②ビニールの洋服（プレゼンテーション） 予習：保育の場の衣装つくりを調べる 復習：活動工程をノートにまとめる 14 授業：身に着ける遊び③帽子つくり 予習：保育の場の帽子つくりを調べる 復習：活動工程をノートにまとめる 15 授業：色のイメージを遊ぶ、共同遊びへの展開、前期のまとめ（グループワーク）（テキスト P.112-113） 予習：色についてと、共同遊びについて調べる 復習：活動工程をノートにまとめる	
テキスト・教材	鮫島良一・馬場千晶著『つくる・かく・あそぶ　こどものアートブック』（日本文教出版）
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	◎
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	△
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	○
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	

課題とフィードバック	・制作提出を求める（授業内で適宜評価する） ・活動後の小レポートを課す（次回授業内において適宜講評する） ・活動計画表の作成を課す（コメントを付して評価する）
評価の基準と方法	制作への取り組み姿勢（課題提出状況）50%、制作（創意工夫）25%、活動毎の小レポート（目的への理解度）25%
関連科目	全科目（造形基礎Ⅱ，音楽基礎Ⅰ・Ⅱ，子どもと○○，保育内容「○○」，保育内容「造形表現Ⅰ・Ⅱ」，教育実習）
その他	得意不得意に捉われず、自らが表現活動を楽しむこと。実践からの考察をするため、意欲的な姿勢での授業参加を期待する。 様々な素材を扱うため、汚れても良い服装で受講する。欠席した回についても把握して全内容を学ぶ。 活動内容は、進行によりやむを得ず入れ替える場合がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

授業コード	C29108	科目分類	B72 両-1
科目名称	○造形基礎Ⅱ／造形Ⅱ	単位数	1.00 単位
担当教員	山田　佐映子	授業区分	演習
研究室	–	オフィスアワー	–
授業のテーマ・内容	本授業は、子どもが造形遊びと出会い、表現する楽しみを獲得していく過程を演習形式で学ぶ。共同制作を通じて、集団の中で個人の表現を認め合い、アイディアを共有し、実現していく体験をする。実際の準備から活動、片付けまでをグループや全体で協力的に行う。保育と関連付けて、造形活動を支える環境つくりを考えられる思考を持つことを目的とする。		
到達目標	本授業の到達目標として、以下の 3 点を挙げる。 1 共同制作について進め方を理解し、子どもを導く準備計画をできるようになる 2 共同制作の目的、方法（片付け等の環境設定を含む）を学び、保育現場で活用できるようになる 3 保育者として子どもの個人制作、集団制作について活動を考察できるようになる		
授業開始前学習	子どもの制作を鑑賞する、または書籍などで触れる。実際の保育現場での造形活動を調べる。 日常から様々な事物（季節の移り変わりや好きな事柄など）に意識を向け、感性を磨く。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：ダンボールで遊ぶ①素材と道具の特性を知る
予習：ダンボールとカッターの特性を調べる（テキスト P.44-45、P.142-145）
復習：活動工程をノートにまとめる
2
授業：ダンボールで遊ぶ②塗装の道具を知る
予習：塗装に関する方法を調べる
復習：活動工程をノートにまとめる
3
授業：身体表現発表会の大道具つくり①話し合い（グループワーク）（テキスト P.138-139）
予習：制作のアイディアを練る
復習：制作における役割分担を決定する、今後のスケジュールを計画する
4
授業：身体表現発表会の大道具つくり②背景の基本構造つくり（グループワーク）
予習：材料の切り出しの計画を立てる
復習：活動工程についてグループで話し合う
5
授業：身体表現発表会の大道具つくり③全体的な塗装（グループワーク）
予習：塗装の役割分担をする
復習：活動工程についてグループで話し合う
6
授業：身体表現発表会の大道具つくり④細部の塗装（グループワーク）
予習：細かな部分へのアイデアを練る
復習：活動工程についてグループで話し合う
7
授業：身体表現発表会の大道具つくり⑤組立て（グループワーク）
予習：立体物の組み立て方法を調べる
復習：活動工程についてグループで話し合う
8
授業：身体表現発表会の道具つくり⑥小物の基本構造つくり（グループワーク）
予習：材料の組み立て方を考える
復習：活動工程についてグループで話し合う
9
授業：身体表現発表会の道具つくり⑦小物の塗装（グループワーク）
予習：塗装のアイデアを練る
復習：活動工程についてグループで話し合う
10
授業：身体表現発表会の道具つくり⑧吊りもの基本構造つくり（グループワーク）
予習：構造に適当な材料を調べ、集める
復習：活動工程についてグループで話し合う
11
授業：身体表現発表会の道具つくり⑨吊りものの装飾（グループワーク）
予習：構造に適当な材料を調べ、集める
復習：これまでの活動工程をノートにまとめる

12 授業：身体表現発表会の道具つくり⑩全体の補強（グループワーク） 予習：道具類の強度を確認する 復習：活動工程をノートにまとめる 13 授業：季節を感じる遊びを体験する：毛糸で遊ぶ 予習：子どもの毛糸遊びを調べる 復習：活動工程をノートにまとめる 14 授業：制作を整理する 予習：これまでの活動を振り返り、ノートを確認する 復習：制作をまとめる 15 授業：造形活動を振り返り、保育者の役割を考える（テキスト P.10-11） 予習：1 年間の造形活動を振り返る 復習：共有した意見をノートにまとめる	
テキスト・教材	鮫島良一・馬場千晶『つくる・かく・あそぶ　こどものアートブック』（日本文教出版）
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	◎
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	○
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	○
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○

課題とフィードバック	・制作提出を求める（授業内で適宜評価する） ・活動毎の小レポートを課す（次回授業内において適宜講評する） ・まとめのレポート作成を課す（コメントを付して評価する）
評価の基準と方法	制作への取り組み姿勢（課題提出状況・グループ活動への協力）50%、制作（創意工夫）25%、活動毎の小レポート（目的への理解度）25%
関連科目	全科目（造形基礎Ⅰ，音楽基礎Ⅰ・Ⅱ，子どもと○○，子どもと表現Ⅰ，保育内容「○○」，保育内容「造形表現Ⅰ・Ⅱ」）
その他	自らが表現活動を楽しむこと。個人制作、グループワークへの意欲的な姿勢を期待する。活動に適当な動きやすい服装で受講する。欠席した回についても把握して全内容を学ぶ。活動内容は、進行によりやむを得ず入れ替える場合がある。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	

授業コード	C29800	科目分類	B37 保-1 （Ｊ）
科目名称	保育実習Ⅰ（保育所）	単位数	2.00 単位
担当教員	市野・山本／市野 繁子／山本 双葉	授業区分	実習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	保育所等での実習を通して、保育所の役割と機能について理解を深める。また、観察実習を通して保育所等における保育の環境や保育の内容を理解し、さらに保育の計画や記録の重要性、保育の振り返りや省察について学びを深める。また、参加実習を通して子どもとの関わり方や援助について学び、保育士の専門性や職業倫理、保護者支援、子育て支援についても実践を通して総合的に学びを深めることを目的とする。さらに、次の実習に向けて自分の課題を明確にしていく。		
到達目標	本授業の到達目標として、以下の５点を挙げる。 1 保育所、福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する 2 観察や子どもとの関わりを通して子どもの理解を深める 3 既習の今日科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者の支援について総合的に理解する。 4 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する 5 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する		
授業開始前学習	保育実習指導の内容を十分把握し、理解不足や準備不足がないように実習準備を整えておく。 保育所等の児童福祉施設でのボランティアやアルバイトを積極的に行い、子どもの実際の姿を見ておくことや子どもとの関わりを経験をしておくことを勧める。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
オリエンテーションへの参加を通して、保育実習園の概要を知り、実習の意義、目的、内容を理解する
2
保育を必要とする子どもの家庭や保育所の社会的役割について学ぶ
3
保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わりを学ぶ
4
子どもの観察とその記録による理解を深める
5
子どもとの関わりを通して発達過程を理解する
6
保育の内容や保育環境について理解する
7
保育士等の援助や関わりを理解する
8
子どもの生活や遊びと保育環境を理解する
9
子どもの発達過程に応じた保育内容を理解する
10
保育の計画に基づく保育内容を理解する
11
保育所における子どもの健康と安全を理解する
12
実習園における全体的な計画や指導計画について理解する
13
記録に基づく省察・自己評価について学ぶ
14
専門職としての保育士の役割とや業務内容について学ぶ
15
職員間の役割分担や連携・協働について学ぶ
16
子どもの最善の利益を考慮し、職業倫理について理解する

テキスト・教材	実習ガイドブック
参考書	・厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 2017 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 2017 その他、必要に応じて指示する

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	△
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	◎
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	○
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	○
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	○
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	○
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○

課題とフィードバック	「オリエンテーションに関する報告書」「健康観察表」「自己評価と振り返り」の提出を課す（実習終了後、個別に講評する）。 実習評価は実習終了後、個別面談を通してフィードバックする。
評価の基準と方法	実習評価（60%）， 提出物（実習日誌など）（40%）
関連科目	全科目（保育実習指導Ⅰ（保育所），保育実習指導Ⅰ（施設），保育実習Ⅰ（施設），保育実習指導Ⅱ，保育実習Ⅱ）
その他	実習期間中は実習園の指導に従うこと
予習・復習の所要時間	
実務経験の有無	○
実務経験の内容	保育士
実務経験を活かした教育内容	保育所での実務経験を活かし、保育士養成校の実習生に対し、日常業務であるケアワーク及び子どもや、その保護者支援や子育て支援の方法を指導し、また、子どもの権利保護を実践する場であることを伝える。

授業コード	C29900	科目分類	B37 保-1 （Ｊ）
科目名称	保育実習Ⅰ（施設）	単位数	2.00 単位
担当教員	今井・酒井／今井　大二郎／酒井　博美	授業区分	実習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	保育士資格を取得するためには、保育所をはじめとする児童福祉施設等で実習を行うことが必須である。保育実習Ⅰ（施設）では、施設の運営を実際に見ることで、自分の配属される施設がどような支援を提供しているか、保育士の業務内容や職業倫理、施設における子どもや利用者の人権や最善の利益の追求がどのように展開されているかについて学ぶ。 実習中は巡回指導（遠方の場合は電話による指導）を受け、実習終了後は事後指導を受けることによって、自己の実習の振り返りをし、次の実習課題を明確にしていく。		
到達目標	実習の中で実際に利用児・者や職員とのかかわりを通して、以下の点を到達目標として実習を行う。 1 児童福祉施設等の役割や機能について具体的に理解する 2 利用児・者の個の理解を深める 3 利用児・者の人権や最善の利益がどのように守られているかを理解する 4 観察力を磨き、記録や支援計画の重要性について理解する 5 利用児・者とかかわる中で自己の課題を明確化させる		
授業開始前学習	先に行った学校体験活動での学びや自己の課題について振り返っておくこと。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
実習施設でのオリエンテーション
2
児童福祉施設や社会福祉施設の役割・機能について学ぶ
3
利用児・者を理解する
4
一日の流れ（日課）を知る
5
施設における生活と保育士の援助や関わりについて学ぶ
6
保育士の業務内容を理解し実践する
7
多様な専門職の業務内容を理解し、保育士との連携を学ぶ
8
利用児・者の個人差や個々のニーズを把握する
9
支援計画に基づく利用児・者への支援について学ぶ
10
支援計画に基づく利用児・者の家庭に向けた支援ついて学ぶ
11
施設と地域社会との連携を理解する
12
関係機関・施設とのネットワークについて学ぶ
13
保育士倫理綱領における専門職の職業倫理を確認する
14
実習の中で感じた今後の自己の課題を考える
15
反省会を通して、自己の課題を明確にする（グループディスカッション）

テキスト・教材	適宜、資料等を配布する
参考書	該当する実習施設の養育指針等を提示する 実習ガイドブック

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	◎
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	◎
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	◎
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	◎
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	◎

課題とフィードバック	実習施設の実習評価が戻り次第、個別に評価を伝える。
評価の基準と方法	実習施設の評価 60%、日誌を含めた提出物 40%、
関連科目	全科目（保育実習指導Ⅰ（施設），保育実習指導Ⅰ（保育所），保育実習Ⅰ（保育所），保育実習Ⅱ，保育実習指導Ⅲ，保育実習Ⅲ，社会的養護Ⅰ・Ⅱ，社会福祉，子ども家庭福祉）
その他	体調管理に十分留意すること。 実習前の提出物などは、実習指導室前の掲示板をよく確認すること。
予習・復習の所要時間	
実務経験の有無	○
実務経験の内容	児童指導員
実務経験を活かした教育内容	児童福祉施設等での実務経験を活かし、保育士養成校の実習生に対し、日常業務であるケアワーク及び子どもや利用者へ専門的にかかわる方法を指導し、また権利擁護や職業倫理を実践する場であることを教える。

授業コード	C24700	科目分類	B37 保-2 （Ｊ）
科目名称	保育実習Ⅱ	単位数	2.00 単位
担当教員	猪熊・上出／猪熊　弘子／上出　香波	授業区分	実習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	本実習では、保育所の社会的役割や機能について実践を通して理解を深める。また、これまでの実習や既習の学習を振り返り、修得した知識をもとに乳幼児の発達に応じた援助の方法、保育内容の理解、指導計画の立案、実践、保護者への子育て支援や地域社会との連携の実際など、保育士や保育所の役割と意義を保育所の保育士等の指導の下で、主体的かつ実践的に学ぶ。さらに、実際に保育現場で働くことをイメージしながら、自己研鑽に努める。		
到達目標	1 保育所の役割や機能について、実習を通して理解を深める 2 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることで、子どもの姿を見通した指導案の立案や実習日誌を書くことができるようになる 3 これまでの実習での経験と既習の教科内容を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する 4 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する 5 自己の課題を明確にしながらこれからの学びにつなげる		
授業開始前学習	これまでの実習を振り返り，自分自身の課題を明確するともに、実習までの間、具体的な計画に添って実践に必要な準備を行う。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
オリエンテーション
2
実習園の概要、保育方針、保育目標、保育環境、保育形態や保育方法について把握する
3
毎日の自己課題を明確にして、実習に取り組む
4
保育所の生活の流れや展開を把握する
5
配属クラスにおいて参加実習を行いながら、観察を通して保育士等の援助や関わりを理解する
6
子どもたちと積極的にかかわり、多様な応答的かかわりを体験し、子ども理解を深める
7
子どもたちと積極的に遊び、遊びによる総合的な保育を学ぶ
8
日ごろの子どもの様子を把握し、指導担当保育士による指導のもと、指導案の立案を行う
9
指導案の立案に基づく実践を行う
10
部分実習・責任実習実施後の振り返りと自己評価を行う
11
保育士や他の職員の職務内容や連携等について体験的に学ぶ
12
保育士と保護者関わりを観察し、保育士からの助言をもとに保護者の思いと支援内容を理解する
13
家庭や地域との連携や協働について学ぶ
14
実習の振り返りと自己評価を行う
15
自己課題の明確化

テキスト・教材	実習ガイドブック その他、授業内で適宜資料を配布する
参考書	厚生労働省『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』（フレーベル館） 文部科学省『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館）

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A 思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	◎
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	◎
B 表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	◎
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	◎
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	◎
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	◎
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	◎
D 人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	◎

課題とフィードバック	オリエンテーションに関する報告書、健康観察表、自己評価と振り返りの 3 点をまとめ提出する。実習終了後、個別に講評する。また、実習評価は実習終了後に個別面談等を通してフィードバックする。
評価の基準と方法	実習評価（60%）日誌及び提出物（40%）
関連科目	全科目（保育実習指導Ⅱ，保育実習指導Ⅰ（保育所），保育実習Ⅰ（保育所），保育実習指導Ⅰ（施設），保育実習Ⅰ（施設））
その他	
予習・復習の所要時間	
実務経験の有無	○
実務経験の内容	保育士
実務経験を活かした教育内容	保育現場での実務経験を活かし、子どもへの保育、子育て支援等について具体的な援助や方法を示し、実践力を高められるような指導をおこなう

授業コード	C24800	科目分類	B37 保-2 （Ｊ）
科目名称	保育実習Ⅲ	単位数	2.00 単位
担当教員	今井・守屋／今井　大二郎／守屋　建	授業区分	実習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	保育実習Ⅲは保育士資格の選択必修科目である。２年次に児童福祉施設をはじめとした社会福祉施設で２週間の実習を行う。実習それ自体がアクティブラーニングとなり、現場保育士等の支援者と連携・協力しながら学んでいく。保育所を除く児童福祉施設をはじめとした社会福祉施設に関する知識を深め、子どもや利用者の養護、支援方法、支援計画等を理解する。また、施設保育士の日常生活におけるケアワークに関する技術について学び、保護者支援や地域社会との連携も含めた自立支援に関するソーシャルワークについても学習を深め実習施設の指導の下に、これまで学習したことを実践する。		
到達目標	到達目標は以下の通りである。 １児童福祉施設や社会福祉施設における支援方法を学び、実践できるようになることを目標とする ２入所あるいは通所の利用児・者と生活を共にして理解を深め、適切な支援ができるようになる ３施設と関係機関、地域社会との関係について学び、包括的支援に目を向けることができるようになる ４保育士の多様な業務と,最善の利益の追求を含めた職業倫理について理解する ５実習を通して保育士としての自己の課題を明確化できるようになる		
授業開始前学習	自分の実習する施設について、自主的に調べ準備しておく。施設保育士としての適性をよく熟慮してから実習に臨むこと。施設に関する文献や資料を読んでおく。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
実習施設でのオリエンテーション
2
児童福祉施設や社会福祉施設の役割・機能について学ぶ
3
子どもや利用者を理解する
4
一日の流れ（日課）を知り、子どもや利用者とともに活動する。
5
養護、発達支援、訓練等の現状を学ぶ
6
保育士の業務内容を理解し実践する
7
多様な専門職の業務内容を理解し、保育士との連携を学ぶ
8
子どもや利用者の個人差や個々のニーズを把握する
9
子どもや利用者への日常生活の支援を行う
10
子どもや利用者の家庭との連携について学ぶ
11
施設と地域社会との連携を理解する
12
関係機関・施設とのネットワークについて学ぶ
13
専門職の職業倫理を理解する
14
個別支援計画の立案方法について学ぶ
15
報告反省会を通して、自己の課題を明確にする（グループディスカッション）

テキスト・教材	実習ガイドブック
参考書	施設実習は種別が多岐にわたるため、該当する実習施設の養育指針等の資料を適宜提示する。

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	◎
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	◎
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	◎
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	○
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	◎
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	◎
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	◎
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	◎

課題とフィードバック	実習施設の実習評価が戻りしだい、個別に評価を伝える。今後施設に就職した際に、評価の高い技術等を活かし、努力すべき点を改善できるよう話し合う機会を設ける。
評価の基準と方法	実習施設の評価 60%、 日誌等の記録や提出物 40%
関連科目	全科目（保育実習指導Ⅲ，保育実習指導Ⅰ（施設），保育実習Ⅰ（施設），保育実習指導Ⅰ（保育所），保育実習Ⅰ（保育所），社会的養護Ⅰ・Ⅱ，特別な支援を要する子どもの理解と支援Ⅰ・Ⅱ）
その他	
予習・復習の所要時間	
実務経験の有無	○
実務経験の内容	児童指導員
実務経験を活かした教育内容	支援計画の策定から PDCA サイクルに基づく実践まで、支援者の具体的な留意点を踏まえ、実習中に必要な実習生の学びについて指導する。

授業コード	C29600	科目分類	B37 保-1 （Ｊ）
科目名称	保育実習指導Ⅰ（保育所）	単位数	1.00 単位
担当教員	市野･山本／市野 繁子／山本 双葉	授業区分	演習
研究室	－	オフィスアワー	－
授業のテーマ･内容	本授業では、1 年次の保育実習Ⅰ（保育所）のための事前及び事後の指導、並びに本学の実習全体を見通した学外実習のための準備を行っていく。 実習事前指導では、実習実施に伴う文書の作成、観察実習･参加実習における実習日誌の書き方、オリエンテーションの受け方や実習時のマナー等、実習に関する基礎知識及び、子どもとの関わりを見通した保育技能の習得を目指す。事後指導においては、自己の振り返りとして自己評価を行い、反省報告会で得た学びを次の実習の課題や目標へとつなげていく。また、保育所保育指針に記載されている内容の理解や具体的な子どもとの関わりについて学びを深めることを目的をする。		
到達目標	本授業の到達目標として、以下の 5 点を挙げる。 1 保育実習の意義･目的を理解する 2 実習の事前指導を通して、自分の課題を明確にする 3 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務などについて理解する 4 実習の計画･実践･観察･記録･評価の方法や内容について具体的に理解する 5 実習の事後指導を通して、実習の振り返りと自己評価を行い、次の実習に向けての課題や学習目標を明確にする		
授業開始前学習	日常生活の中で、子どもの姿を意識して観察するよう心掛ける。 また、保育所等の児童福祉施設でのボランティアやアルバイトなどを積極的に行い、子どもの実際の姿を観察し、子どもと関わる経験をしておくことを勧める。		

各回の授業内容と課題学習(予習･復習)

1
授業：保育実習Ⅰ（保育所）の意義･目的及び内容と方法
予習：実習ガイドブックに目を通し、必要な事項はノートにまとめる
復習：配布プリント等を確認し、保育実習Ⅰ（保育所）の意義や目的を理解しておく
2
授業：保育実習の心構えと概要
予習：実習ガイドブックに目を通し、必要な事項はノートにまとめる
復習：配布プリントを確認し、実習に対する心構えや実習の流れを理解しておく
3
授業：子どもの人権と最善の利益の考慮、保育士の職業倫理について
予習：保育所保育指針を読み、子どもの最善の利益についてノートにまとめる
復習：配布資料を確認し、理解できなかった内容を確認しておく
4
授業：保育所実習の一日の流れを知る（ペアワーク）
予習：テキスト P.2-11 を読み、内容をまとめる
復習：ビデオレポートを作成する
5
授業：保育所実習に備えた実技準備（絵本･手遊びノートの作成について）
予習：絵本や手遊びを調べてノートにまとめる
復習：配布資料を確認し、発表のための準備をする
6
授業：保育所実習に備えた実技演習① 実技の導入･展開･まとめ（グループワーク）
予習：発表の際に子どもに伝えたいメッセージ（ねらい）を考える
復習：演習の内容をノートにまとめる
7
授業：保育所実習に備えた実技演習② 3 歳未満児クラスに向けた絵本や紙芝居の読み聞かせ（グループワーク）
予習：絵本の読み聞かせ、紙芝居の発表準備や練習をする
復習：演習の内容をノートにまとめる
8
授業：保育所実習に備えた実技演習③ 3 歳未満児クラスに向けた絵本や紙芝居の読み聞かせ（グループワーク）
予習：絵本の読み聞かせ、紙芝居の発表準備や練習をする
復習：演習の内容をノートにまとめる
9
授業：保育所実習に備えた実技演習④手遊び（グループワーク）
予習：手遊びの発表に向けた準備をする
復習：演習の内容をノートにまとめる

10
授業：実習における諸手続き　（実習オリエンテーションに向けて）
予習：最寄り駅から保育園などへの地図を描いてくる。 実習園への電話のかけ方練習する。
復習：実習園オリエンテーションの受け方やな確認事項などをノートにまとめる
11
授業：実習日誌の書き方①　実習の目標・日課の書き方について
予習：テキストを読み要点をノートにまとめる
復習：実習日誌の書きについて学んだことをノートにまとめる
12
授業：実習日誌の書き方② 1 日の振り返りと翌日の目標について
予習：テキストを読み要点をノートにまとめる
復習：実習日誌の書きについて学んだことをノートにまとめる
13
授業：実習日誌の書き方③3 歳未満児の保育の流れについて
予習：テキスト要点をノートにまとめる
復習：実習日誌の書き方（観察と記録、考察の方法）についてまとめる
14
授業：保育所の魅力と保育者としての心構えを学ぶ（保育所園長講演）
予習：これまでの学習を振り返り、園長先生に質問したい事項を考えておく
復習：園長講演で気づいたことなどをもとに実習に向けての準備を整える
15
授業：実習直前指導
予習：保育実習指導Ⅰ（保育所）の内容を確認しておく
復習：実習準備の最終確認を行う
16
授業：実習事後指導（グループワーク、ディスカッション）
予習：実習終了後直ちに振り返りを行い、所定の用紙にまとめておく
復習：これまでの学びと実践を振り返り、新たな課題に向き合う姿勢を整える

テキスト・教材	・小泉裕子編著『実習場面と添削例から学ぶ！保育・教育実習日誌の書き方改訂版』中央法規出版株式会社　2020年 ・『実習ガイドブック』 ・厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館　2017 ・適宜プリントを配布する
参考書	・厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館　2018 ・文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館　2017 ・文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館　2018 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 2017 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2018 その他、必要に応じて提示する

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	△
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	◎
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	○
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	○
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	○
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	○
D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	○
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○

課題とフィードバック	保育所実習に向けた実技発表を行う（授業内で講評する） 授業内課題や保育教材の作成課題や手遊び・絵本の読み聞かせ課題などについてはコメントを付けて返却する
評価の基準と方法	保育実習指導用ファイルの作成及びその他提出課題（60%），保育教材または自己紹介カードなどの作成課題（30%）平常点（授業への取り組み姿勢等）(10%)
関連科目	全科目（保育実習Ⅰ（保育所），保育実習Ⅰ（施設），保育実習指導Ⅰ（施設），保育実習Ⅱ，保育実習指導Ⅱ）
その他	提出物は期限を厳守すること
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	保育士
実務経験を活かした教育内容	保育士としての実務経験を活かし、日常の子どもたちの園生活の様子や保育者の援助や配慮事項などを具体的にイメージし、記録や実践に活かすことができる様に授業を展開する。

授業コード	C29700	科目分類	B37 保-1 （Ｊ）
科目名称	保育実習指導Ⅰ（施設）	単位数	1.00 単位
担当教員	今井・酒井／今井 大二郎／酒井 博美	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	本授業は、児童福祉施設等における施設実習の事前学習として行う。実習施設は多岐に渡るため、各施設等の役割や機能、利用児・者やその家族について理解する。また、児童福祉施設における保育士の専門性や、職員間の連携の重要性について学び、専門職としての施設保育士の職業倫理や具体的業務内容についての理解を深める。その上で自らの実習課題を明確に設定する。		
到達目標	本授業の到達目標として、以下の 5 点を挙げる 1 施設実習の意義と目的について理解することができる 2 実習の事前学習として施設の機能・役割、保育士やその他の専門職の業務内容について理解することができる 3 実習生としての心構えや留意点、守秘義務、倫理について理解することができる 4 記録の意味と基本的な記入方法について理解し、記入することができる 5 施設実習に向けて明確な目的意識をもち、具体的な実習課題を設定できる		
授業開始前学習	児童福祉施設や社会福祉施設への関心を持って、ニュースや新聞を読んでおくことを勧める。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：オリエンテーション（保育実習Ⅰ（施設）の概要、実習の基本、施設実習の特質、Q＆A）
予習：児童福祉施設及び社会福祉施設の種類について調べる
復習：職業実習の特性についてと現在の生活について振り返り、実習に向けた抱負をノートにまとめる
2
授業：保育実習Ⅰ（施設）の意義と目的
予習：テキスト P.8-9，P.20-21 を読み、施設実習の意義についてノートにまとめる
復習：各施設のケアワークの実践例についてノートにまとめる
3
授業：障害児・者施設での学習内容①（知的障害と ASD の障害特性）
予習：テキスト P.22-26 を読み、それぞれの障害特性についてノートまとめる
復習：各障害特性について理解し、実生活上の課題について理念の実現と合わせてノートにまとめる
4
授業：障害児・者施設での学習内容②（肢体不自由・重症心身障害の障害特性と福祉理念）
予習：社会的養護Ⅰテキスト P.54-57 を参考に各障害特性ついてノートにまとめる
復習：医療型障害児入所施設での支援者の役割についてノートにまとめる
5
授業：障害児・者施設での学習内容③（障害者施設の法制度と施設体系及び共通基盤のケアワークについて）
予習：テキスト P.34-35 を読み、施設や各事業所の支援内容についてノートにまとめる
復習：各施設や事業所の支援内容についてノートにまとめ、支援者の留意点をノートにまとめる
6
授業：障害児・者施設での学習内容④（障害者施設での学びの視点）
予習：テキスト P.82-85 を参考に、実習中の学びのポイントについてノートにまとめる
復習：障害福祉サービスの違いから、各施設での学ぶべき学習内容についてノートにまとめる
7
授業：障害児・者施設での学習内容⑤（障害児施設の法制度と施設体系及び学ぶ視点）
予習：テキスト P.32-33，P.72-81 を参考に各施設の支援内容についてノートにまとめる
復習：各施設の支援者の日常生活上の留意点（実習で学ぶ視点）についてノートにまとめる
8
授業：養護系施設での実習内容①（学習上の視点）
予習：テキスト P.28-29 と社会的養護のレジメから乳児院と児童養護施設の概要と支援内容についてノートにまとめる
復習：各施設の職員配置や概要、学ぶ視点について復習しノートにまとめる
9
授業：養護系施設での実習内容②（間接的支援と作業の意義）
予習：自身の自宅での家事・手伝いについて振り返りノートにまとめる
復習：間接的支援の視点と作業の意義についてのーとにまとめる
10
授業：事前オリエンテーションと関連書類（出勤簿をはじめとした関連書類の確認と課題作成シートについて）
予習：ガイドブック「事前オリエンテーションについて」をよく読みノートにまとめる
復習：事前オリエンテーションに必要な準備、受ける姿勢、留意点をノートにまとめる

11
授業：実習生の業務内容と施設実習の実際 Q＆A
予習：「課題作成シート」を作成する
復習：「各施設の特性を踏まえた学習の視点」についてノートにまとめる
12
授業：実習の展開（実習段階に応じた目標設定、連携の基本事項）
予習：テキスト P.106-107 を読み、ノートにまとめる
復習：実習段階に合わせた学習目標を設定する
13
授業：記録について①（記録の意義と適切な文章表記/考察について）
予習：文章や記録を書く際の自らの課題を挙げる
復習：講義内容で学んだことをノートにまとめ、適切な表記で文章を書く
14
授業：記録について②（日誌の記入方法）
予習：テキスト P.90-101 を読み、日誌を書く際のポイントについてノートにまとめる
復習：日誌の記入例をノートに写し、構成のポイントについてノートにまとめる
15
授業：直前指導（心構え、守秘義務について、事前準備、実習後について）
予習：テキスト P.42-43 を読み、守秘義務の意味についてノートにまとめる
復習：これまで配布した資料を整理して、実習中の学習の視点と実習生としての心構え、事前準備をノートにまとめる

テキスト・教材	守巧他全施設掲載『施設実習パーフェクトガイド』（わかば社） 実習ガイドブック その他、事前指導に関する資料を配布する
参考書	施設実習は実習先の種別が異なるため、その他該当する実習施設の養育指針等を提示する

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A 思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	○
B 表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	△
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	○
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	△
D 人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	◎

課題とフィードバック	「実習課題作成シート」の作成と提出を求める。加えて妥当性のある実習目標を設定する。
評価の基準と方法	「課題作成シート」60%、小テストあるいは講義内での提出を指示する課題 40%
関連科目	保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習指導Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅰ（施設）、保育実習Ⅲ、社会的養護、子ども家庭福祉、社会福祉
その他	保育実習は、公の施設現場をお借りして行う貴重な学習機会である。明確な目的意識をもち、充実した学習ができるよう、日頃より体調管理をはじめ実習に臨める準備を各自で整えておくこと。 また後期も基本は、遠隔授業となる。保育実習自体、基本、体力を必要とする性格であるため、日頃より、適度な運動を行う等、各自実習本番に備えておくこと。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	児童指導員
実務経験を活かした教育内容	現場での保育実習生への指導経験を活かし、実習中の心得や具体的な各施設での学びの視点について解説する

授業コード	C26900	科目分類	B37 保-2 （Ｊ）
科目名称	保育実習指導Ⅱ	単位数	1.00 単位
担当教員	猪熊・上出／猪熊　弘子／上出　香波	授業区分	演習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	本授業は、これまでの実習や既習の学修内容を振り返り、自身の実習課題を明確にし、実習に必要な知識と実践力を身につけるための授業である。子どもの生活や遊びに対する興味・関心を知り、発達を捉える視点を養い、乳幼児理解に繋げる。 さらに、日誌や指導案を書く力や省察する力を向上させていく。また、保育に関する知識や技術を習得するだけでなく、子どもの最善の利益、保育者の専門性や職業倫理を意識した実習が行えるよう学びを深めていく。		
到達目標	1 保育実習Ⅱの意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する 2 これまでの実習を振り返り、保育実習Ⅱにおける自己課題を明確にする 3 子どもの発達について学びを深め、見通しを立てた指導案を作成できる力を身につける 4 エピソード記録の書き方を理解し、子ども理解や保育者の関わり理解につなげることができるよう学びを深める 5 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価から更なる課題を明確にする		
授業開始前学習	保育実習Ⅰを振り返り、自己課題を明確にするために、アドバイスを受けて学んだことや子どもとの関わりで上手くできたことなどを具体的にまとめておく		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：授業ガイダンス、保育実習Ⅱの概要と心構え、個人票等、実習に必要な書類の作成
予習：シラバスを読み、実習の意義や目的を知る
復習：受講するにあたり、授業に必要なものを準備する
2
授業：保育実習Ⅱの自己課題設定
予習：これまでの実習を振り返り、自己課題と課題の設定理由をまとめておく
復習：配布資料等を整理し、ファイリングすると共に、理解できなかった内容を確認する
3
授業：自己課題を達成するための計画と教材等の準備計画書の作成
予習：課題を達成するための計画の見通しを立てておく
復習：配布資料等を整理し、ファイリングすると共に、理解できなかった内容を確認する
4
授業：日誌の書き方：PDCA を意識した記録・エピソード記録と考察の書き方
予習：保育実習Ⅰの実習日誌を見直し、指導や助言を受けた箇所を確認する
復習：配布資料等を整理し、ファイリングすると共に、理解できなかった内容を確認する
5
授業：3・4・5 歳の遊びを創造するための環境を考える①グループディスカッション
予習：3・4・5 歳児の遊びを事前に調べる
復習：配布資料等を整理し、ファイリングすると共に、理解できなかった内容を確認する
6
授業：3・4・5 歳の遊びを創造するための環境を考える②グループワークまとめと発表
予習：グループで話し合った内容を確認し、各自発表内容をまとめる
復習：配布資料等を整理し、ファイリングすると共に、理解できなかった内容を確認する
7
授業：事前オリエンテーションに向けて具体的な準備を進める
予習：配属園に関する情報を事前に調べておく
復習：配布資料等を整理し、ファイリングすると共に、理解できなかった内容を確認する
8
授業：乳幼児保育を学ぶ
予習：0・1・2 歳児の発達や遊びについて調べておく
復習：配布資料等を整理し、ファイリングすると共に、理解できなかった内容を確認する
9
授業：保育所における家庭支援や子育て支援について学ぶ
予習：実習園で行っている保護者支援や地域に対する子育て支援の取組などを調べる
復習：配布資料等を整理し、ファイリングすると共に、理解できなかった内容を確認する
10
授業：0・1・2 歳児保育の立案：グループワーク①指導案作成
予習：0・1・2 歳児の遊びの素材と保育の流れを考える
復習：配布資料等を整理し、ファイリングすると共に、理解できなかった内容を確認する

11 授業：0･1･2 歳児保育の立案：グループワーク②指導案発表･模擬保育実践 予習：グループでの役割を確認し、分担作業を行い、発表の為の準備をする 復習：配布資料等を整理し、ファイリングすると共に、理解できなかった内容を確認する 12 授業：実習直前指導 予習：これまでの授業内容を振り返り資料を見直す 復習：実習前の確認事項を復習しておく 13 授業：実習の振り返り①日誌を基にエピソードから振り返る（グループディスカッション） 予習：実習日誌を基に実習を振り返り、子どもからの学び･保育者からの学び等をまとめておく 復習：グループディスカッションでの内容を踏まえ、改めて自分の実習振り返りを見直し、課題を明確にしてまとめておく 14 授業：実習の振り返り②報告会に向けてプレゼンテーション資料作成（グループワーク）、実習評価と自己評価の振り返り 予習：プレゼンテーション資料準備に向け、自分の振り返りをまとめておく 自己評価を確認して、課題を抽出しておく 復習：プレゼンテーション資料の加筆修正をおこなう 実習園評価と自己評価の差異を改めて見直し、自己課題を明確にする 15 授業：実習報告会 予習：13･14 回まとめた実習報告資料の内容の見直しを行い、発表準備をおこなう 復習：他の学生の発表内容も含め報告会を自分自身で振り返り、現場に出るイメージを形成しながら新たな課題とともにまとめておく	
テキスト･教材	実習ガイドブック、授業内で適宜資料を配布する
参考書	厚生労働省『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』（フレーベル館） 文部科学省『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 内閣府･文部科学省･厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育･保育要領』『幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説』（フレーベル館）
卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断･解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	◎
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	◎
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想･奏･創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	◎
b2．自分が感じたことを身体･音楽･造形を通して表現できる	◎
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	◎
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	◎
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	◎
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	◎
課題とフィードバック	適宜、授業内で講評すると共に、提出物を通してコメントを記し、フィードバックする
評価の基準と方法	課題提出物（70%），授業参加態度（30%）
関連科目	全科目（保育実習Ⅱ，保育実習Ⅰ（保育所），保育実習指導Ⅰ（保育所），保育実習Ⅰ（施設），保育実習指導Ⅰ（施設））
その他	グループワークでは、作業内容や役割を明確にし、グループメンバー一人ひとりが学びを深められるよう協力する姿を期待する
予習･復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習･復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	保育士
実務経験を活かした教育内容	保育現場での実務経験を活かし、実際の保育の具体的な事例や実践をとりいれ，保育実習に向けての実践力につながる授業を展開していく

授業コード	C27000	科目分類	B37 保-2 （Ｊ）
科目名称	保育実習指導Ⅲ	単位数	1.00 単位
担当教員	今井・守屋／今井　大二郎／守屋　建	授業区分	演習
研究室	－	オフィスアワー	－
授業のテーマ・内容	保育実習Ⅰでの経験を踏まえ、保育士としての専門性をより高める学びの機会とする。具体的には、児童自立支援計画書及び個別支援計画書の策定に関する学習をはじめとして、事例検討や援助技術に関する演習を中心にケアワーク・ソーシャルワークに関する実践力を養う。また施設現場で働く先輩や現場保育士による講話の機会を設け、より実践的な学びを深める機会とする。		
到達目標	到達目標は以下の通りである。 １　児童福祉施設や社会福祉施設に入所、あるいは通所する子どもや利用者の状況把握ができるようになる ２　直接的・間接的支援における基本的な知識と技術を身につけ、子どもや利用者および保護者に対し適切な支援をすることができるようになる ３　支援計画の立案と計画に基づく実践について具体的に理解できる ４　他機関・施設および他分野の専門職について学び、現場で連携協働することができるようになる ５　実習の総括と自己評価から保育士としての自己の課題を明確に認識できる		
授業開始前学習	児童福祉施設や社会福祉施設の役割や機能について再度確認する。また、施設に関する文献・資料について目を通し理解する。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：オリエンテーション（本講義や保実Ⅲについての説明と保育実習Ⅰ（施設）の振り返り）
予習：保育実習Ⅰ（施設）を振り返り、自身の課題についてレポートを作成する
復習：授業で挙げた自己課題について関連するキーワードとその内容をノートにまとめる
2
授業：ワーキングチーム形成に向けた活動（グループディスカッション～親ってなんだろう～）
予習：社会福祉や社会的養護に関する関心のあるテーマについて調べノートにまとめる
復習：演習で学んだ多様な支援者側の視点について、ノートにまとめる
3
授業：対人援助の基礎①（ラポールの形成を促す傾聴姿勢の重要性）
予習：基本的な相談援助技術について復習し、ノートにまとめる
復習：演習内で行った学習のポイントについてノートにまとめる
4
授業：対人援助の基礎②（具体的な傾聴技法）
予習：傾聴技法について調べ、ノートにまとめる
復習：演習内で行った学習のポイントについてノートにまとめる
5
授業：対人援助の基礎③（保護者支援の基本的対応～受容～）
予習：援助技術における「受容」について調べノートにまとめる
復習：講義や価値観交流の演習内で行った学習のポイントについてノートにまとめる
6
授業：実習先の種類と支援内容
予習：各自の実習先について調べノートにまとめる
復習：対象児への支援と保護者支援についてノートにまとめる
7
授業：日常生活支援（ケアワーク）事例検討①（養護）
予習：カンファレンス用紙を作成する
復習：事例検討の学習内容をノートにまとめる
8
授業：日常生活支援（ケアワーク）事例検討②（障害：障害児・者施設）
予習：専門職連携について調べノートにまとめる
復習：療育・発達支援における支援者の留意点についてノートにまとめる
9
授業：自立支援計画書及び個別支援計画書の概要や策定（アセスメント方法から策定の留意点まで）
予習：配布した資料を読み込みノートにまとめる
復習：支援計画書の立案・策定における留意点についてノートにまとめる
10
授業：自立支援の課程（障害児の社会自立に関するソーシャルワークの事例検討）
予習：アドミッションケア・インケア・リービングケア・アフターケアについて復習し、各課程の支援者の留意点について学ぶ
復習：ソーシャルワークにおける支援者の留意点についてノートにまとめる

11
授業：現場保育士の講話（社会的養護におけるケアワーク・ソーシャルワークの実際）
予習： 乳児院について復習しノートにまとめる
復習：講話に参加しての振り返りシートを作成する
12
授業：先輩の講話
予習：現場保育士の業務について調べまとめる
復習：講話内容についてノートにまとめる
13
授業：実習課題の明確化「実習に臨むにあたって発表会」
予習：見学先について調べ、疑問点等ノートにまとめる課題作成シートを完成させ、「臨むにあたって」を作成する
復習：報告書を作成する学生全員の発表内容から、自己の実習課題を明確化する
14
授業：直前指導と記録（日誌の記入・部分実習指導案）
予習：保育実習Ⅰ（施設）の日誌を読み返し、反省点を整理する
復習：部分実習（案）を作成する
15
授業：事後指導
予習：実習報告書を作成する
復習：実習報告反省会後に振り返りの記録を作成する

テキスト・教材	テキストは使用しない
参考書	施設実習は種別が多岐にわたり異なるため、該当する実習施設の養育指針等の資料は適宜提示する。

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	◎
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	◎
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	◎
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	△
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	○
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	○
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	△
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	◎

課題とフィードバック	課題作成シートの作成や施設に関する課題を調べ発表し、それに対して講義内で講評する。
評価の基準と方法	課題作成シート・実習に臨むにあたって・レポート等提出課題 80%、授業内での課題[小レポート、講義内での発表、ワークへの取り組み等〕20%
関連科目	全科目（保育実習Ⅲ，保育実習Ⅰ（施設），保育実習指導Ⅰ（施設），保育実習Ⅰ（保育所），保育実習指導Ⅰ（保育所），社会的養護Ⅰ・Ⅱ，子ども家庭福祉，社会福祉）
その他	自主的に施設に関する文献・資料に目を通しておき、授業内でのグループワークやディスカッション、プレゼンテーションに積極的に取り組むことを望む。
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	児童指導員
実務経験を活かした教育内容	現場での実習生指導の経験を活かし、より具体的な目標設定や学びの視点を持って実習に参加できるよう事前指導の充実を図る。

授業コード	C24510	科目分類	B37 幼-1
科目名称	学校体験活動	単位数	1.00 単位
担当教員	木下･古屋／木下　茂昭／古屋　真	授業区分	実習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ･内容	本授業は、幼稚園教諭を目指す学生が、幼稚園における体験活動（子どもや保育者の仕事の見学や観察、保育参加や保育補助など）を通して、幼稚園の教育･保育活動に関する理解を深め、保育の基礎的技術（子どもとの関り方、保育記録の作成方法など）を身に付けながら、保育職を目指す意欲を高める（自己の適格性や成長課題を見出す）ことを主たる目的とする。 事前指導では、幼稚園に関する基礎的事項や記録の作成方法に加え、教育･保育活動に参画する者としての社会的マナーなどを学ぶ。実際の体験活動時には、子どもとの関りだけではなく、保育者の補助にも積極的に取り組み、幼稚園の教育･保育活動の全般的理解に努めてほしい。事後指導では、体験活動を通じて得られた学びを振り返り、各自の成長課題を明確化することで、大学における学修の価値を見出し、保育職を目指す意欲を高めてほしい。		
到達目標	本授業の到達目標として、以下 3 点を挙げる。 1 子どもや保育者の仕事、一日の生活の流れなど、幼稚園の教育･保育活動に関する理解を深める 2 保育の基礎的技術を身に付けることができる 3 保育職を目指す意欲を高める		
授業開始前学習	保育職を目指すきっかけとなった出来事（職場体験やボランティア活動など）や志望理由などについて振り返る		

各回の授業内容と課題学習(予習･復習)

【事前指導】
1
授業：学校体験活動の意義･目的を学ぶ
予習：職場体験やボランティア活動など、子どもと関わった経験と保育職を目指した志望理由をノートに書き出す
復習：学校体験活動の意義や目的をノートに整理する
2
授業：学校体験活動の内容を学ぶ
予習：『実習ガイドブック』P.1-6 を熟読し、疑問点をノートに書き出す
復習：学校体験活動の内容（見学･観察活動、保育参加、保育補助など）をノートに整理する
3
授業：幼稚園教育の基本①：幼稚園教育の意義･目的を学ぶ
予習：「教育基本法」第 1 条･第 2 条･第 11 条および「学校教育法」第 1 条･第 22 条･第 23 条をノートに書き写す
復習：幼稚園教育の意義･目的をノートに整理する【小レポート①】
4
授業：幼稚園教育の基本②：幼稚園教育の内容･方法を学ぶ【学校体験活動実施園の発表】
予習：『幼稚園教育要領解説』P.23-40 をよく読み、疑問点をノートに書き出す
復習：「5 領域」「環境を通して行う教育」「遊びを通しての総合的な指導」の意味をノートに整理する【小レポート②】
5
授業：幼稚園教育の基本③：幼稚園の一日の生活の流れを学ぶ【学校体験活動記録の配付】
予習：発表された学校体験活動実施園の「一日の生活の流れ」をノートに書き写す
復習：学校体験活動を行う幼稚園の概要（沿革･教育目標･特色）を「学校体験活動記録」にまとめる
6
授業：学校体験活動の準備①：学校体験活動の心構えやマナーを学ぶ
予習：学校体験活動に向けた各自の目標をノートに書き出す
復習：学校体験活動の心構えやマナーを学ぶ【小レポート③】
7
授業：学校体験活動の準備②：学校体験活動の取組方法を学ぶ
予習：学校体験活動実施園の最寄駅からの経路（地図）をノートに書き出す
復習：学校体験活動実施園を訪ねてから帰宅するまでの流れをノートに整理する
8
授業：学校体験活動の準備③：保育記録（時系列式）の書き方を学ぶ
予習：自分の「一日の生活の流れ」「言動」「周囲の人物からの働きかけ」をノートに書き出す
復習：保育映像を題材に、保育記録（時系列）の練習をする【保育記録作成課題】
9
授業：学校体験活動の準備③：手遊びや絵本の読み聞かせ方を学ぶ（模擬保育）
予習：自分が知っている手遊びや絵本をノートに書き出す
復習：手遊びや絵本の読み聞かせの練習をする【小レポート④】

10
授業：学校体験活動の準備④：学校体験活動の目標を設定する
予習：学校体験活動で取り組んでみたい活動をノートに書き出す
復習：学校体験活動の目標をノートに整理する【小レポート⑤】
11
授業：学校体験活動の準備⑤：学校体験活動実施園におけるオリエンテーション
予習：学校体験活動実施園の概要を振り返り、質問事項をノートに書き出す
復習：オリエンテーションの内容を「学校体験活動記録」にまとめる

【学校体験活動】
※学校体験活動は、5～7 月及び 10 月下旬に 40～45 時間実施する
※学校体験活動の終了後、40～45 時間分の『学校体験活動記録』（日誌相当）を担当教員まで提出すること

【事後指導】
12
授業：学校体験活動の振り返り①：自己の学びと成長課題の振り返り
予習：学校体験活動において印象に残っている活動を「学校体験活動報告書」に書き出す
復習：学校体験活動における自己の学びと成長課題を「学校体験活動報告書」にまとめる
13
授業：学校体験活動報告反省会（グループワーク）
予習：「学校体験活動報告会準備ワークシート」に取り組む
復習：学校体験活動報告反省会における学びを「学校体験活動報告書」にまとめる
14
授業：1・2 年生合同報告会（グループワーク）
予習：「合同報告会ワークシート」に取り組む
復習：2 年次に実施する教育実習に向けた自己の成長課題を「学校体験活動報告書」に書き出す
15
授業：学校体験活動の振り返り②：駒沢女子短期大学・保育科における学びとの照合
予習：駒沢女子短期大学・保育科『ルーブリック』を熟読し、疑問点をノートに書き出す
復習：駒沢女子短期大学・保育科『ルーブリック』への取り組みから明らかになった成長課題を「学校体験活動報告書」に書き出す

テキスト・教材	小泉裕子（編著）『保育・教育実習日誌の書き方』（中央法規） 文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 駒沢女子短期大学・保育科『実習ガイドブック』
参考書	厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A 思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	○
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	△
B 表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	△
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	△
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	◎
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	
D 人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	○
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○

課題とフィードバック	授業内にて小レポートを実施する（授業内にて、適宜、講評する） 保育記録（一日）の作成課題を課す（授業内にて、適宜、講評する）
評価の基準と方法	学校体験活動記録・報告書・評価票（60%）、小レポート（20%）、保育記録（20%）
関連科目	全科目（教育実習）
その他	保育者の「仕事」を意識し、遅刻（早退）や欠席はしないこと 基本的な礼儀・マナーを意識すること 配付プリントは、一人ひとりが確実に受け取り、ファイル保管すること 小レポートや課題の提出期限を厳守すること 幼稚園の教育・保育活動に「参画させていただく」という意識をもって学校体験活動に取り組むこと
予習・復習の所要時間	
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした 教育内容	

授業コード	C24500	科目分類	B37 幼-2 （Ｊ）
科目名称	教育実習	単位数	4.00 単位
担当教員	綾野・佐藤／綾野　鈴子／佐藤　晶子	授業区分	実習
研究室	-	オフィスアワー	-
授業のテーマ・内容	本授業は、幼稚園教諭を目指す学生が、幼稚園における教育実習（3 週間）を通して、幼稚園の教育・保育活動に関する理解を深め、幼稚園教諭に必要な知識と技術を身に付けながら、保育職の使命感及び社会人としての意識を高めていくことを目的とする。実際の実習時には、観察を通して幼稚園教諭としての保育の仕方を学び、自らも実践を試みることで幼児理解を深めていく。また、学級経営の基礎、指導計画（指導案）の作成方法、保育の流れを展開していく力の修得を目指す。 事前指導では、実習生（社会人）としてのマナー、幼児理解が深まる実習日誌の書き方、保育の理論や技術を活かした責任実習の方法（指導案の作成及び模擬保育実践）を中心とした授業を展開する。事後指導では、実習反省報告会を実施し、他者との意見交換を通して学びを共有しながら、自己の実習の省察を丁寧に行い、今後の課題を明確にしていく。		
到達目標	1 一日の保育の流れや保育者の仕事、並びに保育の仕方を学ぶと共にこれらの観察を通して幼児の理解に努めることができる 2 実践を通して学級経営の基礎を学ぶと共に、幼児理解に基づいた指導計画（指導案）を作成することができる 3 実践を通して保育の流れを展開（保育の準備・導入・展開の仕方・まとめ方等について）していく力を身に付けることができる 4 幼稚園の地域における役割（子育ての支援）についての理解を深め、保育者としての心構えをもつことができる		
授業開始前学習	「学校体験活動」で学んだ幼稚園教育の基本や保育活動、記録の書き方等について、授業プリントや実習ガイドブックを復習しておくこと		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

【事前指導】
1
授業：　2 年教育実習の意義・目的・段階、様々な形態
予習：自身の実習配属園の保育形態（概要）について調べる
復習：授業プリントをまとめ整理する
2
授業：教育実習の目標設定　実習の実態報告から学ぶ
予習：前回の授業プリントを再読しておく
復習：授業プリントをまとめ整理する
3
授業：実習園でのオリエンテーションについて
　　実習日誌の書き方①日誌の意義・目的　適切な文章表現
予習：前回の授業プリントを再読しておく
復習：授業プリントをまとめ整理する
4
授業：実習日誌の書き方②エピソード記録とはなにか
予習：前回の授業プリントを再読しておく
復習：授業プリントをまとめ整理する
5
授業：実習日誌の書き方③考察の書き方
予習：前回の授業プリントを再読しておく
復習：授業プリントをまとめ整理する
6
授業：模擬保育発表会①―部分実習―
予習：部分実習を想定した指導案を作成し、模擬保育発表の練習をしておく
復習：模擬保育発表会の振り返りを行う
7
授業：実習指導案①書き方の基本（子どもの姿、ねらい、活動内容）
予習：「保育・教育課程論」の授業で学んだ指導案の書き方について復習しておく
復習：授業プリントをまとめ整理する
8
授業：実習指導案②一日実習指導案について
予習：前回の授業プリントを再読しておく
復習：授業プリントをまとめ整理する

9
授業：模擬保育発表会②―責任実習の主活動―
予習：責任実習の主活動を想定した指導案を作成し、模擬保育発表の練習をしておく
復習：模擬保育発表会の振り返りを行う
10
授業：実習直前指導
予習：これまでの全ての授業プリントを再読しておく
復習：授業プリントをまとめ整理し、実習に向けての最終準備を整える

【教育実習（幼稚園）】
※学校配属または自己開拓の実習園にて、6 月に 3 週間（15 日間）実施する
※原則、一日責任実習を必ず行うこと（指導計画を立て、指導案を作成し、実践する）
※教育実習後、実習日誌（指導案含む）を担当教員まで提出すること

【事後指導】
11
授業：実習の振り返り（グループディスカッション）
予習：実習の自己評価、実習目標に対する振り返りを作成しておく
復習：実習後の提出物等について確認しておく（実習園への御礼状作成含む）
12
授業：1・2 年生合同報告会に向けての準備①
　実習評価個別伝達
予習：合同報告会で取り組みたいテーマを考えておく
復習：各グループで役割分担しながら合同報告会の準備を進める
13
授業：1－2 年生合同報告会に向けての準備②
　実習評価個別伝達
予習：各グループで役割分担しながら合同報告会の準備を進める
復習：各グループで役割分担しながら合同報告会の準備を進める
14
授業：1-2 年生教育実習　合同報告会（プレゼンテーション）
予習：各グループで役割分担しながら合同報告会の準備を進める
復習：合同報告会の振り返りを行う
15
授業：実習報告反省会（グループディスカッション）
予習：これまでの全ての提出物の提出状況等を各自確認する
復習：実習報告反省会の振り返りを行う

テキスト・教材	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） その他、講義内にて、適宜紹介する
参考書	厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館） その他、講義内にて、適宜紹介する

卒業時に身につけておかなければならない 4 つの力との関連度	関連度
A　思考力　真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	◎
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	◎
B　表現力　子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	◎
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	○
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	○
C　遊び力　「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	◎
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	○

D　人間力　多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	○

課題とフィードバック	・指導計画（指導案）作成を課す（講義内にて、適宜、講評する） ・模擬保育発表（手作り保育教材の作成含む）の準備を課す（実践された模擬保育を踏まえ、改善点等を指導する）
評価の基準と方法	実習評価 60%、実習日誌（指導計画案を含む）20%、提出課題 20%
関連科目	全科目（学校体験活動）
その他	・保育者の仕事を意識し、遅刻・欠席はしないこと（欠席する場合は必ず実習指導室に電話連絡を入れる） ・配布した授業プリント等は、一人ひとりが確実に受け取り、ファイル保管すること（書類管理能力） ・課題の提出期限を厳守すること（計画性・自己管理能力） ※本授業では、ICT を活用したプレゼンテーションを行うことを予定している。グループで話し合いながら物事を作り上げていく経験（同僚性）や、他者に分かりやすく伝える等のコミュニケーション能力の向上を目指しているため、積極的にグループ活動に参加する姿を期待す
予習・復習の所要時間	
実務経験の有無	○
実務経験の内容	幼稚園教諭として、年少、年中、年長、未就園児（2 歳児）クラスの保育、及び保護者への支援等がある。
実務経験を活かした教育内容	幼稚園教諭としての経験を活かし、幼児に専門的に関わる保育実践力、指導計画の立案、評価、改善の方法を指導し、教育実習に必要な知識及び実践力が身につく授業を展開していく。

授業コード	C23950	科目分類	B37 両-2 （Ｊ）
科目名称	保育・教職実践演習（幼稚園）	単位数	2.00 単位
担当教員	綾野・木下・佐藤・古屋／綾野 鈴子／木下 茂昭／佐藤 晶子／古屋 真	授業区分	演習
研究室	–	オフィスアワー	–
授業のテーマ・内容	本科目は、駒沢女子短期大学・保育科における 2 年間の総合学修に位置付く。 そのため、まずは、これまでの学修（履修履歴）を振り返り、保育者としての成長課題を明確にしていく。 そして、年中行事づくりや付属幼稚園との交流活動などの実践活動に取り組みながら、子どもの「遊び」の意味を踏まえた保育者の援助や環境構成に関する基礎知識・技術の向上を目指す。 また、クラス便りの作成や子育て相談の役割演技等を通し、子どもの成長を共に支える保護者との連携についても考える。さらに、保育現場の教員による講演会などを通して保育職の使命感や責任感について熟考し、自身が目指す保育者像を明確化していく。		
到達目標	本授業の到達目標として、以下の 6 点を挙げる。 1 保育職に必要な資質・能力及び保育実践力の向上につながる成長課題を明確化することができる 2 保育者の援助や環境構成に関する基礎知識・技術を活用することができる 3 保育者の受容的な態度や子どもとの信頼関係に基づくクラス経営の重要性について説明することができる 4 保育者間の協働や保護者との連携に求められる社会性や人間関係力を身につける 5 保育職の使命感や責任感を意識することができる 6 自身の目指す保育者像を具体的に説明することができる		
授業開始前学習	自身の履修履歴を振り返り、保育者を目指す者としての資質・能力や保育実践力の修得（形成）程度について確認しておくこと。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：学びの振り返り（履修カルテ）と保育職の意義と役割
予習：これまでに学んだ保育者の役割について振り返る
復習：学びのファイルと履修カルテを完成させる
2
授業：保育者養成の全体構造について学ぶ
予習：成績表やシラバス等を参考に、これまでの履修状況や学修内容を振り返る
復習：履修状況を確認し，自己の課題を明確にする
3
授業：保育における行事づくり①自然体験活動の意義
予習：幼稚園や保育所において実践される代表的な自然体験活動を調べ、ノートにまとめる
復習：保育における自然体験活動の意義を振り返る
4
授業：保育における行事づくり②自然体験活動の準備（環境構成，教材研究等）
予習：保育教材として用いられる自然物を調べ、ワークシートにまとめる
復習：幼稚園や保育所における自然体験活動の進行上の留意点を振り返る
5
授業：保育における行事づくり③自然体験活動の指導計画作成（グループ活動）
予習：園行事「いもほり」を想定し、行事の留意点をワークシートにまとめる
復習：作成した指導計画（実施要領）をグループ毎に確認・共有する
6
授業：保育における行事づくり④自然体験活動の実践（グループ活動）
予習：作成した実施要領に基づき、グループ毎に活動の進行を確認し、各自の役割をワークシートにまとめる
復習：実践した行事をグループ毎に振り返り、進行上の問題点や改善策を記録する
7
授業：保育実践（自由保育）の見学・観察を通して「子どもの遊び」の意味と保育者の援助を学ぶ
予習：子どもの主体的活動である「遊び」を中心とした保育の意義について、ノートにまとめる
復習：視察した幼稚園の保育のねらいや環境構成を記録する
8
授業：乳幼児との表現活動①表現活動の意義、指導計画を考える（グループ活動）
予習：これまでの表現領域に関する授業で学んだことを振り返り、ノートにまとめる
復習：作成した指導計画を役割グループ毎に確認・共有する

9
授業：乳幼児との表現活動②付属幼稚園児との表現活動（グループ活動）
予習：作成した指導計画（案）に基づき、グループ毎に活動の進行を確認し、各自の役割をワークシートにまとめる
復習：実践した活動をグループ毎に振り返り、子どもの育ちを記録する
10
授業：クラス経営と保護者連携：クラス便りづくり
予習：これまで実践した野外活動や表現活動を「担任」の視点で振り返り、活動記録をノートにまとめる
復習：子どもの育ちや学びを伝えるクラスだよりを完成させる
11
授業：保護者理解と子育て支援：ロールプレイによる事例研究
予習：保護者との連携や子育て支援の重要性について振り返り、ノートにまとめる
復習：事例に基づくロールプレイから学んだ保護者の心情や子育て支援の意味について記録する
12
授業：子どもの遊びと学びを深める（外部講師による講演会）
予習：自身の誕生からこれまでの成長を振り返り、ノートにまとめる
復習：生命誕生までの過程を振り返り、預かる「いのち」の重さについて自身の考えをまとめる
13
授業：現代の保育・教育実践の課題を学ぶ（外部講師による講演会）
予習：乳幼児期の保育・教育に関する報道や関心のある実践事例を調べ、ノートにまとめる
復習：現代の保育・教育実践の課題と取組内容を記録する
14
授業：保育職の使命と責任（現職保育者との懇談）
予習：これまでの実習記録などから保育者の職務内容を振り返り、ノートにまとめる
復習：現職保育者の話から学んだ保育者の使命感や心構えを記録する
15
授業：よりよい保育者になるための資質・能力の確認、履修カルテの振り返り
予習：学びのドキュメンテーションを整理しながら、本授業での学びを振り返る
復習：保育者としての今後の成長を見据え、自身の成長課題に関する最終レポートに取り組む

テキスト・教材	適宜、授業時に資料を配付する
参考書	文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） 厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）

卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	◎
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	◎
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	◎
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	◎
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	◎
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	◎
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	◎
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	◎
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	◎
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	◎

課題とフィードバック	履修カルテ（学びのドキュメンテーション）の作成を課す（本科目の最終評価に含める） ルーブリックの作成を課す（本科目の最終評価に含める） 受講記録の作成を課す（授業内にて、適宜、講評する）
評価の基準と方法	履修カルテ（10%）、ルーブリック（10%）、受講記録（15%）、提出物（55%）、最終レポート（10%）
関連科目	全科目（現代保育実践の課題Ａ・Ｂ）

その他	初回の授業は必ず出席すること 授業について毎時、その目標を理解し、積極的に臨むことを常とする 資料は必ず各自受け取ること 授業内で、個別、またはグループで演習すること自体が重要となる 授業中の私語、携帯電話等の使用を禁じる
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間
実務経験の有無	○
実務経験の内容	綾野鈴子：幼稚園教諭として、年少、年中、年長、未就園児（2 歳児）クラスの保育、及び保護者への支援等がある 佐藤晶子：幼稚園教諭
実務経験を活かした教育内容	綾野鈴子：幼稚園教諭としての経験を活かし、幼児に専門的に関わる保育実践力、指導計画の立案、評価、改善の方法を指導し、教育実習に必要な知識及び実践力が身につく授業を展開していく 佐藤晶子：幼稚園における年少、年中、年長、未就園児（2 歳児）のクラス担任の経験を活かし、保育の具体的な事例や実践を取り入れ、指導計画の立案や保育実践力向上につながる授業を展開していく

授業コード	C12700	科目分類	A46 基-2 （Ｊ）
科目名称	生命科学と生物	単位数	2.00 単位
担当教員	木下 茂昭	授業区分	講義
研究室	16-304	オフィスアワー	前期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 13:00～14:30 水曜日 13:00～14:30
授業のテーマ・内容	「生命」、「健康」とはいったい何だろうか？これは人類にとって永遠の課題といえよう。しかし、このことについて健康な人は考えることがほとんどないといえる。保育者は仕事上、多くの子ども達と関わっていくことになる。その子ども達が成長して大人になるまでの身体的な変化や健康の維持は大切な課題となっている。そのために、子ども達の身体的な変化や感染症などを知っておくことは保育現場においては必要なこととなる。 そこでこの講義では、子ども達を含む人間がかかる可能性のある様々な疾病を取り上げ、どのようにして治癒するのか、また、どのような治療があるのかについて考え、「生命」、「健康」とは何かを考えていく。		
到達目標	1 人体の構造と機能について理解できる 2 子どもの身体・生理機能・運動機能などの発達・発育を理解し、健康管理に役立てることができる 3 人体に関する基本的な知識を元に、疾病について病因から治療、予防までを理解できる		
授業開始前学習	「子どものからだと保健」を復習する。		

各回の授業内容と課題学習(予習・復習)

1
授業：人体・生命
予習：人体の構造について調べる
復習：人体・生命についてまとめる
2
授業：骨格
予習：骨格について調べ、ノートにまとめる
復習：「骨折と治癒」についてまとめる
3
授業：筋肉
予習：筋肉の働きについて調べる
復習：筋肉についてまとめる
4
授業：消化器
予習：食物の消化について調べる
復習：消化・消化酵素についてまとめる
5
授業：呼吸・循環器
予習：自分の心拍数の変化を調べる
復習：呼吸数と頻拍数の関係についてまとめる
6
授業：血液
予習：血液の遺伝型と表現型について調べる
復習：血液に起因する疾病についてまとめる
7
授業：子どもの発育・発達（身体）
予習：自分の出生からの身体的変化について調べる
復習：子どもの身体的な変化についてまとめる
8
授業：子どもの発育・発達（機能１）
予習：手の働きについて調べる
復習：手の働きについてまとめる
9
授業：子どもの発育・発達（機能２）
予習：足の機能について調べる
復習：足の機能についてまとめる
10
授業：発声
予習：声帯について調べる
復習：発生の仕組みについてまとめる

11 授業：免疫 予習：予防接種について調べる 復習：免疫についてまとめる 12 授業：感染症（1） 予習：感染症予防法について調べる 復習：出席停止になる感染症についてまとめる 13 授業：感染症（2） 予習：子ども達が罹患しやすい感染症について調べる 復習：子ども達が罹患しやすい感染症についてまとめる 14 授業：擦過傷・切創・骨折 予習：擦過傷・切創・骨折について調べる 復習：擦過傷・切創・骨折の治療についてまとめる 15 授業：不治の病 予習：不治の病について調べる 復習：治療の最前線についてまとめる	
テキスト・教材	講義時に、プリントを配付する。
参考書	講義の際に参考書を適宜紹介する。
卒業時に身につけておかなければならない４つの力との関連度	関連度
A 思考力 真理の追究に努め、柔軟に判断・解決する多角的視点と創造的思考力	
a1．子どものありのままの姿を捉えることができる	○
a2．ひとりひとりの考えや思いに気づくことができる	
a3．それらを柔軟に保育に活かすことができる	△
B 表現力 子どもをはじめ、人々のもつ想・奏・創の限りない表現に気づく視点（感覚）とそれを拡げる専門的技術、また、自らもこれらを豊かに表現する力	
b1．自分が感じたことを文字や言葉で豊かに表現できる	○
b2．自分が感じたことを身体・音楽・造形を通して表現できる	○
b3．子どもがのびのびと表現できるよう援助することができる	
C 遊び力 「子どもの遊び」の本質を理解し、その世界を共有しながら、子どもとともに自ら楽しむ力	
c1．子どもの発達と学びに欠かせない遊びの意味を理解することができる	○
c2．自らも楽しみながら、子どもと一緒に遊ぶことができる	○
c3．子どもの能力を引き出す遊びを創造することができる	○
D 人間力 多様な価値観をありのまま認め、受け容れる心と他者を思いやり協働する力	
d1．子どもや人々の思いや考えを認め、尊重することができる	◎
d2．子どもを取り巻く人々と協力して保育ができる	
課題とフィードバック	各回の講義終了時に、講義した内容に関して小テストを行う。小テストは採点した後に返却し、解説する。
評価の基準と方法	定期試験（配点 100 点）により評価する。
関連科目	子どもの健康と安全、子どもの健康、子どものからだと保健、子どもの食と栄養Ⅰ・Ⅱ
その他	
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間
実務経験の有無	
実務経験の内容	
実務経験を活かした教育内容	